PRETTY CURE
PRECURE 20th ANNIVERSARY
ふたりはプリキュア
ビジュアルファンブック
復刻改訂版
KODANSHA

カバー画／稲上　晃　装丁／出口　竜也（竜プロ）

魔法つかい
プリキュア！

キラキラ☆
プリキュア
アラモード

HUGっと！
プリキュア

スター☆
トゥインクル
プリキュア

ヒーリングっど♥
プリキュア

トロピカル～ジュ！
プリキュア

デリシャスパーティ♡
プリキュア

ひろがるスカイ！
プリキュア

『ふたりはプリキュア ビジュアルファンブックVol.1』の特典でついていたCDに収録された「なぎなぎとほのほののふたりはプリキュアビジュアルファンブック大質問コーナー」が聞けます。

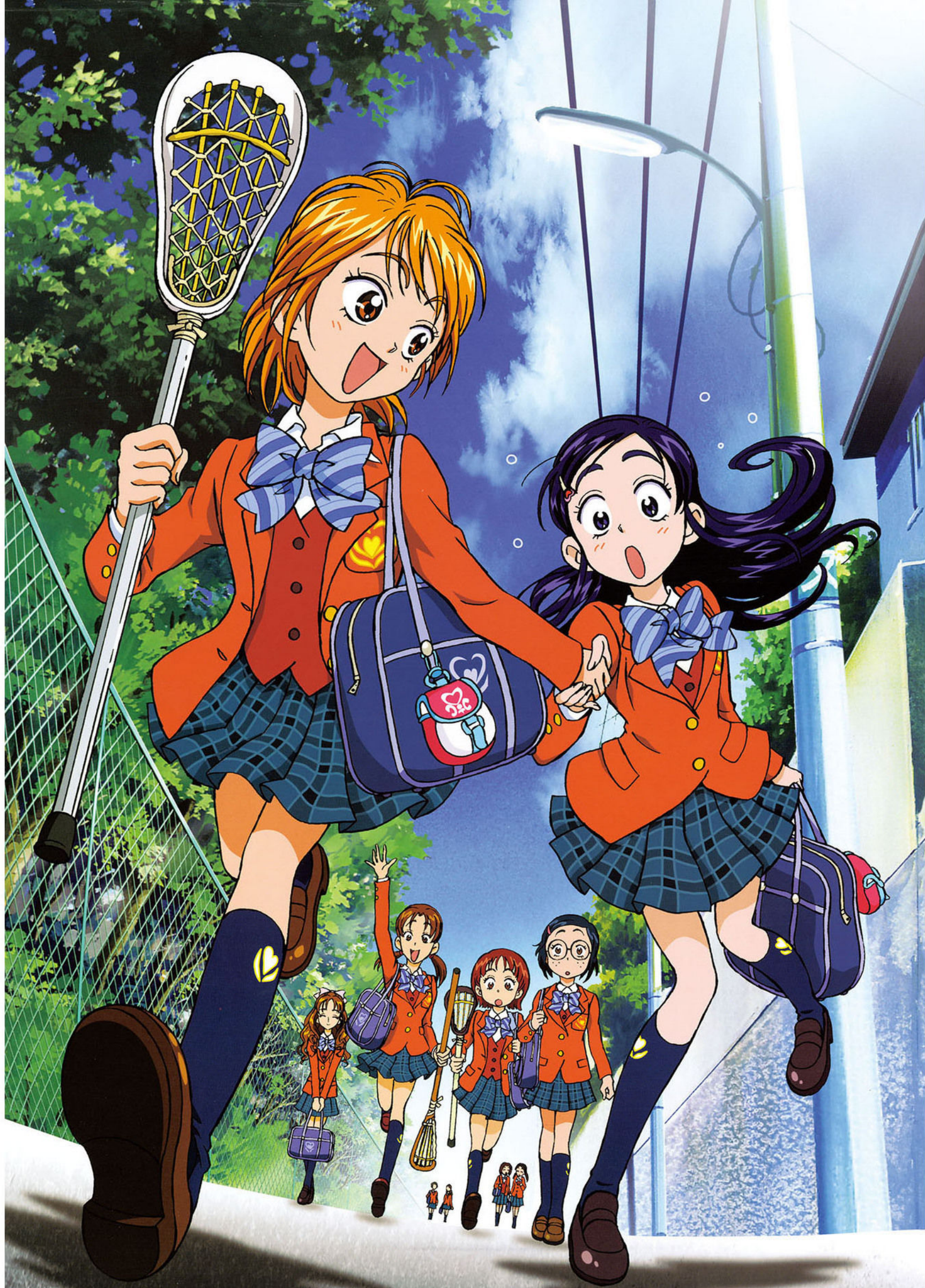
1 こちらを読み込んで、サイトへ→

2 会員に新規登録

3 下記のパスコードを入力

pre0201NH

画／稲上 晃

画／稲上 晃

SPECIAL ILLUSTRATION

スペシャルイラストレーション

作画／河野 宏之　川村 敏江　はっとり ますみ　高橋 任治　爲我井 克美　東 美帆

作画／河野 宏之

作画／河野 宏之

作画／川村 敏江

作画／川村 敏江

作画／はっとり ますみ

作画／はっとり ますみ

作画／高橋 任治

作画／高橋 任治

作画／爲我井 克美

作画／爲我井 克美

作画／東 美帆

作画／東 美帆

作画／川村 敏江

作画／川村 敏江

作画／川村 敏江

作画／川村 敏江

作画／川村 敏江

作画／川村 敏江

作画／川村 敏江

作画／川村 敏江

作画／川村 敏江

作画／川村 敏江

作画／川村 敏江

作画／川村 敏江

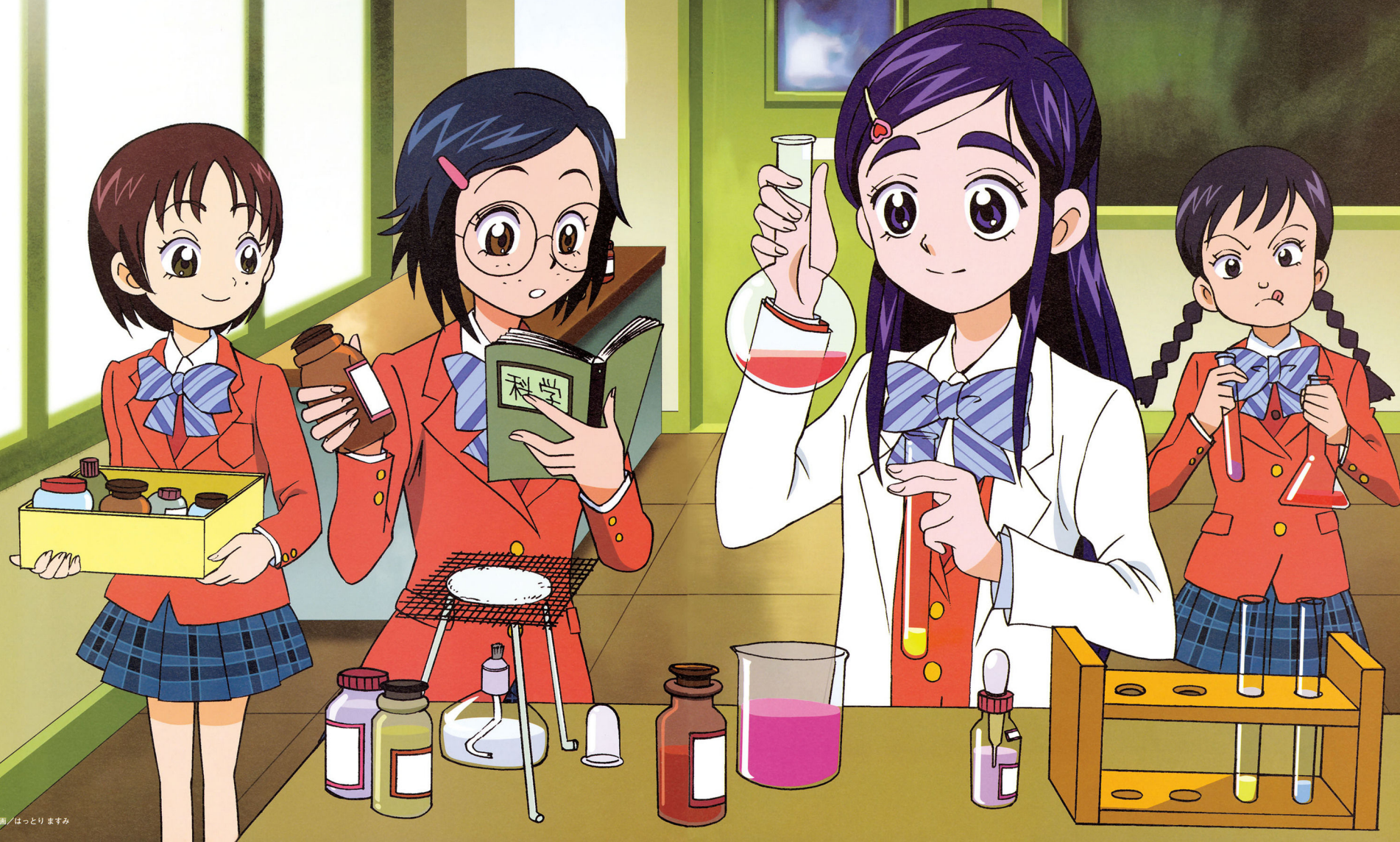
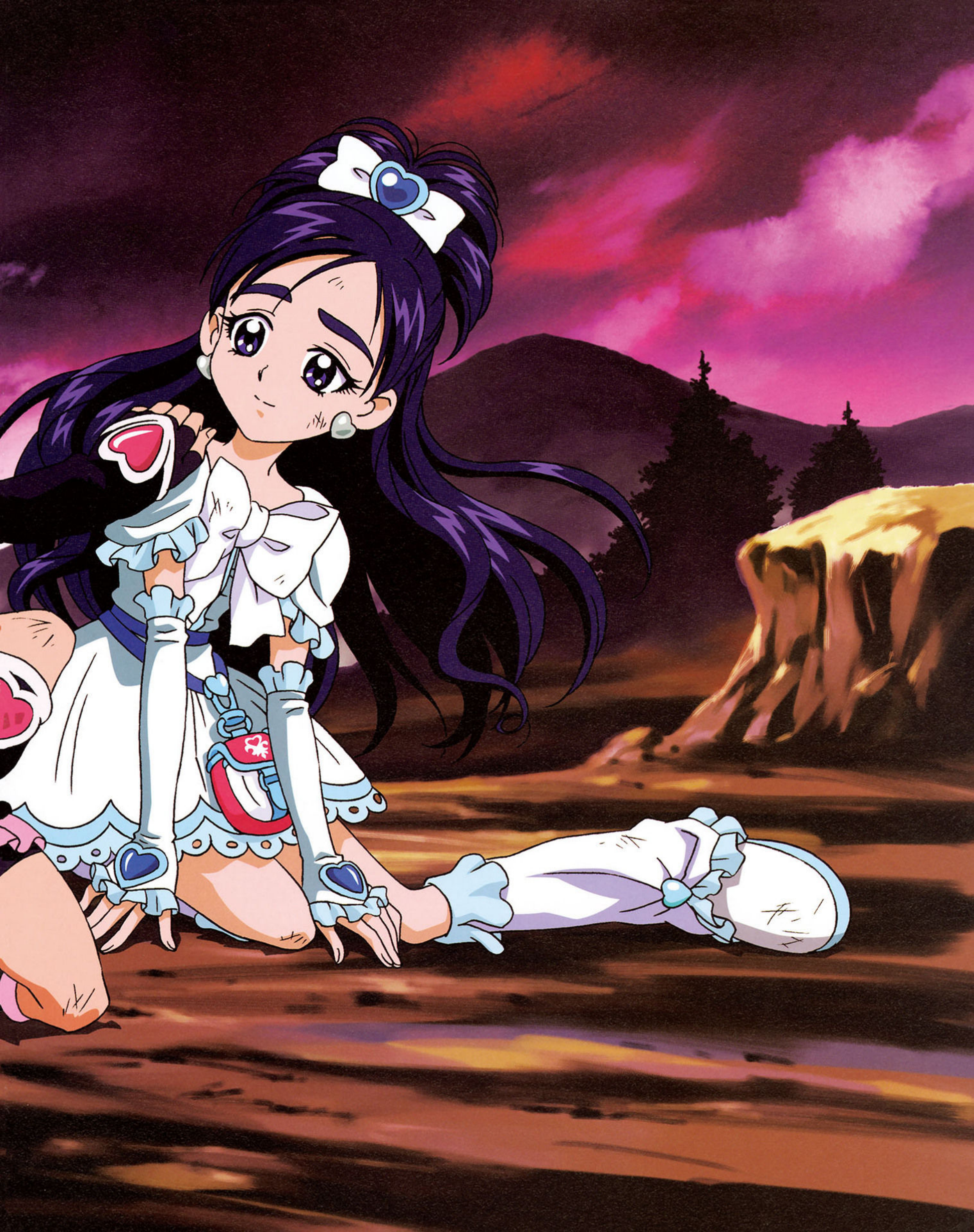
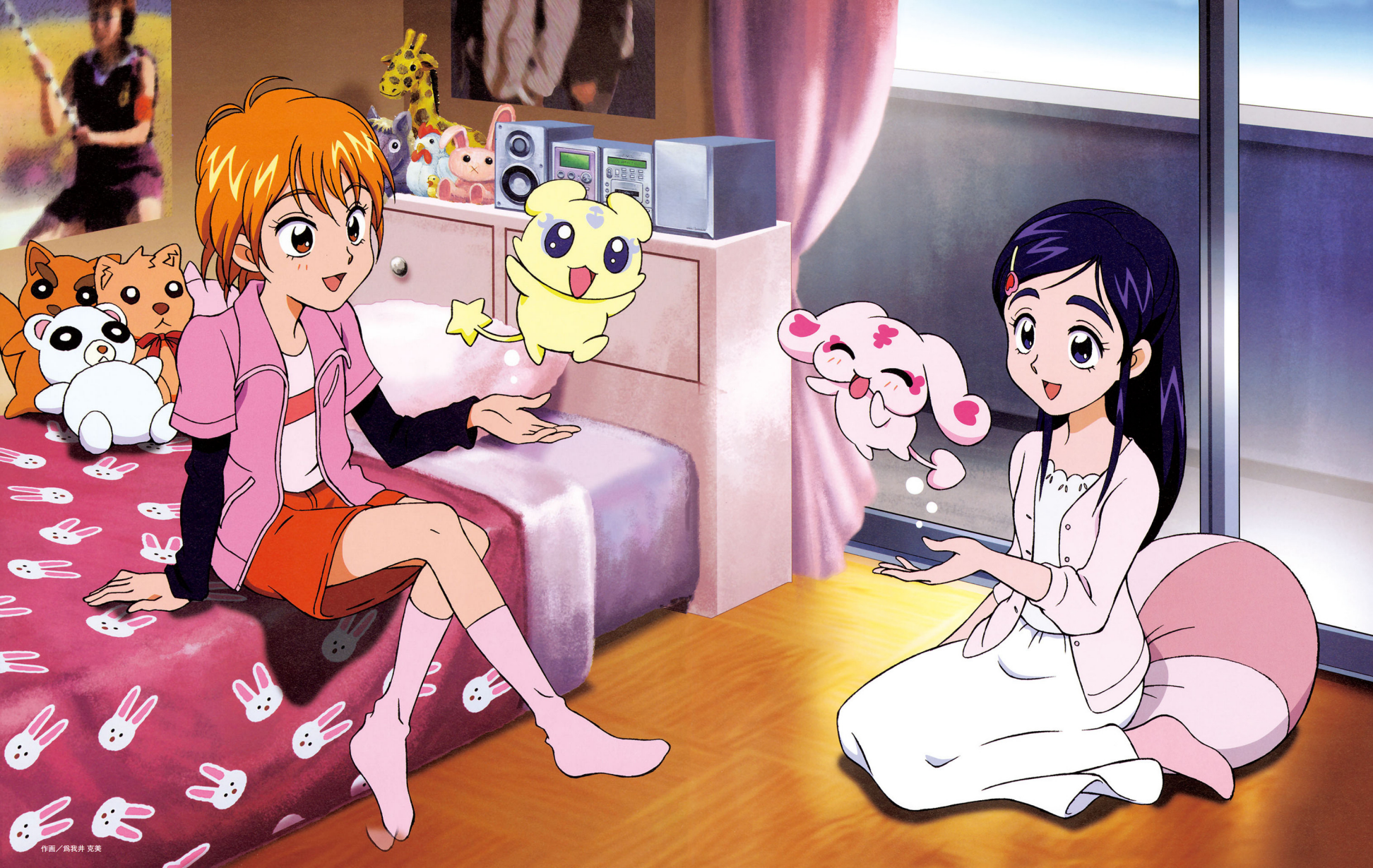
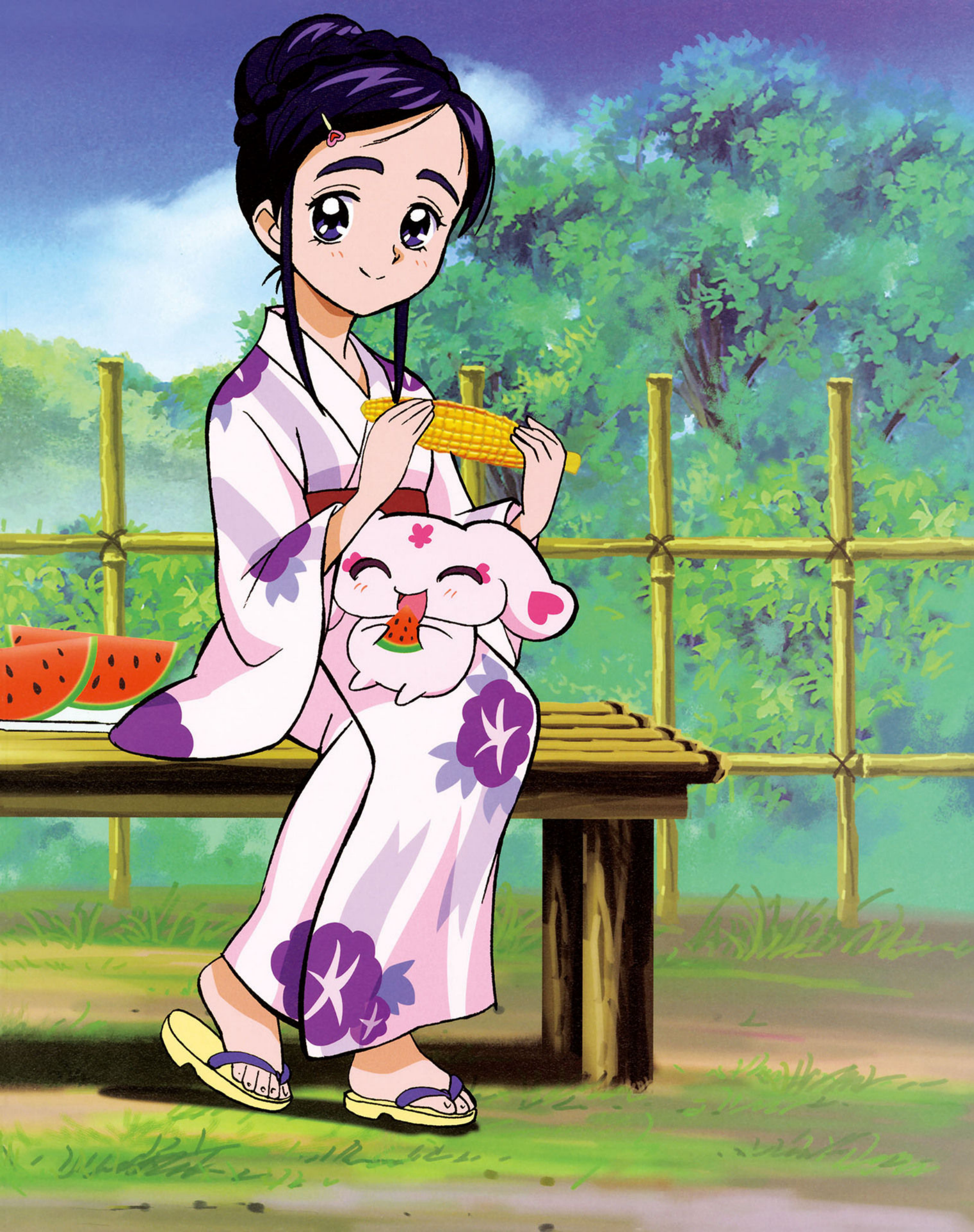
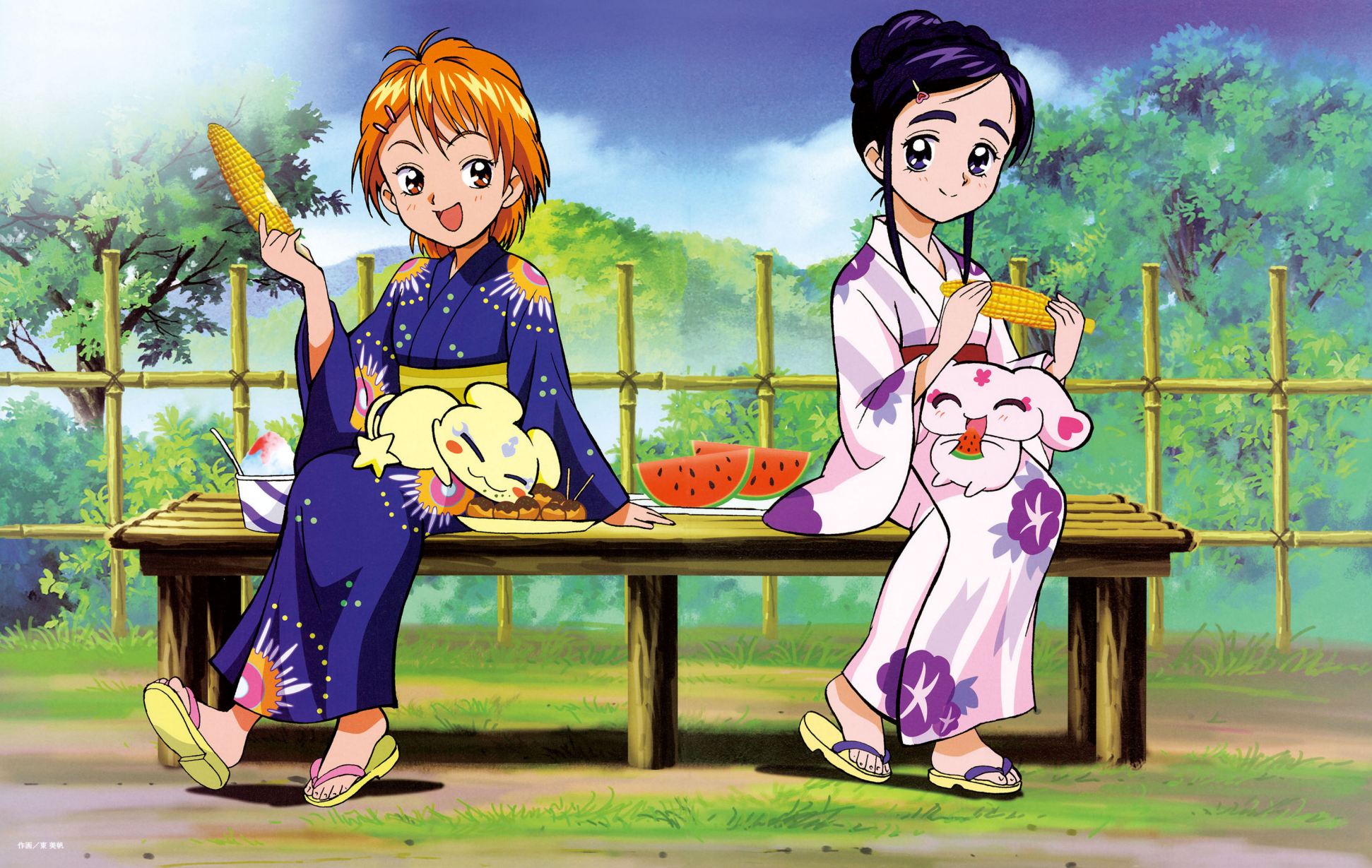
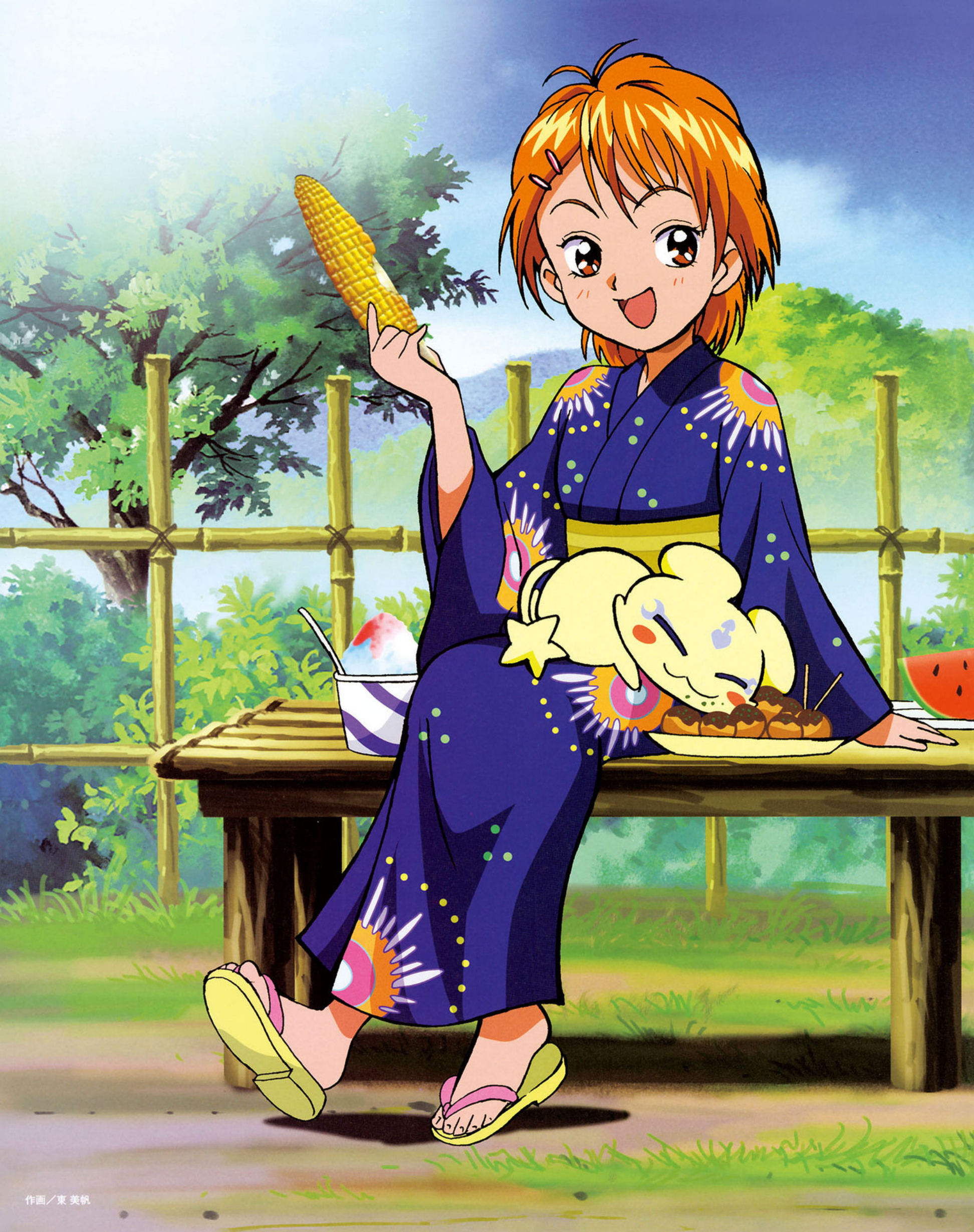
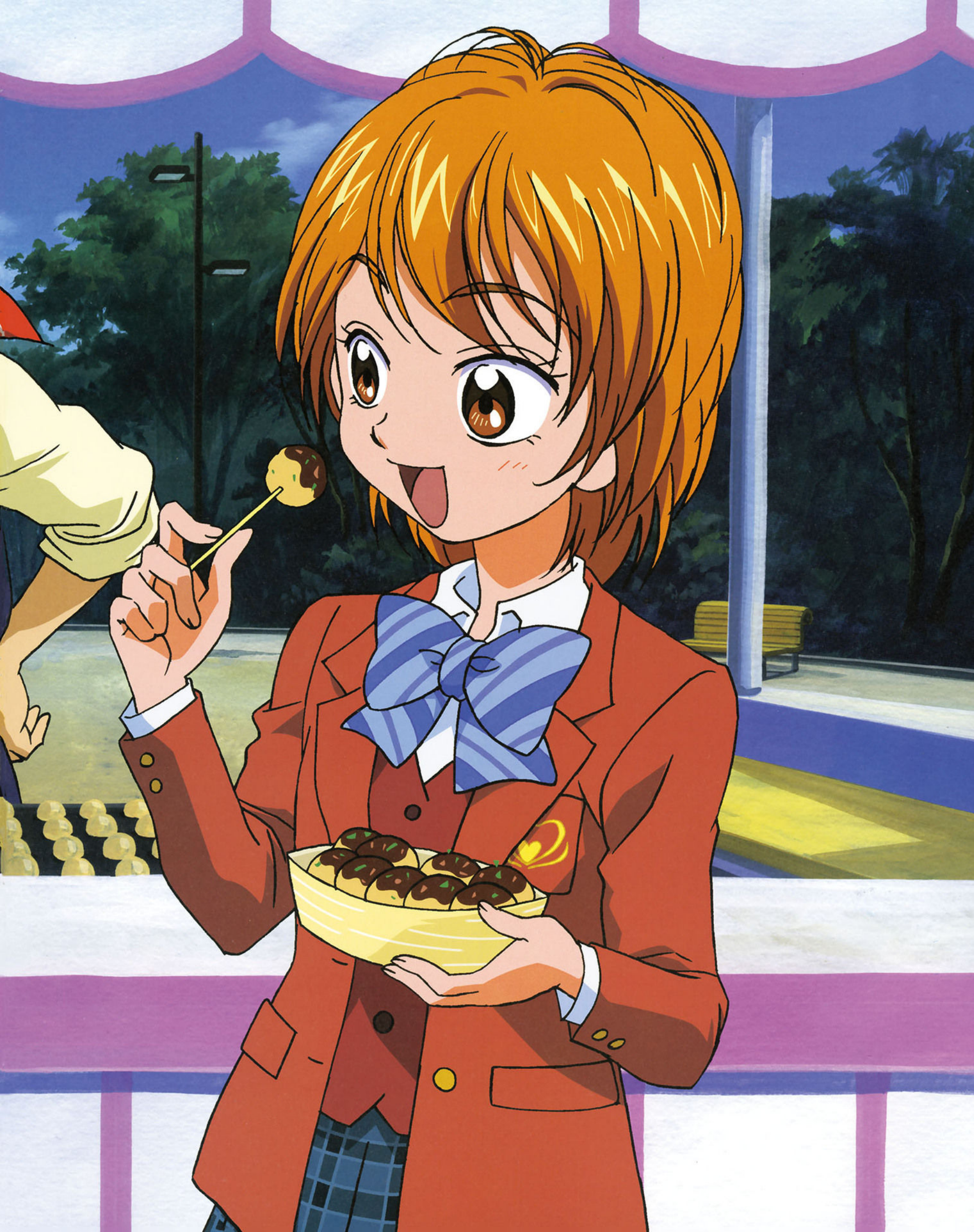
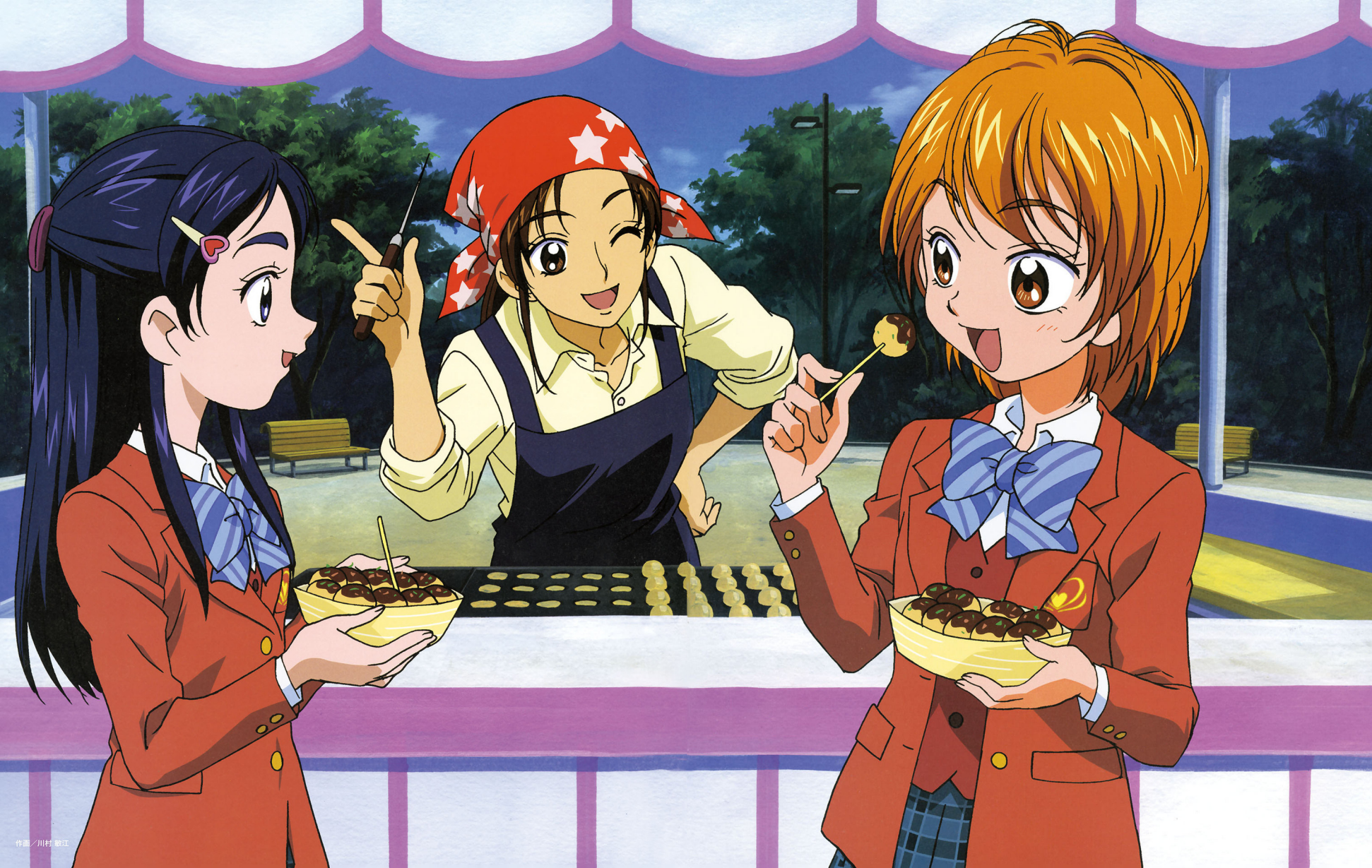
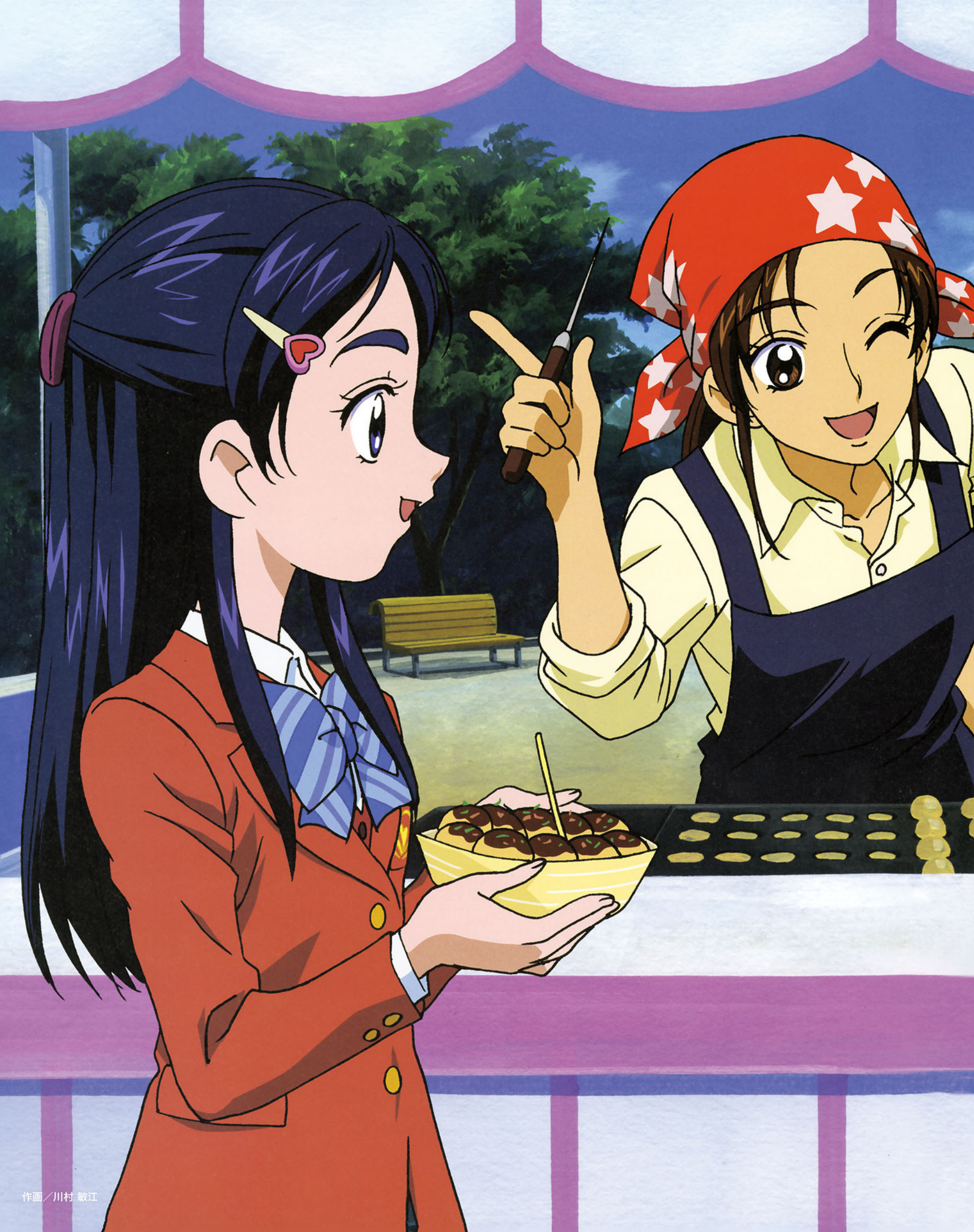
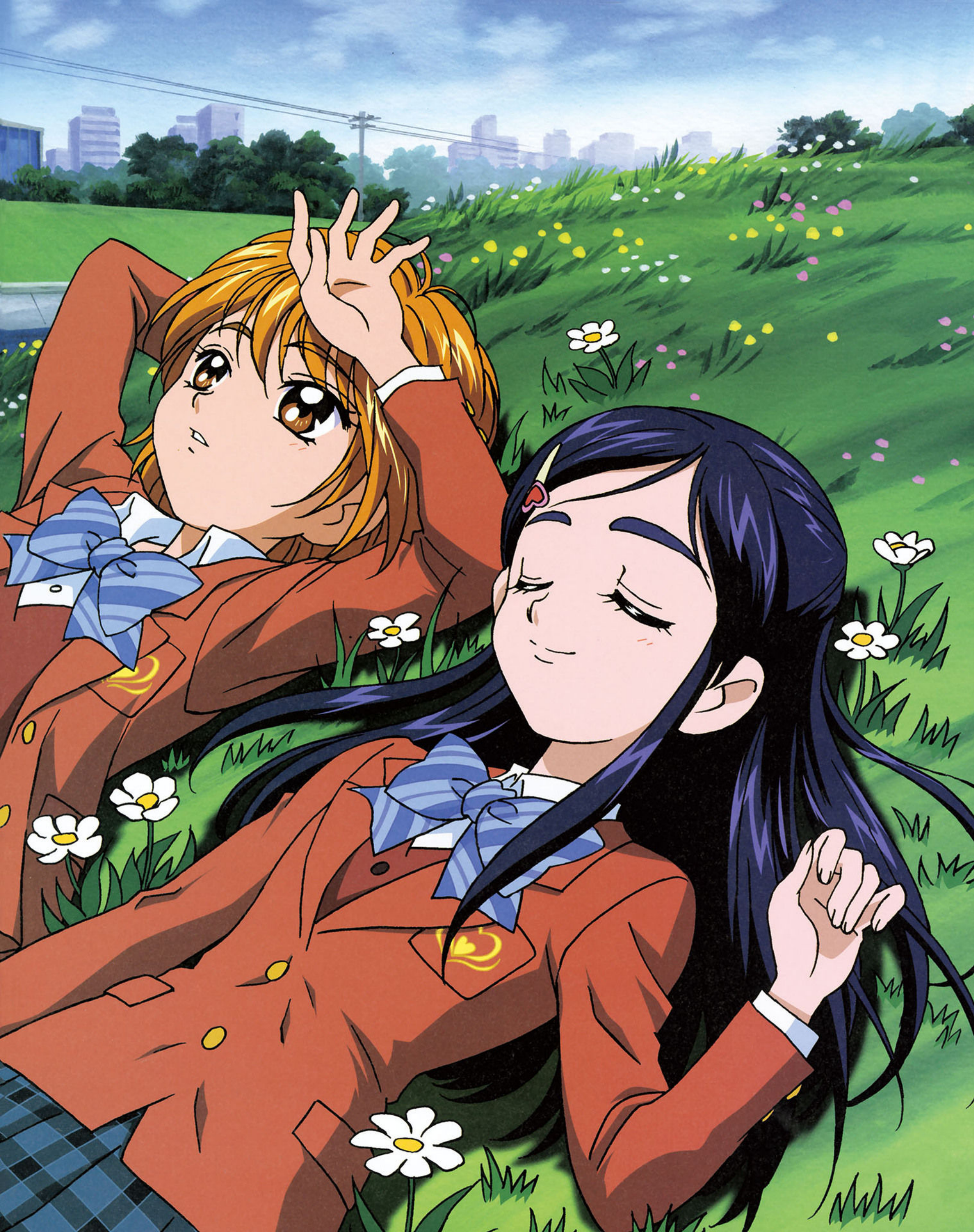
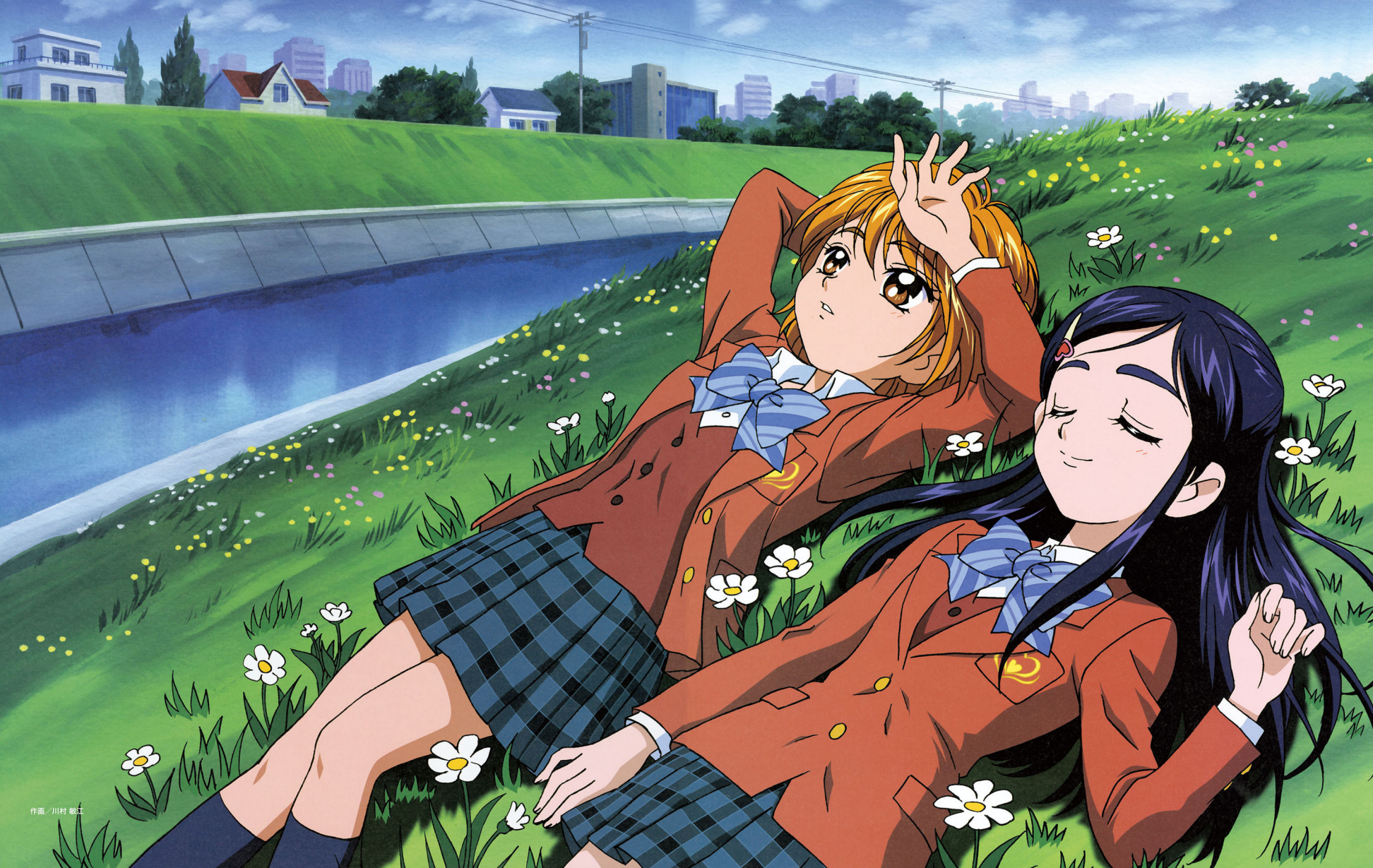
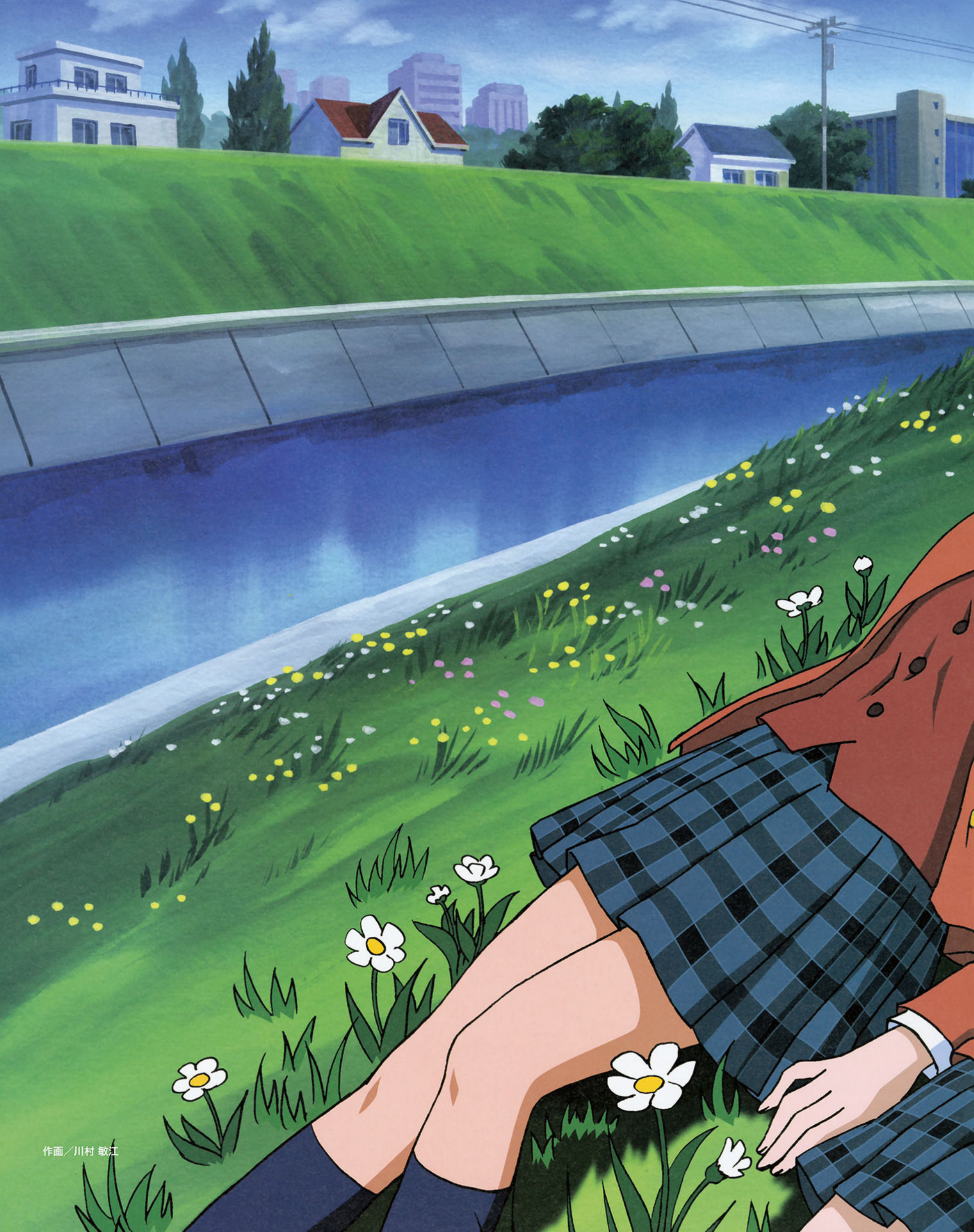
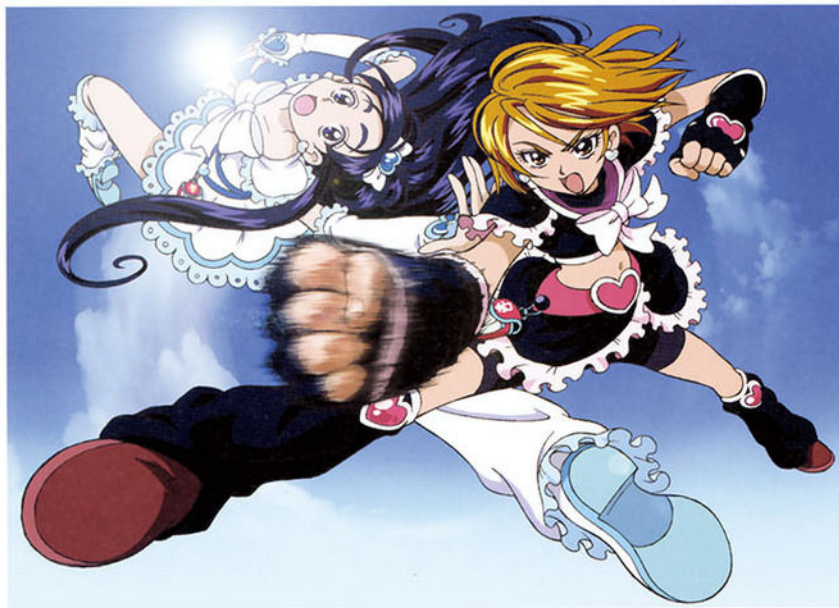
AKIRA INAGAMI

稲上 晃イラストコレクション

ILLUSTRATION COLLECTION

▲ポスター

「ふたりはプリキュア」
ボーカルアルバム
DUAL VOCAL WAVE!
〜ありったけの笑顔で〜

「ふたりはプリキュア」
プリキュア・サウンド・
スクリュー！
オリジナル・サントラ1

「ふたりはプリキュア」
ボーカルアルバム2
VOCAL RAINBOW STORM!!
〜光になりたい〜

▲スチール

▲スチール

▲スチール

▲版権用スピード
ポスター

ふたりはプリキュアビデオVOL.4

ふたりはプリキュアDVD④

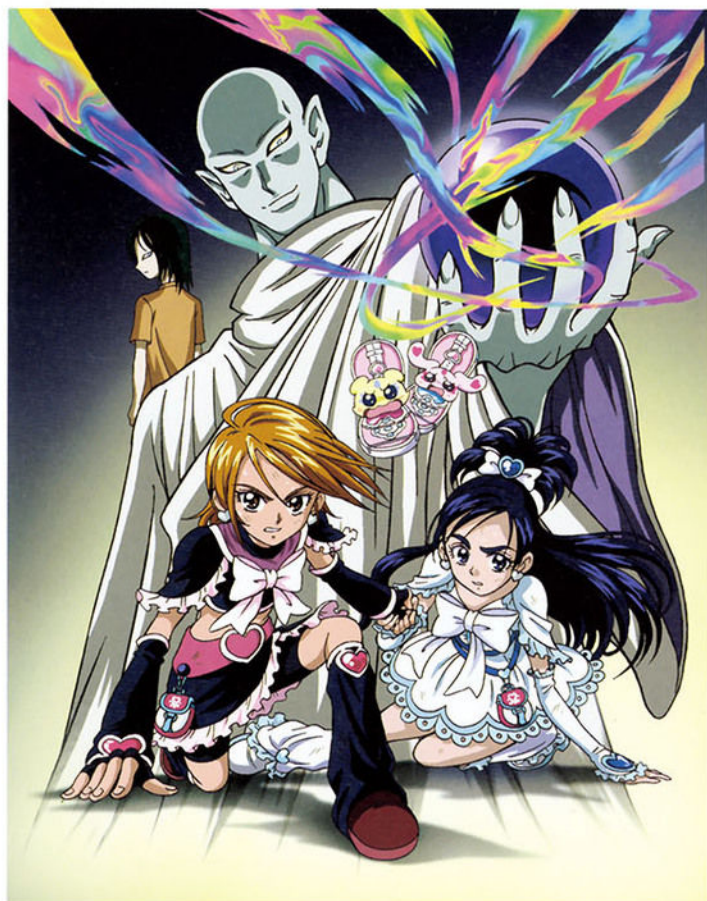
ふたりはプリキュアビデオVOL.3

ふたりはプリキュアDVD③

ふたりはプリキュアビデオVOL.2

ふたりはプリキュアDVD②

ふたりはプリキュアビデオVOL.1

ふたりはプリキュアDVD①

ふたりはプリキュアビデオVOL.8

ふたりはプリキュアDVD⑧

ふたりはプリキュアビデオVOL.7

ふたりはプリキュアDVD⑦

ふたりはプリキュアビデオVOL.6

ふたりはプリキュアDVD⑥

ふたりはプリキュアビデオVOL.5

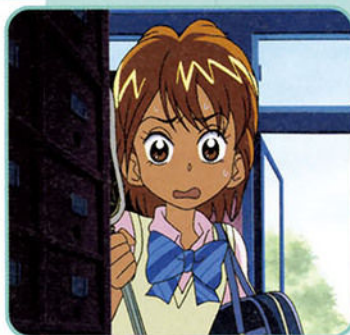
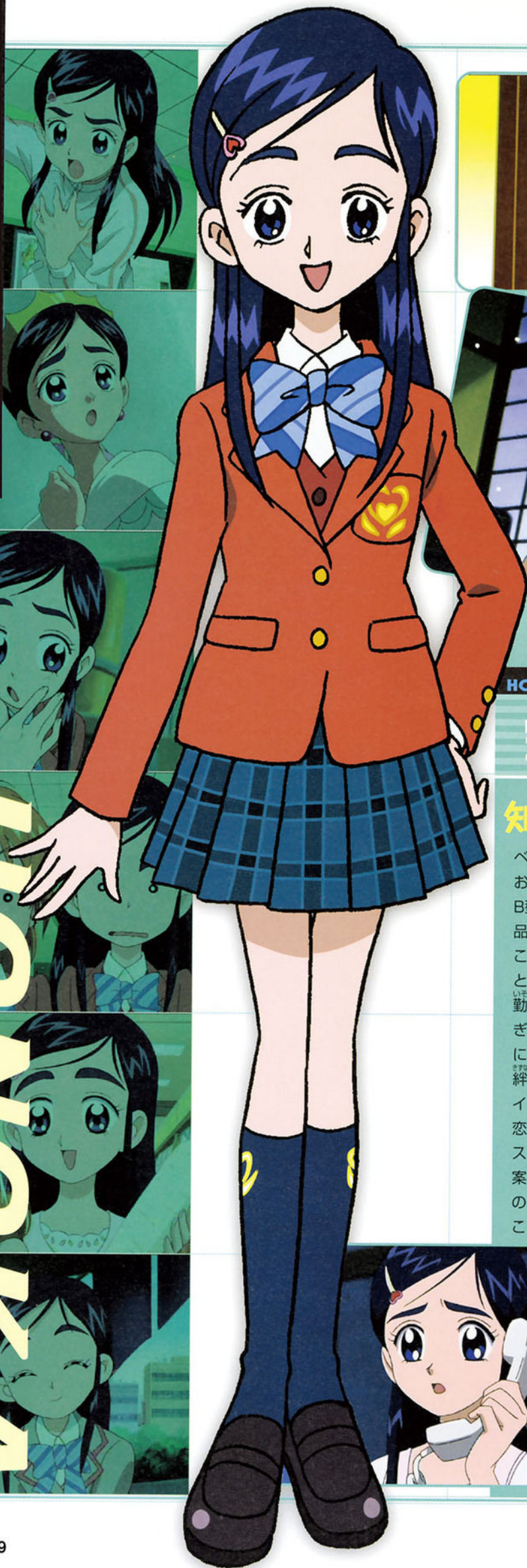
ふたりはプリキュアDVD⑤

NAGISA MISUMI>>>

美墨なぎさ

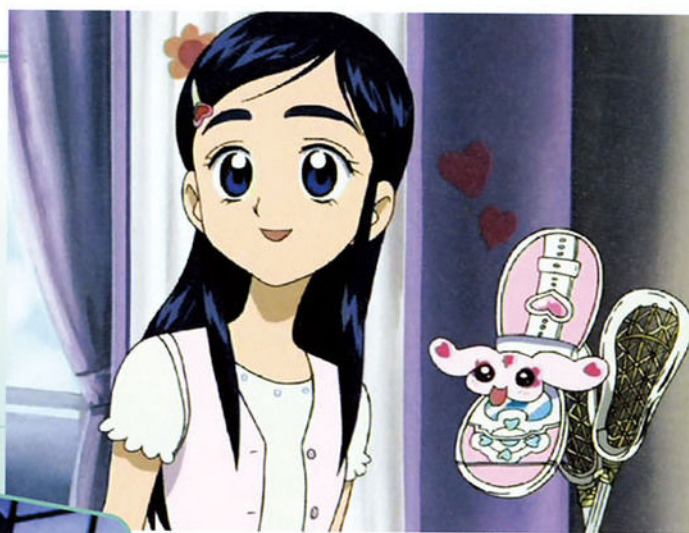
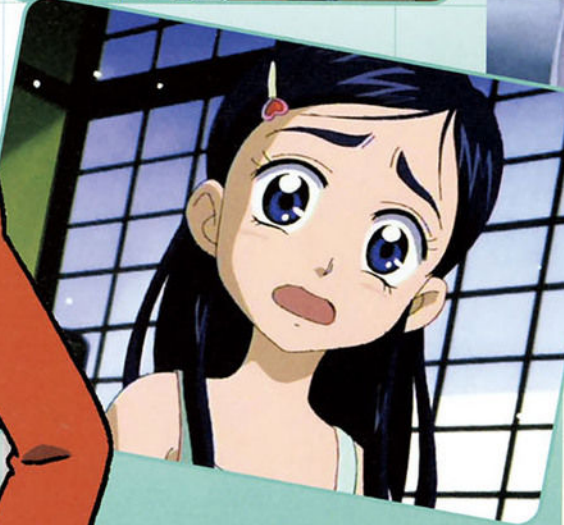
元気いっぱい みんなの人気者！

ベローネ学院女子中等部2年桜組に在籍する元気な女の子。10月10日生まれの14歳、O型の天秤座。ラクロス部ではエースとして活躍、その他スポーツ万能で、体育祭ではリレー競走のアンカーも務めた。反面、勉強は苦手で授業中も大ボケの解答をしてしまったり、宿題もなかなかはかどらなかったりしている。また、ことわざを頻繁に使おうとするが、たいてい間違えていて、ほのかにしょっちゅうたしなめられている。１年先輩の藤村省吾（通称・藤Ｐ）先輩に恋いこがれているが、その想いを伝えられずにいる。そればかりか、友だちが藤P先輩に告白するのを助けたりするという、友だちを尊重するあまり、自分の想いを否定してしまう一面もある。また、女子ばかりに人気があると思いきや、思わぬ男子から告白されて慌てたこともあった。好物は甘いもの、とくにチョコレートが大好き。ラクロス部の先輩である藤田アカネが営むお店のたこ焼きも大好物。キライな食べ物はタマネギ。弟の亮太とはいつもケンカばかりしているが、ひとりでおつかいに出た亮太を心配し、自分の小遣いを渡すようなやさしい姉でもある。

NAGISA

HONOKA YUKISHIRO>>>

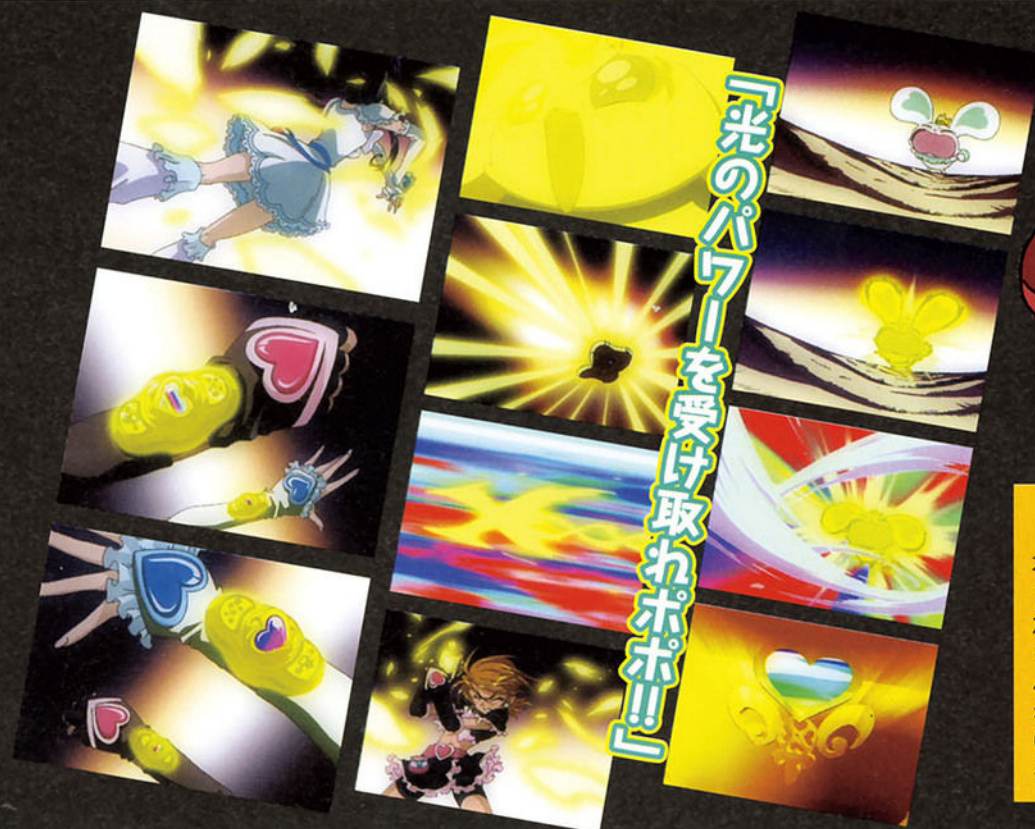
雪城ほのか

知性あふれるお嬢様

ベローネ学院女子中等部2年桜組に在籍するおしとやかな優等生。4月4日生まれの14歳、B型の牡羊座。学年トップの成績をほこり、品行方正、クラス委員も務める非の打ちどころのない女の子で、男子のあこがれのまと。科学部に所属しており、率先して研究に勤しんでいる。誰とでも友だちになれるなぎさと違い、同性からは近寄りがたい存在にみられるらしい。しかし、なぎさと深い絆で結ばれた今では、以前よりもクラスメイトとの間柄も親密になったようだ。また、恋に悩むなぎさの背中をおして、アドバイスしたりと、いつも親友のなぎさのことを案じているやさしい女の子だ。また、博識のため事あるごとにウンチクを披露するところがあり、料理の材料を仕入れるためみんなで買い物に行ったときも、ダイコンやタマネギについてのウンチクを述べていた。
両親は仕事の関係で海外にいるため、現在は祖母のさなえと愛犬の忠太郎と大きなお屋敷に住んでいる。

光の使者>>>

キュアブラック

光の園の伝説の戦士で、光の園と、虹の園である地球をドツクゾーンから守るため戦う。コミューン姿のメップルにプリキュアカードのクイーンをスラッシュさせることにより、ほのかの持つコミューン姿のミップルと合体。「デュアル・オーロラ・ウェイブ」のかけ声とともに光の使者"キュアブラック"に変身したなぎさの姿。その能力は通常をはるかに上回り、驚異的なパンチ力、キック力で相手を倒していく。さらにポルンが放つ光のパワーでプリキュアレインボーブレスを装着し、そのパワーを増大させて闇の戦士たちと戦う。

ポルンがプリキュアに授けたレインボーブレスを装着することにより、レインボーカラーに彩られた七色の光が、嵐のように相手に襲いかかる。その威力は「プリキュアマーブルスクリュー」よりはるかに勝る。

プリキュア レインボーブレス

石の番人・ウィズダムからプリズムストーンの力を授かったポルンが、プリキュアの危機を察知したとき、プリレットのカードをスラッシュして光のパワーを発動、そのパワーはブレスレット状の形態となる。これを装着したプリキュアは通常よりも身軽になり、新たなパワーを発揮できるようになるのだ。

<<< 光の使者

キュアホワイト

光の園の伝説の戦士。コミューン姿のミップルにプリキュアカードのクイーンをスラッシュさせることにより、なぎさの持つコミューン姿のメップルと合体。「デュアル・オーロラ・ウェイブ」のかけ声とともに光の使者“キュアホワイト”に変身したほのかの姿。俊敏な動きで相手を惑わせる頭脳的な攻撃を得意とする。加えて、ポルンが放つ光のパワーで、プリキュアレインボーブレスを装着することにより、さらなる能力を発揮する。闇の戦士の理不尽な論理にも、真っ向から反論していく。

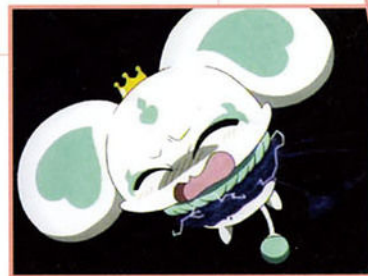
希望の姫君
MIPPLE>>>
ミップル

光の園と虹の園＝地球をドツクゾーンの魔の手から守る希望の姫君で、ふたたびキュアホワイトのパートナーの任についた。女の子らしく、メップルより控えめな性格。ポルンに対しては母性的な一面もみせ、厳しくしつけようとするメップルよりも、やさしく甘やかしてしまうところがあり、そのことでメップルとケンカになることも多々ある。ただし、やさしい反面、怒ったときにはメップルもタジタジとなるほど怖い存在となる一面を持っている。

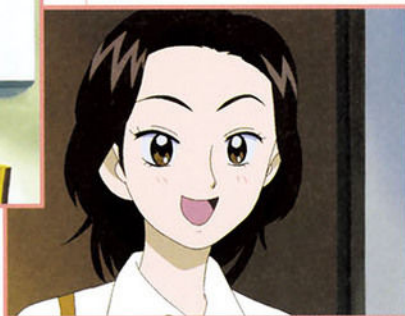
選ばれし勇者
MEPPLE>>>
メップル

ジャアクキング消滅の際、虹の園＝地球に放出された種による闇の力の復活を察知したクイーンから、ふたたび伝説の戦士プリキュアのサポートを命じられた選ばれし勇者。いつもなぎさと口ゲンカしているが、なぎさとは深い信頼関係で結ばれており、落ち込んだなぎさを励ますよきパートナーでもある。ワガママな性格だが、そのワガママをはるかに上回るポルンが登場してからは、先輩風をふかせて、ポルンのワガママを諫めることも多くなった。

未来へ導く光の王子
PORUN>>>
ポルン（24話～）

クイーンの命を受け、プリキュアたちをサポートするために、虹の園にやってきた。ワガママで一度言い出したら絶対にきかないガンコな性格。予知能力があり、いち早く危機を察知する。また、闇の戦士に拉致される直前のウィズダムから、プリズムストーンの"すべてを生み出す力"を移され、光のパワーを発動してレインボーブレスをプリキュアに授ける能力も手に入れた。当初はホームシックにかかっていたが、なぎさやほのかたちと暮らしていくなかで、ポルンにとって虹の園での生活はかけがえのないものとなったようだ。最終回では、愛する友だちであるプリキュアの危機を救うため、自らの意志でジャアクキングに立ち向かうほどに成長した。

美墨家の人々

RIE MISUMI>>>
美墨理恵（1話～）

なぎさの母。竹を割ったような性格で、しつけには厳しい。裁縫に苦労するなぎさにアドバイスしてくれたり、なぎさの悩み事には相談にのってくれるよきお母さん。最近、なぎさの独り言が多いことに、亮太とともに心配している。

RYOUTA MISUMI>>>
美墨亮太（1話～）

なぎさの弟で美墨家の長男。小学5年生。生意気なことを口走り、姉のなぎさといつもケンカをしているが、これは仲のよい証拠だろう。普段はマンガやテレビ番組でバカ笑いしていることが多い。ちょっと泣き虫なところもある、なぎさにとっては可愛い弟だ。父に頼まれた書類をひとりで届けるおつかいをかってでるなど、家族思いの一面も。やさしいほのかに憧れていて、そのことをなぎさに冷やかされたりしている。

TAKASHI MISUMI>>>
美墨 岳（11話～）

なぎさの父。メーカーで新素材の開発、研究に勤しんでいて、そのオフィスは港橋駅近くに建つ高層ビルの27階にある。おやじギャグ全開の明るい性格の持ち主で、高校時代には科学部に所属していた。普段は気さくなお父さんだが、なぎさたちの単独行動を心配して本気で怒ることもある。体育祭には家族そろってなぎさの活躍ぶりを見学にやってきた。

光の園の人々

QUEEN >>>
光の園のクイーン
（25話～）

光の園を治める慈愛に満ちたクイーン。巨大な人間型の容姿をもつ。常に台座に座っているが、ジャアクキングが光の園に侵攻してきた際には、自ら立ち上がり戦った。

WISDOM >>>
ウィズダム
（6話～）

"すべてを生み出す力"をもつ七つの石＝プリズムストーンを収納するケース"プリズムホーピッシュ"に宿る、プリズムストーンを守る石の番人。気の抜けた口調と少年の容姿だが、光と闇の狭間を漂う能力をもっており、とくにミップルからは尊敬の念を受けている。その役目はプリズムホーピッシュとともに、生命の石であるプリズムストーンを守ることだ。

ベルゼイら闇の戦士の急襲を受け、咄嗟の機転でプリズムストーンの力をポルンに宿らせたが、ベルゼイたちの住む洋館へ拉致され、インコの鳥かごに監禁されてしまった。

SENIOR >>>
光の園の長老
（25話～）

クイーンに仕える光の園の識者でジャアクキングの侵略を察知し、メップルたちをふたたび虹の園＝地球へ旅立たせた。年のせいか、もの忘れが激しく、記憶を自分の都合のいいように変えてしまったりもする。また、ポルンと同様、"プリキュア"のことを"プリキュラ"と言い間違えている。

お世話カードの住人たち

ミップル、メップルの世話をするためにプリキュアカード（お世話カード）に姿を変えて虹の園にやってきた光の園の住人たち。このほかにも寝かしつけるネルプなどがいる。

SPICAL >>>
スピカール
（44話～）

願いを叶える流れ星のようなお世話カードの住人。メップルとポルンが、傷心のなぎさを励ますためにクリスマス気分を味わわせようと登場させた。

SHIKALP >>>
シカルプ
（18話～）

メップルたちにお説教をする先生タイプの教育係。大声で叱りつけるのでテスト勉強中のなぎさから怒られたこともある。

PALP >>>
パルプ
（9話～）

メップルたちの体調管理をする看護師の役割をしている。大きな注射で治療するので、メップルにとって苦手なカードだ。

OMP >>>
オムプ
（2話～）

光の園の住人。虹の園では通常、カードコミューンにスラッシュできるカードになっており、メップルたちのお食事を作るコックの役割をしている。

雪城家の人々

CHUTAROU >>>
忠太郎
（1話～）

雪城家で飼われているオスのゴールデンレトリバー。広大な庭で放し飼いにされており、ほのかによく懐いている。蔵に納められていたミップルを最初に見つけたのも忠太郎だ。22話で、迷子犬モコの飼い主を捜す際、犬同士の会話として一度だけ人間の言葉を話したことがある。

SANAE YUKISHIRO >>>
雪城さなえ
（1話～）

ほのかの祖母。普段はやさしいおばあちゃんだが、鋭い面ももち合わせている。孫のほのかの悩みを見抜く孫想いのおばあちゃんで、彼女を見守っている。蔵に隠してあったミップル＝コミューンの存在を知っており、かつて街が戦火で焼かれ、茫然自失となったさなえは、コミューンからの声に「希望を忘れるな」と励まされた過去がある。

←↓幼いころのさなえ。かつて、コミューンはさなえの手にあったようだ。

TARO YUKISHIRO, AYA YUKISHIRO >>>
雪城太郎、雪城 文
（10、29話）

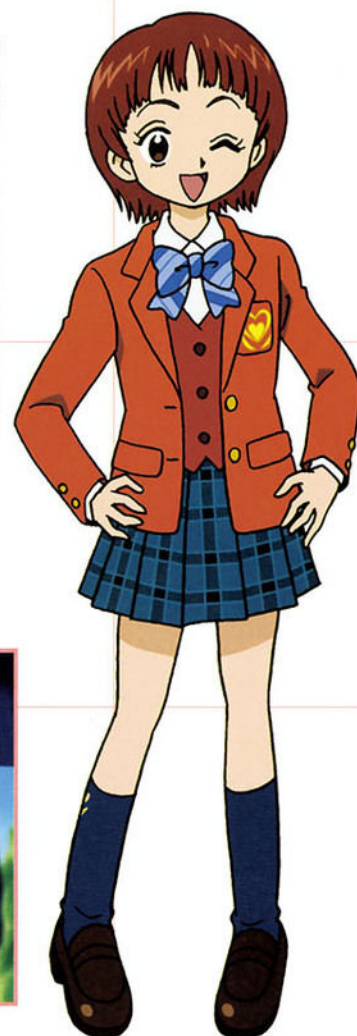
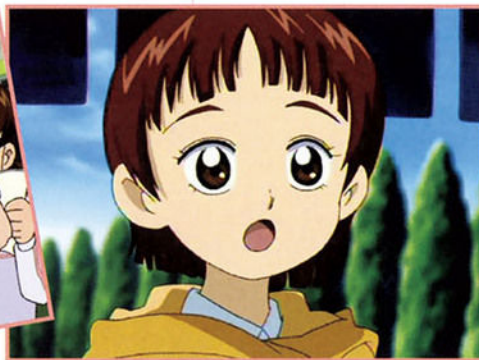
ほのかの両親。海外で高価な宝石や美術品の売買をしているため、娘をさなえに預け、家をあけている。年に1回、ほのかの誕生日だけはお祝いのため帰国するが、愛娘・ほのかに対する溺愛ぶりは激しい。また、年に一度の夏祭りでの、ほのかのゆかた姿の写真を楽しみにしている。

同級生たち

SHIHO KUBOTA>>>

久保田志穂

（1話～）

ベローネ学院女子中等部2年桜組の生徒。クラス一の情報通で、フレーズを3回繰り返すのが口癖。ラクロス部に所属するなぎさのチームメイトで、背番号は55番。試合ではキラーパスを繰り出して活躍、チームを勝利に導く。いつも明るく振る舞っているが、自信をなくしてラクロス部を退部しようとするなど、意外と繊細な一面ももっている。映画監督を目指しているようで、ベローネ祭での桜組の出し物である演劇の演出を担当し、鬼監督ぶりを発揮している。

RINA TAKASHIMIZU>>>

高清水莉奈

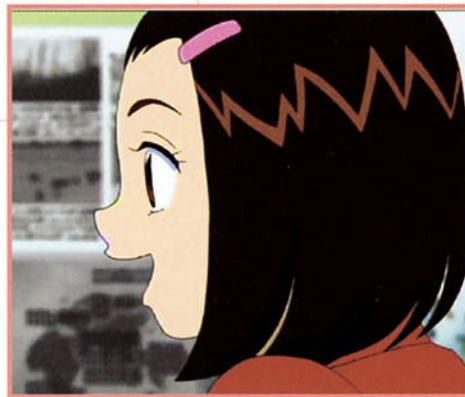
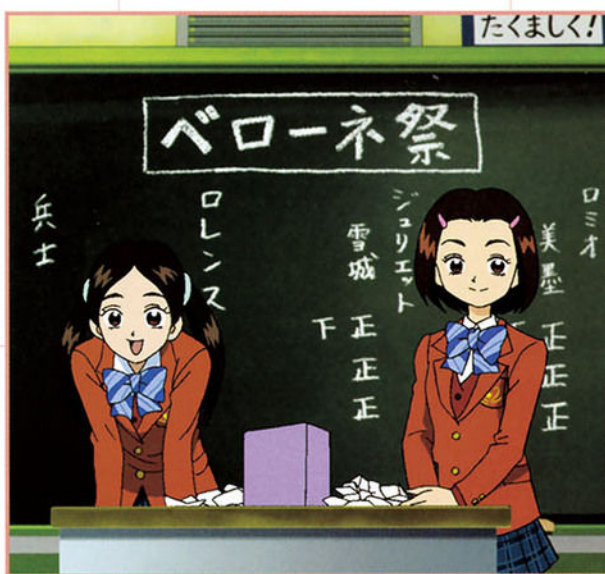
（1話～）

ベローネ学院女子中等部2年桜組の生徒。ラクロス部に所属するなぎさの友人。背番号は23番。チーム内ではその俊足を生かしたプレイを得意としている。
また、失敗で落ち込んだ志穂を気づかう友だち想いの女の子で、情にあつい。少々惚れっぽいところがあり、入澤キリヤや、支倉くん、ほのかに告白したと噂される剣道部の中島くんにもお熱をあげたようだ。

KYOKO MORI>>>

森 京子

（13話～）

ベローネ学院女子中等部2年桜組の生徒。ツインテールがチャームポイントで、夏子とともに自作したキュアホワイトの扮装をしていたが、ふたりにとってニセプリキュアは恥ずかしい過去らしい。39話では、よし美先生への結婚祝いのプレゼントとして、クラスで作ったキルトのベッドカバーの製作技術監督を、夏子とともに務めている。

NATSUKO KOSHINO>>>

越野夏子

（13話～）

ベローネ学院女子中等部2年桜組の生徒。ピンクのヘアピンが目印。13話の科学研究発表会でのプリキュアの活躍を目撃し、すっかりファンとなり、自作したキュアブラックの扮装で児童公園で子どもたち相手にプリキュアショーを開催。そのためポイズニーの作戦に利用されたこともある。37話では、ベローネ祭の桜組の出し物である演劇の衣裳作りを京子とともに担当した。

YURIKO>>>

ユリコ

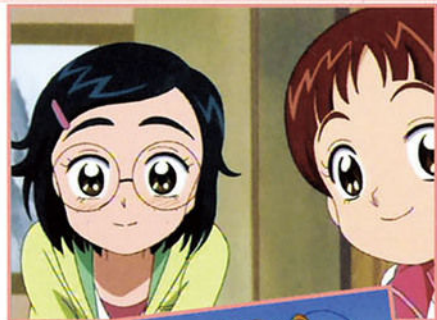
（1話～）

ベローネ学院女子中等部2年生。ほのかと同じく科学部に所属していて、丸い大きな黒縁眼鏡とそばかす顔が特徴。いつもバインダーを抱えている。

CHIAKI YABE>>>

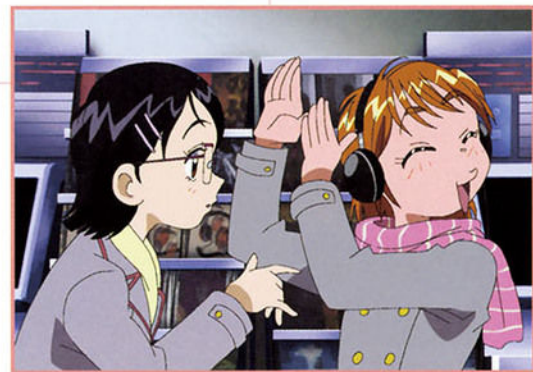
矢部千秋

（45話～）

ベローネ学院女子中等部2年桜組の生徒。音楽部所属。西部地区中学校合唱コンクールのベローネ学院代表に桜組を導いた。その音楽的才能を発揮して、クラスの合唱曲の選出から、そのアレンジにいたるまでを手がけ、桜組を引っ張っていった。

YUI MORIOKA>>>

森岡 唯

（39話～）

ベローネ学院女子中等部2年桜組の生徒。よし美先生の結婚のプレゼントを提案した子。43話では、藤Pの誕生日プレゼントの相談をなぎさにして、彼女を困惑させた。

友人・先輩

KIMATA >>>
木俣
（2話～）

ベローネ学院男子中等部3年生。サッカー部に所属しており、背番号は4番。藤村省吾とは友人で、肩を痛めた祖父のかわりに農作業を手伝うため、友人の藤村たちをかり出したこともある。また、夏祭りでは肝試しを提案、自作のくじでほのかとペアを組んだり、クリスマスパーティではほのかをダンスの相手に誘ったりと、ほのかに気があるのかもしれない。

SHOUGO FUJIMURA >>>
藤村省吾
（2話～）

ベローネ学院男子中等部3年生でサッカー部のキャプテン。背番号は10番。なぎさのあこがれの人。誠実な性格で友だちも多く、男女を問わず人気が高い。みんなからは藤Pというニックネームで呼ばれている。ほのかとは幼なじみで、彼女にとっては兄のような存在だ。友人の木俣の弁によるとサッカーでの得意技は"バカ蹴り"。雪を見ると雪だるまを作りたくなるなど、無邪気な面もある。誕生日は12月12日。

YUKA ODAJIMA >>>
小田島友華
（16話～）

ベローネ学院女子中等部3年生。科学部に所属している。ベローネ学院の"マドンナ"と呼ばれており、頭脳明晰、スポーツ万能、さらには裕福な家庭のお嬢様として、全校生徒からあこがれの視線をあびている。その万能ぶりを買われ、バレーボール部、テニス部、吹奏楽部、茶道部、英会話クラブなど、各部から助っ人として呼ばれて活躍。しかし、そのイメージの維持のため、自由に振る舞えず、内心ストレスをため込み、ポイズニーの作戦に利用されたこともある。人気者のなぎさに対して対抗心を抱いているが、なぜかなぎさの前では飾らない素の自分をさらけ出してしまう。

KAZUKI HASEKURA >>>
支倉一樹
（31、35話）

ベローネ学院男子中等部の2年生で、バスケットボール部所属。女子部の間では人気者で、莉奈も憧れていた。女子部の体育祭でのなぎさの活躍ぶりを目にして彼女を気に入り、校門前で突然告白した。

YUMIKO NAKAGAWA >>>
中川弓子
（7話～）

ベローネ学院女子中等部の3年生で、ラクロス部のキャプテンを務めている。いつも赤いバンダナを巻いていて、チームの司令塔として活躍。背番号は9番。チームが試合に負けても、部員それぞれのコンディションを気づかう、優秀なリーダーだ。
みんなからは、"弓子先輩"とか、"キャプテン"と呼ばれている、たよりがいのある先輩だ。

AKANE FUJITA>>>

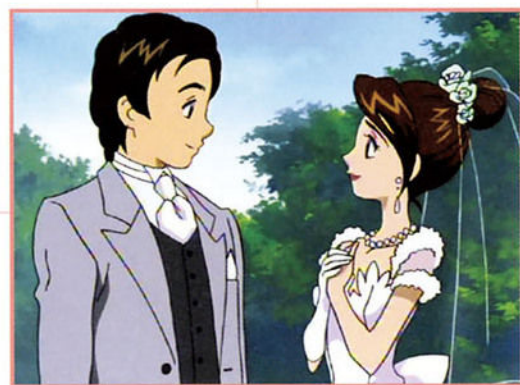
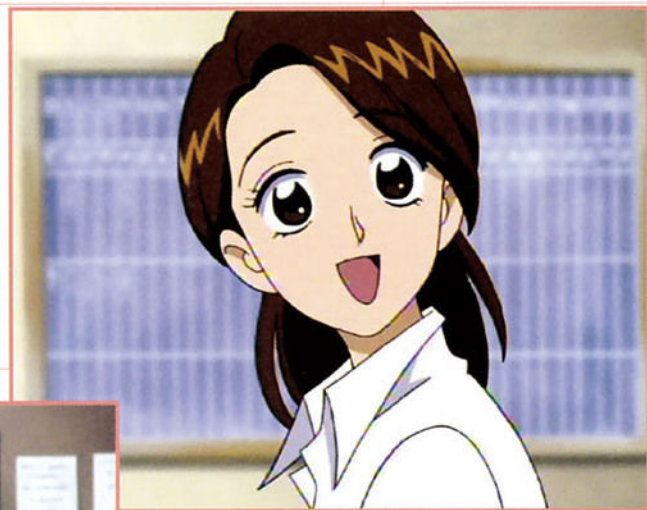
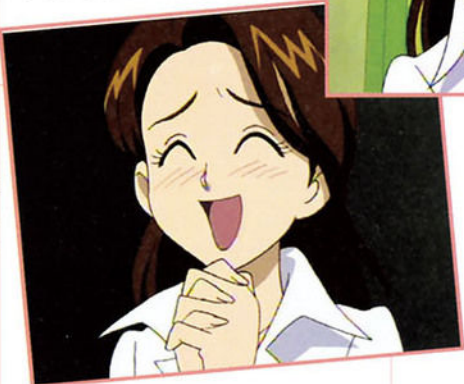
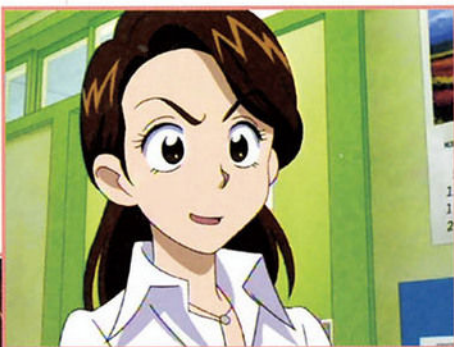
藤田アカネ (5話～)

ベローネ学院の卒業生で、元ラクロス部のキャプテン。卒業後OLをしていたが、自分の店をもつことを夢見て、今は車でたこ焼きを移動販売中。夏祭りでは神社の境内でたこ焼き屋台を営業したり、メニューにかき氷を増やしたりと、商売に精を出している。後輩の面倒見がよく、なぎさやほのかの相談になにかとのってくれる頼もしい先輩。

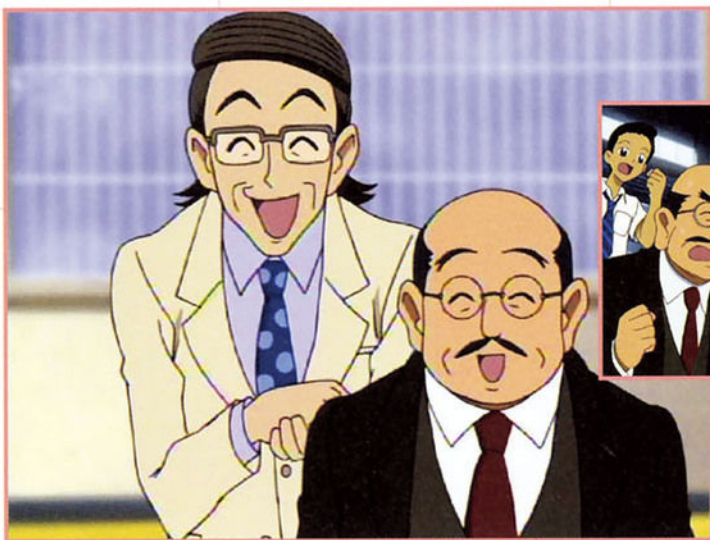
先生

YOSHIMI TAKENOUCHI>>>

竹ノ内よし美先生 (2話～)

ベローネ学院女子中等部2年桜組の担任。イケメンに弱く、3話ではピーサードが化けた教育実習生・風間竜一に惹かれたこともある。教育熱心な教師タイプではなく、その振る舞いはかなりいい加減にみえるが、実は生徒のことをきちんと考えているよき先生。39話で何の前ぶれもなく突然結婚を宣言、竹野内達彦と式をあげた。

KOMETSUKI>>>

米槻教頭先生 (3話～)

ベローネ学院女子中等部教頭。規律に厳しく、生活指導に積極的で、少々行きすぎのところも。いつも校長に小判ザメのようにくっつき、ゴキゲンをうかがい、取り入ろうと必死になっているが、なかなかかみあわない。また、愛校心が強いせいか、それとも体面を気づかうせいか、他校とのラクロス対外試合などでの応援に異常なほど熱を入れる。初めてザケンナーに憑依された人間でもあり、そのときは姿を怪物に変え、日ごろのストレスを爆発させた。

PRINCIPAL>>>

校長先生 (3話～)

ベローネ学院女子中等部校長。口うるさい教頭とは対照的に、生徒たちをいつも温かい眼差しで見守っていて、生徒とのふれあいを重視し、クリスマスパーティなど、学院の行事にも積極的に参加、生徒たちと友だち感覚で接しながら各生徒の性格などの把握に務める、よき先生。また、趣味の盆栽では、全国コンクールで金賞を受賞するほどの腕前。

ダークファイブ

ジャアクキングの忠実なる下僕たち。光の園から奪ったプリズムストーンをそれぞれ一つずつ持っている。邪悪な妖気の集合体である"ザケンナー"を召喚し、あらゆる物に合体させて攻撃させる能力をもつ。

PISADO >>>

ピーサード

（1～5話）

ジャアクキングに仕える5人組のひとりで、エメラルドのプリズムストーンを所持。プリズムストーンを奪うためにメップルたちを追って虹の園＝地球に襲来した。教育実習生・風間竜一になりすましベローネ学院に乗り込むなど、周到な作戦が特徴。ほのかから一度はコミューンを奪うも、プリキュアに変身したふたりに正々堂々と戦いを挑む。プリキュア・マーブル・スクリューをはねのけるほどの強大な能力をもっている。だが隙をつかれたところでマーブル・スクリューの直撃を受け闇に消えた。

闇の世界ドツクゾーン

JYAKU-KING >>>

ジャアクキング

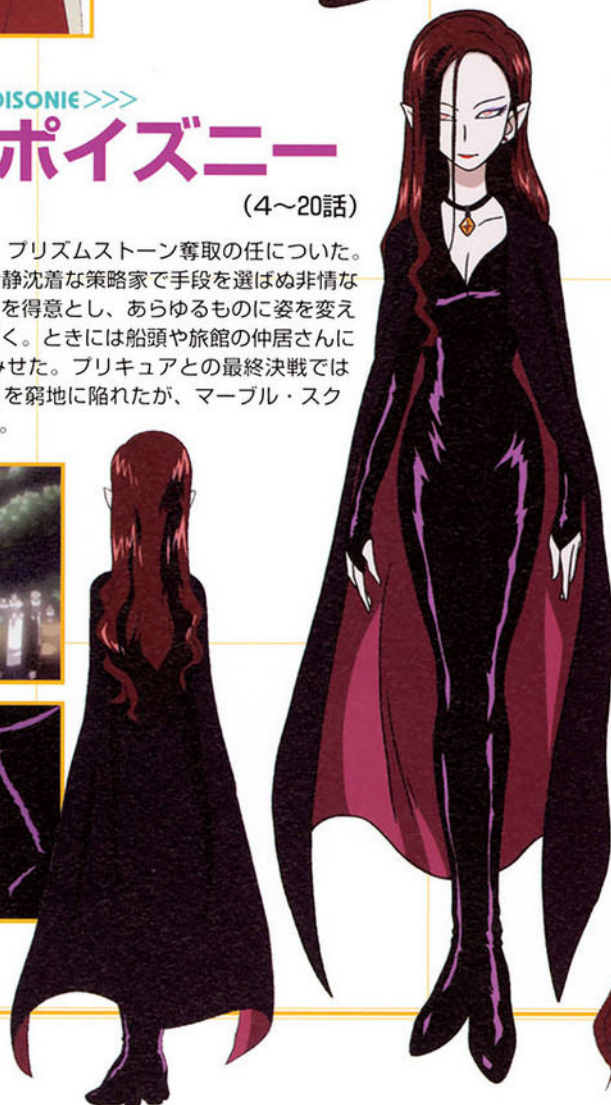
（2話～）

邪悪なエネルギーによって生まれた闇の世界"ドツクゾーン"の主。あらゆるエネルギーを取り込んでしまうジャアクキングは、すべてを生み出す力をもつプリズムストーンの威力に目をつけ、光の園を襲撃し、光の園はおろか虹の園＝地球までも滅ぼす強大な力と永遠の生命を手中にしようとした。奪ったプリズムストーンを5人の部下たちに託し、残り二つの石を奪おうとするが、光の園の伝説の勇者"プリキュア"の出現により、計画は阻まれ石と部下を次々と失っていった。光の園のクイーンとは、表裏一体の存在。

POISONIE >>>

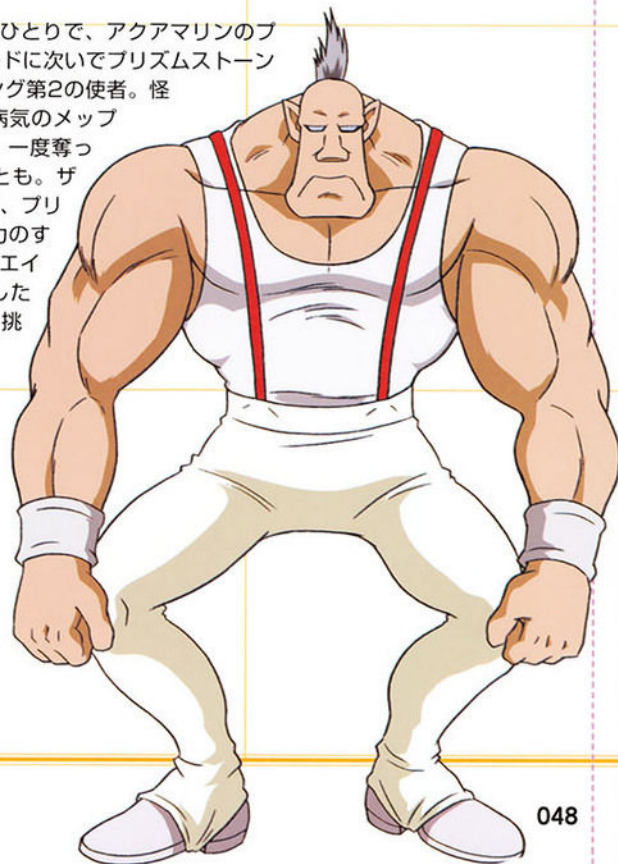
ポイズニー

（4～20話）

ジャアクキングに仕える5人組のひとりで紅一点。トパーズのプリズムストーンを所持。ゲキドラーゴが敗れたあとを受け、プリズムストーン奪取の任についた。ザケンナーの使い手。冷静沈着な策略家で手段を選ばぬ非情な作戦を得意とする。変身を得意とし、あらゆるものに姿を変えてなぎさとほのかに近づく。ときには船頭や旅館の仲居さんに化けてお茶目な一面もみせた。プリキュアとの最終決戦では伸ばした髪の毛でふたりを窮地に陥れたが、マーブル・スクリューによって倒された。

GEKIDORAGO >>>

ゲキドラーゴ

（5～11話）

ジャアクキングに仕える5人組のひとりで、アクアマリンのプリズムストーンを所持。ピーサードに次いでプリズムストーン奪取の命を受けた、ジャアクキング第2の使者。怪力の持ち主。少々お人よしで、病気のメップルを気遣うなぎさの涙に打たれ、一度奪ったメップルを返してしまったことも。ザケンナーと一体化する能力をもち、プリキュアとの最終決戦ではもてる力のすべてを使って、水族館でウツボ、エイなどの様々な魚と合体、巨大化した最終形態でプリキュアとの戦いに挑んだ。

イルクーボ

(4～26話)

ジャアクキングに仕える5人組のひとりで、リーダー格であるとともに闇の世界のナンバー2の実力をもつ。アメジストのプリズムストーンを所持。プリズムストーンの番人・ウィズダムの存在を察知し、プリキュアが取り戻した四つの石もろとも奪取し、さらにミップル・メップルの持つ石までも手中にする。マーブル・スクリューをも掌に吸収してしまう圧倒的な強さを誇るが、プリズムストーンの強大なパワーに逆襲され、パワーを増大したプリキュア・マーブル・スクリューによって一時は撃退された。だが七つの石の力の発動を阻止しようと再度復活、あらゆる闇の力を吸収し、怪物化してプリキュアをドツクゾーンに引きずり込み、ふたりを窮地に陥れるが、戦いのさなか、非情なジャアクキングの手により消されてしまう。

キリヤ

(4～20話)

ジャアクキングに仕える5人組のひとりでポイズニーの弟。シトリンのプリズムストーンを所持。ピーサード、ゲキドラーゴを倒したほのかとなぎさに興味をもち、ベローネ学院に転校生・入澤キリヤとして潜入するが、ほのか、なぎさ、そしてサッカー部員たちとの触れあいのなかで、力に優る人の心を知っていく。姉であるポイズニーがプリキュアに倒されたことで改めて自分の使命を再認識し、ほのかに自分の正体を明かし、一度はプリキュアと対峙するが、自分を友達として接してくれた彼女たちと戦うことができず、ふたりがもつ運命を切り開く力を信じてプリズムストーンを渡すのだった。ジャアクキングの命に背いた彼は、闇の中に消えていった。

ザケンナー

(1話～)

邪悪な妖気の集合体でダークファイブによって召喚される。「ザケンナー！」の声とともにあらゆる物に乗り移り、モンスターとなる。プリキュアによって倒されると、小さなヒトデ状のひ弱な生物"ゴメンナー"となって四散、逃げ去っていく。

闇の世界ドツクゾーン　3人の闇の戦士

クイーンとプリキュアによって倒されたジャアクキングが、消滅する寸前に虹の園へ向けて放出した種から生まれた、ジャアクキングの分身ともいえる存在。圧倒的パワーでプリキュアを苦しめた。その使命はジャアクキングの復活とプリズムストーンに秘められた“すべてを生み出す力”を手中にすることだ。覚醒する以前は人間として生活をしていたらしい。覚醒後も普段は人間の姿で、とある山奥にたたずむ洋館で暮らしている。

BELZEI GERTRUDE>>>

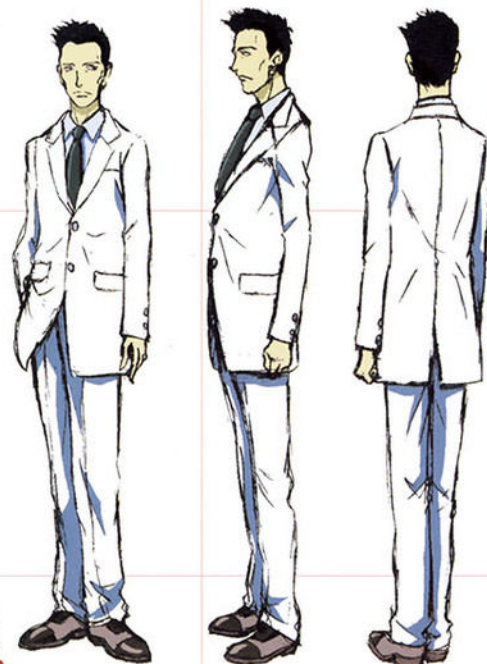
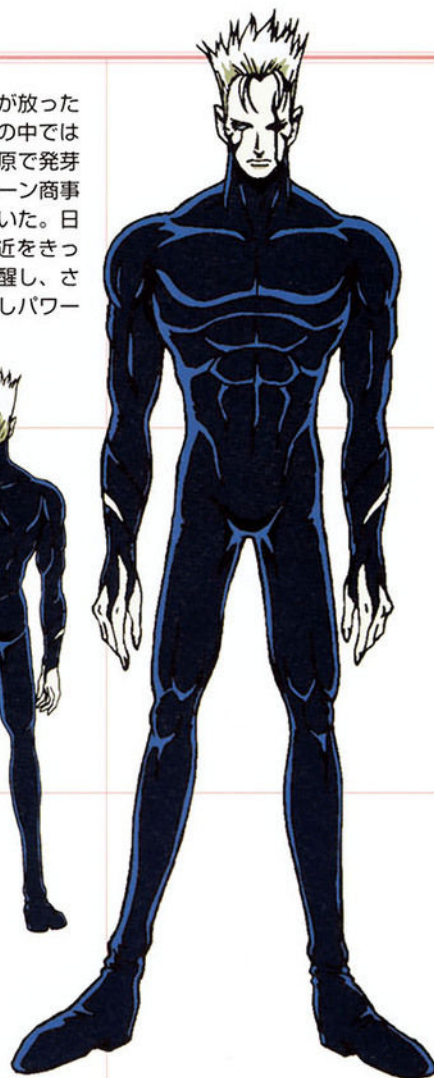
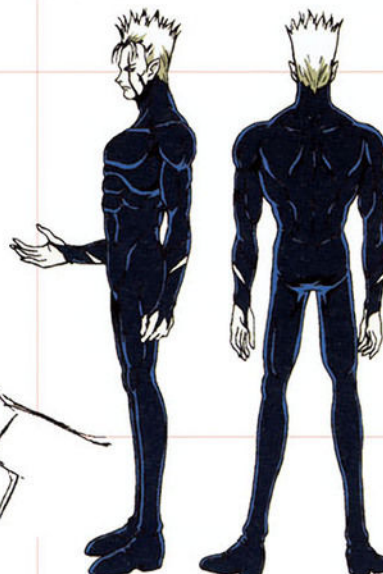
ベルゼイ・ガートルード（29～48話）

クイーンとプリキュアによって倒されたジャアクキングが、消滅する寸前に虹の園へ向けて放出した種から生まれた、闇の戦士のひとり。とある滝壺のほとりで発芽し、誕生した。普段は人間を装い、結城玄武という名の白髪の中年男性の姿で生活をしている。また、人間の記憶を操作することも可能だ。総合病院の病院長になりすましていたが、落雷によって闇の戦士ベルゼイとして完全覚醒した。闇の戦士3人の中ではリーダー格で、その性格は狡猾で知的。

JUNA>>>
ジュナ（27～48話）

ベルゼイと同じくジャアクキングが放った種から生まれた闇の戦士で、3人の中ではいちばん早く覚醒した。広大な河原で発芽し、角澤竜一郎という名で、グリーン商事の精悍な営業部員として勤務していた。日本列島に上陸した台風10号の接近をきっかけに闇の戦士・ジュナとして覚醒し、さらにはその台風の力を体内に吸収しパワーを増大させた。

REGIENE>>>
レギーネ（28～48話）

ベルゼイ、ジュナと同じくジャアクキングが放った種から生まれた闇の戦士のひとりで、ジュナに次いで覚醒した。公園の片隅で発芽し誕生。人間体は少女・小山翔子の名で、気弱で何かにおびえたような素振りをみせている。火山エネルギーを吸収し、闇の戦士・レギーネとして完全覚醒した。その性格は、人間体と正反対で気性が強く、ヒステリック。

3人が合体した巨人（47、48話）

ジャアクキングに反駁し、プリズムストーンに秘められた"すべてを生み出す力"を吸収した3人が、個体ではそのパワーを制御できなくなり合体、変貌した姿。

驚異的なパワーでジャアクキングに挑もうとしたが、石の力を抑えきれず、最後はジャアクキングに吸収されてしまった。

JYAKU-KING >>>

ジャアクキング(2～26話、31～49話)

邪悪なエネルギーによって生まれた闇の世界“ドツクゾーン”の帝王。あらゆるエネルギーを取り込んでしまうジャアクキングは、“すべてを生み出す力”をもつプリズムストーンの威力に目をつけ、光の園を襲撃し、永遠の生命を手中にしようとした。一時は五つの石を手に入れ、配下のダークファイブに託していたが、プリキュアの活躍で奪還されてしまい、自らも消滅した。
しかし、断末魔に分身ともいえる種を虹の園に向けて放出し、種から誕生した闇の戦士3人によって復活を果たし、ついに“すべてを生み出す力”を手に入れ、虹の園にその姿を現した。
光の園のクイーンとは、表裏一体の存在。

STEWARD-ZAKENNA >>>

執事ザケンナー(36話～)

A 闇の戦士の隠れ家である洋館で執事として下働きをするザケンナーで、背は小さい。ほかのザケンナーと違って攻撃的ではなく、人語を話す。口うるさいが、言いつけられた仕事は忠実にこなそうとする。

B 闇の戦士の隠れ家である洋館で執事として下働きをするザケンナーで、こちらは背が高く、ボーッとしている。不真面目で、仕事中にいつもつまみ食いをしている。執事ザケンナーAとは凸凹コンビである。

ZAKENNA >>>

ザケンナー(1～44話)

邪悪な妖気の集合体。倒されると、小さなヒトデ状のひ弱な生物“ゴメンナー”となって四散、逃げ去っていく。

KIRIYA >>>

キリヤ(4～21、44、47～49話)

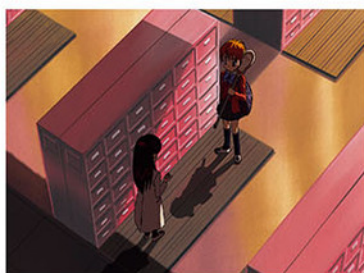
ジャアクキングに仕えるダークファイブのひとりでポイズニーの弟。ベローネ学院に転校生・入澤キリヤとして潜入し、任務を遂行していたが、なぎさやほのかたちの心にふれてジャアクキングに背いたまま、光と闇の狭間を彷徨っていた。しかし、光と闇の間にできたひずみに呼び寄せられてふたたびその姿を現し、プリキュアとジャアクキングとの戦いの際には、ふたりの危機を救った。そしてふたりの戦いぶりに感銘を受け、自らの存在意義と安住の場を悟った彼は、虹の園に自分の居場所を見つけた。

PARAKEET >>>

インコ(29～48話)

闇の戦士の隠れ家である洋館で飼われている大型のインコ。口まねが上手で、人を小馬鹿にした態度をとる。31話から捕らえられたウィズダムと鳥カゴの中で同居していた。

※「ふたりはプリキュア　ヴィジュアルファンブック Vol.1」と「ふたりはプリキュア　ヴィジュアルファンブック Vol.2」を合本にしたため、ドツクゾーンのジャアクキング、キリヤ、ザケンナーが重複しています。

ふたりはプリキュア 名言集 1

体を動かすのが好き、勉強はタイクツ。
草のにおいが好き、
私の靴下はちょっとクサイ……なんちゃって。
（なぎさの手帳）

良かれと思ってしたことで、
彼女を怒らせてしまった。
（ほのかの手帳）

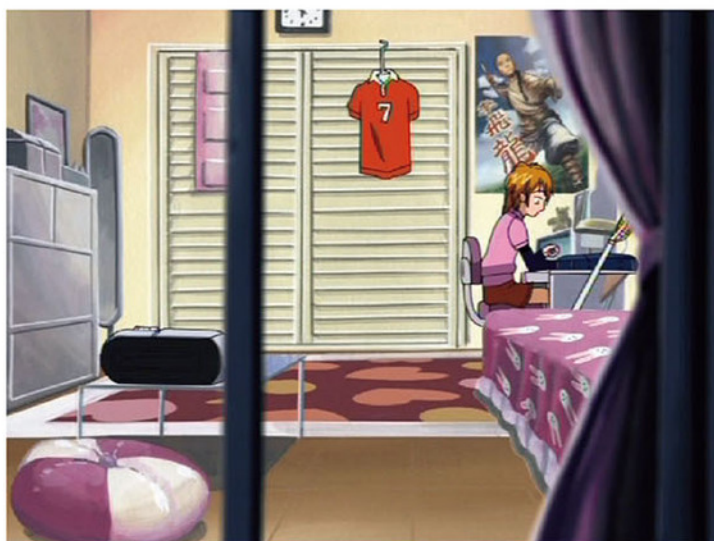
晴れた日が好き、雨の日は
ユーウツ。友だちが大好き！
ケンカは……嫌い。
（なぎさの手帳）

彼女と私は、全然ちがう。
だけど一緒にいると楽しい……。
（ほのかの手帳）

雪城さんのこと、もっと知りたい。
（なぎさの手帳）

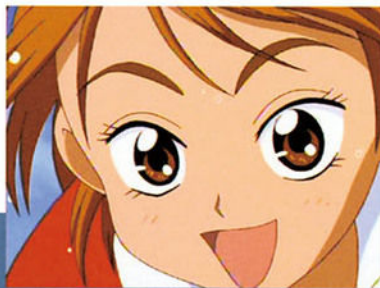
美墨さんと友だちになりたい。
（ほのかの手帳）

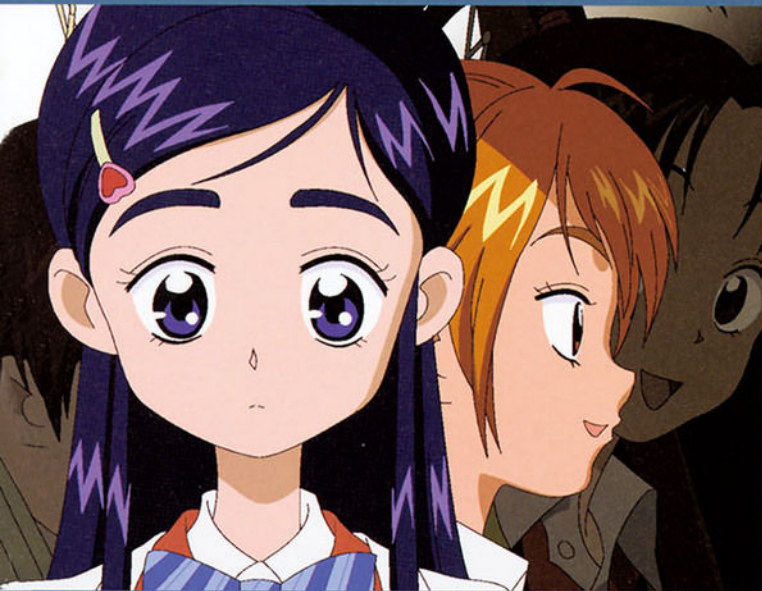
私たち（ふたり）がずっとこのままなんて……
ありえない……。

ほのか
これ……なぎさの……、
なぎさの手帳でしょ……。

ほのかのおせっかいから仲たがいしてしまうふたり。なんとか仲直りしたいのですが、うまくいきません。そんなとき、突然現れたゲキドラーゴとの戦いのあと手帳を取りちがえ、それぞれ相手の手帳を読み始めます。そして、お互いの気持ちが同じであることを知るのでした。（第８話より）

「ふたりはプリキュア名言集　わたしたちはぜったい負けない」（講談社）より抜粋。

#01～#26 ストーリーダイジェスト

ほのかは科学部で実験の真っ最中。

なぎさはラクロス部期待の2年生エースだ。

01

なぎさを気にもとめない様子のほのか。

勉強は嫌いだがスポーツ万能の美墨なぎさと、頭脳明晰でおしとやかな雪城ほのか。ふたりはそれぞれの分野で注目はされるものの、とくに仲がいいわけでもなく、それぞれ平凡な毎日を過ごしていた。

ある日、家に帰ったなぎさは、空一面に広がる流れ星を目撃する。必死に願い事を唱えるなぎさ。すると、流れ星が落ちてきた！　驚くなぎさをよそに、流れ星は携帯のようなものになり、しゃべりだしたのだ！「僕を希望の姫君のところへ連れて行くメポ！」……。そのころ、ほのかも飼い犬の忠太郎に連れられ、光る携帯を自宅の蔵で見つけるのだった。

いろいろ納得できないこともあったが、メップルという生き物に付き合い、なぎさは希望の姫君・ミップルをさがす。たどり着いたところは遊園地。なぎさはそこで謎の男に行く手を阻まれる。どうやら目的はメップルのようだ。そこに同じような形の生き物を持ったほのかが駆けつけた！　そこでメップルが叫ぶ。「変身するメポ！」「デュアル・オーロラ・ウェイブ！」不思議な呪文とともに変身。キュアブラックとキュアホワイトとなり、戦いに挑む。常人を超えた瞬発力、体力、筋力を身につけたふたり。ピーサードと名乗る男もジェットコースターをザケンナーに変えて挑むが、必殺技プリキュア・マーブル・スクリューによって撃破、勝利するのだった。

「ふたりはこれからプリキュアとしてわたしたちと一緒に戦うミポ！」ふたりのありえない日々が始まった……。

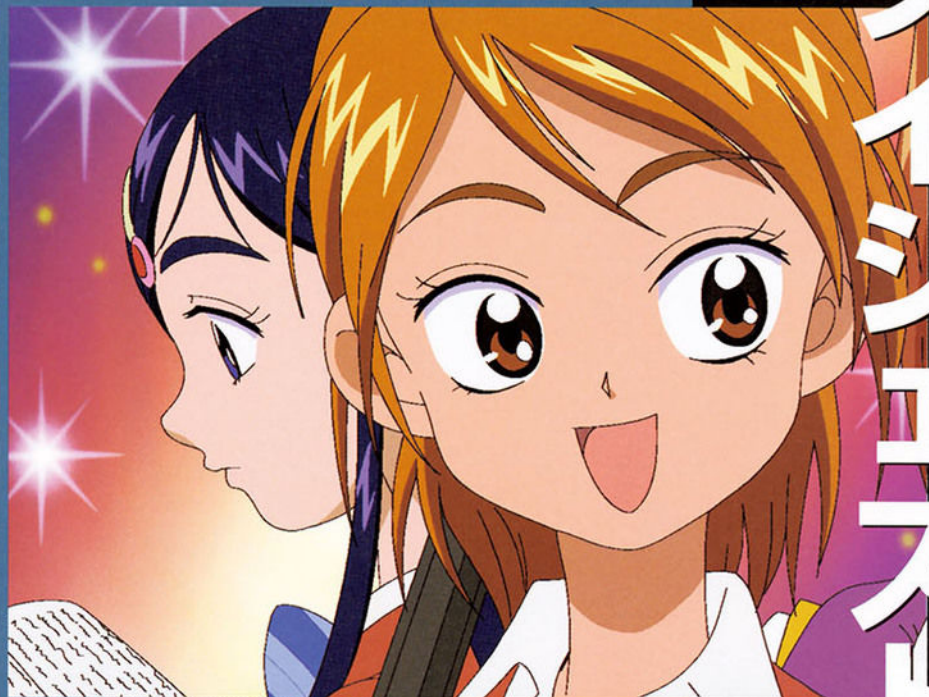
STORY #01
私たちが変身!? ありえない！

流れ星がこちらに向かって落ちてきた！

ほのかも蔵で光る箱を見つける。

流れ星は携帯の形をした不思議な生き物だった。

まったく接点をもたないなぎさとほのか。

なぎさは夕方、大量の流れ星を見る。

必死で流れ星にお願いするなぎさ。

なぎさもほのかのことにまったく気がつかない。

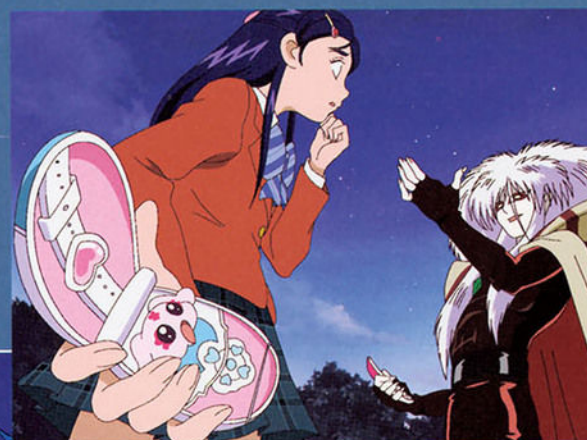
しぶしぶながらメップルに付き合うなぎさ。

勝手に体が動いてしまうなぎさとほのか。

ラクロスの技で、なんとかメップルを取り戻す。

遊園地に着いたなぎさは謎の男に会う。

強力なパワーで戦うキュアブラック。

かけ声とともに、ふたりの戦士が誕生した。

なぎさからメップルを奪った男。次は……。

コースターのザケンナーがふたりに襲いかかる。

ホワイトの二段蹴りがピーサードにヒット！

戦い終え、メップルたちから事情を聞く。

ほのかは面白そう。なぎさは、
「ありえなーい！」

ほのかのほうは興味しんしんで楽しそうだ。

戦いはもうしたくないというなぎさ。

どこでも急にしゃべりだすメップルにうんざり。

02

電車で見たあこがれの先輩と再会するなぎさ。

なぎさとほのか、ふたりの元へ現れた不思議な生き物、メップルとミップル。メップルとミップルは、自分たちは光の園からやってきたという。光の園は今まで、すべてを生み出すプリズムストーンの力によって幸せに暮らしていた。しかし突然、邪悪なエネルギー、ドツクゾーンに光の園が襲われた。ドツクゾーンの主、ジャアクキングは、七つのプリズムストーンのうち、五つを奪い取ってしまった。七つすべてを奪われれば光の園は滅びてしまう。メップルとミップルはそれを阻止するために、虹の園＝地球へプリズムストーンを持って逃げてきたのだ。

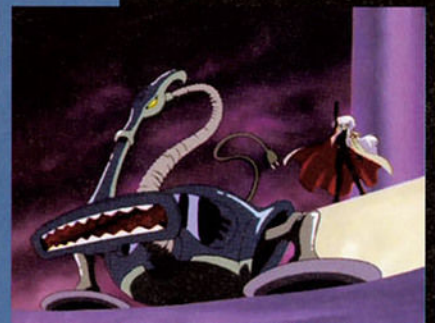
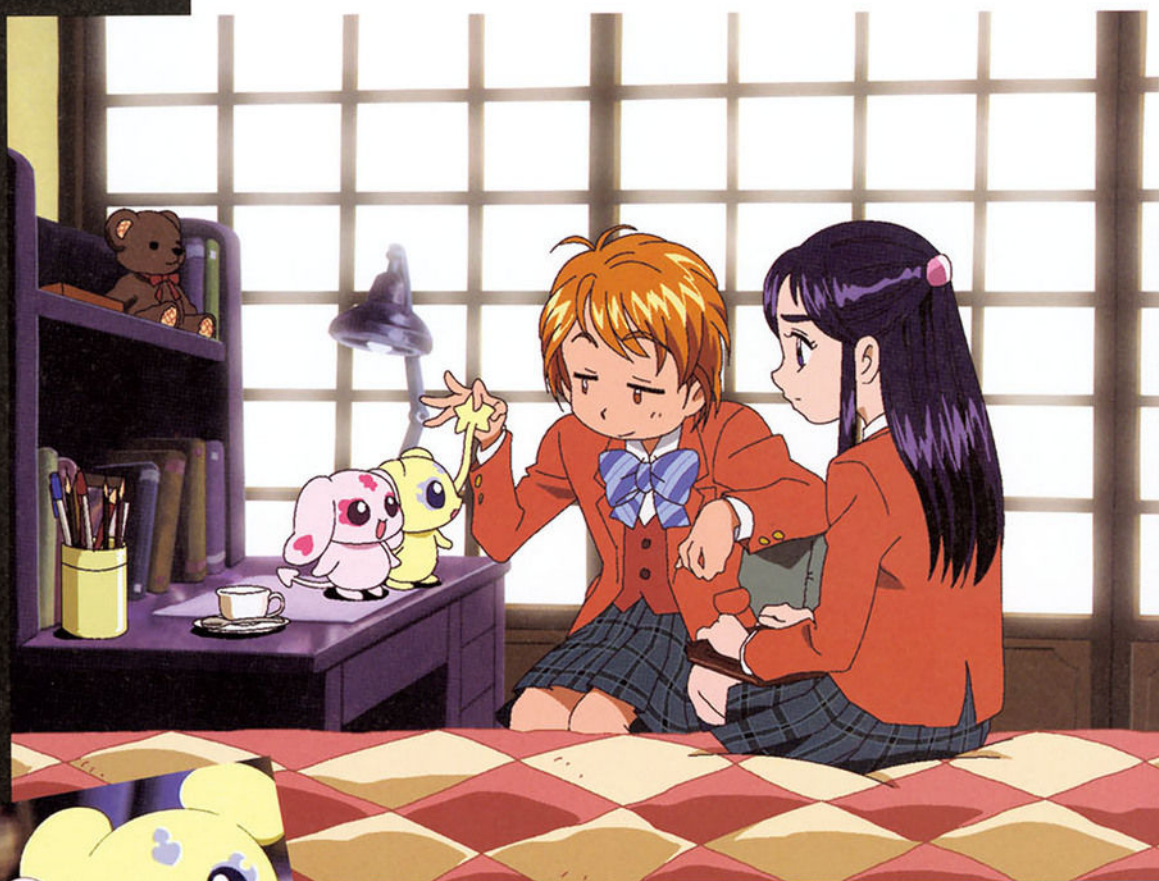
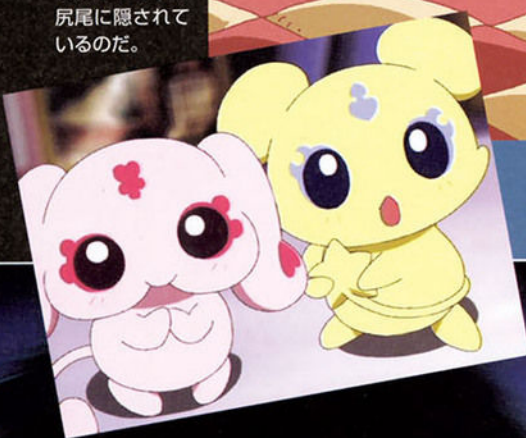
普通の学園生活を送りたいなぎさは、メップルとミップルの話に納得できない。自分は関係ないし、助ける義理もないからだ。だが、ほのかは「世界を守るのもいいかもしれない」と言っている。ふたりの話は平行線をたどる。

一方、ドツクゾーンからの刺客、ピーサードは、掃除機をザケンナーに変え、街中の電気を吸い取っていた。信号機やエレベーターが止まり、街はパニックとなる。この様子をテレビで見たふたりは、メップルとミップルに導かれるままにピーサードのいる屋上へと向かう。掃除機ザケンナーの攻撃に苦戦するふたり。しかし、ふたりが手をつないだ瞬間、周りにオーラが出現、敵の攻撃を次々にはじき返していった。そして、掃除機ザケンナーを撃破！ 街に電気が戻るのだった。

STORY #02
カンベンして！ 闇に狙われた街

手をつないだ瞬間、不思議なオーラが現れた。

エレベーターを止めたふたりは反撃を開始。

ミップルたちは悪の手から逃げてきたのだ。

ピーサードは掃除機をザケンナーに変え街を襲う。

プリズムストーンについて話を聞くふたり。

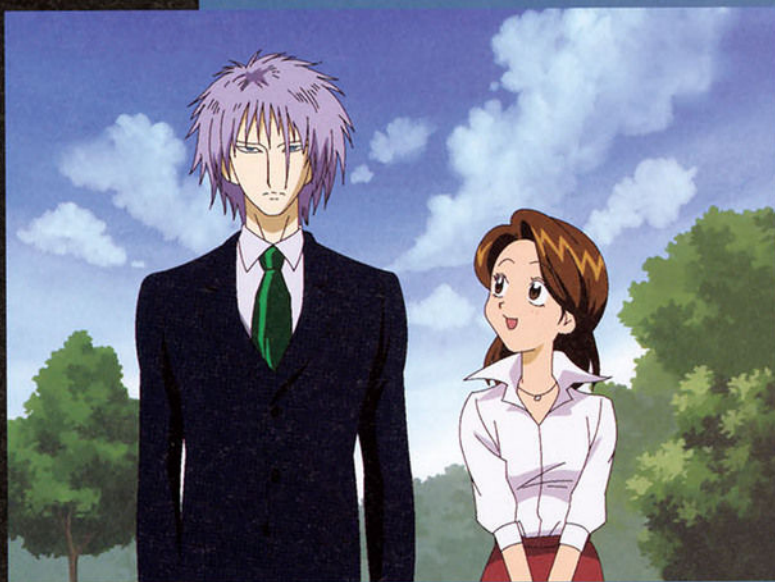
藤Pに呼ばれたと勘違い、ため息のなぎさ。

ほのかの尊敬する人、ブレキストン博士。

石はそれぞれの尻尾に隠されているのだ。

STORY #03

イケてる実習生に気をつけろ！

学校に来た教育実習生はピーサードだった！

なぎさとほのかのふたりは社会科見学の委員に選ばれた。その打ち合わせのためになぎさは初めてほのかの家を訪れ、その豪華さに驚く。部屋もなぎさのと違い、本が並ぶとても大人びた部屋である。プリキュアになったことをきっかけに、なぎさはほのかのことを少しずつ知り始める。

メップルとミップルはほのかの家で、プリズムストーンが狙われている理由や、プリキュアの使命について話し始める。プリキュアはプリズムストーンを守るためにドツクゾーンと戦わなければならない。もしもプリズムストーンが奪われれば光の園はおろか、虹の園さえも滅ぼされてしまう。そのスケールの大きさに戸惑うふたり……。そのとき、ほのかの祖母、さなえが部屋にやってきた。ほのかが友達を連れてきたことを喜ぶさなえであったが、それとは別の意味深な笑顔もなぎさに向けられたのだった。

次の日、学院には教育実習生たちがやってきた。その中には教育実習生に変装した、ピーサードの姿が。ピーサードは担任のよし美先生を操り、なぎさを体育倉庫に呼び出す。追い詰められるなぎさ。しかし、よし美先生のいつもとは違う行動にいち早く気づいたほのかも体育倉庫に駆けつけ、ふたりで変身！　ピーサードも負けじと体育用具に次々とザケンナーを乗り移らせ、襲いかからせた。だが、関係のないよし美先生までも狙うピーサードの行動に、ふたりの怒りは爆発し、必殺技で撃退したのだった。

緞帳のザケンナーがふたりに襲いかかった。

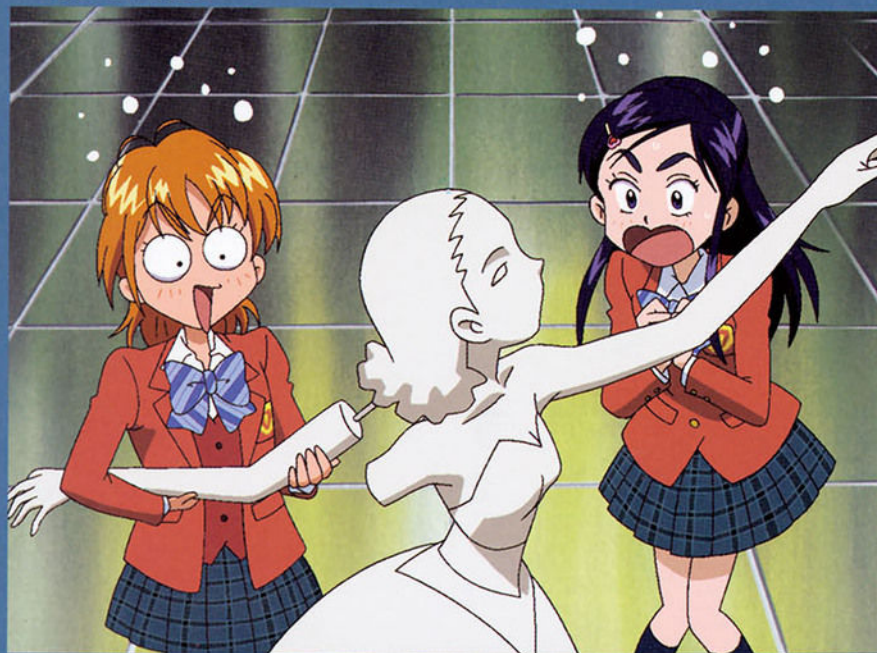
敵の攻撃を手刀で叩き落とすホワイト。

操られた後、倒れてしまうよし美先生。

ミップルとメップルはどこでもラブラブ。

美術部で絵が大好きな少女、柏田真由。

04

美術品を壊してしまい、必死に直すふたり。

社会科見学、2年桜組が行くことになったのは美術館。委員に選ばれたなぎさとほのかは、これから行く美術館についての話をする。そんななか、柏田真由という生徒が恐る恐る手を上げた。自分があこがれる、マリオ・ピッカリーニという画家の「星屑の晩餐会」という作品が展示されているので、みんなに見てほしいという。

美術館で、なぎさとほのかは1枚の絵を見つける。真由が言っていた「星屑の晩餐会」だ。ふたりがその絵を見ていると、ミップルがなにか懐かしいと言っている。よく見るとその絵には空から降りてくるミップルのコミューンが描かれている。ミップルは100年前から地球に来ていたのだ。

ひと通り見回ったふたりはバスに戻る。しかし真由が戻らないため、委員のふたりは真由をさがしに再び美術館へ。しかし、さっきとは様子が違う。美術館の人々や校長先生たちまでもが石にされている。ピーサードがまたやってきたのだ！　真由をなぎさと勘違いして襲いかかるが、なぜか真由は光とともに消えてしまう。直後、駆けつけたふたりにピーサードは、絵の中の猛獣や石像などを動かし襲いかからせる。それをなんとか退けるふたりだったが、ピーサードは石にされた人々を盾にとり、思うように攻撃できない。そのときミップルが叫ぶ。「心で感じるミポ！」ふたりの心で感じた迷いのない攻撃がピーサードを包んだ。

戦い終えたふたりは消えた真由をさがす。真由は、なんと絵の中にいた。驚くふたりの背後に現れたのも真由。そして絵の中の真由は消えていた。真由は夢でピッカリーニに会ったという。ピッカリーニが助けてくれた……？

STORY #04
ミラクル!? 生きている美術館

ピーサードにより、石にされる校長と教頭。

ピーサードは、美術館全体に魔法をかけた。

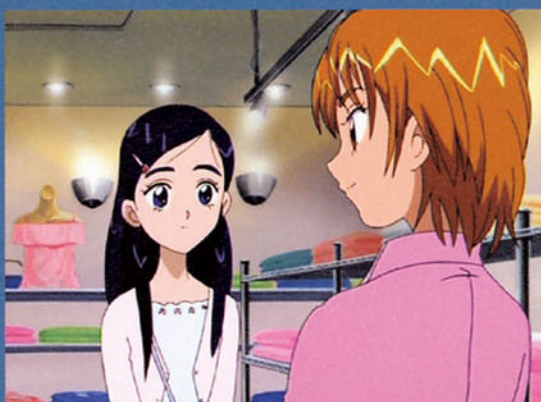
真由はピッカリーニの絵に入ってしまった。

美術館の作品が次々と実体化し襲いかかる。

ピッカリーニの作品、「星屑の晩餐会」。

ひとりのほのかにピーサードが襲いかかる。

ふたりでアカネさんのたこ焼きを食べるが……。

いままでの失敗のことを指摘され、あせるピーサード。

なんだか買い物でもかみ合わないふたり。

一緒に遊ぶことになったなぎさとほのか。

本気のピーサードに、ふたりも押されぎみ。

STORY #05

マジヤバ！ 捨て身のピーサード

たびかさなる失敗に後がなくなったピーサード。ほかのダークファイブのメンバーからもそのことを指摘され、必死の形相で地球へ向かう。

一方、休日でもミップルに会いたくてしょうがないメップル。なぎさもメップルの勢いに押され、ミップルのいるほのかの家に行くことに。公園でラブラブしているミップルとメップルをよそに、なぎさとほのかも、ふたりで休日を楽しもうとする。ショッピング、ラクロス部の先輩、アカネさんのたこ焼き屋……。

遊んでいるあいだもいまひとつ意見が合わないふたり。それでもほのかはなぎさといることにだんだんと楽しさを感じる。だが、なぎさのほうは、いつも一歩引いているほのかの話し方にどう接してよいのかわからず、居心地の悪さを感じていた。

そんな一日も終わり、別れたふたり。ひとりになったほのかにピーサードが襲いかかってきた！　変身もできない状況にコミューンも奪われ、まさに絶体絶命。だが、危機一髪なぎさが駆けつけた。ピーサードはみずからのプライドからコミューンをふたりに返し、変身させる。

ピーサードはいつもより切れのある攻撃で圧倒するが、ふたりは諦めない。そんなふたりの姿を見て、ピーサードは苛立つ。「先に助けてくださいと言ったほうだけ見逃してやる！」そんなピーサードの言葉にふたりは、「そんなの絶対間違ってる！」と、必殺技を出す。ピーサードも必死に抵抗するが、ふたりが強く手を握り合うことにより、威力は倍増する。光に飲み込まれていくピーサード。後に残されたのは光り輝くプリズムストーンだった。

マーブル・スクリューがピーサードを直撃！

プリズムストーンの奪還に成功するふたり。

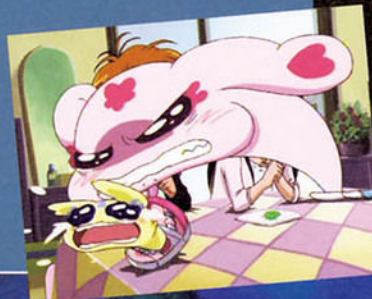
光の中に包まれ消えていくピーサード。

06

ピーサードを倒し、プリズムストーンを一つ、取り戻したふたり。ミップルはプリズムストーンを守るためには、プリズムホーピッシュという入れ物が必要であるという。しかしメップルはプリズムホーピッシュを虹の園に降りてくるときに落としていた。メップルによれば、どうやら落とした場所は瓢箪池の近くらしい。ふたりはさっそく池のある河童山へと向かう。そのころドツクゾーンではピーサードに代わる新たなる刺客、ゲキドラーゴがジャアクキングに送り出されようとしていた。

ホーピッシュをさがして山道を歩いている途中、ふたりは子熊が流されているところに遭遇する。考えるより先に行動する性格のなぎさは、子熊を助けるため、川に飛び込む。しかしなぎさはカナヅチだった！
気が気ではないほのかをよそに、なんとか子熊を助けたなぎさ。母熊に連れられるのを見届け、再びホーピッシュさがしへ。すると再び子熊が飛び出してきた。そして後ろからはゲキドラーゴにより操られた熊が突進してくる。ほのかは熊のブチに気づく。突進してきた熊は先程の母熊であることがわかり、攻撃できないふたり。そのときミップルが、「プリキュア・レインボー・セラピーを使うミポ！」。倒すためではなく癒すための光が母熊を包む。母熊を操っていたザケンナーを追い出すことに成功する。そしてゲキドラーゴにはマーブル・スクリュー！ 岩に激突するゲキドラーゴ。その残骸の中から見つけたのは、プリズムホーピッシュ！ ホーピッシュに石を入れると石の番人が現れ、プリキュア手帳をふたりに授けるのだった。

ホーピッシュさがしで瓢箪池に来たふたり。

ドツクゾーンの新たな刺客ゲキドラーゴ。

ホーピッシュをなくし責められるメップル。

川でおぼれている子熊を助けたなぎさ。

STORY #06
新たな闇！ 危険な森のクマさん

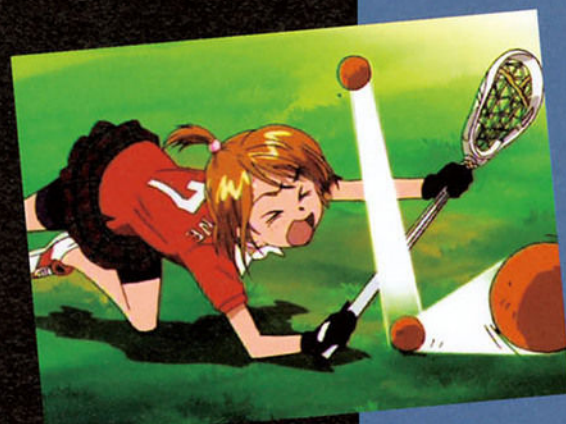
ホーピッシュからは石の番人が現れた。

新技、レインボー・セラピーが母熊を癒した。

ゲキドラーゴが母熊を操り突進してくる！

プリキュア手帳を受け取ったふたり。

ライバル校を前に気合が入るラクロス部員たち。

突然の出来事に呆然となるなぎさだった。

集中できないなぎさはミスを重ねてしまう。

ほのかは藤P先輩と一緒に観戦に来ていた。

STORY #07

熱闘ラクロス！ 乙女心は超ビミョー！

戦いの帰り道になぎさは何げなく質問する。

試合が終わった後も考えるのはふたりの関係。

ザケンナーが乗り移った教頭は説教を開始。

安心したなぎさは見事試合で勝利を収める。

ラクロスの予選リーグ戦が始まった。第1試合の相手はベローネ学院のライバル校、御高倶女子中学校。部員たちの意気は盛り上がる。試合会場にはほのかも駆けつけ、張り切るなぎさ。しかし、観客席でほのかの隣に座っていたのは、電車の窓越しに見て以来、気になっていた、藤Pこと藤村先輩であったのだ。なぜあのふたりが一緒に？ ふたりはどういう関係？ なぎさはそればかりが気になり、試合に集中できない。エースのミス連発で、試合は負けてしまう。試合後もほのかにはうまく接することができないなぎさ……。

次の日。この試合で負けたら、決勝トーナメントへ出られない。試合に集中しようと頑張るなぎさ。試合も少したったころ、メップルがしきりに何かを騒ぐ。「ミップルの気配が消えたメポ！」そういえばさっきまでいたほのかもいない。いち早く危険を察知したほのかは、試合に支障がないようにおとりとなっていたのだ。なぎさも後を追い、ほのかと合流する。そこでゲキドラーゴは、なぎさの後を追ってきた教頭先生にザケンナーを乗り移らせる。しかし教頭先生は一向に攻撃しようとしない。そればかりか切々と自分の不満を語りだしたのだ。当てが外れたゲキドラーゴはまたもマーブル・スクリューによって吹き飛ばされるのであった。

試合会場へと急ぐ途中でなぎさは、思い切ってほのかと藤P先輩との関係について質問する。ほのかから返ってきた答えは……"おさななじみ"。この返事に安心したなぎさは急いで会場へ！ 前日のミスを帳消しにするようなファインプレーで見事勝利を収めた。

なぎさが藤Pを好きなことを知るほのか。

なんとか藤Pのことを聞こうとするなぎさ。

楽しそうに藤P先輩と話しているほのか。

08

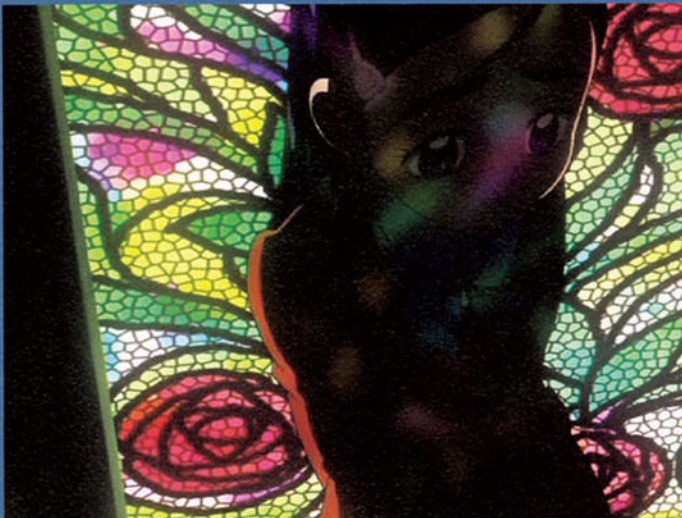
偶然3人で登校することになってしまう。

なぎさの気持ちを藤Pに言おうとするほのか。

ラクロスの試合での一件から、ほのかと藤P先輩との関係が気になるなぎさは、ほのかとギクシャクしてしまう。一方ほのかは、なぎさが藤村君に気があることを知り、ふたりを近づけようと画策する。登校中、なぎさとほのか、藤村が偶然居合わせた。ほのかはなぎさを藤村に紹介する。しかし、ほのかのよかれと思って言った一言に、怒るなぎさ。その場から逃げるなぎさを追いかけるほのか。「あなたなんてプリキュアってだけで、友達でもなんでもないんだから！」と言い放つなぎさに、ショックを受けるほのか。

言い過ぎたことを後悔するなぎさは、仲直りの方法を考える。だがほのかはこのまま関係を続けることへの自信をなくし、自分のコミューンをなぎさに渡してしまう。なんとかほのかに謝り、関係を修復しようと話しかけるなぎさだったが、ほのかに避けられ、まともに取り合ってもらえない。最後は困ったときの神頼み……。そのとき背後からゲキドラーゴが現れた！　偶然通りかかったほのかはなぎさの悲鳴を聞き、駆けつける。変身はしたものの、ふたりはそのまま口論になる。無視され怒るゲキドラーゴ。だが、「今大事なお話し中！」最後まで相手にされないゲキドラーゴだった。

戦いの後も気まずいふたり。だが、ふたりはプリキュア手帳を取り違えていた。手帳を見るふたりは、お互いの気持ちが同じであることを知る。翌日、なぎさに手帳を差し出したほのかは、「これ……なぎさのでしょ……」下の名前で呼ばれ、なぎさも「いこう！……ほのか！」ふたりの関係はいっそう深まったのだった。

STORY #08
プリキュア解散！ ぶっちゃけ早すぎ!?

なぎさの態度にショックを隠せないほのか。

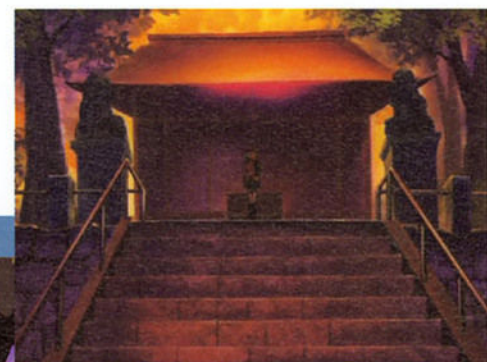
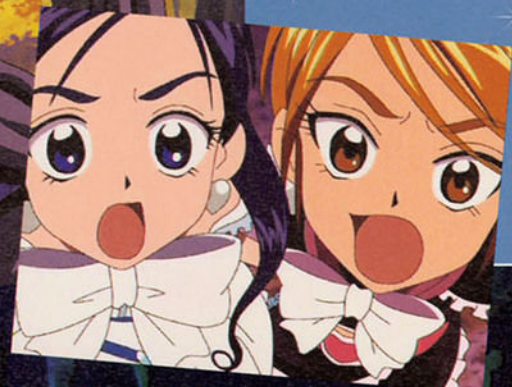
軽率な一言に怒ったなぎさは、ほのかの手をはねのけてしまう。

仲直りしようとほのかに話しかけるが……。

ほのかはついにコミューンを渡してしまう。

手帳を見て、ほのかの気持ちを知るなぎさ。

ほのかも、なぎさの気持ちを理解していく。

宙吊りにされたなぎさのもとに、間一髪助けに駆けつけたほのか。

神社で仲直りのお願いをしているなぎさ。

「今大事なお話し中！」怒られるゲキドラーゴ。

ふたりは手をつなぎ、学校へと走っていく……。

「いこう！　ほのか！」なぎさの元気な声。

ほのかの顔にも笑顔が戻ってくる。

土手に並ぶふたり、ほのかがなぎさに歩み寄る。

教頭先生にメップルを取り上げられてしまう。

メップルを助けるため、隠れて待つふたり。

鏡の前でみだしなみを気にしているなぎさ。

メップルはそんななぎさをからかうのだった。

09

朝、いつものようになぎさをからかうメップル。それに怒ったなぎさは、体調が悪いと言ったメップルをいつもの嘘だと思い無視する。だが時間がたつにつれ、なんだかメップルの様子がおかしいことに気づく。メップルは本当に病気になっていたのだ。慌てるなぎさ。しかしその様子を教頭先生に見つかり、メップルを携帯電話と勘違いした先生は、コミューンを没収してしまう。ミップルによれば、治療のカードをスラッシュしなければいけないという。心配ななぎさは、なんとかメップルを助けようと変装して職員室に忍び込むが、すべて見破られてしまうのだった。

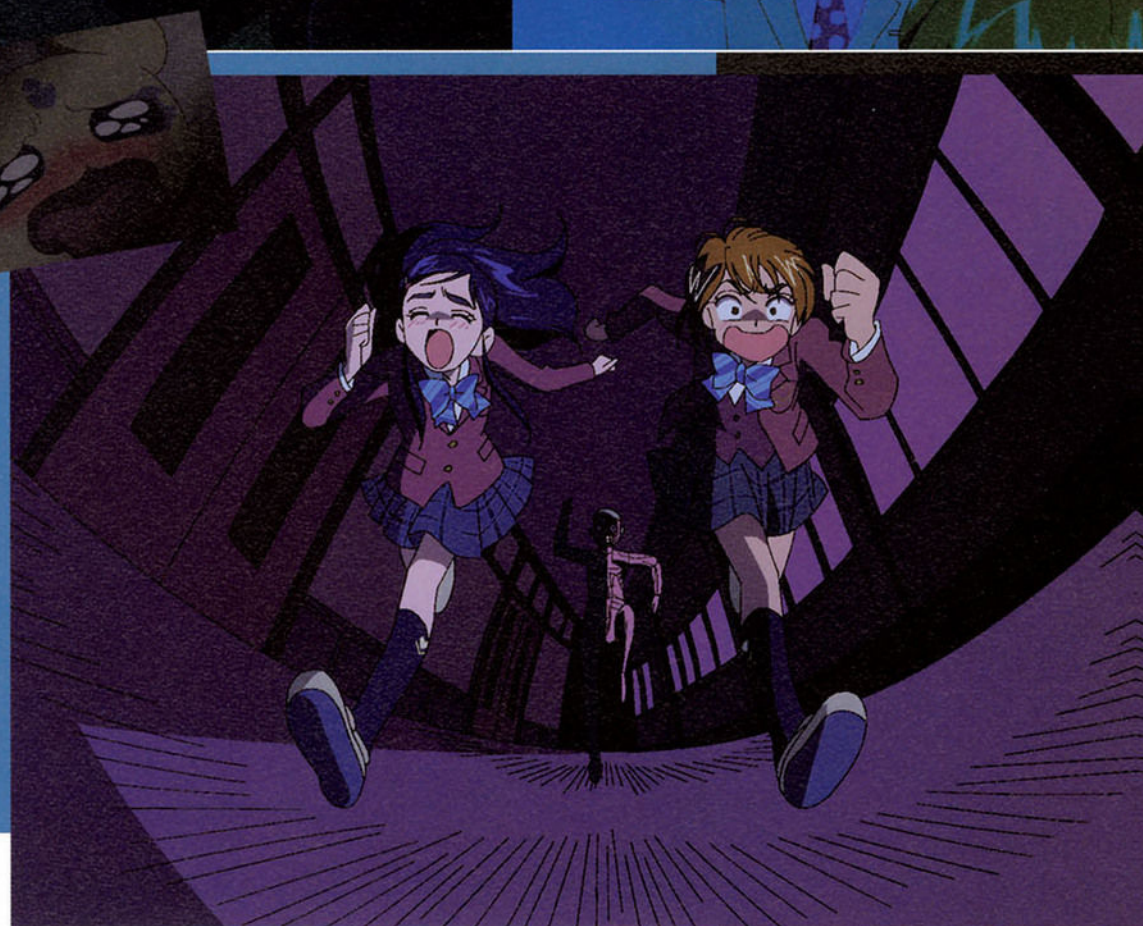
そこでなぎさは、教頭先生が帰るのをほのかとふたりで待ち、それからメップルを取り返すことに。ふたりは待っている間、いままでの数か月を思い出す。メップルがなぎさの中で、とても大切な存在になっていたことを改めて実感する。夜、ふたりは待ちつかれて寝ていた。帰ろうとする教頭先生の前に人影が……。よく見るとそれは動く人体模型！　叫んで失神する教頭。その声に気づいたふたりは教頭の所へ。人体模型に驚き、逃げるふたり。校庭まで逃げると、そこにはゲキドラーゴが！　コミューンを手に入れ、喜ぶゲキドラーゴだが、コミューンの様子がおかしいことに気づく。なぎさはメップルが病気で、私にしか治せないから返してほしい、と涙ながらに懇願した。ゲキドラーゴもその熱意に負け、コミューンを返す。これで変身できるようになったふたりは、ゲキドラーゴを撃退し、メップルも無事、治療することができた。

STORY #09

取り返せ！ メポメポ大作戦

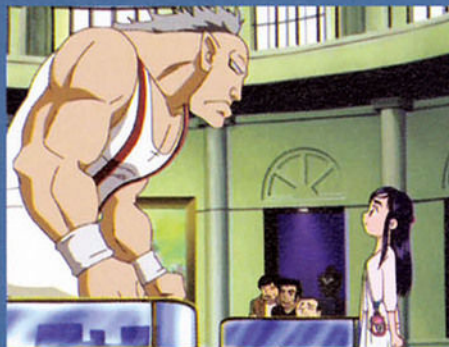
メップルは満身創痍、危険な状態である。

涙ながらにメップルを返してほしいと懇願する。

やはり今日もメップルとなぎさはけんか中。

動く人体模型に追いかけられ、逃げるなぎさとほのか。

ゲキドラーゴに対しても物怖じしないほのか。

宝石の力を集め強力になるマーブル・スクリュー。

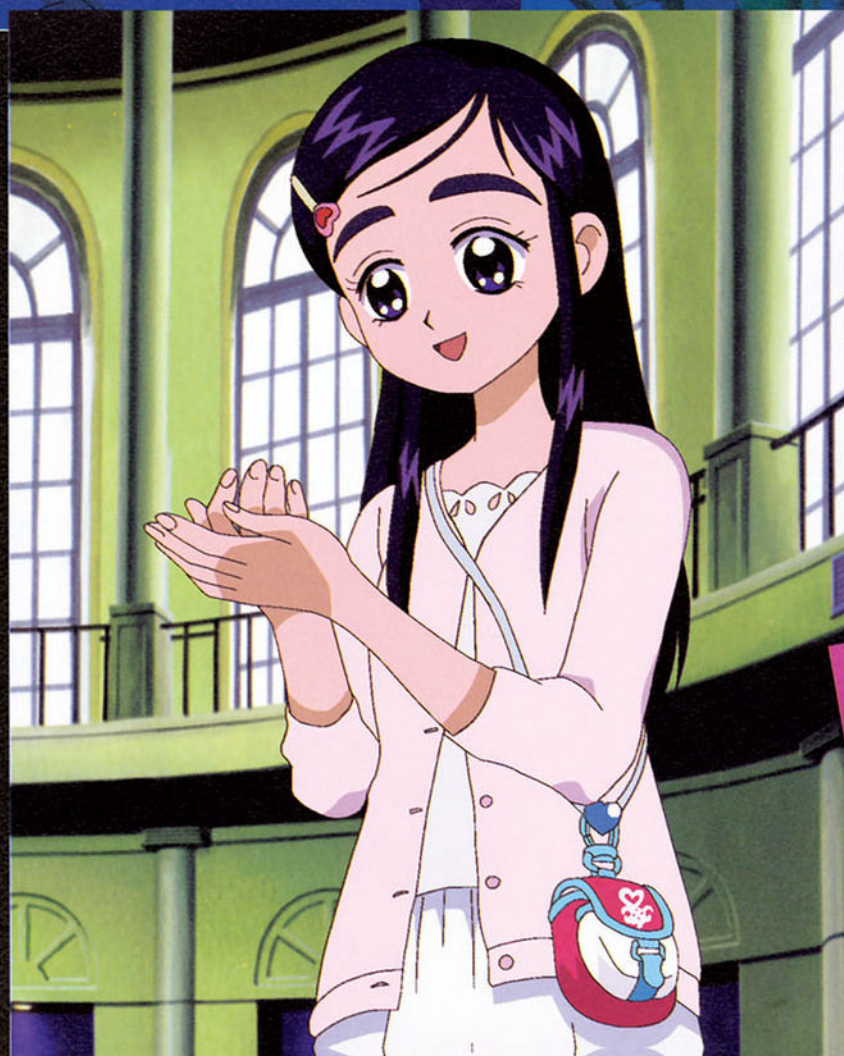
ほのかのためにアクセサリーを作るなぎさ。

強盗をよそにゲキドラーゴはほのかとにらみ合う。

両親の溺愛ぶりに、ほのかもタジタジである。

強盗団に対して、説教を始めてしまうほのか。

ほのかにとって忘れられない誕生日になった。

STORY #10

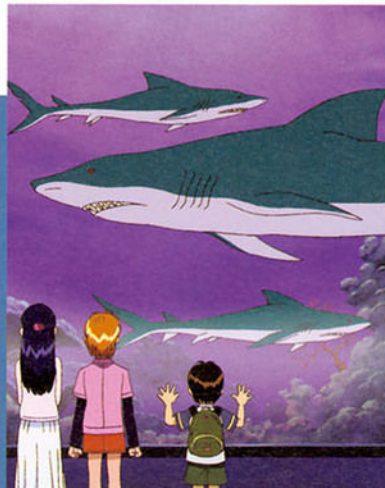
ほのか炸裂！ 素敵な誕生日

仕事で海外に行っているほのかの両親が、ほのかの誕生日に合わせ1年ぶりに帰ってくる！ 久しぶりに両親に会えるほのかはとても嬉しそうだ。それはほのかの両親も同じ、ほのかの顔を見てデレデレ……。いざ遊びに出かけようとすると、携帯に仕事の電話がはいる。断りきれない両親は、ほのかのすすめもあり3人で宝石店へ。両親が仕事をしている最中、なんとそこに3人組の強盗が押し入る。強盗は両親と従業員を人質に金品を要求する。その様子を見たほのかは、怖がるかと思いきや急に怒りだし、説教を始めた。思わぬ反撃に強盗もたじろぐ。と、そこにゲキドラーゴが現れた！

一方、ほのかへのプレゼントを考えるなぎさ。なにか買いたいが、所持金も残りわずか。それならと、なぎさはミップルとメップルをかたどったシルバーアクセサリーを作る。プレゼントも作り、テレビをつけたなぎさの目にはいった映像は、なんとミップル。ほのかは、ゲキドラーゴの隙を見て、ミップルをテレビに映る位置まで移動させたのだ。だがそれも限界、ゲキドラーゴはほのかに襲いかかってきた！ そこへ間一髪、ダクトから入ってきたなぎさが合流。宝石の光がふたりの力を倍増させ、ゲキドラーゴを退けるのだった。

その後、なぎさはプレゼントを渡し、足早に退散する。ほのかの説得に改心した強盗は投降し、ほのかは両親と再会することができた。いろいろなことがあった一日だったが、友達の心のこもったプレゼントや両親の愛情に包まれ、ほのかにとっては、とても素敵な誕生日になった。

10

メップルとミップルの形のアクセサリー。

なぎさに言われ、ひとり隠れて助けを待つ亮太。

亮太と水族館に来たなぎさとほのか。

水族館の生き物たちが3人の進路をさえぎる。

本気のゲキドラーゴは、最終形態となった。

勝手に出歩いた亮太は、戦いの巻き添えに。

11

なぎさの弟・亮太の学校の宿題のため、水族館に行くことになったなぎさ。水族館好きのほのかも加わり、3人は水族館へと向かう。一方のドツクゾーンでは、失敗続きのゲキドラーゴがいた。「ジャアクキング様のために、もうこれ以上負けられない」

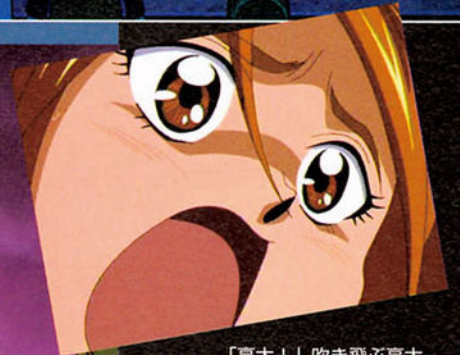
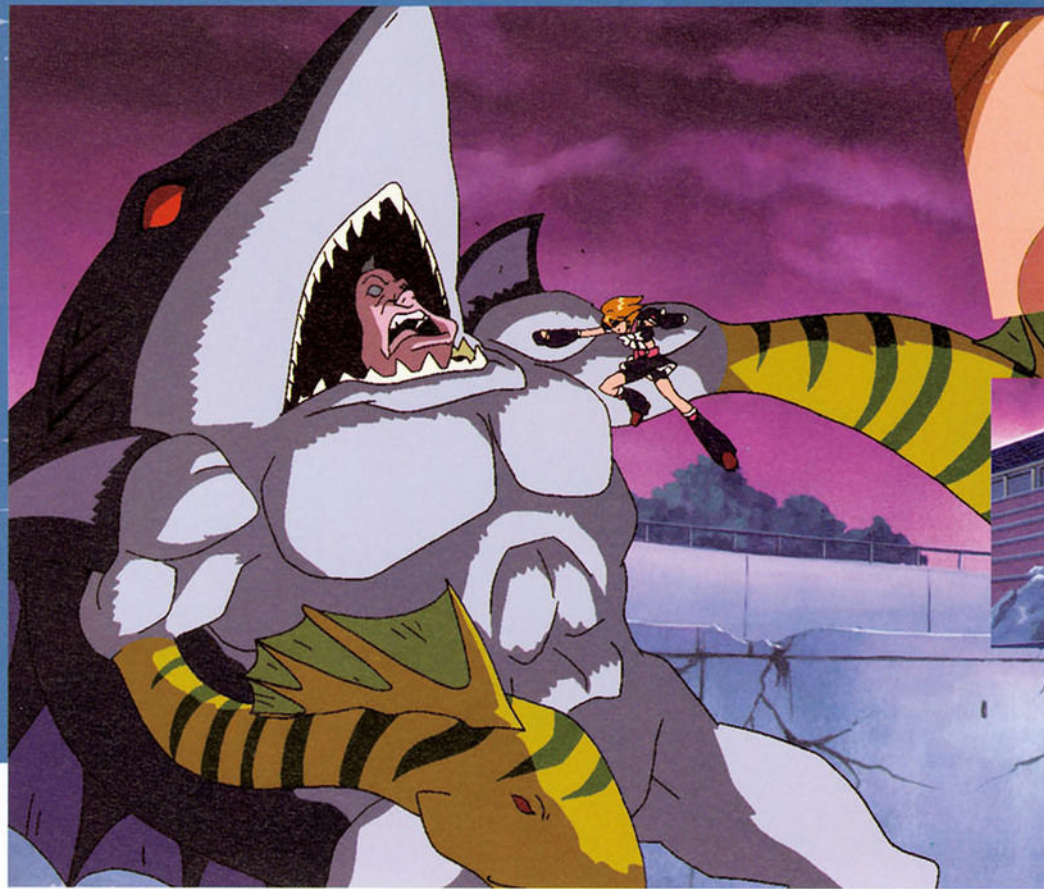
水族館では数えきれないほどの魚が泳いでいた。その光景にはしゃぐ亮太。そんな中、鮫の水槽に来たとき、魚の様子が変わる。鮫が水槽に向かって体当たりを始めたのである。そしてついに、ガラスを突き破り、こちらに向かって突進してきたのだ！　出口をさがしながら逃げる3人。通路では、水もないのに魚が悠々と泳いでいる。この状況は、ドツクゾーンの仕業に違いないと感じたなぎさとほのかは、亮太を安全な場所に残して敵のもとへ向かった。

プールに出たふたりの前にはやはりゲキドラーゴが！　だが今回は何だか様子がおかしい。なんとゲキドラーゴは魚を次々と吸収してゆき、巨大化。魚の怪物となって襲いかかってきたのだ。その姿に多少引きつつも、応戦して戦うふたりだったが、そこにひとりで心細くなった亮太がやってきてしまった。巻き添えを食らった亮太は吹き飛ばされ、意識を失う。痛々しい姿の亮太を見たなぎさは怒り心頭。「私の大事な弟に何かあったら絶対許さない！」なぎさの涙の鉄拳に、さすがのゲキドラーゴも押されてしまう。そして、怒りに身を任せた強力なマーブル・スクリューが放たれ、ゲキドラーゴは閃光の中に消えていく。後に残されたのは二つめのプリズムストーンだった。

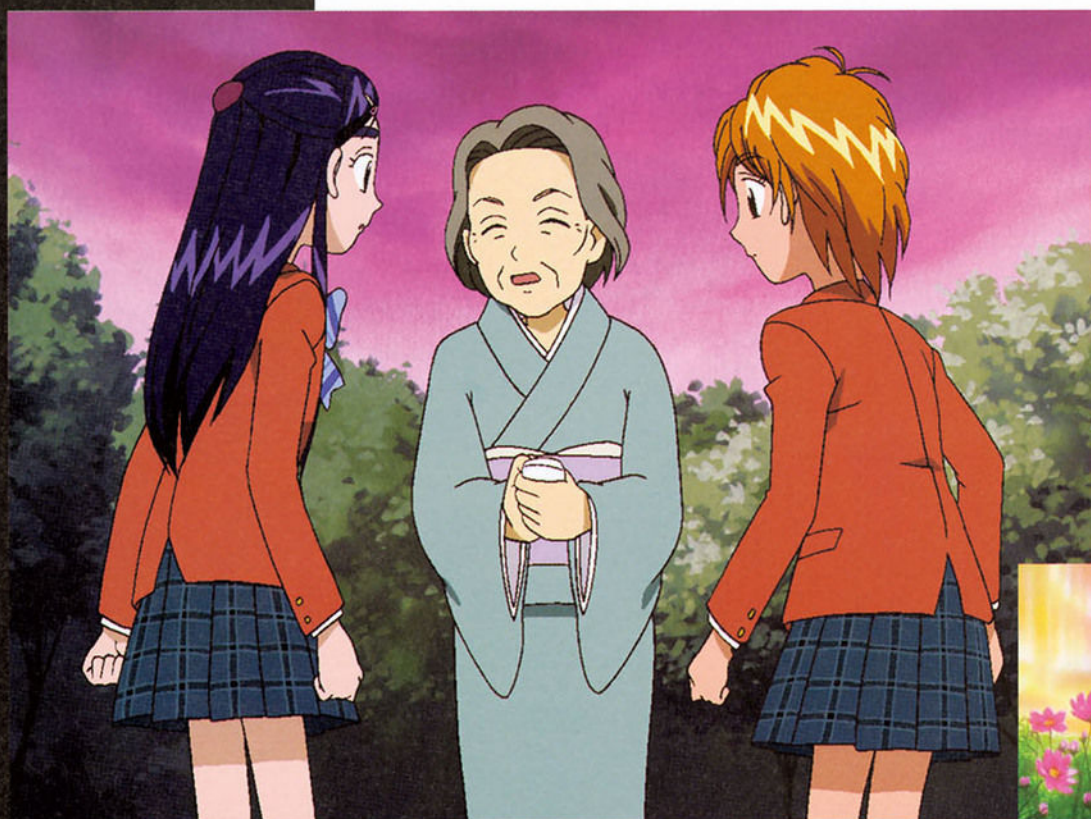
STORY #11
亮太を救え！ ゲキドラーゴ・パニック

怒りの涙が必殺技の威力を増大させる。

耐えきれず、光に消えるゲキドラーゴ。

お互いの無事を喜んで抱き合うふたり。

「亮太！」吹き飛ぶ亮太を見て叫ぶブラック。

亮太を介抱するブラック、サポートするホワイト。

ブラックの怒りがゲキドラーゴに突き刺さる。

コミューンを知っているかのようなさなえの行動。

なにやら不審な動きを見せるチョコレート販売員。

博士の幻がほのかを惑わしていく……。

なぎさからコミューンを奪う偽の販売員。

STORY #12

悪の華・ポイズニー参上！って誰？

プリキュアの浄化の光により癒されていく人々。

ミップルは、さなえに懐かしいものを感じた。

「おやめなさい！」ザケンナーを一喝するさなえ。

さなえはふたりの戦いを見ていたのだろうか……。

ドックゾーンからの刺客ゲキドラーゴを倒したのもつかの間、新たに第3の刺客が現れた。策略家、ポイズニーだ。ポイズニーは、ふたりの性格を利用し、前の刺客とは違った攻撃を見せる。まずはチョコレート販売員に変装するポイズニー。なぎさの大好物、チョコレートに気をとらせ、その隙にコミューンを偽のコミューンとすりかえたのだ。単純ななぎさは、すりかえられたことにまったく気づかない。自宅でザケンナーの襲撃にあい、偽ものだと気づいたなぎさは、このことを知らせるため、ほのかの所へ。

そのころ、ほのかにもポイズニーの魔の手が迫っていた。誰にでもやさしく接するほのかは、お年寄りに声をかけられ、すぐ仲良くなる。話し込んでいるふたりの周りにはいつの間にか花畑が。その先には、なんとほのかの尊敬するプレキストン博士。博士は、コミューンを貸してほしいという。迷いながらも渡そうとするほのかに祖母のさなえの声が聞こえた。幻覚から正気に戻るほのか。さなえは続けてお年寄りの正体も見破る。見破られたポイズニーは、大勢の人にザケンナーを乗り移らせ、コミューンを奪おうとする。なぎさも合流し、ミップルを助けようとするが、うまくいかない。そして、ほのかの手を離れたコミューンはさなえのもとに。ザケンナーはさなえに向かっていき絶体絶命。そのとき、「おやめなさい！」なんと一喝でザケンナーを退けたさなえ。実体化してうまく逃げ出せたメップルもなぎさのもとへ帰り、さあ反撃！ と思いきやポイズニーの姿はすでに消えていた。

13

サッカー部の練習を見ているなぎさ。その中にはあこがれの藤村先輩の姿も。先輩の華麗なプレーになぎさは釘付け。そのときひとりの美少年が突然グラウンドにはいってきて、ボールを奪い取り、華麗なテクニックで藤村先輩を抜き去り、ゴールを決めた！

彼の名前は入澤キリヤ、転校生だ。一躍女子生徒の人気者となるキリヤであったが、なぜかなぎさとほのかに言葉巧みに言い寄ってくる。それもそのはず、キリヤはドツクゾーンからの刺客、ポイズニーの弟であったのだ。一方ほのかはそれどころではない。科学部で出場する、科学研究発表会に向けての準備で忙しかったからだ。科学部員、ユリコは今回の研究にかけていた。「ほのかがいる今年なら絶対に最優秀賞がとれる！」彼女の熱意にも押され、準備は着々と進む……。

いよいよ発表会当日、なぎさも応援に駆けつけた。そして、いよいよほのかたち科学部の発表だ。実験装置を動かし、発表は順調にいくかと思われたそのとき、突然装置が暴走。ポイズニーが装置にザケンナーを乗り移らせてしまったのだ。観客は急いで避難する。なぎさとほのかも変身し、装置を止めようとした。だが、暴走した装置の前にはユリコが立ちはだかる。「お願い、マシンを壊さないで！」だがザケンナーはお構いなし、そんなユリコをも巻き込み、攻撃を始める。装置を止めるため、ふたりはマーブル・スクリューを放つ！

結果的に、装置は無事だった。発表会も再開、装置は「YURIKO1号」と名づけられ、大成功を収めたのだった。

藤P先輩を見てなぎさの妄想は増すばかり。

一躍注目を浴びる謎の転校生、入澤キリヤ。

自分とユリコの弁当を食べつくすなぎさ。

科学発表会にむけて、闘志を燃やすユリコ。

STORY #13
ご用心！ 年下の転校生

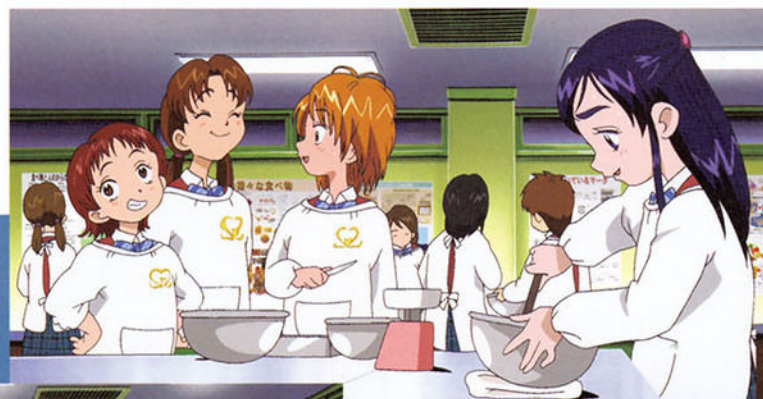
科学部で製作したマシンがザケンナーに！

ポイズニーとキリヤは姉弟の間柄であった。

科学部発表のスピーチを始めようとするほのか。

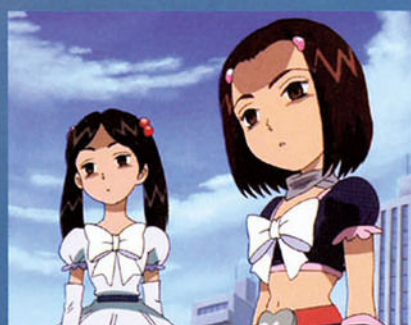
マシンは「YURIKO1号」と名づけられた。

ほのかに近づくキリヤだが、興味なしのほのか。

なんと、偽プリキュアは夏子と京子だった。

調理実習、みんなで料理に挑戦。

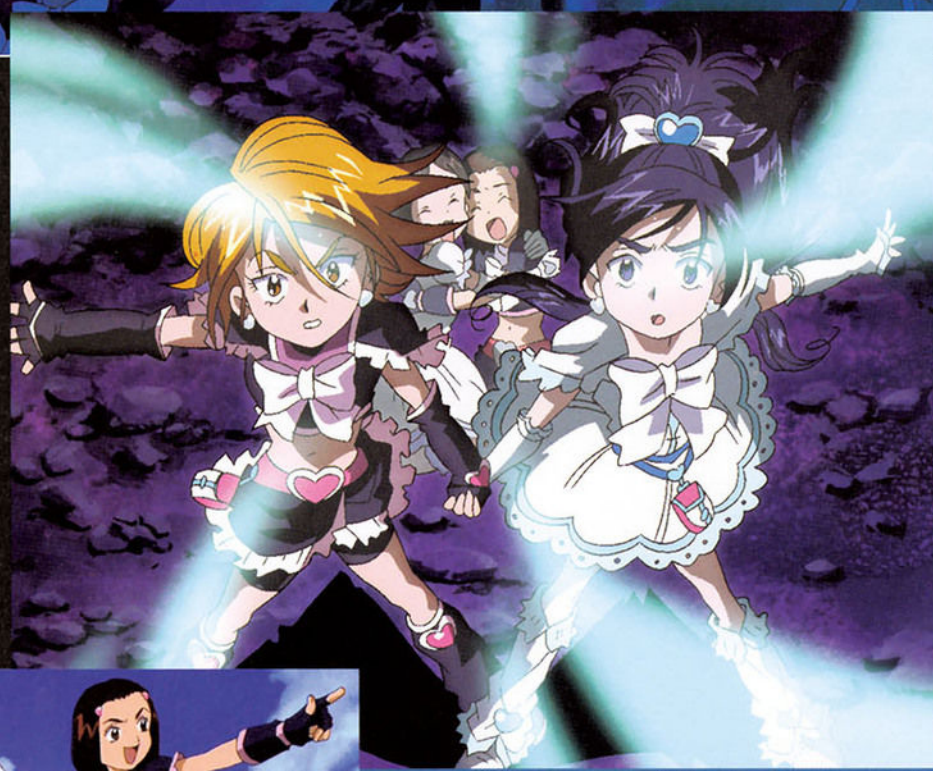
夏子と京子はプリキュアを実際に見たという。

アカネさんのたこ焼き屋で話し合うふたり。

作業用の機械がふたりにむかって攻撃する。

ポイズニーに操られてしまう夏子と京子。

「さっさとおうちに帰りなさーい！」

STORY #14

ウソホント!? にせプリキュア大暴れ

手をつなぎ、攻撃から夏子と京子を守るふたり。

調理実習のとき、ふたりは気になる話を耳にした。なんとプリキュアを見たという人がいて、学校ではその話で持ちきりだというのだ。情報元であるクラスメイトの夏子と京子に話を聞くと、素顔まで知っているらしい！　慌てるふたり。加えて夏子は昨日もプリキュアを見たという。でも前日ふたりは変身していない。まさか偽者が……。

帰り道。たこ焼き屋でもふたりの会話は偽者の話で持ちきりだ。どこで見られたんだろう。もし偽者がプリキュアの格好をしているとしたら、ドツクゾーンに目をつけられ危険だ。ふたりが頭を悩ませていると、アカネさんからプリキュアはよく児童公園に出るという話を聞く。ふたりはさっそく児童公園へ向かう。そこへ現れたのは、プリキュアの格好をした夏子と京子だった！　彼女たちによれば、科学研究発表会でプリキュアを目撃して以来、子どもたちに向けてやっているらしい。ほのかは、危険だからやめたほうがいいと彼女たちに言う。しかし事情を知らない彼女たちは聞き入れようとしない。心配で後を追うふたり。だが時すでに遅し、夏子と京子はポイズニーに操られてしまっていた。襲いかかってきたり、みずから危険な行動をとろうとする彼女たちをかばいながらの戦いに苦戦するふたり。ふたりの呼びかけにより何とか正気を取り戻すが、そこにザケンナーの攻撃が！　わけがわからずおびえる夏子と京子を励ましつつも何とか敵を撃退した。

14

痛い目にあっても懲りないふたりであった。

15

美墨家は旅行に出かけることになった。レイクサイドという湖の近くのペンションだ。一方、ほのかも湖のほとりにある旅館に行くらしい。ウキウキのなぎさ。しかし目的地に着いてみると「れいくさいど」はなんとペンションではなく古い旅館だった！　がっくりしつつも案内される途中、ほのかに会う。同じ旅館だったことに驚きつつ、ふたりの家族は旅行を一緒に楽しむことになる。

旅館の横の湖に浮かぶ島、ひびき島には不思議な伝説がある。その昔、おさななじみの青年ふたりが娘を取り合った。ふたりは激しく戦った末、命を落としてしまい、娘はそれを悲しみ、松になってしまう。今でも松の木とふたりの青年を祭ったほこらがあり、娘の笛の音が聞こえてくるという……。

旅館の主人に、伝説の松の木から夕焼けを見ると願いが叶うと聞き、ひびき島へ向かうなぎさとほのか。だが、そこにまたもポイズニーが現れ、ほこらの中にある鎧にザケンナーを乗り移らせ、鎧武者のザケンナーがふたりに襲いかかる。一瞬も気のぬけない戦いが続く。そこに心配になってさがしにきた、なぎさの父親が現れたのだ。なぎさの一瞬の隙をポイズニーは見逃さなかった。鎧武者に捕まり、絶体絶命！　そのとき、どこからか笛の音が……。突然苦しみだす鎧武者。その隙に放ったレインボー・セラピーでふたりはザケンナーを撃退した。

勝手に宿を飛びだしたことに怒る父、岳。ふだん優しい父の怒りに落ち込むなぎさだったが、家族を何よりも第一に考える父に感謝もするのだった。

旅館の主人から、ひびき島の伝説を聞く。

旅行先が偶然一緒だったなぎさとほのか。

ザケンナーに乗り移られてしまった鎧武者。

神出鬼没のポイズニーはいたるところに……。

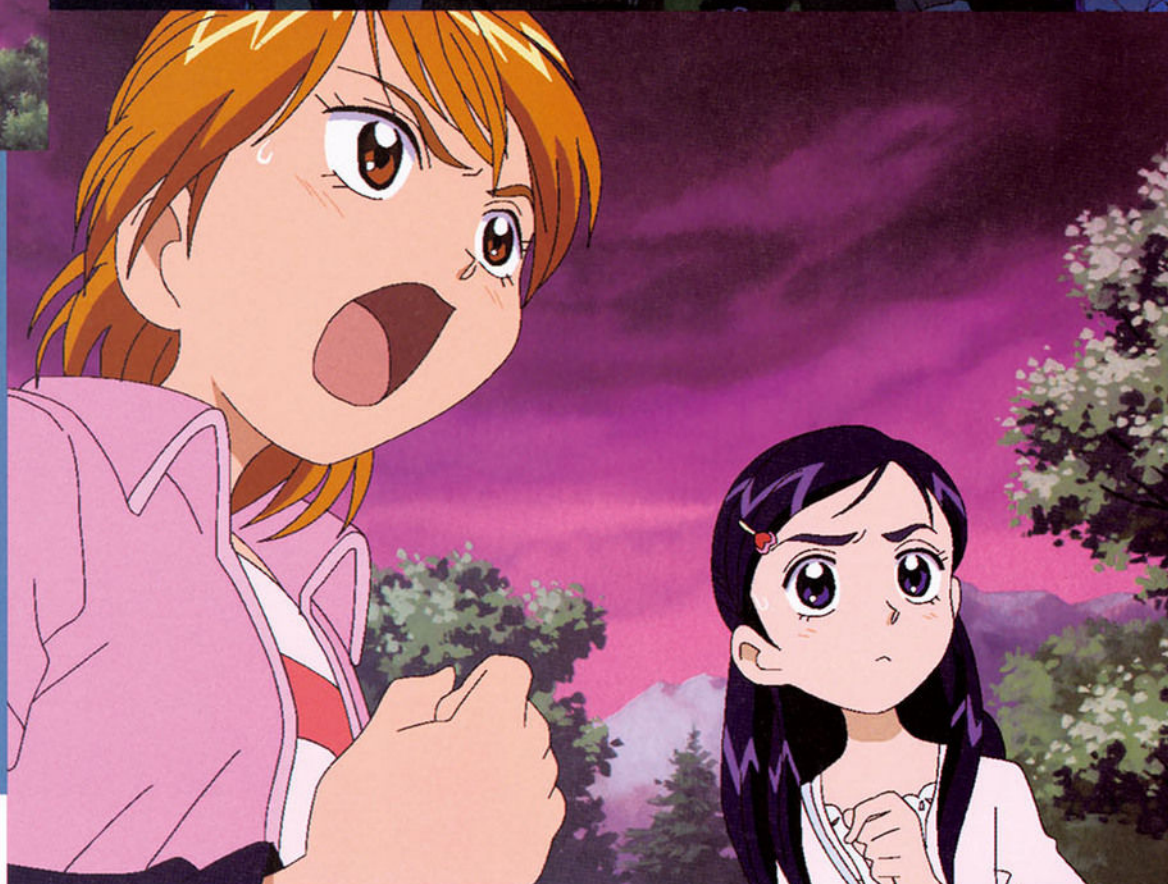
ふたりが心配な岳は、ボートでさがしにいく。

STORY #15

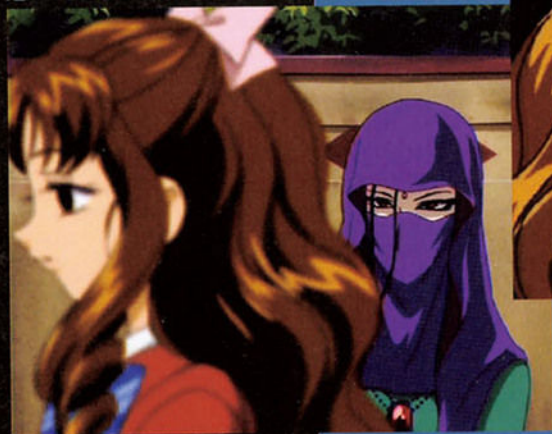
メッチャ危ない家族旅行

巨大な刃を真剣白羽取りで受け止め、苦笑いを浮かべるホワイト。

笛の音が聞こえたとたん、突然苦しみだす鎧武者。

嬉しいなぎさは父に抱きつくのだった。

鎧武者に立ち向かう、なぎさとほのかのふたり。

小田島友華はだれもが認める学院のマドンナ。

ポイズニーは小田島先輩の悩みを見抜き、それにつけ込んで心を操るのであった。

彼女の悩みは彼女自身しか知らない……。

黒板消しをつかい、踊って遊んでいるふたり。

STORY #16

ストレス全開！ マドンナはつらいよ

ザケンナーの中からのマーブル・スクリュー！

先輩は、ストレス発散とばかりに暴れまわる。

先輩たちに囲まれ、身動きの取れないふたり。

なぎさとほのかの先輩、小田島友華は学院のマドンナと呼ばれている。彼女は成績優秀でスポーツ万能、おまけに家もお金持ちのお嬢様という、まさに、すべてをかねそなえた人物だからだ。なぎさとほのかのふたりも、何でもそつなくこなす小田島先輩にあこがれ、尊敬している。

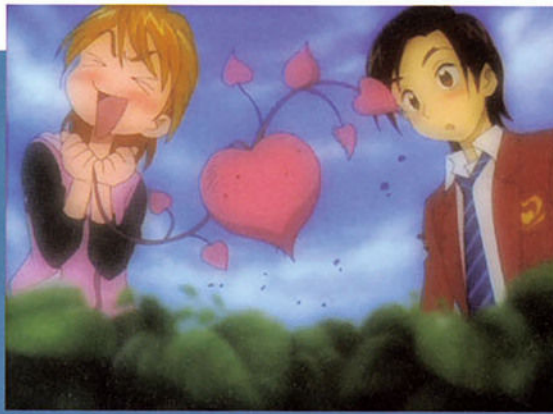
そんな小田島先輩にもマドンナであるが故の悩みがあった。マドンナという肩書から、まわりの期待を常に受け続け、失敗は許されない。常に完璧を求められることがストレスとなってしまっていたのだ。そのため、自由気ままに生活を送るなぎさに、つい厳しく当たってしまう。

ポイズニーはそんな小田島先輩の心の影を見逃さなかった。ザケンナーは小田島先輩に乗り移り、邪悪な感情を増幅させた！ 小田島先輩は影を増殖させ、大勢で公園中を暴れまわる（本人は遊んでいるつもりなのだが）。その光景を見たふたりは、小田島先輩を止めるため、変身するが、本物と影の見分けがつかないため、うかつに攻撃ができない。本物の小田島先輩を傷つけてしまうかもしれない……。攻めきれないふたりであったが、偽者が影であることを知ったほのかはライトを当てることにより本物の小田島先輩を見つけることに成功する。しかしポイズニーにライトを壊され、また出現する大量の影。そこでなぎさは小田島先輩に落書き。これで本物がわかる！

それならと影たちは合体、巨大ザケンナーになるが、マーブル・スクリューがザケンナーを貫き、またしてもポイズニーの撃退に成功したのだった。

先輩への落書きはそのままに立ち去るふたり。

17

一生懸命なほのかをキリヤは理解することができない。

藤Pとの農作業を前に、妄想中のなぎさ。

ほのかがしてくれた傷の手当てを見つめるキリヤ。

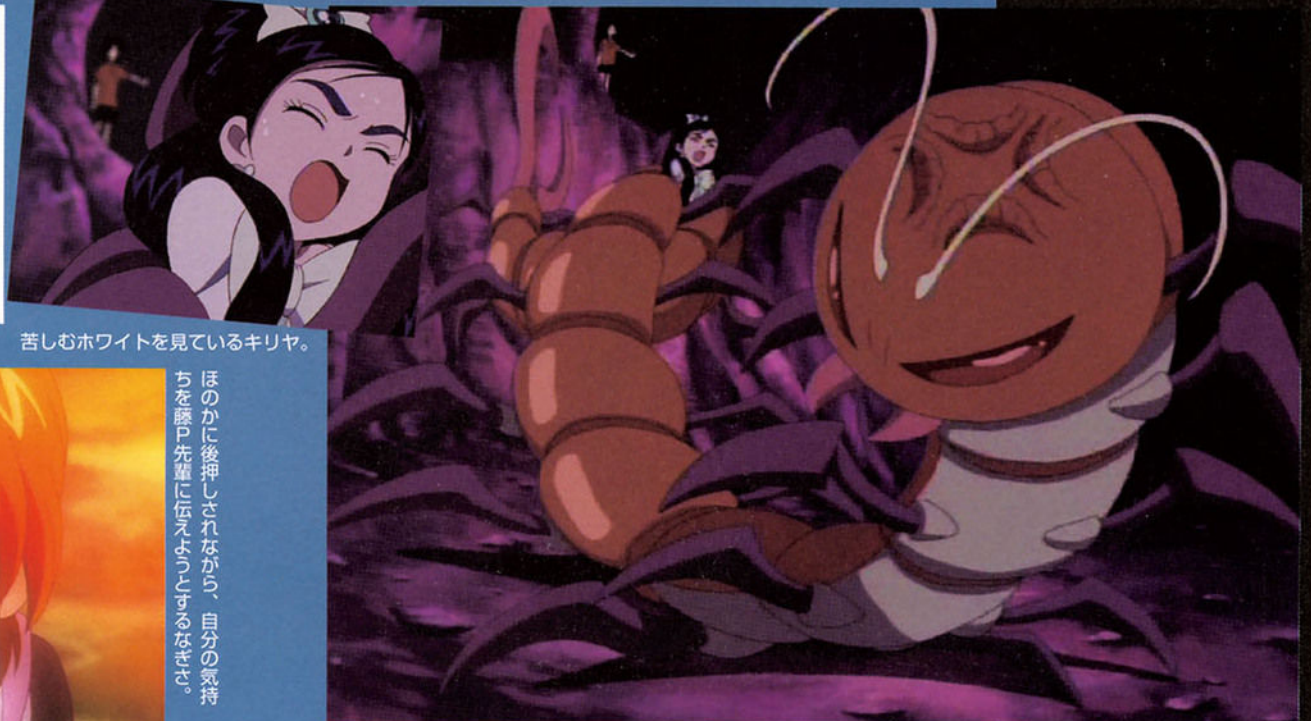
農作業をする場所、木俣の田舎に着く一同。

なぎさはほのかに頼まれ、サッカー部の木俣の田舎で農家のお手伝いをすることになった。メンバーはなぎさ、ほのか、藤村、キリヤ、木俣の5人。なぎさは藤P先輩が一緒ということで、興奮状態……。当日も、ほのかの計らいで藤P先輩と一緒に作業をすることになるのだが、緊張するなぎさはうまく話しかけることができず、なぜか収穫ばかりがどんどんはかどるのだった。

一方ほのかはキリヤと組んで収穫をすることに。ひとりサボっているキリヤにほのかは説教を始める。こんな広い畑をふたりでできるはずがないというキリヤに対し、ほのかはふたりでやれば何とかなるという。協力という言葉を理解できず、納得できない様子ではあったが、しぶしぶ作業を始めるキリヤ。作業をする間にも疑問は消えない。なぜあそこまで一生懸命になれるのだろう。自分が怪我をしたときに親身になって手当てをしてくれたほのかを見て、人間というものに戸惑いを覚えるキリヤ。

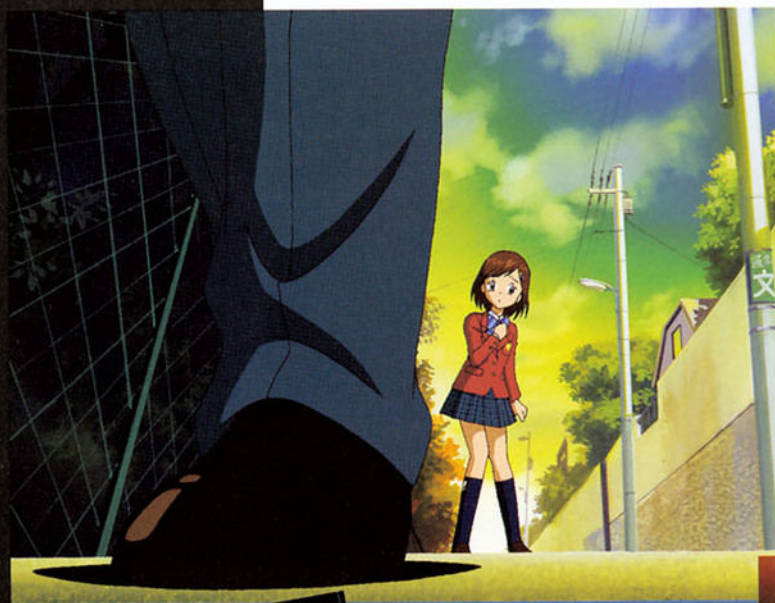
そこにポイズニーが登場！　ポイズニーはミミズをザケンナーに変えふたりを攻撃！ホワイトを洞窟内にひとり閉じ込めてしまった！　ひとりでは十分に力が出せないホワイトは徐々に追い詰められていく。外のブラックも何かの壁に阻まれ洞窟内に入れない。ついにホワイトが捕まり、絶体絶命の危機。だがその光景を見たキリヤは自分が洞窟内にはった壁の結界をといてしまう。間一髪合流することができたふたりは、ザケンナーを撃退するのであった。しかし、キリヤはなぜ、結界をといたのだろうか……。

STORY #17
ハートをゲット！ トキメキ農作業

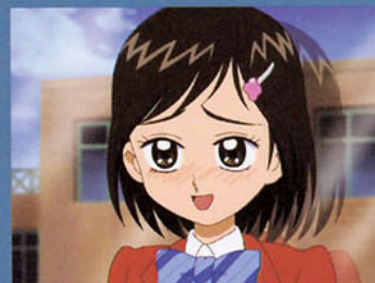
「ヒーロー登場！」ブラックが合流した！

苦しむホワイトを見ているキリヤ。

ほのかに後押しされながら、自分の気持ちを藤P先輩に伝えようとするなぎさ。

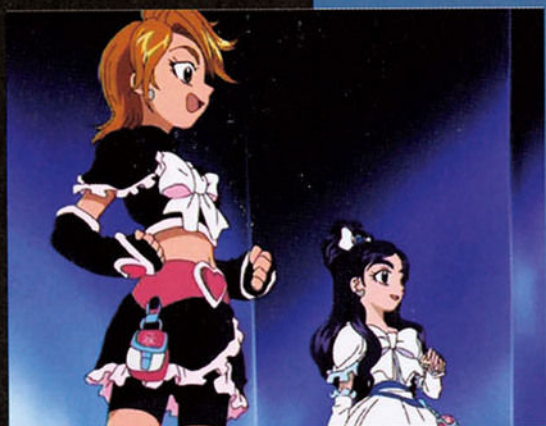
ザケンナーにより巨大化したムカデは、ホワイトを締め上げていく。

ほのかのことが頭からはなれないキリヤ。

キリヤに話もきかず断られショックの聖子。

責め立てるほのかに向かい、逆に叫ぶキリヤ。

キリヤからの相談に真剣に答えるほのか。

聖子は、キリヤが好きなことを皆に話した。

STORY #18

ドキドキ！ 中間テストは恋の迷宮

ふたりの連係攻撃によりポイズニーを圧倒する。

キリヤと話をした聖子は吹っ切れた様子だ。

「ごめんなさい……」言葉が出ないほのか。

ポイズニーはふたりを鏡の中に引き込んだ。

学院は中間テストの真っ最中。でもなぎさたちは違うことで頭がいっぱいの様子。どうやらなぎさの友達、谷口聖子はキリヤのことが気になっているようだ。志穂と莉奈は告白をすすめ、ほのかは心強いアドバイスをする。ほのかもだんだん皆と打ち解けてきたようだ。キリヤに告白する聖子。しかしキリヤは心ここにあらずといった様子で話も聞かない。キリヤはほのかと農作業をしてから人間の行動が理解できなくなっていた。いてもたってもいられず、キリヤはほのかに疑問をぶつける。「自分からわかろうとしなければダメ」というほのかの言葉を受け止めようとするキリヤだった。

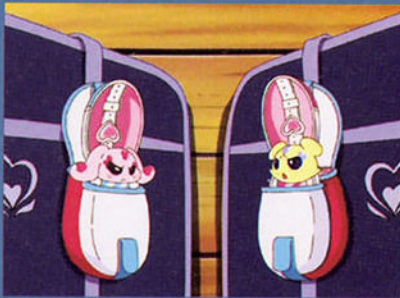
翌日、再び聖子はキリヤに告白をする。その中の会話で告白を後押ししているのがほのかだと知るや激怒。キリヤに向けて書かれたラブレターを破いてしまう。その事実を聞いたほのかは単身キリヤのもとに向かう。なぎさも慌てて追いかけた。「どうしてあんなことしたの！」というほのかに、「僕の心を何もわからない奴がえらそうなことをいうな！」と、叫ぶキリヤ。ほのかはたしかに自分がキリヤの気持ちを考えていなかったことに気づき、呆然となる。「ごめんなさい……」頭を下げるほのか。

自分の教室へ急いで戻るふたり。教室に駆け込むとポイズニーの空間に落ちてしまう。ポイズニーはふたりを鏡に閉じ込める。鏡ごとふたりを爆発させるポイズニー。しかし謎の光により何とか逃げ出せた。放課後、キリヤは聖子に謝る。キリヤの中で何かが変わったのか……？

19

ドックゾーンからの最後の刺客イルクーボ。

食べ物には目がない食いしん坊のメップル。

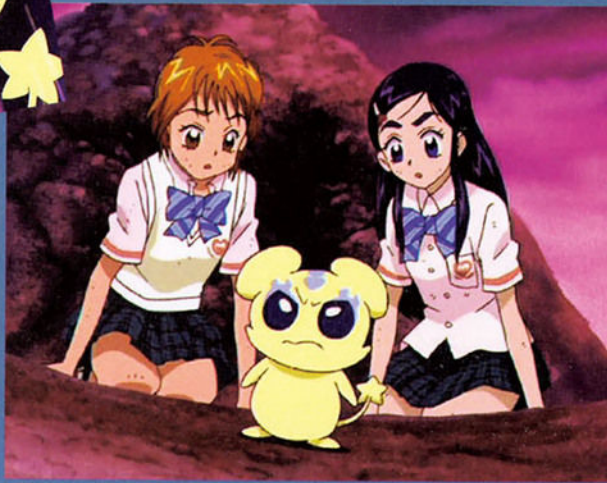
力を合わせ全力で敵にぶつかっていくふたりだが……。

ミップルとメップルは険悪な雰囲気に……。

メップルは、最近いつも食べ物のことばかり考えている。いつもおやつを要求してはそれを食べるメップルに、ミップルは不安を覚える。仮にもメップルとミップルは、故郷の危機を救うために虹の園へやってきた、光の勇者と希望の姫君なのだ。このことをメップルに忠告したミップル。だがメップルは逆に、ミップルには希望の姫君としての優しさが足りないと怒り始めた。口論となったミップルとメップルは喧嘩別れ。なぎさとほのかのふたりは、仲直りのきっかけを作ろうとするが、顔をあわせれば口論になるふたり……。

そのとき、邪悪な気配が街に広がる。ジャアクキングにプリズムストーンを渡すことがいまだできない状況に痺れを切らし、ついに闇の世界のナンバー2、イルクーボがやってきた。イルクーボは人々の中にあるエネルギーを吸収することにより自分のエネルギーを蓄えてゆく。ふたりはそれを止めるため、変身して立ち向かう！　だが今度の奴は格が違う。いくら攻撃を重ねてもイルクーボは顔色一つ変えずに攻撃を跳ね返してしまう。諦めないふたりに、イルクーボは黒い玉を向け、プリキュアのパワーを吸収してしまった。ふたりの変身もとけ、諦めかけるミップル。それを見たメップルは立ち上がり、「みんなを守るメポ！」と、単身イルクーボに突撃する。そのとき、メップルの光の力とイルクーボが吸収したエネルギーが共鳴！　エネルギーはあふれ出し、ふたりに力が戻った。そして、辛くもイルクーボを撃退する。この戦いの後、ミップルはメップルを見直し、仲直りをしたのだった。

STORY #19
こわすぎ！　ドツクゾーン最後の切り札

メップルの突撃により、エネルギーを取り戻す。

イルクーボの前に、まったく歯が立たない。

絶体絶命の状況に、メップルが立ち上がる！

雨降って地固まるメップルとミップルだった。

エネルギーを吸われ、変身もとけてしまう。

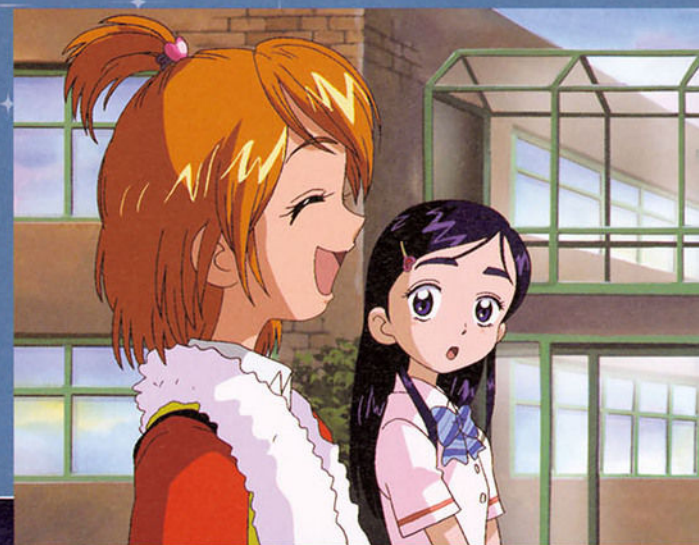
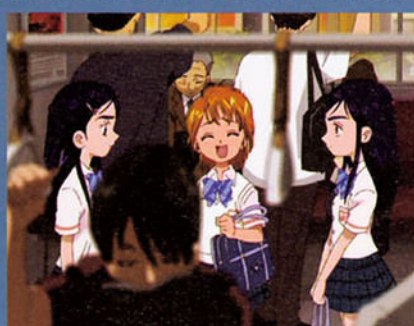
ポイズニーの髪の毛がふたりに襲いかかる！

ほのかの様子がおかしいことに気づいたなぎさ。

失敗続きのポイズニーには後がなかった。

ふたりは、自分の正義を信じて戦う。

本気のポイズニーに押されぎみのふたり。

ふたりのほのかに挟まれて、困惑するなぎさ。

部活後、一緒に帰る約束をするなぎさとほのか。

STORY #20

どっちが本物？ ふたりのほのか

髪の毛を逆に利用したマーブル・スクリュー。

マーブル・スクリューをかわされ、絶体絶命。

「根性だけはてんこ盛りよ！」なぎさが叫ぶ。

闇に消えてゆくポイズニーを見て叫ぶキリヤ。

一緒に帰る約束をしたなぎさとほのか。待ち合わせをして、たこ焼き屋へ。しかし、なんだかほのかの様子がいつもと違う。メップルのことを「アレ」呼ばわりしたり、ミップルとメップルを間違えたり。横にいるほのかが偽者だと気づいたなぎさは急いでその場から離れる。本物のほのかはどこに行ったんだろう……。電車で再びほのかに出会うなぎさ。しかしほのかはふたりいた。本物のほのかを見分けられないなぎさ。ふたりのほのかは、なぎさのことを言い合い、自分が本物だと主張しあう。「スポーツが好き」「でも勉強は嫌い」「頼まれるといやとは言えないタイプ……」「なぎさの靴下はちょっとクサイ……」プリキュア手帳にしか書いた覚えのないことを言われ、本物のほのかを確信したなぎさ。その途端、偽者は正体を現す。偽ほのかはポイズニーだったのだ！

ふたりを倉庫街に追い詰めるポイズニー。今回はかなり本気の様子である。ふたりは変身し応戦するが、ポイズニーの動きについていくことができず、マーブル・スクリューも避けられてしまう。戦闘の経験を重ねていないふたりのような人間に自分は倒せないと言い放つポイズニー。「力のない正義は悪にも劣る！」ポイズニーの攻撃が襲いかかる。だがふたりには、諦めない根性があった。体に巻きつく髪の毛にマーブル・スクリューを放ち、ポイズニーを直撃！　三つめのプリズムストーンを手に入れた。

一方ドツクゾーンでは、闇に帰るポイズニーを見て涙を流しながら絶叫するキリヤの姿があった……。

20

21

闇に吸い込まれていくポイズニーを見て、キリヤは改めて自分が闇の世界の住人であることを認識する。人間と同じ価値観をもち、一緒に生活することなど不可能なのだと。

次の日、キリヤはほのかを学校の帰り道に誘う。そこで、自分はドツクゾーンから来たジャアクキングの手下だと告白した。プリキュアを倒し、ジャアクキングのもとにプリズムストーンを持ち帰ることが自分の使命だと語るキリヤ。突然の告白に戸惑うほのか。必死の説得も通じない。なぎさもほのかからその事実を知らされ、友達とは戦えないと動揺を隠せなかった。夜、ほのかの家には、キリヤとの決闘の場所を書いた手紙が届く……。

早朝、河原で対峙するキリヤとふたり。キリヤは容赦なく攻撃を仕掛けてくるが、ふたりは攻撃することができない。ミップルとメップルは渡せないがキリヤとも戦えない……。戦う必要はないと説得するホワイトに、キリヤは「恨むのなら、僕ら3人の運命を恨んでください」と言い放つ。「そんな運命なら、変えてしまえばいい！」ホワイトの叫びが河原に響く。それでも攻撃の手を休めないキリヤに、ついにホワイトは倒れてしまう。それでも立ち上がろうとするホワイトとブラックを見たキリヤは決意する。自分は運命を変えられなくても、このふたりになら変えられるかもしれない。みずからプリズムストーンをふたりに渡し、キリヤは闇に帰っていく。運命を変えられなかったふたりは悲しみつつも、石を託してくれたキリヤに応えるため、決意を新たにするのだった。

キリヤの決心は固く、戦いは避けられない。

自分が闇の者だということを告白するキリヤ。

突然のキリヤの衝撃告白に戸惑うほのか。

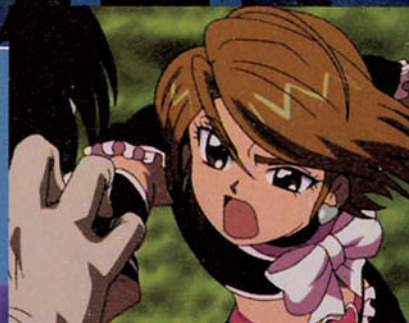
キリヤが闇の者だと知って、驚くなぎさたち。

STORY #21
衝撃デート！ キリヤの真実

ふたりに運命を託し、闇に消えていくキリヤ。

ホワイトの必死の叫びもキリヤには届かない。

拳に思いを込めてキリヤにぶつけるブラック。

倒れこんでしまうホワイトにキリヤが近づく。

友達であるキリヤを、攻撃できないふたり。

ホワイトの決死の叫びが、キリヤの胸に響く。

忠太郎は河原で震えていた子犬を見つける。

モコを連れて主人のにおいをたどる忠太郎。

嬉しそうに七夕の飾りつけを見ているなぎさ。

モコの主人を見つけてあげようと考えるふたり。

焼き鳥につられ犬の顔になるなぎさ。

STORY #22 ウッソー！忠太郎がママになる!?

忠太郎がホワイトの危機を助けに現れた！

闇に消えたキリヤを思い出し、泣くほのか。

番人の名を聞くや、早々と去るイルクーボ。

再会できて嬉しそうなアキオちゃんとモコ。

ほのかの家で飼われている犬・忠太郎。忠太郎は河原で1匹の子犬を見つける。子犬の世話をする忠太郎を見たふたりは、子犬についた首輪から、犬の名前はモコで、飼い犬であると考える。幸い住所が首輪に書いてあったため、ふたりと忠太郎は住所にある団地へと向かう。だが、飼い主が引っ越していたため、手がかりが途切れてしまう。そのとき、偶然飼い主のアキオちゃんの友達が現れる。アキオちゃんはプラネタリウムが好きだから、そこに行けば会えるかもしれないと教えられ、さっそく向かうふたり。忠太郎は独自ににおいからアキオちゃんをさがす。アキオちゃんのにおいは途中で消えてしまうのだが、代わりになぎさとほのかのにおいを見つける忠太郎。においの先はプラネタリウムだ。

プラネタリウムにやってきたふたり。少し見ていこうと入ったプラネタリウムの中にはザケンナーが！　忠太郎の助けも借りながらなんとかザケンナーを倒すふたり。しかしイルクーボが再び姿を現す。石を渡せというイルクーボに対し、メップルは番人に守られている限り石は見つからないと話す。しかしイルクーボは番人のことを知っていた！　不敵に笑い、消えるイルクーボであった。その後、忠太郎が見つけた七夕の短冊により、アキオちゃんの新しい住所が判明。モコはアキオちゃんのもとへ帰ることができた。

帰り道。気を引き締めるなぎさ。一方のほのかは先日のショックからいまだ立ち直れない。キリヤのことを思い出し、一晩中泣くのだった。

23

山へ夏合宿にやってきたなぎさたちラクロス部。臨時コーチのアカネさんの厳しい指導もあり、充実した時間をすごしている。一方のほのかも同じ場所で科学部の合宿。こちらも河原での研究に精を出していた。夜、夕食も終わり、夜空を眺めていたなぎさとほのかに、志穂がいなくなったとの知らせが！ 合宿所も停電し心配になるふたり。山の中をさがすなぎさたち。ほのかがブレーカーが落ちていたことに気づき、停電は直る。困り果てて捜索から帰ってきたなぎさたちのもとに、志穂が現れた。なんと志穂は長湯していたという。お騒がせな志穂であったが、とりあえずほっとするふたり。しかし奇妙な異変は続く。翌朝にまた停電が、そして合宿所の周りの植物や川がかれだしたのだ。ほかの部員は山の神様が怒ったと騒ぎだす。しかしこんなことができるのはドツクゾーンの奴らしかいない。それに気づいたふたり。邪悪な感じのするほうへ向かうふたりの前に、雷鳴とともに現れたのはやはりイルクーボ！ 山のエネルギーを吸収したイルクーボはさらに圧倒的な力を見せる。負けじと変身をするふたり。まともにやり合っても勝てないふたりは、いちかばちかのマーブル・スクリューを放つ。しかしこのときを待っていたイルクーボ。マーブル・スクリューの力を受け止めた瞬間、その力を利用して時空の狭間から石の番人・ウィズダムを引きずり出した。今まで集めたプリズムストーンがイルクーボの手に渡ってしまった！

二つの部活は同じところに合宿に来ていた。

ほのかがいる科学部は今、合宿中である。

マイペースで常に周りをひっかき回す志穂。

なぎさがいるラクロス部も合宿で猛特訓だ。

夏なのに紅葉が起こることに驚く部員たち。

STORY #23
危うし！ 夏合宿の悪夢

気力を振り絞り、イルクーボに立ち向かう！

自信たっぷりにプリキュアに迫るイルクーボ。

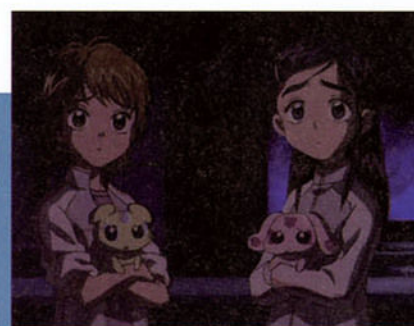
石の番人・ウィズダムが敵の手に……。

ブラックをかばって岩に叩きつけられるホワイト。

イルクーボにより、ついにふたりの石が奪われる！

石を手にした瞬間、苦しみだすイルクーボ。

石を取り戻すため、再度戦いを挑むふたり。

強すぎるイルクーボに、弱気になるホワイト。

石を奪われ不安げなふたりは、相談を重ねる。

朝、ふたり以外の人たちの意識が戻らない。

STORY #24

決戦！ プリキュアVSイルクーボ

渾身のマーブル・スクリューをふたりは放つ！

虹の橋から、光の王子ポルンが降りてきた。

大きな虹がかかっていくのを見守るふたり。

イルクーボに、手に入れたプリズムストーンを奪われてしまった。合宿も中止になり、明日帰宅することに。しかし次の日の朝、なんだか様子がおかしい。誰一人起きようとしないのだ。唯一目覚めたなぎさとほのかはイルクーボと対峙する。

イルクーボと戦うふたりであったが、やはりイルクーボの力は強大だった。何をやっても効かず、ホワイトは弱気になる。そんなホワイトを励ましながら戦うブラック。だが、マーブル・スクリューもやはり消されてしまう。それでもブラックは諦めず、イルクーボへ一点集中攻撃をかける。そしてついに、ブラックのキックが、イルクーボを捕らえた！

しかし、イルクーボはそんなことでは動じない。メップルとミップルの中にあるプリズムストーンを無理やり引き出し、自分の手の中に……！　ついにプリズムストーンが、七つとも敵の手に渡ってしまった！ そのとき七つの石が突然輝きだす。石が持つ、強い光の力にイルクーボは耐えられなかった。弱っていくイルクーボにふたりのマーブル・スクリューが放たれる！　イルクーボは光の中に消えていくのだった。

合宿も無事終わり、プリズムストーンも七つそろった。ホービッシュに七つの石を入れるなぎさとほのか。すると光とともに巨大な虹がかかった！　この虹が光の園へ続いている……。感動するふたりのもとへ、新たな光の玉が降りてくる。「ポルンだポポ～！」光の王子・ポルンがやってきた。

24

25

ドツクゾーンに荒らされた傷跡が残る光の園。

ふたりも一緒に来いと
ダダをこねるポルン。

虹の橋を渡り、ポルンがやってきた。ポルンはなぎさとほのかも一緒に来てほしいという。ダダをこねるポルンに押され、ふたりは光の園へ。光の園がどんな所かわからず不安になるなぎさに比べ、ほのかは興味しんしんでなんだか楽しそうだ。光の園へついたふたり。光の園は花が咲き乱れ、美しい所だ。光の民にも迎えられ、一行は宮殿に向かう。

宮殿についた一行を待っていたのは、長い髭を生やした長老である。再会を喜ぶメップルとミップル。ふたりも紹介され、長老からお礼を言われるのだが、物忘れが激しいようでなんだかかみ合わない……。いよいよクイーンに謁見する。クイーンの姿を見たふたりは、その大きさに驚く。30メートルはあろうかというクイーンは、ふたりがプリズムストーンを取り返してくれたことにお礼を言う。その後、ふたりはクイーンに言われるまま、光の丘に向かうのであった。

光の丘は七つのプリズムストーンの力を引き出すための場所である。ホーピッシュを台座に置き、ウィズダムを呼び出す一同。ついに光の園が復活する。そのとき、地鳴りとともにおぞましい姿となったイルクーボが現れた！　イルクーボは、恐ろしいほどの執念とともに復活してきたのだ。変身して戦うプリキュアだったが、今までとは比べものにならない力に、歯が立たない。イルクーボはウィズダムとなぎさ、ほのかを捕獲、闇の中に引きずり込む！　つれられた先はドツクゾーン。目の前にはジャアクキングが！

光の園での自分の姿に不安を覚えるなぎさ。

虹の園での生活を指摘され、
あせるメップル。

STORY #25
いざ光の園へポポ！ 私たちも!?

復活したイルクーボはさらに強くなっていた。

イルクーボが、光の園の再生を邪魔する。

光の園のクイーンは、とてつもない大きさであった。

番人とともにふたりを連れ去るイルクーボ。

光の丘にプリズムホーピッシュを置く一同。

復活した光の園を、感動してみつめる一同。

メップル、ミップルとの別れを惜しむふたり。

マーブル・スクリューにクイーンの力が加わった。

ジャアクキングの体が光の中に消えていく。

ついにその姿を見せるジャアクキング。

ジャアクキングは仲間にも容赦がない。

ジャアクキングとクイーンが対峙する。

STORY #26

さよならメップルミップル!? やだー！

ほのかの所にもミップルが。ポルンも一緒。

メップルが光の園から再び戻ってきた！

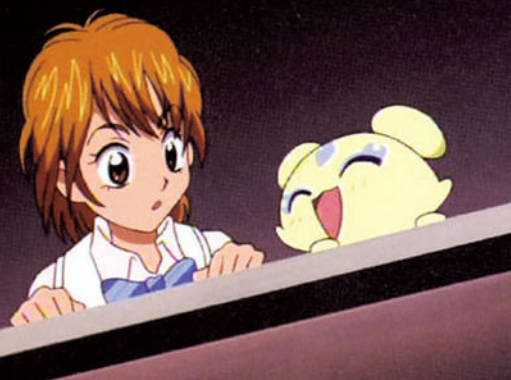
メップルが帰ってきてとても嬉しいなぎさ。

再会の喜びをお互い分かち合うのだった。

とうとうふたりの前に姿を現したジャアクキング。それを確認したのもつかの間、イルクーボがふたりに向かって襲いかかってきた。イルクーボの強大な力にふたりは追い詰められていく。そしてついにイルクーボの拳が、ふたりを捉えた！　そのとき、ジャアクキングはなぜかイルクーボを攻撃、消滅させる。プリズムストーンを傷つけることは許さない……。そんなジャアクキングに、怒りを覚えるふたり。「許さない！」ふたりが渾身の力で出したマーブル・スクリュー。しかしジャアクキングにはまったく通じず、逆に吹き飛ばされてしまう。それでも諦めないふたり。ふたりはメップルとミップルという大切な友達の故郷を守るため、かれらに悲しい思いをさせないために、命を懸けて戦うのだった。

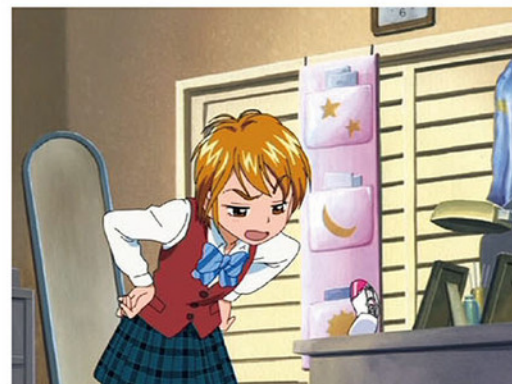
そんなふたりのもとにクイーンが舞い降りる。クイーンは伝説の戦士の信念に心を打たれ、助けに来たのだった。クイーンの力をプラスしたマーブル・スクリューがジャアクキングに襲いかかる！　ついにふたりはジャアクキングを打ち破ったのだ！

プリズムストーンの力を使い光の園を復活させるウィズダム。復活させた光の園に感動するふたり。しかし、それは同時に、メップルたちとの別れも意味していた。ミップルとメップルに別れを告げ、ふたりは自分たちの世界へ帰る。

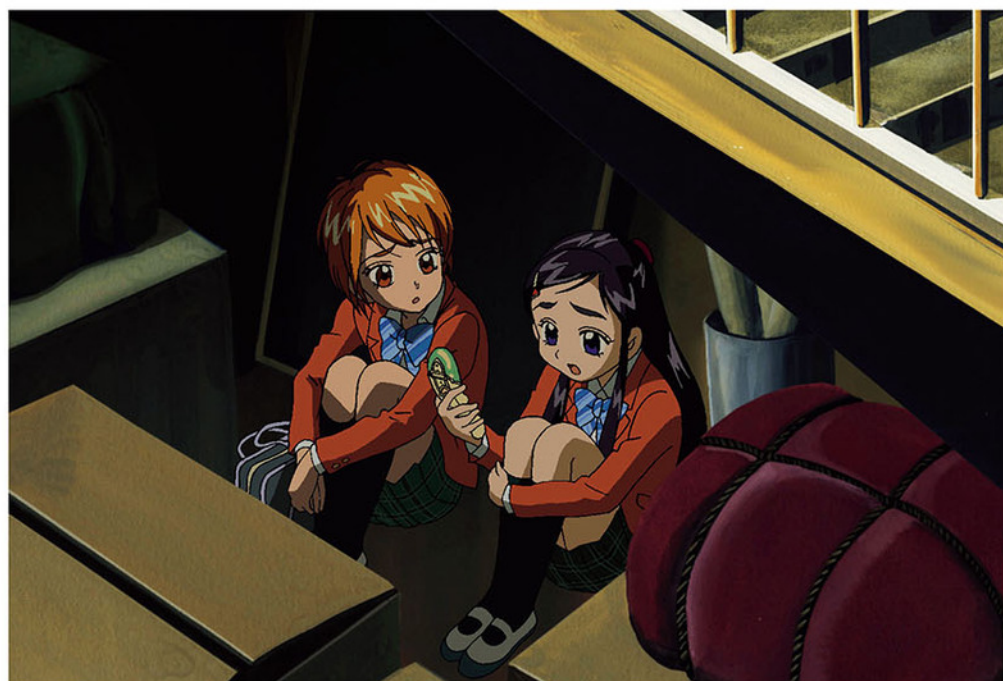
その後もなぎさはメップルとミップルのことが頭から離れない様子。そのとき！　空から降ってきたのは……メップル！　ほのかのところにもミップルとポルンが来たようだ。なぜ来たのかはわからないけれど、また会えたことがとても嬉しいなぎさとほのかだった。

ふたりはプリキュア 名言集 2

なぎさ　でも、なんか不思議だよね。

ほのか　不思議？

なぎさ　ほのかとのこともそうだけどさ、こないだまで、全然知らなかったメップルと急に一緒に暮らすようになって、毎日ケンカばかりしてたけど、いなくなるとこんなに心配で……。

ほのか　寂しくて……？

なぎさ　うん……。

ほのか　出会いって……本当にそう……不思議よね……。

体調をくずしたメップルを、携帯電話と勘違いされて教頭先生に没収されてしまいます。いつもケンカしてばかりのなぎさとメップルですが、離ればなれになってしまうと心配が募ります。初対面の印象はサイアクでも、一緒にすごす時間が絆を深めていくのでしょう。（第９話より）

「ふたりはプリキュア名言集　わたしたちはぜったい負けない」（講談社）より抜粋。

#27～#49 ストーリーダイジェスト

＊演出家からの一言>>>

「ジュナのキャラクターがなかなかつかめず、苦労しました。ジュナが台風のパワーを蓄えて、みちみちていくシーンも、西尾さんにヒントをくださいと聞いたら、ラルフ・バクシのアニメ『ファイヤー＆アイス』に出てくる魔法使いのイメージだと言うので観たんですけど、西尾さんの身ぶり手ぶりでの説明のほうがインパクトがありましたね（笑）。後半の駐車場のバトルも『ハイランダー』に出てくるシーンを参考にしてるんです」（小村氏・談）「敵が一新されたので、新しさを出すことに留意しました。角澤が窓を割ってジュナになるところは、ビルから飛び降りたように見えるのはまずい、ということを西尾さんに言われたので気を遣いましたね。だから、割れた窓のカットには角澤がいないんですよ」（座古氏・談）

27

ジャアクキングを倒し、メップルたちにも別れを告げ、光の園から自分たちの住む虹の園へ帰ってきたなぎさとほのかのふたり。平和な毎日に戻ったのもつかの間、メップル、ミップルがポルンを加えて、ふたりの前にふたたび戻ってきた！　メップルたちによれば、ジャアクキングは消滅する直前に、自分の分身である種を虹の園にまいたという。戦いはまだ終わっていなかったのだ。

新たに虹の園にやってきた、未来へ導く光の王子・ポルン。クイーンによればポルンには特別な力があるという。しかし当のポルンははしゃぎ回ったり、意味深な言葉を発したりとみんなを振り回してばかり。さらに、虹の園に興味津々なポルンはひとりで街に飛び出してしまう。心配でしようがないなぎさとほのかはポルンを捜し回る。

そんな中、ジャアクキングの種はすでに目覚め、角澤という人間になり生活していた。そして台風をきっかけに、闇の戦士・ジュナとして覚醒したのだ！　上空から街を見下ろすジュナは、街中を駆け回ってヘトヘトになったポルンを見つける。ポルンを駐車場に追いつめ、光の園の住人のお前がどうしてここにいるのかと問いつめるジュナ。おびえるポルン。と、そこに間一髪、なぎさとほのかが駆けつけた！　ポルンを守るため、プリキュアに変身したふたりは相手の隙をつき、なんとか退けることに成功する。だが今までよりもさらに強大になった闇の力に、不安になるプリキュアだった。

寝たかと思えば急に意味深な言葉を話すポルン。

クイーンの話を聞くメップルたち。

ひとりで街に出ていってしまうポルン。

今度はポルンもいっしょに行くようだ。

ポルンを捜す、なぎさとほのか。

虹の園にふたたび来た理由を話すメップル。

STORY #27
新たな闇が迫る！ 迷子のポルンを救え

脚本／川崎 良　演出／小村 敏明・座古 明史　作画監督／河野 宏之

ポルンを守りつつ、ジュナと戦うプリキュア。

戦いで傷ついたポルンを心配するブラック。

自分の体内に台風を取り入れるジュナ。

「ケーキ屋さんよ！」自信満々のなぎさ。

ジュナに発見され、絶体絶命のポルン。

台風情報をじっと見つめる角澤竜一郎。

ポルンは、なぎさの家に住むようだ。

必殺技を放つが、苦戦するふたり。

ポルンの危機に駆けつけたプリキュア。

窓から飛び出し、ジュナへと覚醒する！

宿題をするほのかと、暑さでだらけるなぎさ。

終わりのない戦いに不安になるふたり。

ひとり空を見上げている謎の女性……。

落ち込むふたりを、さなえは優しく励ます。

終戦直後、少女時代のさなえ。

さなえの言葉に大きな衝撃を受けるほのか。

焼け野原になった街を見て、あふれ出る涙。

28

夏休みの宿題に取り組むなぎさとほのか。まじめなほのかとは違い、なぎさの宿題はまったくはかどらない。元気に遊びまわるメップル、ミップル、ポルンたちを、なぎさはうるさいと叱りつける。すると、「赤い柱、危ないポポ……」ポルンがふたたび不思議な言葉を残す。この言葉を、新たな敵の襲来と感じとったふたり。いつ終わるかわからない戦いに、不安になるなぎさ。「私だって、なぎさがいてくれなかったらバラバラになってしまいそうなのに……」不安なのはほのかも同じ。「今の私たちにはどうすることもできない……」落ち込むふたりの前に現れたのは、さなえだった。

さなえはふたりに、戦争のときの話をする。焼け野原になった街を見下ろし、絶望的になるさなえに、どこからともなく聞こえてきた、希望を捨ててはいけないという声……。「希望を捨てなければ明日はきっといい日になる」そんなさなえの言葉に元気を取り戻すふたりだった。

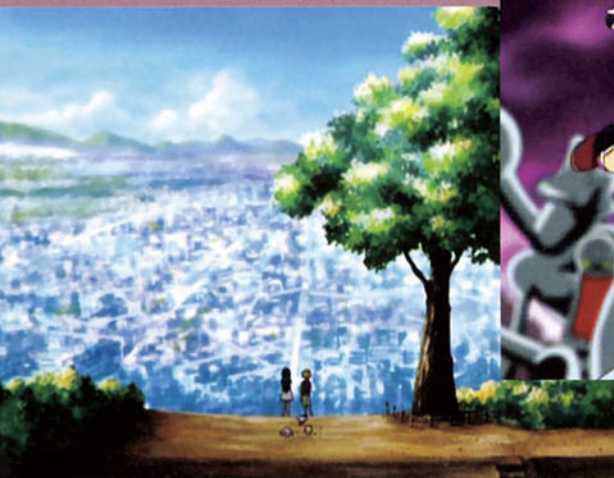
ポルンの言葉どおり、第2の闇の戦士は目覚めようとしていた。さなえの話に出た丘に行こうとするふたりの前に立つ女性。周りにはザケンナーが！　変身して立ち向かうふたり。覚醒し、闇の戦士となったレギーネは火山に向かう。あとを追うふたりの前には無数のザケンナーが。「いい加減にしてよね……はやく行かなきゃ、いずみやさんのチョコタルト売り切れちゃうじゃない！」「そっちですか！」あきらめずに戦い、ザケンナーを撃退したなぎさとほのか。希望を失わなければ、明日はきっといい日になる。そう信じ、ふたりは丘を見つめるのだった。

STORY #28
レギーネ登場！ってもう来ないで！

脚本／羽原 大介　演出／西尾 大介　作画監督／はっとり ますみ

無数のザケンナーに、立ち向かうブラック。

希望をもって丘から街を見つめるふたり。

華麗な動きで敵を次々と倒すホワイト。

女性は突然変身、レギーネに覚醒する！

深刻さのない悩みに、驚くホワイト。

名前を間違うポルンに「アだっつーの！」

話にあった丘へ行こうと誘うなぎさ。

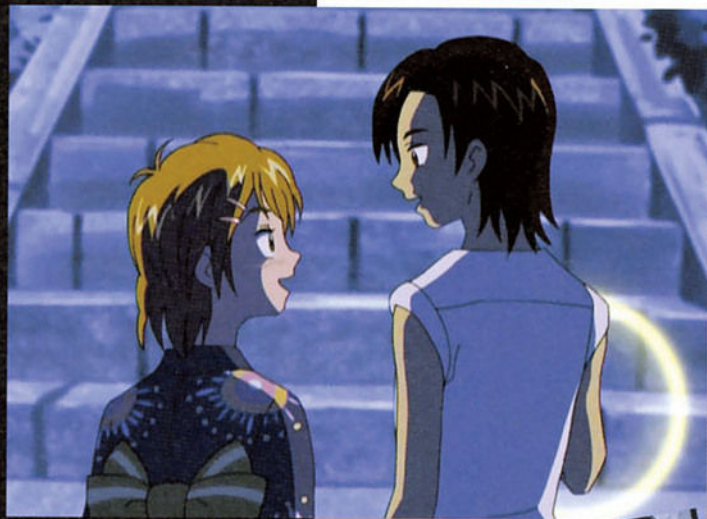
謎の女性がふたりの前に立ちはだかる。

ザケンナーに立ち向かうプリキュア。

演出家からの一言>>>

「スケジュールの関係もあってなかなか演出ができないんですけど、さなえおばあちゃんの若いころの話という特殊なエピソードだったので担当させてもらいました。おばあちゃんの過去の記憶が、現代の子どもたちにつながるストーリーで、両者の接点を考えて作ったエピソードです。
戦後すぐの話なので、いかに嘘っぽくなく、かつ、悲惨さだけに傾かないようにするかに気をつけました。
注意したのは戦闘シーンのきっかけで、なぎさが戦わざるを得ない状況に追い込まれてザケンナーと戦うんだけど、ウエットになりすぎて、悲壮感が漂ってしまうと思ったんです。そこで〝チョコタルトを食べにいけない〟ということを、きっかけにもっていったんです。バカバカしいくらい細かい事に振り回される日常的な生活を送るなぎさたちと、歴史的な大事件を経験したさなえたちの世代が、時の流れの中で心情的につながってくれればいいなと思いました。キーワードはもちろん〝絶望と希望は背中合わせ〟、それから〝明日はきっといい日になる！〟です」（西尾氏・談）

※演出家からの一言>>>

「ベルゼイ初登場の回ですね。冒頭の病院のシーンなどもこけおどしというか、アングルを斜めにしたり、スローやアオリ（下から撮ること）を多用してキャラクターに威圧感をもたせるようにしています。それと夏祭りのシーンが出てきますが、製作は5月ごろだったので資料探しに苦労しました」（矢部氏・談）

藤P先輩とペアになれて幸せななぎさ。

なぎさをかばい、足にけがをしてしまう藤P先輩。

危険を感じ、なぎさとほのかを捜すポルン。

買い物中、偶然出会うなぎさとほのか。

ほのかにゆかたを着せてもらうなぎさ。

肝試しをしようと計画を立てる一同。

なぎさの鉄の胃袋には誰もかなわない。

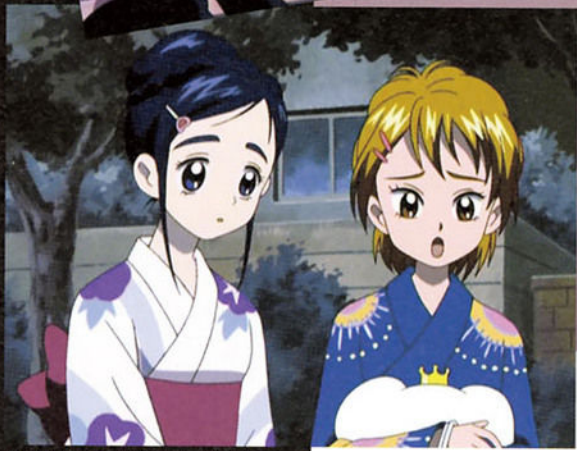
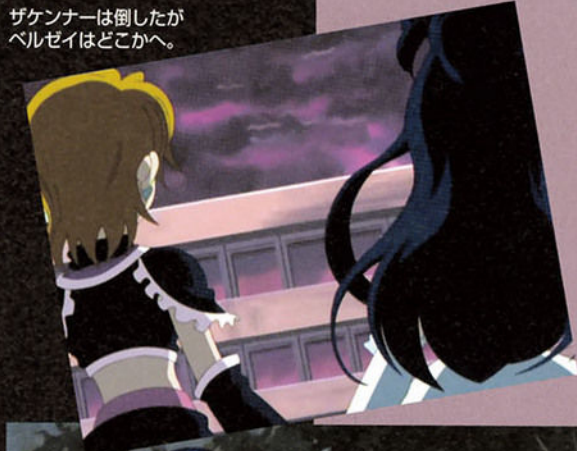
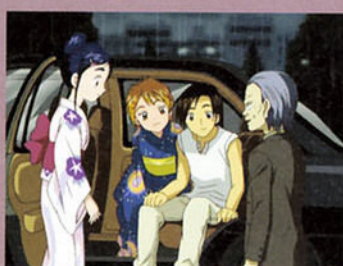
不敵な笑いを浮かべる病院の院長。

今年着るゆかたを買いに来た、ほのかとさなえ。

STORY #29

嵐の夏祭り！ カミナリ様は超コワイ!?

脚本／影山 由美　演出／矢部 秋則　作画監督／東 美帆

ザケンナーは倒したがベルゼイはどこかへ。

外にいるポルンを心配するふたり。

院長先生に病院へ送ってもらうことに。

雷を吸収し、ベルゼイに覚醒する院長。

医療機器ザケンナーが襲いかかる！

志穂と莉奈を連れてショッピングに出かけるなぎさ。夏祭り用にゆかたが欲しいなぎさだったが、高くて手が出ない。お店で偶然ほのかと出会う。ほのかは自分が去年着ていたゆかたをなぎさに貸してくれるという。大喜びで受け取るなぎさ。

夏祭り当日、なぎさ、ほのか、志穂、莉奈の4人でお祭りの出店を回る。その後、藤P先輩、木俣先輩とも合流し、みんなは楽しいときを過ごすのだった。志穂と莉奈が言い出したことがきっかけで、一同は肝試しをすることに。肝試しはふたり一組のペアで行われ、なぎさの相手は……なんと藤P先輩！　なぎさは横にいる先輩が気になって肝試しどころではない。

肝試しも終わりに近づいたころ、あたりには雨が降り始める。急いで来た道を戻るなぎさと藤P先輩だったが、なぎさが足を滑らせ、それをかばった先輩がけがをしてしまう。なんとかほかのみんなとも合流できたものの、先輩は辛そう。そこへ1台の車が通りかかる。車に乗っていた男は病院の院長先生で、先輩を病院へ連れていってくれることに。病院へ着き安心したのもつかの間、今度はメップルとミップルが邪悪な気配を感じとる。なぎさとほのかのふたりが屋上へ向かうと、そこにはまた新たな闇の戦士・ベルゼイが！　ベルゼイはザケンナーを呼び出し、襲いかからせる。苦戦しながらも、なんとか退けたふたりであったが、そこにベルゼイの姿はもうなかった。

※演出家からの一言>>>

「レインボーストームの初お披露目ですね。バンクシーン(毎回使用される変身シーンなど)に関しては西尾さん仕切りでしたから、私のほうとしては、必殺技を出す前の段階の描写で、ふたりがどれだけパワーアップされたか、その見せ方に工夫をしました。敵の強さもきちんと見せなければプリキュアが強くなったのが効果的に見えないですからね。Bパートの3分の2くらいのシーンはラフ原画も描いてます。演出意図は作画に反映されていると思うのですが、もう少し時間があれば芝居にふくらみをもたせることができたかもしれません」(伊藤氏・談)

草むしりをするはめになってしまったふたり。

文句を言うなぎさにくらべ、ほのかは楽しそう。

闇の戦士が洋館にて一堂に集まる。

徹夜しても宿題は終わらなかった様子。

「一緒に行くポポ〜!」ごまかすほのか。

石で遊ぶポルンを見て、慌てる番人。

30

なぎさとほのかは石の番人を呼び、今後のことについて相談をする。新たな敵も3人となり、またプリズムストーンをめぐる戦いが始まるのではないかと心配してのことだ。しかし、番人も詳しいことはわからない様子。そのころ、森の中の洋館では、闇の戦士が一堂に集まり、プリズムストーン奪取について相談していた。

徹夜の健闘もむなしく、夏休み中に宿題を終えることができなかったなぎさ。自分から廊下に行こうとするなぎさだったが、かばんに隠れていたポルンが急に騒ぎ出す。ポルンをみんなから隠すため、ほのかも廊下に行くことに……。その後もポルンは、勝手に外に飛び出したり、落書きしたりとふたりを困らせる。

そんな中、闇の戦士が学校にやってきた! しかも3人で! 3人の強力なパワーに、押されぎみのプリキュア。「プリキュアマーブルスクリュー」も効かず、ついには番人も捕らえられてしまう。隙を見て逃げ出した番人は、プリズムストーンの力が闇の戦士たちに奪われてしまうことを恐れ、ポルンにプリズムストーンの力を託すのだった。

番人も捕まり、抵抗むなしく返り討ちにされるプリキュア。絶体絶命かと思われたそのとき! みんなを守りたいというポルンの思いが奇跡を起こし、「プリキュアレインボーブレス」をふたりに装着させた! 今までとはくらべものにならない力を発揮したふたりは、新技「プリキュアレインボーストーム」を放ち、闇の戦士を撃退するのだった。

STORY #30

炸裂! プリキュアレインボーストーム

脚本/成田 良美　演出/伊藤 尚往　作画監督/川村 敏江

「ふたりをいじめちゃだめポポ……!」

闇の戦士の力になすすべがないふたり。

やむなく番人は、ポルンにプリズムストーンの力を託す。

学院の異変に気づいたなぎさとほのか。

石を守るため、必死で逃げまどう番人。

光と闇の狭間から番人を引きずり出す!

ポルンが放った光がレインボーブレスに!

新たな必殺技が敵を直撃する!

隠れている番人を見つけたのはポルン。

3人の連係によって必殺技も破られる。

＊演出家からの一言>>>

「工事現場の資材を使ってリングを作っていくジュナとのバトルシーンは工夫しましたね。鉄棒での戦闘シーンで少林寺、李飛龍のイメージが登場しますが、あそこは西尾さんが僕のコンテにつけ加えたんですよ。ドラの音が入ってるとなんだか『ドラゴンボール』みたいですね」（山吉氏・談）

光の園にいる長老と会話をする一同。

ホームシックにかかってしまうポルン。

石の力のありかを問いただすベルゼイ。

ザケンナーに周りを囲まれ、逃げ場がない。

ジュナによって追いつめられたふたり。

ポルンは元気があり余っている様子。

ポルンは寂しさのあまり、家から逃げ出す。

ポルンを追ってアカネさんの車に乗るふたり。

相手にしてもらえず落ち込むポルン。

STORY #31
マジ家出？ ポルンは一体どこ～!?

脚本／清水 東　演出／山吉 康夫　作画監督／爲我井 克美

ポルンから放たれた新たな力に驚くふたり。

闇の戦士たちはジャアクキングを復活させる。

ジャアクキングがふたたび復活！

ビシッ！ とポーズを決めるブラック。

ジュナの容赦のない攻撃に怒るふたり。

レインボーストームを耐えるジュナ。

石の番人とプリズムストーンを奪った3人の闇の戦士。しかし、プリズムストーン本来のパワーがなくなっていることに気づき、いらだつベルゼイ。なくなった石の力はどこにいってしまったのか。ジュナはプリキュアたちから力ずくで聞き出すことを提案するのだった。

最近のポルンはなんだか変。ずっとはしゃぎっぱなしで、虹の園だというにもかかわらず、いくら遊んでも疲れた様子がない。相手をするメップルはもうヘトヘト。ポルン本人に聞いてもよくわからないと言う。そこに、ポルンのコミューンを通して長老の声が聞こえてきた。どうやらポルンはプリズムストーンの力を取り込んでいて、そのせいで、ポルンの中の何かが目覚めようとしているのではと長老は言う。ポルンにそんな力が隠されているとは、とても信じられないなぎさとほのか。一方のポルンは自分のことより、光の園の話をしたい様子。しかし長老の声は途切れてしまう。ホームシックにかかったポルンは駄々をこね、家を飛び出してしまう。今ポルンをひとりにすると、闇の戦士に襲われるおそれがある。ふたりはポルンのあとを追いかけ、着いた先は工事現場。ポルンは捕まえたものの、ジュナがザケンナーとともに襲いかかってきた！　石の力はどこだと問いただすジュナに、知らないと答えるふたり。なにも言わないプリキュアにしびれを切らし、攻撃してくるジュナ。そのとき、ポルンはまたも光の力を発動！「プリキュアレインボーストーム」によりジュナを退けたのだった。

光の園の住人と鬼ごっこをするポルン。

ひとりぼっちで、悲しくなるポルン。

朝、なぎさを起こそうとするポルン。

ポルンのことをほのかと話すなぎさ。

自由に遊べないポルンは駄々をこねはじめる。

お祭りに行きたいと言い出すポルン。

リンゴを餌にインコをそそのかす番人。

アカネさんに呼び止められるレギーネ。

32

ジャアクキングが復活してしまった！　だが、まだプリズムストーンの力がないため、完全な力は出ていないようだ。ジャアクキングの力を完全なものにするため、レギーネはプリズムストーンの力のありかを聞き出しに、プリキュアのもとへ向かう。

なぎさの家にいるポルンは元気一杯。だが遊び相手がいないポルンはつまらない。元気をもてあましたポルンは、光の園へ帰りたいと言い、泣き出してしまう。光の園へは、ホーピッシュがなければ帰れないため、途方にくれるふたり。早く番人とホーピッシュを取り戻さなければ！　そこでなぎさとほのかは、ポルンに予知能力があるのではと考え、番人の居場所を聞く。しかしポルンの言葉はあいまいでよくわからない。そればかりか、光の園に帰りたいとまた泣き始めてしまう。困ったふたりは、なんとか元気づけようとポルンを遊園地に連れていくのだった。

遊園地ではポルンはもちろん、メップル、ミップルまでもが大喜び。ようやく笑顔になったポルンに、ふたりも安心するのだったが……そこに現れたのはレギーネ！　レギーネは恐竜ザケンナーでふたりに襲いかかる。「友だちとして、ポルンは私たちで守ってみせる！」逃げまどうポルンを必死で守るプリキュア。その思いがポルンにも伝わり、ポルンは光の力を発動する。「プリキュアレインボーストーム」により、敵を退けるプリキュア。笑顔も戻り、ふたりとの絆も深まった様子のポルンであった。

STORY #32

ポルンを励ませ！ とってあきのカーニバル

脚本／羽原 大介　演出／川田 武範　作画監督／高橋 任治

ジャアクキングの復活を知るプリキュア。

大事な友だちを守るため、立ち向かうブラック。

勢いあまって思わず絶叫するレギーネ。

怖くてついに泣き出してしまうポルン。

遊園地へ遊びに来てご機嫌なポルン。

遊園地に恐竜ザケンナーが現れた。

友情も深まり、ポルンの機嫌もなおった様子。

＊演出家からの一言>>>

「遊園地のシーンが大変でした。ザケンナーも恐竜タイプだったので、どこまで動かしていいのか、スケールの問題で苦労しましたね。遊園地という場所設定なので遊んでる子どもたちをもっと出したかったんですが、戦うときは人がいなくなりますから、あまりいじれなかったのが少し心残りです。闇の戦士たちがいる洋館はいつもより明るく、コミカルな芝居をさせてます。ここらできちんとキャラを立てておこうと思ったんです」（川田氏・談）

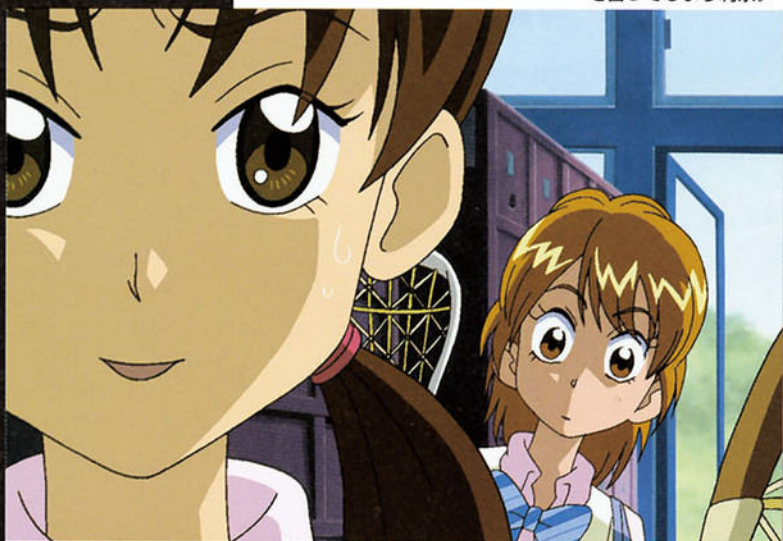
＊演出家からの一言>>>
「めずらしい莉奈と志穂の主役話なので、とにかくふたりの人間関係や個性をきちんと描こうと思いました。ここでは翔子＝レギーネの変身前と後のメリハリも極端につけてますね。また、ラクロスの試合シーンもスピーディに仕上がって、見せ方としてなかなかうまくいったと思いますよ」（岩井氏・談）

つい志穂にきついことを言ってしまう莉奈。

下級生の陰口に落ち込んでしまう志穂。

志穂の最近の不調を心配する親友の莉奈。

朝の練習に誘う莉奈であったが……。

志穂のことをアカネさんに相談する莉奈。

志穂はまだ立ち直ることができないでいた。

今朝のことをほのかに相談する莉奈。

志穂はもう部活には行かないと言う。

部活後もひとりで自主練習をする志穂。

STORY #33

Vゲット！ 心でつなげ光のパスライン!!

脚本／川崎 良　演出／岩井 隆央　作画監督／飯島 秀一

最近の志穂はなにか様子がおかしい。リーグ戦を勝ち抜けるかの重要なときに、練習もうわの空。心配になった莉奈は、この前の試合でミスをしたことをまだ気にしているのでは、と指摘する。志穂は違うと言い張るが、どうやら間違いではなさそうだ。練習後、後輩たちの「志穂先輩、マジやばくない？」という話を聞いてしまい、さらにショックを受ける志穂。翌日、志穂は練習に行かないと莉奈に言い出した。はっきりしない志穂に対して、「もうやめちゃえばいいのよ！」と、きつくあたってしまう莉奈。「やめる！」と言って立ち去る志穂を見て、自分が言ったことを後悔するのだった。

ラクロスの試合当日、志穂はまだ落ち込んだまま。なぎさと莉奈は、なんとか志穂を立ち直らせようと話し合う。と、そんなとき、なぎさは相手の御高倶女子中の部員から写真を撮ってほしいと頼まれる。しかしそれは、相手校の部員に変装したレギーネであった。すぐさまほのかも駆けつけ、プリキュアに変身！　ジュナとレギーネの連係攻撃に苦戦しつつも、ポルンの力もあり、なんとか撃退に成功するのだった。急いで試合会場に戻るなぎさ。残り5分、なぎさが加わったおかげでチームは勢いづく。しかし志穂はミスを思い出してしまい、うまくパスできない。そんな志穂に、なぎさと莉奈は「絶対捕るから！」「仲間を信じて！」と励ます。友だちの後押しに吹っ切れた志穂はパスを成功させ、最後にゴールを決めるのだった。

33

なぎさと志穂の間に光のラインが見えた！

「仲間を信じて！」莉奈の掛け声が飛ぶ。

敵の部員から写真を頼まれるなぎさ。

部員の正体は変装したレギーネだった！

ゴールを決め、部員から祝福される志穂。

レインボーストームがふたりを直撃！

フープダンスはとても評判がいい様子。

フープダンスの準備をするなぎさたち。

体育祭に向けリレーを練習するなぎさ。

34

もうすぐベローネ学院の体育祭。運動神経抜群のなぎさは、体育祭でも何かと注目の的になっている。そんななぎさを見てライバル心を燃やすベローネ学院のマドンナ・小田島友華先輩。「マドンナの意地にかけても勝ちはゆずれない……」

いよいよ体育祭当日、ほのかとなぎさは大忙し。一方メップル、ミップルも体育祭の雰囲気に触発され、興奮ぎみ。とくにポルンは、体育祭に参加したいらしく、勝手に外に飛び出してしまう。お昼休み、お弁当を食べようとしたふたりは、メップルたちがいないことに気づき大慌て。メップルとミップルは昇降口で見つけることができたが、ポルンがまだ見つからない。ポルンを捜して着いた先は音楽室。そこに現れたのは闇の戦士・レギーネだった！ピアノザケンナーで襲いかかってくるのに対し、プリキュアに変身して対抗するふたり。なぎさは空腹により力が出ず、苦戦を強いられるが、またも危険を察知したポルンの光のパワーによりレインボーブレスを装着、ザケンナーを倒すことに成功する。だが体育祭ではリレーがすでに始まっていることに気がつくふたり。なぎさは急いで競技場に戻る。

アンカーにギリギリ間に合ったなぎさ。相手のアンカーは友華先輩。はからずも実現した直接対決に全力で挑むふたり。ほぼ同時にゴール！　かと思われたが、なぎさが僅差で勝利をつかむ。納得のいかない友華先輩をよそに、早くお弁当が食べたいなぎさであった。

なぎさに対して対抗心を燃やす友華先輩。

司会進行と実況解説をみごとにこなすほのか。

なぎさのことがとても気になる支倉。

「アチチのチ」ポルンはまた何かを予言。

STORY #34
なぎさぶっちぎり！　炎のガチンコリレー

脚本／影山 由美　演出／山田 徹　作画監督／河野 宏之

なぎさに負けて納得いかない友華先輩。

ミップルとラーブラブできないメップル。

なぎさの食べっぷりに思わずほほえむほのか。

ピアノザケンナーに立ち向かうプリキュア。

ひとりでピアノを弾いているレギーネ。

ザケンナーのパワーで地面が割れる。

＊演出家からの一言>>>
「体育祭の話です。限られたスケジュールのなかでしたが、活気がある様子を描くのに力を入れました。同じく、ラストでなぎさが走るシーンなどにもカット割りなど見せ方を工夫したつもりです。難しかったのは小田島友華の存在で、ライバルというシチュエーションだけで、ドラマのなかにライバル感を表現する描写がなかったんです。そこを盛り上げるのが大変でした」（山田氏・談）

「ズキッときたぜ」支倉の熱い視線。

リレーでなぎさは友華先輩と一騎打ち。

なぎさの不在を心配して待つ弓子先輩。

＊演出家からの一言>>>

「突然出てきた支倉と、それも季節に合わせて栗拾いというシチュエーションに戸惑いました。シナリオは当初ドタバタギャグ的な作風で描かれていたんですが、西尾監督の意向に従い、ニュアンスを変えたんです。いきなり告白された人に対して年ごろの女の子がどんな反応をするのかという、なぎさの心情を深く描いたものになってます。なぎさにお弁当を作らせたのは、僕のアイデアです。また、お互いが傷つかない別れ方を西尾さんと考えました。ドラマ部分がシリアスになったのでバトルシーンは逆にいつもよりコミカルに描いています。ほのかもめずらしくおもしろキャラになっているでしょう。今までにはなかった描写を思いきってやってますよ」（立仙氏・談）

誕生日のプレゼントを聞かれて悩むなぎさ。

なぎさの様子を後ろから見つめるほのか。

支倉と栗拾いに行くことになるなぎさ。

栗のような格好をしたザケンナーが現れた！

ほのかとポルンもこっそりあとをつける。

突然支倉から告白され、あせるなぎさ。

突然吹いた強風にうずくまる支倉となぎさ。

結局、栗拾いを楽しんでいるなぎさ。

思わぬ展開になぎさは戸惑いを隠せない。

STORY #35

これってデート？　怒涛のハッピーバースデー

脚本／成田 良美　演出／立仙 裕俊　作画監督／はっとり ますみ

なぎさの誕生日を祝福する藤P先輩の笑顔。

あっさり心変わりした支倉は行ってしまう。

ザケンナーから必死で逃げるふたり。

願いがかなってなぎさはとっても幸せ。

気がついた支倉はブラックを目撃する。

お互いの今の気持ちを告白するふたり。

10月10日はなぎさの誕生日。志穂と莉奈に欲しいものを聞かれ、藤P先輩の笑顔を妄想し、ひとり興奮状態のなぎさ。ある朝の登校中、なぎさはバスケ部のエース・支倉から告白される。なぎさに体育祭で一目ぼれをしたというのだ。強引に栗拾いのデートに誘われてしまい、なぎさは戸惑う。しかもその日はなぎさの誕生日。ほのかに、なんとかしてほしいとすがるなぎさ。ちゃんとお断りしてきなさいと、なぎさを突き放すほのかであったが、ポルンの不吉な予言が気になり、結局変装してデートについていくのであった。

最初はぎこちなかったものの、徐々に打ち解けていくなぎさと支倉。それだけに、はっきりと告白を断れないなぎさがじれったいほのかは、支倉の隙をつきなぎさに接近、勇気づける。ほのかの後押しもあり、支倉の告白を断ろうとするなぎさだったが、突風とともにジュナが現れた！　風に飛ばされ気絶する支倉。栗ザケンナーで襲ってくるジュナに、ふたりはプリキュアとなって対抗、ザケンナーを撃退するのだった。

気絶した支倉であったが、戦いのさなか意識が戻り、黒服の少女、つまりキュアブラックを目撃する。支倉にとってその女の子が自分の理想のタイプらしく、あっさりとなぎさと別れ、どこかへ行ってしまうのだった。「どっちもあたしなのに……」落ち込むなぎさだったが、帰り道で藤P先輩から念願の笑顔をもらい、とてもよい誕生日になったのだった。

35

※演出家からの一言>>>
「執事ザケンナーの凸凹コンビが初登場ということで、彼らのキャラクターを強調してます。『トムとジェリー』のようなテンポでみせるドタバタを意識しました。反面、ベルゼイたちの登場シーンは不気味さを損なわないように注意しています」（矢部氏・談）

番人をしっかり見張る執事ザケンナー。

ミップルのほうも意固地になっている様子。

まぬけな執事ザケンナーにあきれる番人。

36

闇の戦士たちに捕らわれている石の番人・ウィズダム。番人が見たところ、館に今いるのは凸凹コンビのまぬけな執事ザケンナーだけ。ベルゼイたち闇の戦士がいない今こそ脱出の機会であると考えた番人は、執事ザケンナーをうまくけしかけ、閉じ込められている鳥カゴから脱出。みごと館から抜け出すことに成功するのだった。

一方のなぎさたちはほのかの家で宿題中。横ではメップルとミップルがラブラブ中。だがいつもポルンに邪魔されてしまう。邪魔するなとポルンをしかるメップルであったが、そのことが原因でミップルともけんかをしてしまう。なぎさとほのかはふたりを仲直りさせようとするのだが、ふたりとも意固地になってしまい、あやまろうとしない。そんな険悪な雰囲気が流れる中、突然ポルンが番人の声を聞く。番人の声が聞けて喜ぶ一同。さっそく花が一面に広がっているところにいるという情報を頼りに、番人を救出に向かう。だが、そこで待ち受けていたのはベルゼイであった。ベルゼイは番人はおろかポルンまでも捕まえ、ふたりに石の力のありかを問いつめる。絶体絶命かと思われたそのとき！　苦しんでいるポルンを見るのに我慢ができなくなったメップルは、自分を犠牲にしてまでポルンを助け出そうとする。そんなメップルの姿を見たポルンは力を振り絞り、光の力を発動させ、ベルゼイを撃退する。結局番人を取り戻すことはできなかったけれど、みんなの絆はいっそう深まったのだった。

館の中を掃除するのは執事ザケンナーの仕事。

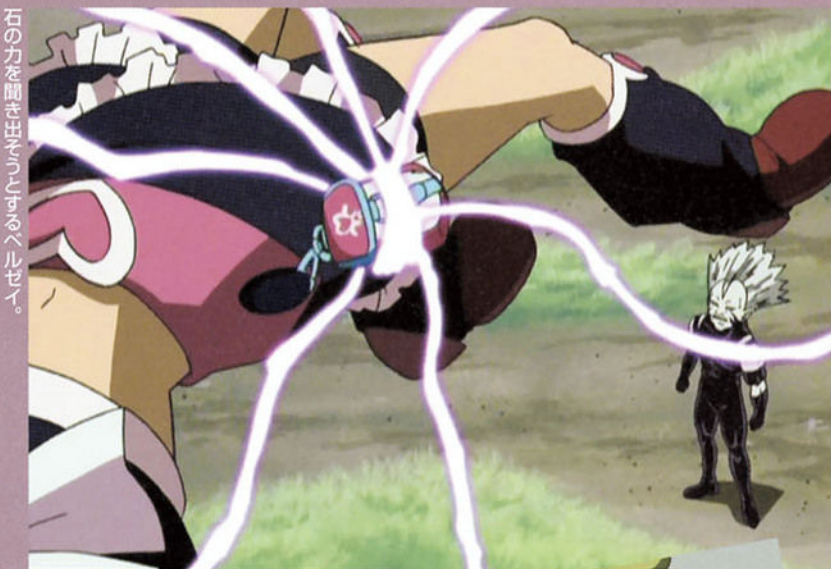
番人は相手が油断している隙に館から脱出。

ミップルとの会話を邪魔するポルン。

ミップルとけんかして、すねるメップル。

STORY #36

自由を掴め！　番人決死の大脱走

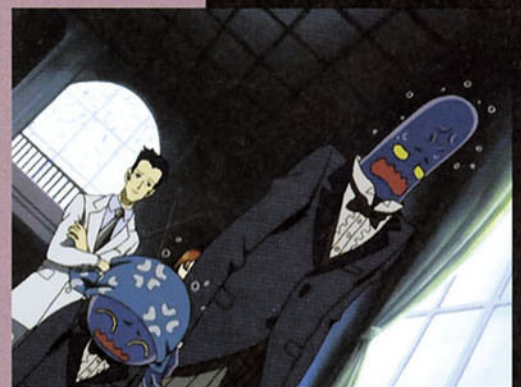
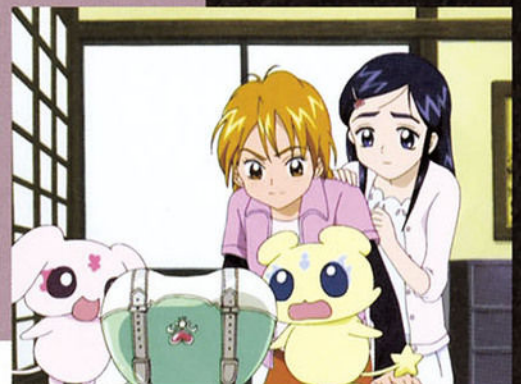
脚本／清水 東　演出／矢部 秋則　作画監督／東 美帆

石の力を聞き出そうとするベルゼイ。

助けられたポルンはメップルにキスをする。

メップルは自分を犠牲にしてポルンを助ける。

番人を捕まえようとする執事ザケンナー。

ベルゼイの攻撃に手も足も出ない。

番人に加えポルンもベルゼイに捕まる。

番人を逃がし、怒られる執事ザケンナー。

プリティコミューンの中から番人の声が聞こえてくる。

※演出家からの一言>>>
「みんなが見てる舞台上で戦闘という特別なシチュエーションでしたから、見せ方をどうしようかと、少々戸惑いました。でも、約束事をあまり突き詰めると動きがとれなくなってしまいますからね。西尾さんから許しも得ましたし、それならやっちゃえという感じで、芝居だと言い切らせたり、あまりにも突飛な状況なので藤Pなんかも気を失ってたことにしようとか、好きに楽しくやらせていただきました」（岡氏・談）

本番に向け劇の練習をするクラス一同。

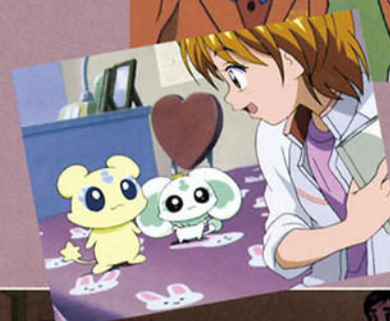
見よう見まねで歯磨きをするレギーネ。

ベローネ祭での配役を決める夏子と京子。

今日も校長と教頭はあまりかみ合わない。

つたない演技のなぎさをサポートするほのか。

演出の志穂は今回の劇に燃えている。

志穂の演技指導にもいっそう熱が入る。

ポルンにセリフを覚えさせようとするなぎさ。

ベルゼイは何かたくらんでいる様子だ。

STORY #37

いざ初舞台!! 負けるなロミオとジュリエット

脚本／羽原 大介　演出／岡 佳広　作画監督／川村 敏江

感動のクライマックスを迎えるのであった。

傷を負いながらもなぎさは敵に立ち向かう。

セリフを忘れて助けを求めるなぎさ。

ほのかは奇妙な兵士の正体に気づく。

大立ち回りを見せるなぎさとほのか。

藤P先輩のことをからかわれむきになるなぎさ。

毎年恒例のベローネ祭、2年桜組は演劇『ロミオとジュリエット』をやることに。ロミオ役になぎさ、ジュリエット役にほのか、演出は志穂が担当することになる。だがなぎさは演技にまったく自信がなく、セリフもつっかえてばかり。志穂からもきついおしかりの言葉がとぶのだった。

なぎさの演技は不完全なまま、ついにベローネ祭当日。両親に加え、憧れの藤P先輩まで舞台を見に来ていて、なぎさは緊張でガチガチ。本番のときにセリフを忘れてもいいように、ポルンに台本を覚えてもらい、こっそり教えてもらう作戦も立てたのだが、案の定ポルンは役に立ちそうもない。舞台に立ち、ますます混乱するなぎさ。と、そこに現れたのは鎧(よろい)に包まれたザケンナー！　舞台に立っているため、変身することができないふたり。観客はザケンナーとの戦いを、迫力ある劇の演出と勘違いしているようだ。だが、ジュナも現れ変身しなければ危険だと判断したふたりは、今なら観客が劇だと思いこむだろうと考え、ついに変身をするのだった。一度はなぎさが深手を負うものの、「逃げちゃだめ！　あきらめたらだめなのよ！」と深い決意を胸に立ち向かい、ザケンナーとジュナを撃退するのだった。

舞台のほうはいよいよフィナーレ。どうやら変身もばれてはいない様子。「きっと、ふたりで力をあわせれば！　明るい未来が見えてくる！」ふたりは迫真のクライマックスを演じきり、観客は大盛り上がり。劇は大成功を収めるのだった。

ミップルとメップルが亮太に助け船を出す。

父からお使いを頼まれるなぎさ。

自分ひとりでも大丈夫と言い張る亮太。

亮太の動向に一喜一憂する、なぎさとほのか。

亮太のひとりでのお使いがとても心配な母。

会社へ行く電車を間違えてしまう亮太。

亮太の到着を心配そうに待っている岳。

38

日曜日、なぎさはほのかとショッピングの予定。そこに父・岳から、会議に使う大事な書類を会社まで届けてほしいと頼まれてしまう。しかたなくほのかとの約束を断り会社に向かおうとするなぎさだったが、そんな様子を見た弟の亮太は「ぼくが行く！」と言い出す。自信満々の亮太だったが、なぎさは心配でしかたがない。一度は亮太にまかせたものの、あとをつけることに……。一方、闇の戦士は館で作戦会議中。ベルゼイはポルンの隠された力に気がつき始めたようだ。レギーネはそれをたしかめるためプリキュアのもとに向かうのだった。

予想通り、亮太は道を間違えてばかり。なぎさとほのかは大慌てで亮太を正しい道に誘導する。だが岳の会社に着いたと思いきや、隣のビルに迷い込んでしまう亮太。追いかけてビルの中に入るふたりの前に立ちはだかるのはレギーネ！レギーネはパソコンザケンナーとともにポルンの出す光のパワーについて問いつめる。ふたりが分断されたり、ブラックがビルから外に落とされそうになったりと、苦戦するプリキュア。そんなふたりを助けたのはまたしてもポルンの光の力。レギーネを撃退し、亮太も無事書類を届けることができたのだった。

夜、亮太がちゃんと書類を届けられたことをほめる両親。亮太もほめられ有頂天。なぎさは自分の苦労をわかってもらえないことが不満な様子。だが岳はちゃんとなぎさのことに気づいていた。そんな父の気持ちがとてもうれしいなぎさだった。

STORY #38

ガッツでGO! 亮太のおつかい大作戦

脚本／川崎 良　演出／山吉 康夫　作画監督／青山 充

父にほめられ、とても自慢げな亮太。

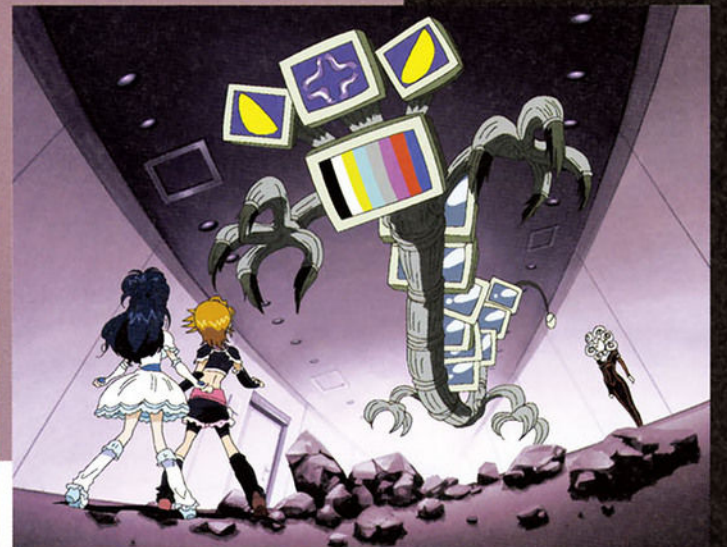
おびえて、かばんの中でうずくまるポルン。

なぎさの優しさに触れてうれしい亮太。

アナウンスで亮太を誘導するなぎさ。

なぎさも父の気持ちがとてもうれしい。

ザケンナーの熱光線がプリキュアを襲う！

うれしくてブラックに抱きつくポルン。

パソコンザケンナーがプリキュアに迫る。

※演出家からの一言>>>

「お父さんが働いている隣のビルが闇の戦士たちとの戦闘の場になってますよね。すぐ下の階では亮太がウロウロしてるし、日曜だから人はいないにしても、戦いを他の人間に気づかせるわけにはいかないでしょう。そのあたり、嘘にならない程度にカットを組み立てていくのに苦労しました。それと亮太役の声優さんが声の調子が悪くて、せっかくの主役話なのにかわいそうでしたね」（山吉氏・談）

＊演出家からの一言>>>

「これもモブシーン（群衆シーン）が多かったですね。戦いは式場の中で、先生や同級生たちは庭にいるので、そのあたりに気を遣いましたが、女の子が憧れる結婚式がテーマでしたから、楽しくやらせていただきました。生徒たちが先生へのプレゼントのキルトを作るシーンは脚本の影山さんから細かいウンチクをお聞きしました（笑）。僕もインターネットで調べたりしたんですが、なかなか難しかったですね」（川田氏・談）

美術部の真由はキルトのデザインを考える。

先生をやめるのではと心配する聖子。

結婚することになった担任のよし美先生。

先生へのお祝いのプレゼントを提案する唯。

キルト製作を踊りでごまかすクラス一同。

藤P先輩の妄想に胸を膨らませるなぎさ。

プレゼントはキルト細工に決定。

昼食の時間も、先生の結婚話でもちきり。

STORY #39
涙キラ！ 汗がタラ！ 結婚式は大騒動!!

脚本／影山 由美　演出／川田 武範　作画監督／爲我井 克美

学校に遅刻したなぎさ。よし美先生に怒られるかと思いきや、今日はなんだか寛大。「竹ノ内よし美、このたび結婚することになりました！」突然の発表に驚くクラス一同であったが、どうやら先生は結婚で学校をやめたりはしないようだ。よし美先生の結婚を祝うために、クラス一同で何かプレゼントを作って贈ろうということになる。作るものはみんなで布を持ち寄って作るキルト細工。デザイン画担当の真由や、裁縫上手の夏子、京子など、自分の得意な分野を生かし、よし美先生に知られないようにしながら、着々と作業は進んでいく。

いよいよ結婚式当日。なぎさとほのかはよし美先生を驚かせようと、こっそりプレゼントのキルト細工を結婚式の準備室に運び、自分たちの出番を待つ。だがそこに現れたのはまたしても闇の戦士・ジュナであった。「今日はよし美先生の大切な日。あんたなんかに邪魔はさせない！」結婚式などという行事には、なんの意味もないと言うジュナに対し、幸せの価値を必死に叫ぶプリキュア。「今日が、よし美先生にとって、永遠に記憶に残る、最良の一日にするために！」ふたりの放った渾身の「プリキュアマーブルスクリュー」がジュナを撃退する。プレゼントを急いで確認するふたりだったが、どうやら無事。途中からクラスのみんなとも合流し、先生に直接プレゼントを手渡すことに。よし美先生もとても喜んでくれた様子で、結婚式は大成功だった。

結婚式会場にも闇の戦士が現れた！

先生を思う気持ちがプリキュアを強くする！

先生へのプレゼントは大成功に終わった。

クラス全員の気持ちがこもったキルト細工。

よし美先生の幸せのために戦うふたり。

両者一歩もゆずらない攻防がつづく。

＊演出家からの一言>>>

「夢の中の話なので、現実と夢とのシンクロを試みてみました。Bパート冒頭のキリヤのシーンがちょっと唐突に見えるかもしれませんね。視聴者を驚かせようとしたんですが、ほのかの寝てる顔を入れてからのほうがわかりやすかったでしょうか。シナリオではなぎさとほのかは別々に寝てることになってて、ほのかが布団を干すシーンもちゃんとあるんですが、仲良しだから同じベッドに寝るだろうと変更したんです。一応、畳んだ布団もワンカット入れてありますけどね」（岩井氏・談）

お泊まりに誘われて、おおはしゃぎのなぎさ。

チョコをかかえたなぎさに驚くほのか。

なぎさに包丁の使い方を教えるほのか。

夕食、いつしか話題はほのかの恋の話へ。

正しいマナーで食事する闇の戦士たち。

志穂、莉奈、ユリコも一緒に遊びに来た。

40

ほのかの祖母・さなえが一晩家を留守にすることになった。さなえは留守番をするほのかに、「お友だちに来てもらったら？」と提案する。ほのかはそのことをなぎさに話し、なぎさはもちろんOK！ そのころ、闇の戦士の館では、すこし違った動きが……。「石の力を手に入れるのはジャアクキング様のためだけじゃない……」ベルゼイは何をしようとしているのか。

お泊まり当日。なぎさに加え、志穂、莉奈、ユリコも様子を見にやってきた。一同は一緒に夕食を作ることに。だがなぎさは料理を作らず、応援しているだけ。みかねたほのかは、なぎさに料理を指導する。その様子を見たほかの3人は「母親と子どもだね」と、うなずきあう。夜、ほかの3人は帰り、なぎさとほのかのふたりだけになる。ふたりは布団の中で、今までのことを思い出していた。プリキュアになったこと、ケンカしたこと、キリヤのこと……。なぎさはほのかに、「私、頼りないけど、ずっとほのかのそばにいるから……」と言い、ふたりの絆の強さをたしかめあい、眠りにつくのだった。

夢の中でなぎさは藤P先輩に出会い、一方のほのかは大自然で実験をしていた。とても楽しい夢かと思われたが、そこに現れたのはベルゼイ！ ベルゼイの攻撃を必死に耐えるふたり。コミューンがなければ変身できないため、どうすることもできない。だが、ポルンが危機を察知し、夢の中にコミューンを届ける！ 変身し、ベルゼイを撃退するプリキュア。翌日、手をつないで眠るふたりを見てほほえむさなえだった。

STORY #40

夢の世界へご招待!? 一泊二日闇の旅

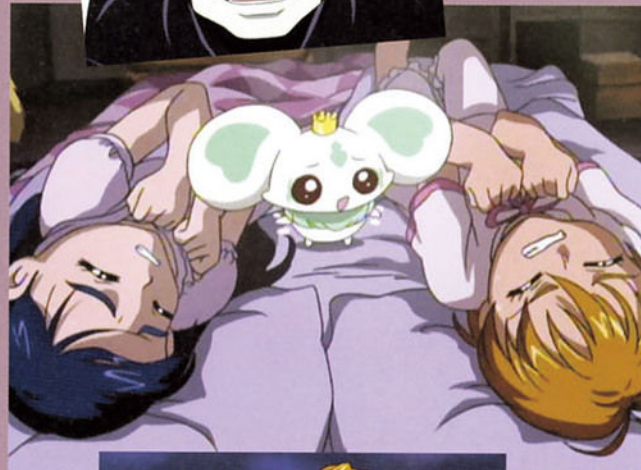
脚本／成田 良美　演出／岩井 隆央　作画監督／高橋 任治

ポルンの力によってコミューンが夢の中に！

強い絆で強力になるマーブルスクリュー。

ふたりの夢はベルゼイによるものであった。

うなされるふたりを起こそうとするポルン。

不安になるほのかを、なぎさは勇気づける。

夢の中で王子様姿の藤P先輩と会うなぎさ。

朝、ふたりの手はしっかりとつながれていた。

夢の中ではコミューンによる変身ができない。

大自然で実験にいそしむ夢の中のほのか。

屋上でふたりを待っていたのはジュナ。

なぎさがいないことに誰も気づく様子がない。

先輩たちのためにも、絶対に負けられない。

自信満々な御高倶女子中ラクロス部。

決勝戦に向けて気合いが入るなぎさたち。

3年生にとってはこれが中学生最後の試合。

「頑張るポポ～」ごまかすほのか。

鬼気迫るジュナの攻撃に苦戦するふたり。

強い風に飛ばされてしまうほのかたち。

ベルゼイの行動にイライラするジュナ。

STORY #41

負けないってばー!! 闇の力をぶっとばせ!

脚本／清水 東　演出／立仙 裕俊　作画監督／飯島 秀一

＊演出家からの一言>>>

「ラクロスというスポーツに対する知識がなくて苦労しました。他の話数からカットを流用させてもらったり、ビデオも参考にしたんですがなかなかピンとこなくて。自分ではなんとなくイメージするんですが、それを作画の人に伝えるのが大変でした。
それと、ジュナが闇の力に侵されていくというイメージ作りにも苦労しましたね。闇の力をどう表現したらいいのか考えました。そういえば、ジュナは、ラクロスの試合中、なぎさを別の場所へ呼び込むんだけど、同級生たちはなぎさがいなくなったことに気づかないでしょう。敵なのに気を遣う奴だなぁと、そのあたりも戸惑いながらやってました」（立仙氏・談）

今日はラクロスのトーナメント決勝戦！　試合の相手は宿敵、御高倶女子中学。今までの苦しい練習の成果を出すため、何よりも先輩たちの最後の試合をいい形で終わらせるため、なぎさは気合いが入る。そのころ、闇の戦士たちは深刻な雰囲気で館にいた。ベルゼイは、すべてを食い尽くす闇の力が自分たちにも迫ってきているとジュナとレギーネに説明する。しかし、ジュナはベルゼイの話に耳を貸そうともせず、ひとりで行ってしまう。

いよいよ決勝戦の笛が鳴らされた！　序盤、なぎさの強烈なシュートにより、ベローネ学院が先制をする。勢いに乗るチーム。突然そこに、奇妙な風が吹く。風はコート一面に吹き、なぎさを消し去ってしまう。観戦していたほのかは、なぎさが消えたことに驚く。そして次の瞬間、ほのかも消え去ってしまう。ふたりが現れた先はグラウンド近くのビルの屋上。試合に戻りたいなぎさに、ジュナは問答無用で襲いかかってくる。変身して応戦するふたりだったが、ジュナは突然苦しみだしたかと思うと体中から闇の力を放出し始めたのだ。強力な闇の力に「プリキュアレインボーストーム」までもがかき消され、絶体絶命のふたりにポルンは石自体を放出、闇の力を打ち消した。その後、急いで試合会場に戻ったなぎさはチームに合流し、延長戦の末、勝利することができたのだった。ボロボロになって館に帰ってきたジュナ。ベルゼイは、石の力がポルンの中にあることをついに知る。「謎はすべて解けた」とベルゼイは、つぶやく……。

突然闇の力を放出しながら苦しみだすジュナ。

なぎさの活躍もありチームは勝利する。

延長戦に向けて、ひとつになるチーム。

「謎はすべて解けた」不敵に笑うベルゼイ。

ボロボロになりながら館に帰還するジュナ。

ほのかのウンチクに、志穂と莉奈はぼうぜん。

光の園の長老の話を聞く、なぎさとほのか。

ウンチクは、ほのかなりの冗談だった。

自分にとって大事なことを聞く、アカネさん。

ひとりごとを聞かれて、あわてふためくなぎさ。

終わらないしりとりをするミップルたち。

42

闇の戦士たちは、ついにポルンの中に石の力を見つけた。彼らはジャアクキングのためではなく、自分たちの自由のためだけに"すべてを生み出す力"を使うことを決心する。その行為はジャアクキングへの重大な裏切りを意味するのだった。「あんたたちにとって大事なことってなに？」アカネさんの質問に考え込むなぎさ。ほのかと合流したあとも、その質問に悩む。と、そこにまたしてもジュナとレギーネが立ちはだかった！　変身して応戦するふたり。いつもと様子が違う闇の戦士はふたりの一瞬の隙をつき、ほのかを闇の空間へ連れ去ってしまう。分断され、ひとりになってしまったブラックは、ホワイトを捜して街中を駆け回る。だがホワイトの姿はどこにもなく、「おまえたちはひとりでは何もできない」と言うベルゼイの言葉に打ちのめされるブラック。

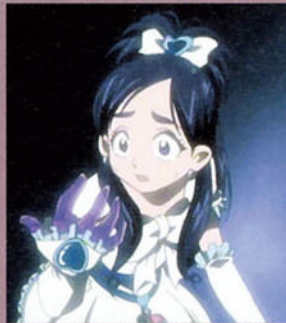
精神的ダメージをかなり受けながらも、ホワイトを捜すことをやめないブラック。そんなブラックの前にジュナが立ちはだかる。ジュナの挑発に「ほのかに何かあったら許さない！」と、ブラックは怒りを爆発させ、ジュナを退ける。そしてついにホワイトを覆っていた闇の壁を撃破！　ホワイトを救出し、絆を再確認したふたりに敵はいなかった。絶妙のコンビネーションで攻撃を繰り出し、ジュナとレギーネを撃退するのだった。「いちばん大事なもの……、大切な人を大事に思う、そんな自分の気持ちを大事にしていくこと」戦いのあと、なぎさはそう思うのだった。

STORY #42

二人はひとつ！　なぎさとほのか最強の絆

脚本／羽原 大介　演出／西尾 大介・座古 明史　作画監督／はっとり ますみ

「ほのかのこと言ってんの！」叫ぶブラック。

すこしずつ闇にのみこまれていくホワイト。

ひとりになり、動揺を隠せないブラック。

なぎさとほのかにつめよる闇の戦士たち。

怒りにふるえるブラックはジュナに突撃する。

息も絶え絶えな様子のミップル。

闇の空間に閉じ込められ苦しむホワイト。

捜し疲れたブラックは、うずくまってしまう。

一瞬のうちにホワイトが連れ去られてしまう。

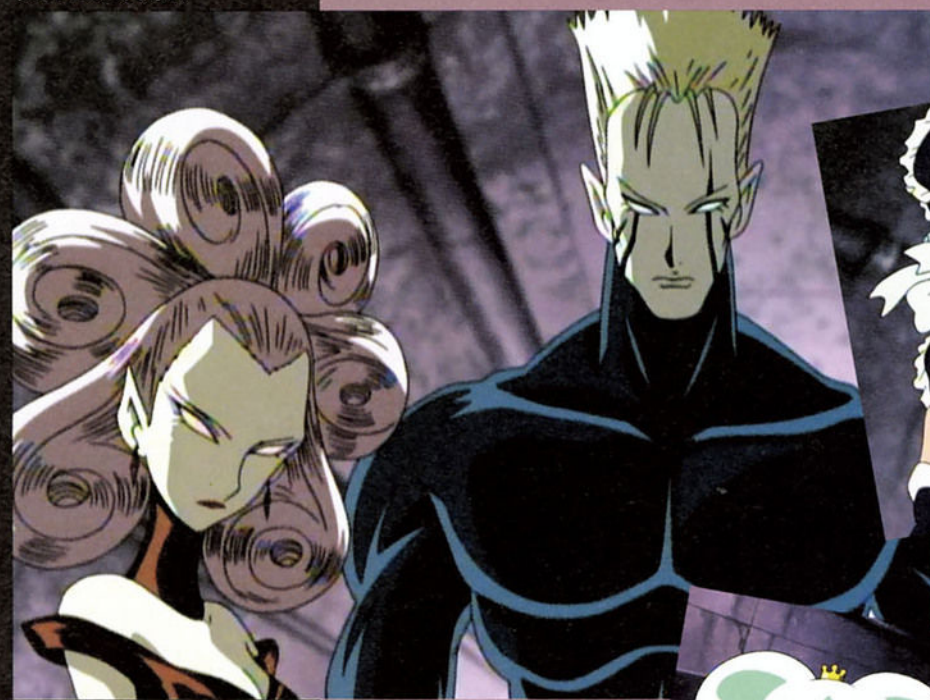
＊演出家からの一言>>>

「西尾さんの絵コンテということで、チェック、アフレコ、ダビングすべてにプレッシャーを感じましたが、仕事としてはやりがいがありました。戦闘シーンの曲をはじめ、BGMの選曲に関しても僕のイメージが出せたと思います」(座古氏・談)

ホワイトと合流し元気を取り戻すブラック。

ブラックの頭を優しくなでるホワイト。

ミップルを励ますホワイトの言葉。

ジュナとレギーネも今までになく真剣だ。

ブラックとホワイトの息の合った合体攻撃。

地上から叫びながら落ちてくるポルン。

大勢のザケンナーを倒していくブラック。

壁を打ち破ることに成功するブラック。

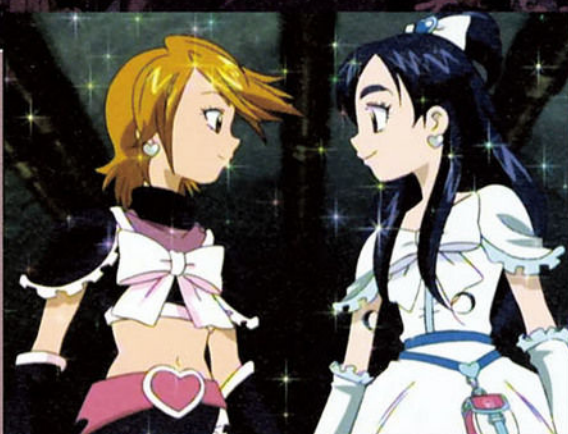
レインボーブレスを装着したふたり！

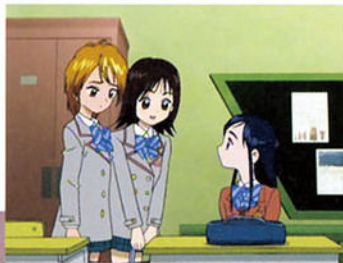
パワーアップしたプリキュアの攻撃が炸裂！

今のプリキュアは誰にも止められない。

なぎさは自分の大事なものを見つけたようだ。

3人息を合わせての掛け声。

まぶしい笑顔のなぎさだった。

敵を退け、顔を見合わせてほほえむふたり。

学校にいっしょに登校するなぎさとほのか。

藤P先輩についてほのかに聞くふたり。

ほのかにからかわれ赤くなるなぎさ。

自分の気持ちに素直になれないなぎさを心配するほのか。

元気のない唯を見て、なぎさは心配する。

ほのかに八つ当たりをしてしまうなぎさ。

落ち込むなぎさに優しく声をかける藤P先輩。

43

最近、クラスメイトの唯はなにか悩んでいる様子。心配になったなぎさは、唯の悩みを聞く。しかしその悩みとは、藤P先輩が好きで誕生日のプレゼントに何を渡そうか、というものだった。自分も藤P先輩が好きななぎさは一瞬躊躇するものの、唯のプレゼント選びを手伝う。その様子を見たほのかは、なぎさを心配する。「自分の気持ちに素直にならなきゃ……」と言うほのかに、どうしてよいかわからないなぎさはつい、八つ当たりをしてしまう。帰り道、落ち込むなぎさのところに現れたのは藤P先輩。なぎさはそこでも優しく声をかけてくれる藤P先輩に、強く当たってしまう。本心とは逆の自分の行動と、藤P先輩の優しさに、泣いてしまうなぎさ。家に帰っても落ち込むなぎさに、メップルは「勇気を出すメポ！」と励ます。そんなメップルの後押しもあり、なぎさは今の自分の気持ちを手紙に書くのだった。短い文章ではあるものの、それでも書けたことに喜ぶなぎさ。

誕生日当日、唯はお守りを手渡し、自分の想いを言葉にして藤P先輩に伝える。その言葉はなぎさが昨晩必死になって書いた文章と同じ内容であった。ショックを受け、その場から逃げ出すなぎさ。土手で落ち込んでいるところに、レギーネが現れた！　ブラックは精神的に戦える状態ではないものの、ホワイトの危険には必死で立ち向かい、敵を退ける。そんななぎさを気づかって、ほのかは笑顔でなぎさに接するのだった。

STORY #43

激揺れまくり！ 藤P先輩に届けこの想い

脚本／成田 良美　演出／矢部 秋則　作画監督／東 美帆

＊演出家からの一言>>>

「本作では意外にめずらしい正統的な恋愛話で、顔の表情や指のアップなどで繊細な感情表現を試みました。執事ザケンナーのシーンはシナリオにはないんですが、プロデューサーの意向で追加したものです。また、ラストのほのかがなぎさを慰めるシーンも、友情を強調するため追加したシーンです」（矢部氏・談）

傷心のなぎさにレギーネが襲いかかる。

悲しみのあまり本来の力が出せないブラック。

夕食の話でなぎさを元気づけようとするほのか。

自分の気持ちを心をこめて手紙に書く。

藤P先輩の優しさになぎさは思わず涙。

なぎさの力になりたいと考えるほのか。

唯の言葉は自分の手紙と同じ内容だった。

藤P先輩にお守りを渡そうとする唯。

落ち込むなぎさをメップルは励ます。

＊演出家からの一言>>>
「キリヤが再登場する話ですね。キリヤが今までどこにどうしていたのかがこの時点ではわかりませんでしたから、あえて表情が読みとれるアップは使わず、引きで見せたんです。雪だるまザケンナーにブラックとホワイトが回転しながら突っ込むアイデアは西尾さんも気に入ってくれたようで、コンテにハートマークがついてました」（山吉氏・談）

ふたりで一緒に作った雪だるまが完成！

「雪だるま好き？」あぜんとするなぎさ。

藤P先輩を巻き込んだことが許せないなぎさ。

藤P先輩との雪だるま作りに上機嫌ななぎさ。

藤P先輩に告白を断られたことを話す唯。

パーティでの4人、なぎさはガチガチ。

藤Pから雪だるま作りに誘われる木俣。

スピカールを呼び出したメップルとポルン。

ロマンチックなクリスマスを演出するメップル。

クリスマスに現れるのは子どもだと言うポルン。

STORY #44

最高ハッピー!?　なぎさのホワイトクリスマス

脚本／川崎 良　演出／山吉 康夫　作画監督／河野 宏之

先日の藤P先輩の誕生日の一件から、なぎさは何かと沈みがち。それを見たメップルとポルンは、なぎさを元気づけるため、ロマンチックなクリスマスを演出しようとする。だがポルンは、サンタの意味もわからず、「サンタはおじいちゃんじゃなくて子どもポポ」と意味深な言葉を残すのだった。一方、闇の戦士たちはジャアクキングに対抗するための準備を着々と進める。「もはや我々は、ジャアクキング様に遠くおよばない存在ではない」と余裕たっぷりのベルゼイ。

今日はベローネ学院のクリスマスパーティ。夏子、京子が激しく踊る中、なぎさもダンスに参加しようとする。そこにやってきたのは唯。藤P先輩に告白したけれど、断られてしまったと話す唯に、少しほっとするなぎさ。ダンスも一段落し、藤P先輩たちと合流したなぎさとほのか。みんなで楽しく話したあと、ほのかは木俣先輩にダンスに、なぎさは藤P先輩に雪だるま作りに誘われる。藤P先輩と楽しく雪だるまを作っているところに、またもベルゼイが現れた！　ベルゼイの狙いはポルンであると感じたプリキュアのふたりは、必死でポルンを守り、ベルゼイを撃退する。戦いも終わりかと思われたそのとき、闇のひずみから現れたのはなんとキリヤ！　キリヤは、これからとてつもないことが起きる、とだけ言い残し、ほのかの呼び止める声もむなしく消えてしまう。これからのことに多少の不安はあるけれど、メップルとポルンの演出により、藤P先輩との幸せなクリスマスを過ごすことができたなぎさだった。

44

なぎさにとって忘れられないクリスマスイブに。

藤P先輩とふたりきりでなぎさは幸せ。

雪玉を転がして攻撃するザケンナー。

ベルゼイに捕まってしまうポルン。

闇のひずみの中から突然現れたキリヤ。

キリヤとの再会に動揺を隠せないほのか。

＊演出家からの一言>>>
「みんなが歌ってる間にプリキュアは地下で戦うという構成に苦労しましたね。合唱シーンはSMAPの草彅剛さんが主演したドラマ『僕の生きる道』での合唱シーンを参考にしたんです。ラストも合唱で締めて荒技ですがうまく形になったと思います。あの合唱は、先に本名さん、ゆかなさんたち数人で別録りしたものに、もう一度アフレコ現場にいた皆さんに歌ってもらってそれをかぶせて使ってます。録音編集が大変だったと思いますよ」（川田氏・談）

合唱コンクールに向けて張り切る一同。

いい感じの曲を見つけ、喜ぶなぎさと千秋。

お茶の用意をする執事ザケンナーたち。

千秋は曲のアレンジについて悩んでいた。

聖子のピアノ伴奏もまったく問題ない様子。

千秋はコンクールの選曲に悩んでいた。

45

ベローネ学院校内合唱コンクールで優勝し、西部地区中学合唱コンクールの切符を手にした2年桜組。校内コンクールのときから、先頭に立ってクラスを引っ張ってきた千秋を中心に、練習に精を出す一同。だが、いちばん張り切っているはずの千秋は、なんだか浮かない顔。帰り道、なぎさはCDショップにいる千秋を見かける。なぎさはそこで、優勝するために、楽曲の変更をしたいという千秋の考えを知り、一緒に新たな曲を探すのだった。

なぎさの協力もあり、新たな曲のクラスでの反応は上々。あとは練習あるのみ！　だが、千秋は練習に来なくなってしまう。心配になったなぎさとほのかは千秋の家に様子を見に行く。千秋は曲のアレンジがうまくいかないことを悩んでいた。なんとか千秋を元気づけようと歌を口ずさむふたり。ふたりの歌声を聞き、ひらめいた千秋は、ふたりのソロパートを追加することを提案、元気を取り戻す。

コンクール当日、いよいよ練習の成果を見せるときだ。そのとき、なぎさとほのかはジュナとレギーネの姿を見つける。ほうってはおけないふたりは、変身して戦うことに。一方、なぎさとほのかがいないことに気づいたクラス一同は、ソロパートの代役を立てて舞台に立つ。いきなり代役を頼まれた志穂と莉奈はあせりの色を隠せない。そしてソロパート直前！　戦いを終えたなぎさとほのかが間一髪、舞台に駆けつけた！　ソロパートも無事にこなし、コンクールは大成功のうちに終わったのだった。

STORY #45
歌えさくら組！ 合唱は勇気を乗せて

脚本／影山 由美　演出／川田 武範　作画監督／青山 充

なぎさとほのか抜きで本番が始まる。

ごく普通の日常を守るためにふたりは戦う。

なぎさとほのかがいなくなり、あわてるクラス一同。

メップルたちも歌を楽しんでいるようだ。

千秋を元気づけるためふたりは歌う。

なんとか敵を退け、急いでクラスに合流する。

「ほんとさくら組って最高！」ふたりの笑顔。

ソロパートに間に合ったふたり、合唱も大成功！

本番に向け、一丸となるクラス一同。

※演出家からの一言>>>
「最終回へ向けてのシチュエーションの説明を入れなければならなかったので、ドラマ描写が少なく、盛り上げるのに苦労しました。この回では、最終決戦に挑むふたりの決意の表現には力を入れました。ふたりが夕陽を見つめながら楽しかった日常を回想して、死ぬかもしれないけど行かなければならないと決意するまでのシーンは、音楽もマッチしてなかなか感動的に仕上がったと思います」（山田氏・談）

ベルゼイの策略に気づくプリキュア。

闇の戦士たちに捕らえられてしまうポルン。

石の力をもとに戻す儀式を始めるベルゼイ。

「時は来た……」立ちふさがるベルゼイ。

プリキュアを助けようと飛び出したポルン。

すべてを食い尽くす力に侵食され苦しむジュナ。

番人をカゴの中から出すベルゼイたち。

なぎさの年賀状を見てほほえむほのか。

朝、話題はなぎさの年賀状に集まる。

STORY #46

サイアク〜！ 石の力が奪われた〜!?

脚本／清水 東　演出／山田 徹　作画監督／川村 敏江

強大な敵との戦いを前に不安になるほのか。

「行かなきゃいけない！」決意するなぎさ。

プリキュアに変身、敵の本拠地へ乗り込む！

ついに石の力が奪われてしまった……。

今後の戦いに向け思いをひとつにする。

クラスでのなにげない日常の風景。

年が明けて新学期、久しぶりに友だちとも会い、楽しいときを過ごすなぎさとほのか。なぎさの奇抜な年賀状のこともあり、話は大いに盛り上がる。そこに、またしても闇の戦士たちが現れた。プリキュアに変身して応戦するふたりだったが、すべてを食い尽くす力に蝕まれかけている闇の戦士たちは、すべてを生み出す石の力を手に入れるため、これまでにない勢いで攻撃を繰り出す。その気迫に押され、苦戦するプリキュア。その様子を見たポルンは、ふたりを光の力で助けようと草むらから飛び出す。それを見たベルゼイはすかさずポルンを捕まえてしまう。ポルンが人質にとられているため、うかつに動けないプリキュアを前に、闇の戦士たちは石の番人を呼び寄せ、石に力を戻す儀式を始める。そしてベルゼイは、番人の能力を読みとり、石の力を戻す呪文を唱えた。「七つのプリズムストーンの力、あったところへ戻れ！」ついに石の力が闇の戦士の手に渡ってしまった！

石の力が奪われ、どうしたらいいかわからないなぎさとほのか。だが、番人を助け、石の力を取り戻すことができるのは自分たちしかいない、そう感じたふたりは、ドツクゾーンへ乗り込むことを決意。「どんなことがあっても、私たちは一緒」ふたりは絆を再確認するのだった。「今度ばかりは本当に何が起こるかわからない……。でも行かなきゃいけない！」友だちの笑顔や大切な場所、大切な思い出を守るため、ふたりはプリキュアに変身する！

46

石の力を取り戻すためプリキュアが登場する！

家具を急いで片付ける執事ザケンナー。

石の力を体に取り込む闇の戦士たち。

47

ついに、すべてを生み出す石の力を手に入れた闇の戦士たちは、館で石の力を自分の中に取り込むための儀式を始める。そこに、あとを追いかけてきたプリキュアが駆けつける！　しかし、儀式の周りには強力な結界が張られていて、近づくことができない。それはかりか、ベルゼイに捕らえられ、手も足も出ない。
儀式は着々と進み、ついに闇の戦士たちは石の力を手に入れてしまう。その様子を見ていたジャアクキングは、自分が裏切られたことに気づき、怒り心頭。闇の戦士たちを強力なパワーで空に吸い上げると、ドツクゾーンに呼び寄せる。そんな事態にも、闇の戦士たちは石の力を手に入れた余裕か、自信満々である。
一方のプリキュアも、あとを追ってドツクゾーンへとたどり着いていた。ジャアクキングのもとへ向かう闇の戦士たちを呼び止め、立ち向かう。だが石の力を手に入れた彼らは、とても太刀打ちできるような相手ではなく、まったく歯が立たない。「この戦いを早く終わらせて、自分らしく自由に生きたい！」そんななぎさの言葉もむなしく響くばかり……。
プリキュアをよそに、闇の戦士たちは、自分たちの自由を勝ち取るため、ジャアクキングと対峙する。石の力を闇の戦士ごと取り込もうとするジャアクキングに対し、融合して巨人になることで、立ち向かう闇の戦士たち。そのパワーはすさまじく、プリキュアも巻き込まれてしまう。そんな危機から、ふたりを救ったのは、なんとキリヤだった……。

あわてる長老を落ち着かせるクイーン。

プリキュアまでも捕まり、儀式は順調に進む。

ついに闇の力を手に入れた闇の戦士たち。

STORY #47
最強戦士登場！ っても～ありえない!!

脚本／影山 由美　演出／岩井 隆央　作画監督／生田目 康裕

※演出家からの一言>>>
「闇の戦士3人が巨人になるための伏線の話だったので、難しかったですね。シナリオではもう少しプリキュアと巨人との戦いが描かれてるんですが、そこは次回に引っ張ろうと思ってカットしたんです。巨人の描写は48話のAパートのコンテがすでにあがってましたから、そちらを参考にしています。ラストのキリヤも、シナリオではちょっとほほえむ描写があるんですが、あえて無表情に、謎のままで終わらせています」（岩井氏・談）

館に取り残されてしまうポルンと石の番人。

石の力をもつ闇の戦士に、歯が立たない。

ふたりが飛ばされた先はドツクゾーンだった。

ひとつになり融合する闇の戦士たち。

自分らしく自由に生きたいと叫ぶブラック。

ふたりを助けたのはキリヤだった……。

闇の戦士の前に現れたジャアクキング。

闇の戦士を止めようとするプリキュア。

石の力を手に入れ余裕たっぷりの3人。

巨人に立ち向かうプリキュア。

強大な闇の力にどうすることもできない。

ポルンと番人のふたりが光の力を送る！

プリキュアの固い決意に、キリヤは驚く。

石の力をめぐり戦う、巨人とジャアクキング。

突然の再会に驚きを隠せないホワイト。

闇の巨人とジャアクキングの壮絶な戦い。

レインボーブレスにより互角に戦うふたり。

これからどうなるのか、キリヤに聞くブラック。

STORY #48

史上最大の決戦！ プリキュア最後の日!!

脚本／川崎 良　演出／山内 重保・座古 明史　作画監督／高橋 任治

激しい爆発から、ブラックとホワイトを助けたキリヤ。キリヤは、すべてを生み出す力を手に入れた闇の力を止めることはもうできないとふたりに話す。運命には逆らえないと言うキリヤに、「自分たちの運命は自分たちで切り開く！」と、あきらめない意志を見せるプリキュア。ふたたび戦いの地へ向かう。ジャアクキングと巨人の激しい戦いに割って入ったプリキュアは、ありったけの力で巨人に立ち向かう。だが、巨人の力には到底およばず、「プリキュアマーブルスクリュー」も効かない。

一方、館でプリキュアの帰りを待つ石の番人とポルンは、ふたりの危機を察知していた。だが石の力をもたないポルンは、レインボーブレスをふたりに届けることができない。どうしていいかわからず、泣くポルンに、光の園の長老は「ふたりで力を合わせるんじゃ」と伝える。その言葉で希望を見出したポルンは「番人とポルンがプリキュラポポ！」。ひとりではだめでもふたりで力を合わせれば……！　思いは力となり、プリキュアにレインボーブレスを届けることができたのだった。

レインボーブレスにより、巨人との形勢を逆転させたプリキュアは、巨人をあと一歩のところまで追いつめる。だが、その様子を見たジャアクキングは、弱った巨人ごと力を自分の体に吸収する。念願の石の力を手に入れたジャアクキングの力はすさまじい。プリキュアも何とか立ち向かうが、闇のひずみに落ち、虹の園へ戻されてしまう。そして息つく暇もなくジャアクキングが追ってきたのだった！「ありえない……」

ジャアクキングに突撃するプリキュア。

パワーアップした光の力に押される巨人。

巨人を吸収するジャアクキングを見て驚くふたり。

虹の園に戻ってきてしまった……。

ジャアクキングが追ってきた！

＊演出家からの一言>>>

「今まで登場した敵とは違う、闇の戦士が合体した巨人がもつ圧倒的な強さを明確に描くことに気を遣いました。通常の生物とは違う雰囲気ということで、西尾さんとの打ち合わせのなか、ペプシマンのメタリックなイメージが出てきたんです。アクションシーンは殺陣(たて)を作ったうえで、不利になったり、逆転したりする理由をきちんと描かなくてはならないので大変でしたが、久々に手がけた肉弾戦のアクションでしたのでコンテを描くのが楽しかったですよ。どうもありがとうございました。シナリオでのキリヤはプリキュアの戦いを傍観するだけだったのですが、それではただ登場しただけになってしまうので、巨人に対する描写を加えたんです」（山内氏・談）

「山内さんの絵コンテということで、プレッシャーはありましたが、かなり自分の絵作りができました。作画の枚数も増えて、大変でしたが、よくできたと思います。比較対象物がない空間でしたから巨人の巨大感を出すのに苦労しました。画面ブレに変化をつけたり、土煙のディテールを細かく描いたりして工夫しました。キリヤの描写に関しては西尾さんのコンテチェック時にいくつか追加されたりしています」（座古氏・談）

やられてもなお立ち上がり、あきらめないふたり。

虹の園まで来たジャアクキングに驚く。

その強大なパワーにあきらめかけるキリヤ。

プリキュアの危機をただ見ているしかないポルン。

なすすべなくやられてしまうプリキュア。

クイーンはポルンの中にある目覚める力を教える。

49

プリキュアのあとを追い、ついに虹の園までやってきたジャアクキング。すべてを生み出す力を取り込んだジャアクキングは、その強大な力で、街の人々を消滅させてしまう。その行為に怒ったプリキュアは、ポルンの力を借りてふたたび「プリキュアレインボーストーム」を発射するも、ジャアクキングにはまったく通用しない。

苦戦するプリキュアを見て、ポルンはクイーンに助けを求める。「ポルンにできることを教えてほしいポポ！」クイーンに自分本来の力を教えられ、ジャアクキングの前に立ちはだかるポルン。プリキュアを助けたいと思う気持ちが力となり、ジャアクキングを圧倒する！　ポルンによって強化された「プリキュアレインボーストーム」が、ついにジャアクキングを打ち砕くのだった。

ジャアクキングを倒したことで、平穏を取り戻す光の園と虹の園。キリヤも、自分の居るべき場所を見つけ、光に包まれ消えていく……。すべての戦いの終わり、それはメップルやミップルとの別れも意味する。役目を終え眠りにつくメップルとミップルを手に、いつまでも泣き続けるなぎさとほのか……。

卒業式の日、在校生代表のほのかは卒業生に送辞を贈る。文章ではない、自分の言葉で語るほのかの送辞に感動する卒業生たち。その日の帰り道、なぎさとほのかはキリヤに似た少年を見かける。「また……逢えるよね……」少年の後ろ姿を見てうつむくほのかに、なぎさは優しく声をかけるのだった。「逢えるよ、絶対。この空の下で……いつかきっと……」

明日を信じて！ さよならなんて言わせない!!

脚本／成田 良美　演出／矢部 秋則　作画監督／飯島 秀一

光り輝きながら力を放つブラックとホワイト。

ポルンの思いを胸にジャアクキングに立ち向かう！

ポルンの頑張りが闇の力を中和させるのだった。

とどめをさそうとするジャアクキング。

渾身の力をこめたレインボーストーム！

ジャアクキングの体を徐々に包み込む光。

レインボーストームを押し返すジャアクキング。

力を使い果たして倒れてしまうポルン。

ポルンの力でレインボーブレスが光り輝く。

私たちの使命は終わったと言うミップル。

虹の園で永遠の眠りにつくと言うメップル。

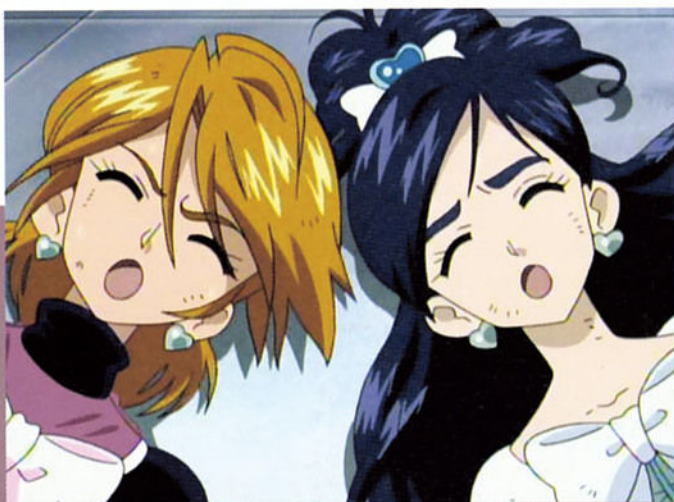
すべての力を使い、ジャアクキングを倒したプリキュア。

いつも一緒だったミップルを失い、泣くほのか。

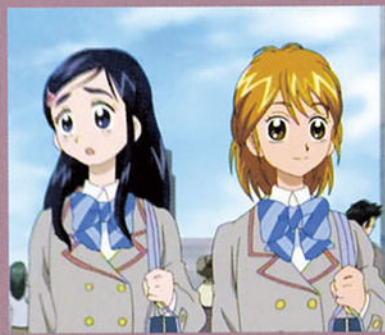
反応のないコミューンを見て涙を流すなぎさ。

戦いが終わり、空を見上げるなぎさとほのか。

卒業式会場へ向かういつもの4人。

STORY #49
未来を信じて!

＊演出家からの一言>>>

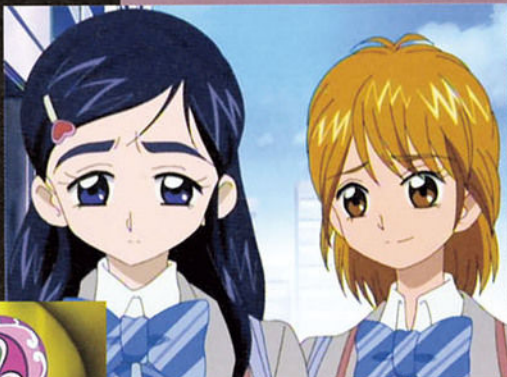
「最終回ですが、派手なバトルは前回でほとんどやっちゃってますよね。ジャアクキングが虹の園に出現しますが、東京タワーより大きいと聞いてびっくりしました。この回は西尾さんの意向を聞き出すのに苦労しましたね。ラストでキリヤらしき人物が登場するくだりはとくに気を遣いました」（矢部氏・談）

それは、キリヤによく似た少年の姿だった。

帰り道、ほのかは見覚えのある人を見つける。

卒業する弓子先輩も感動しているようだ。

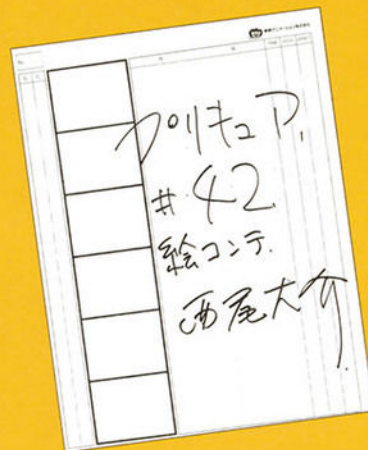
3年生に贈る送辞を述べる在校生代表のほのか。

「また、逢えるよね……」
「逢えるよ、絶対……」

プリズムストーンは静かに光り輝くのだった。

友華先輩にもさまざまな思い出がよみがえる。

原稿を置き、自分の言葉で話すほのか。

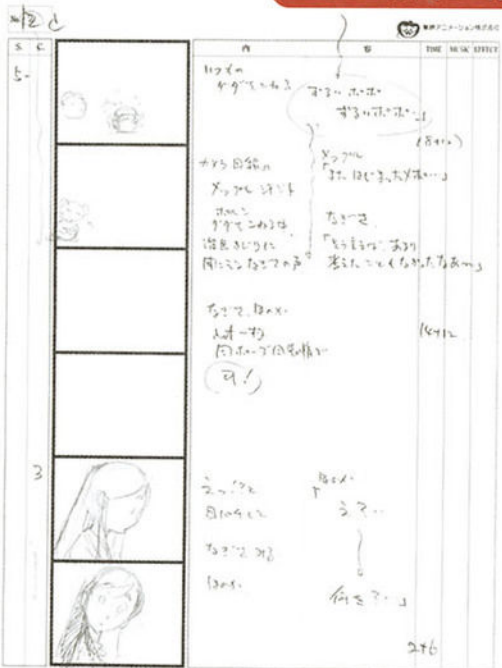
<<< 第42話 MOVIE CONTINUITY

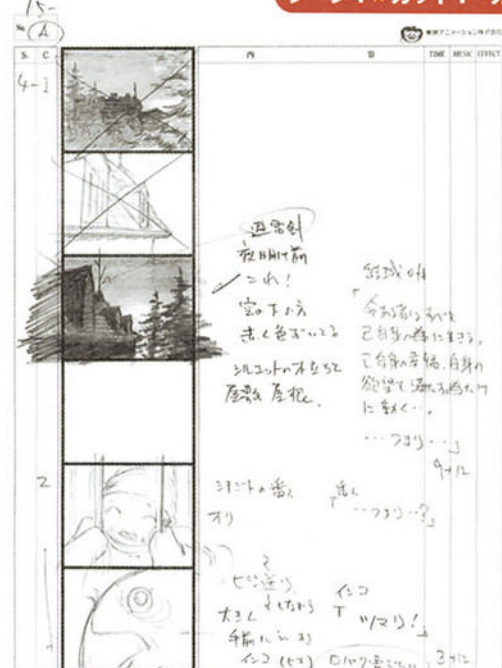
「二人はひとつ！なぎさとほのか最強の絆」

絵コンテ

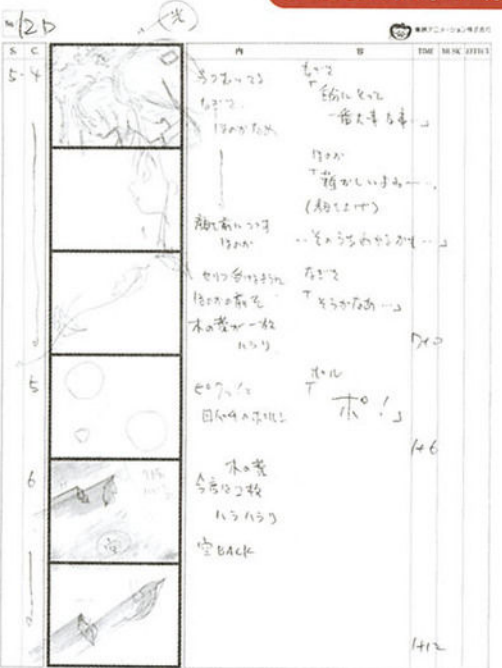
絵コンテとは、シナリオを具体化した設計図のようなもので、監督が演技、カメラワーク、セリフ、音響効果などの指示を書き込み、スタッフたちにイメージを的確に伝えるものです。シリーズディレクターである西尾大介氏が自ら執筆した第42話の絵コンテ134枚の中から、編集部がセレクトした30枚を掲載しました。絵コンテのとなりの画像は、作画陣渾身の力による完成映像のコマ抜き画像です。あわせてお楽しみください。

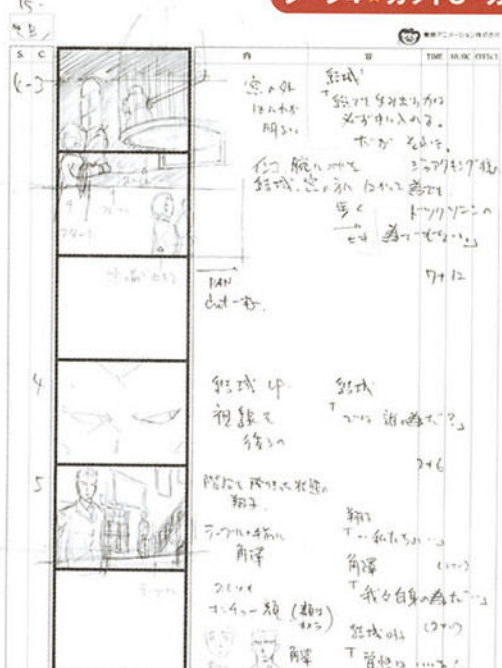
シーン5★カット1〜カット2

●しりとりをする、メップル、ミップル、ポルン。

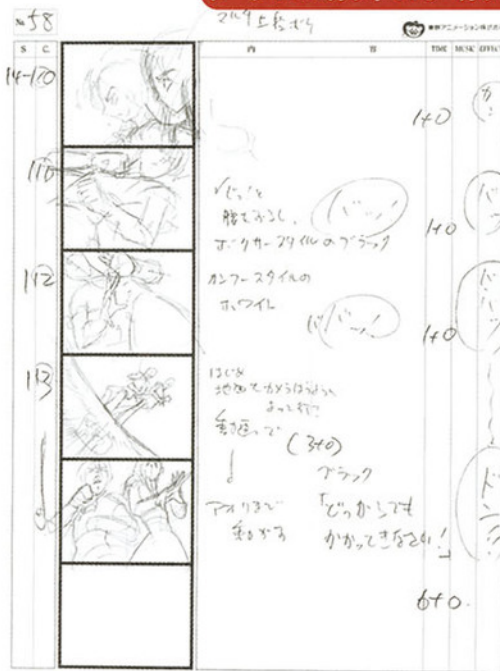
シーン5★カット2〜カット3

●なぎさの言葉にふりむくほのか。

シーン4★カット1〜カット2

●夜明け前の洋館。

シーン5★カット4〜カット6

●木の葉が舞う、何かが現れる前兆。

シーン4★カット3〜カット5

●これからの3人について語るベルゼイ。

シーン14★カット62〜カット64

たたずむブラック、ほほえむホワイト。

シーン14★カット64〜カット67

ブラック、ホワイトのひざにうずくまる。

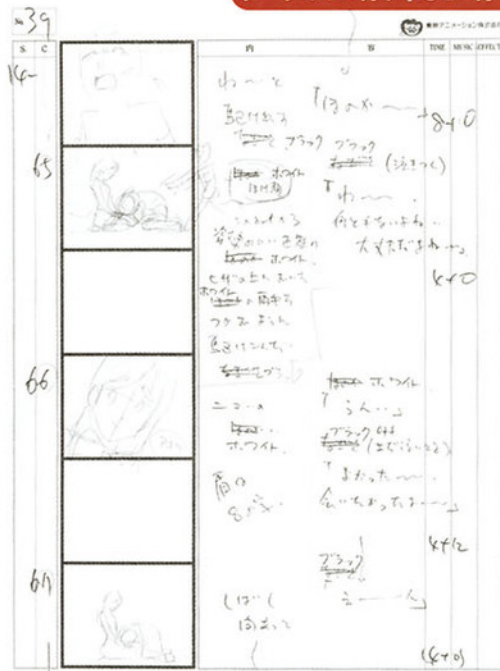
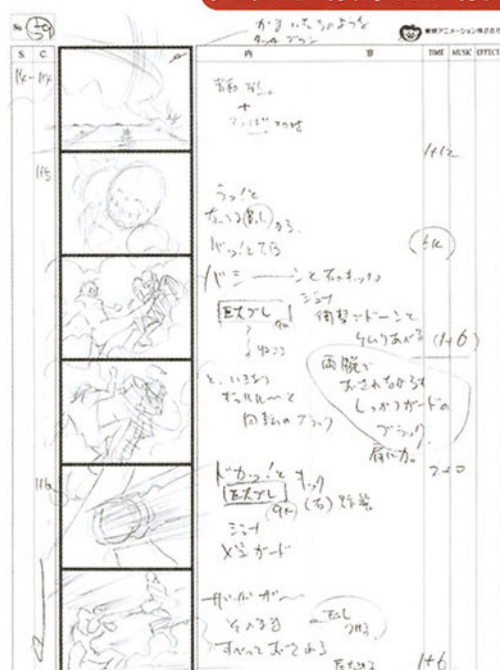
シーン14★カット67〜カット69

ブラック、ホワイトに幼児扱いされたと思い、頭にくる。

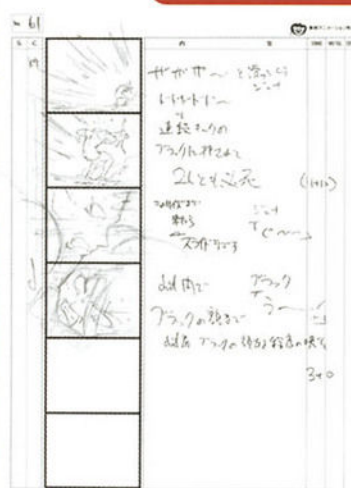
シーン14★カット108〜カット109

レインボーブレスを手に入れ、ブラック元気づく。

シーン14★カット110〜カット113

ふたり、ポーズを決める。

シーン14★カット114〜カット116

ブラック、ジュナの攻撃を受け止め、キックを返す。

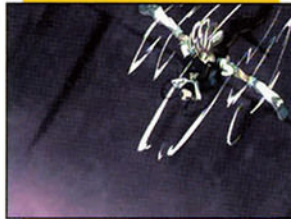
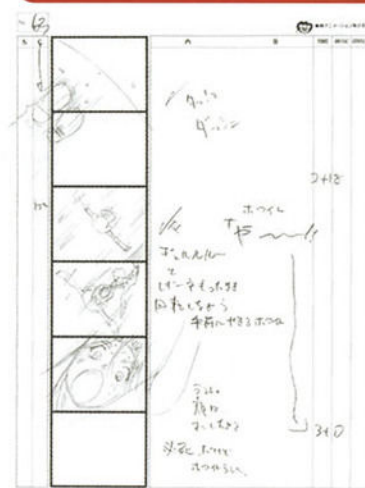
シーン14★カット117～カット118

●レギーネのキックをとめるホワイト。ジュナ、ブラックの連続キックをガードする。

シーン14★カット119

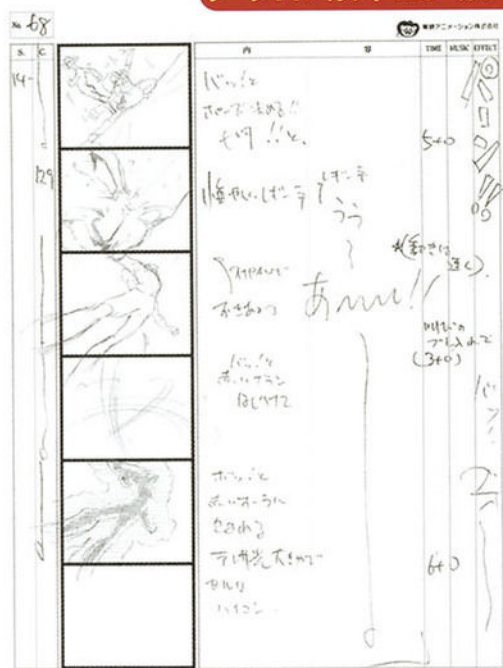
●ブラックの攻撃に押されるジュナ。

シーン14★カット120～カット121

●ホワイトとレギーネのはげしい攻防。

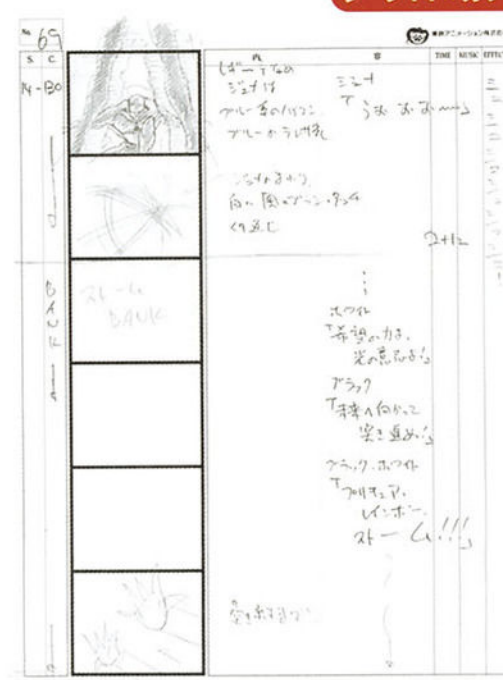
シーン14★カット121～カット122

●レギーネをふりまわすホワイト。

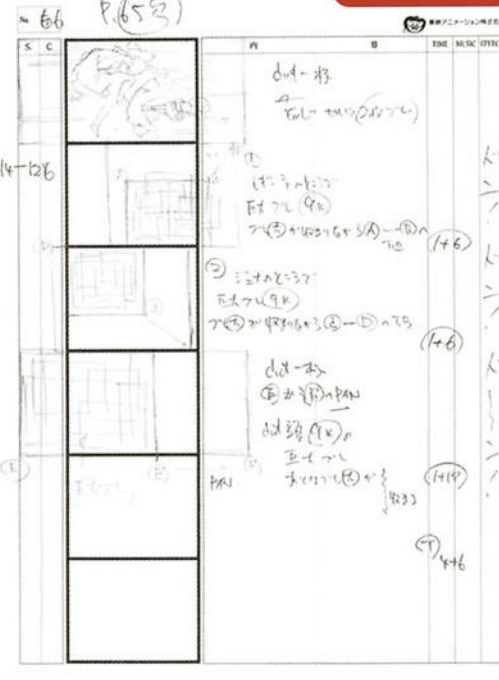
★ここに紹介したシーン14　カット117～カット122の原画は、冨田与四一氏によるものです。

シーン14★カット128～カット129

レギーネ、赤いオーラにつつまれる。

シーン14★カット123～カット125

まきあがった煙から飛び出す、ブラックとホワイト。

シーン14★カット130

ジュナ、風を起こす。レインボーストーム、発射準備。

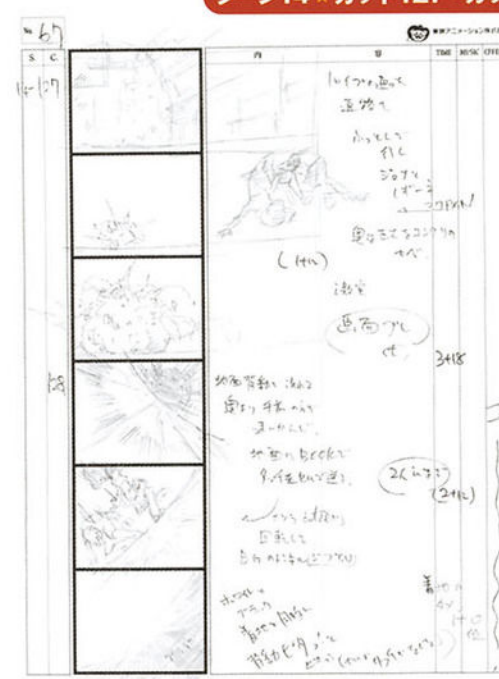
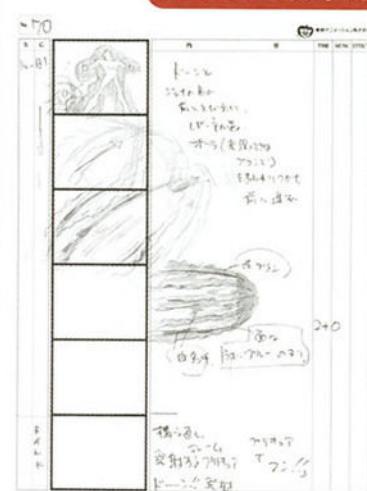
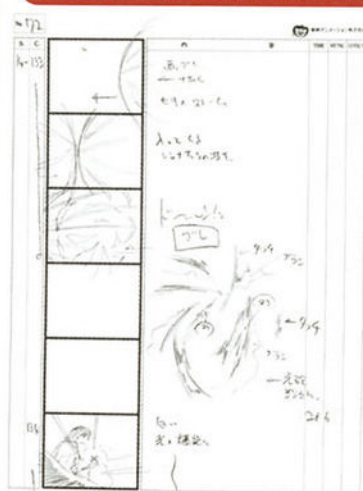
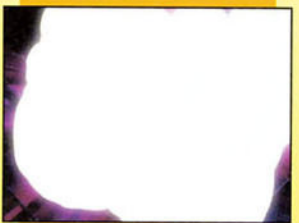
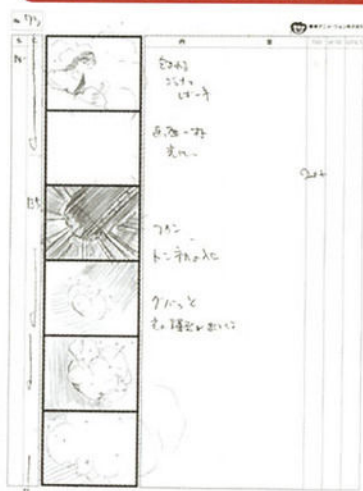
シーン14★カット126

プリキュアふたりの攻撃。

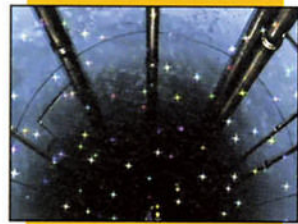
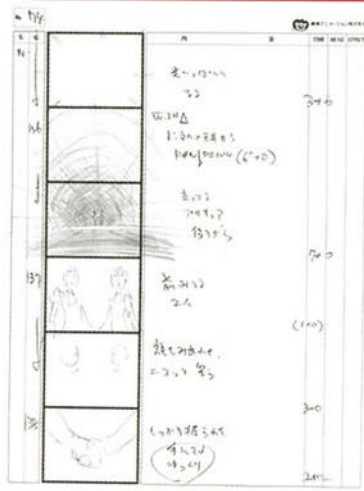
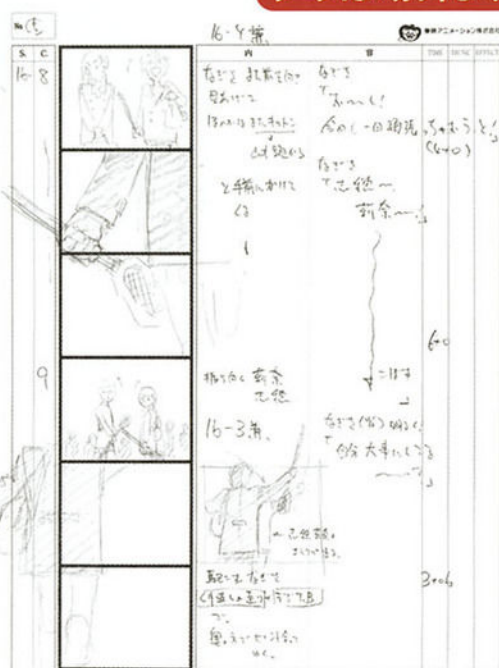
西尾大介氏（演出）からのコメント

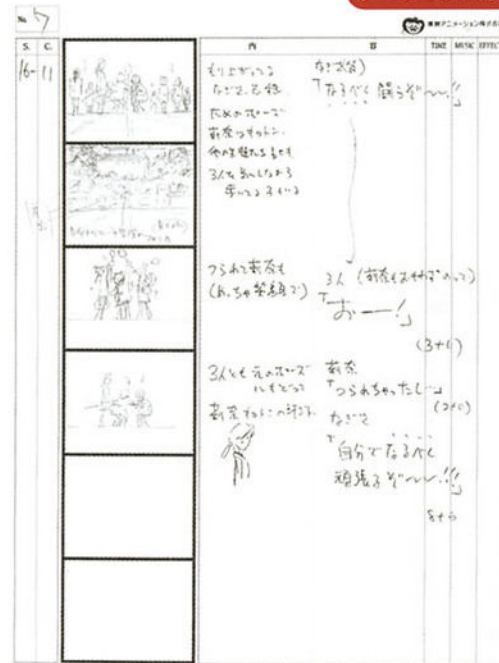
大事な人のために必死になる、というのが大きなテーマで、自分にできることを、まずやろうよというのを伝えたかったんです。闇の三人衆が「お前は無力だ。ひとりひとりじゃなにもできない、バラバラでは何の役にもたたない」と言ってブラックを追いつめますよね。個人個人それぞれ得手不得手もあるし、できること、できないことがあるのは当たり前のことなんですよ。何かができるけど、何もできないという矛盾に満ちた存在が僕達なんじゃないかと思います。ブラックの踏ん張りは、それを丸飲みにした上ですべてがはじまります。だから、決して投げ出さずに自分のできることをやることが大切なんじゃないかな？……って。
できないことを考えたって始まらないんだってことを描きたかったんです。ブラックが頑張ってホワイトを救出するという構図になってはいますが、ここでいちばん頑張ってるのは実はホワイトかもしれません。何度も挫けそうにはなりますが、立ち直る手段がまったくないにも関わらず、彼女はひたすらブラックを待ちます。待つというと、一見奥ゆかしく思えますが、受け身的なイメージとは一線を画すものです。すべての手段をもぎ取られていながら、決して自暴自棄にならないというのは、かなりホワイトが努力している現れです。主張してるのはホワイトで、ブラックは突進する。そのコントラストがふたりの絆を後押ししてくれればと考えました。
　僕のコンテの要はそこです。誰もがみんな落ち込んだり、悩んだりすることってありますよね。でもちょっと考え方や論理を変えただけで、見方も変わってくるし、ホントはそんなことたいしたことじゃないことだって多いはずです。だから臆さずに無力な自分とうまく付き合いながら頑張ろうよ……ってことを言いたかったんです。ラストシーンのなぎさのセリフに「なるべく頑張るぞ～っ！」とあるのはそのためです。

西尾氏近影

COMMENT

シーン14★カット127～カット128

ジュナとレギーネ、壁にたたきつけられる。プリキュア着地。

●レギーネとジュナの合体技に対して、レインボーストームを発射。

●ぶつかり合う、ふたつのエネルギー。

●大爆発。

●勝利したふたり、しっかりと握られた手と手。

★ここに紹介したシーン14　カット131～カット138の原画は、山田起生氏によるものです。

シーン15★カット6～シーン16 カット2

朝の登校風景。

シーン16★カット3～カット4

いちばん大事なことについて、なぎさなりの答えをみつける。

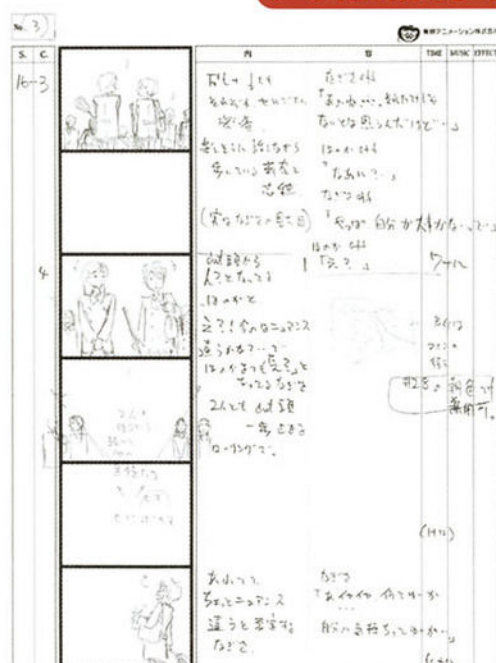
シーン16★カット5～カット7

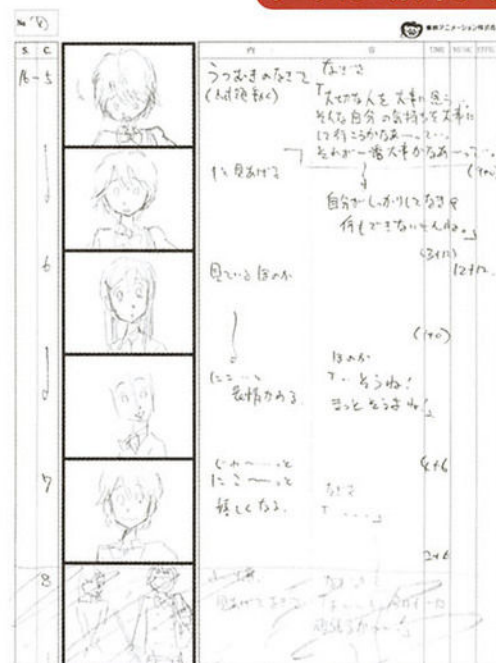
それは、大切な人を大事に思う気持ちだった。

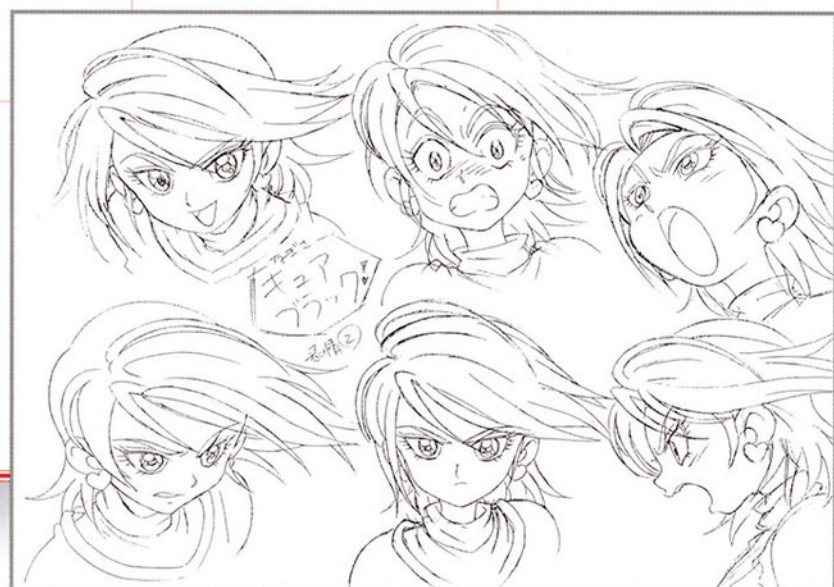
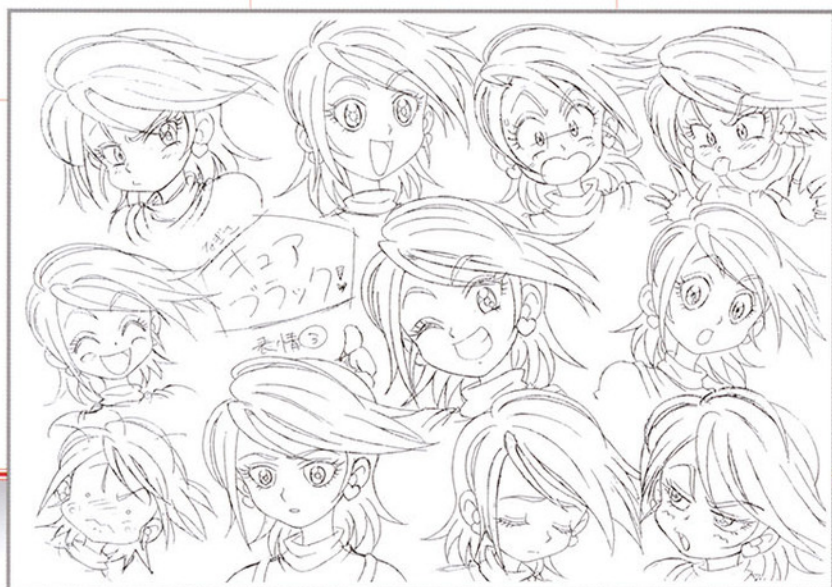
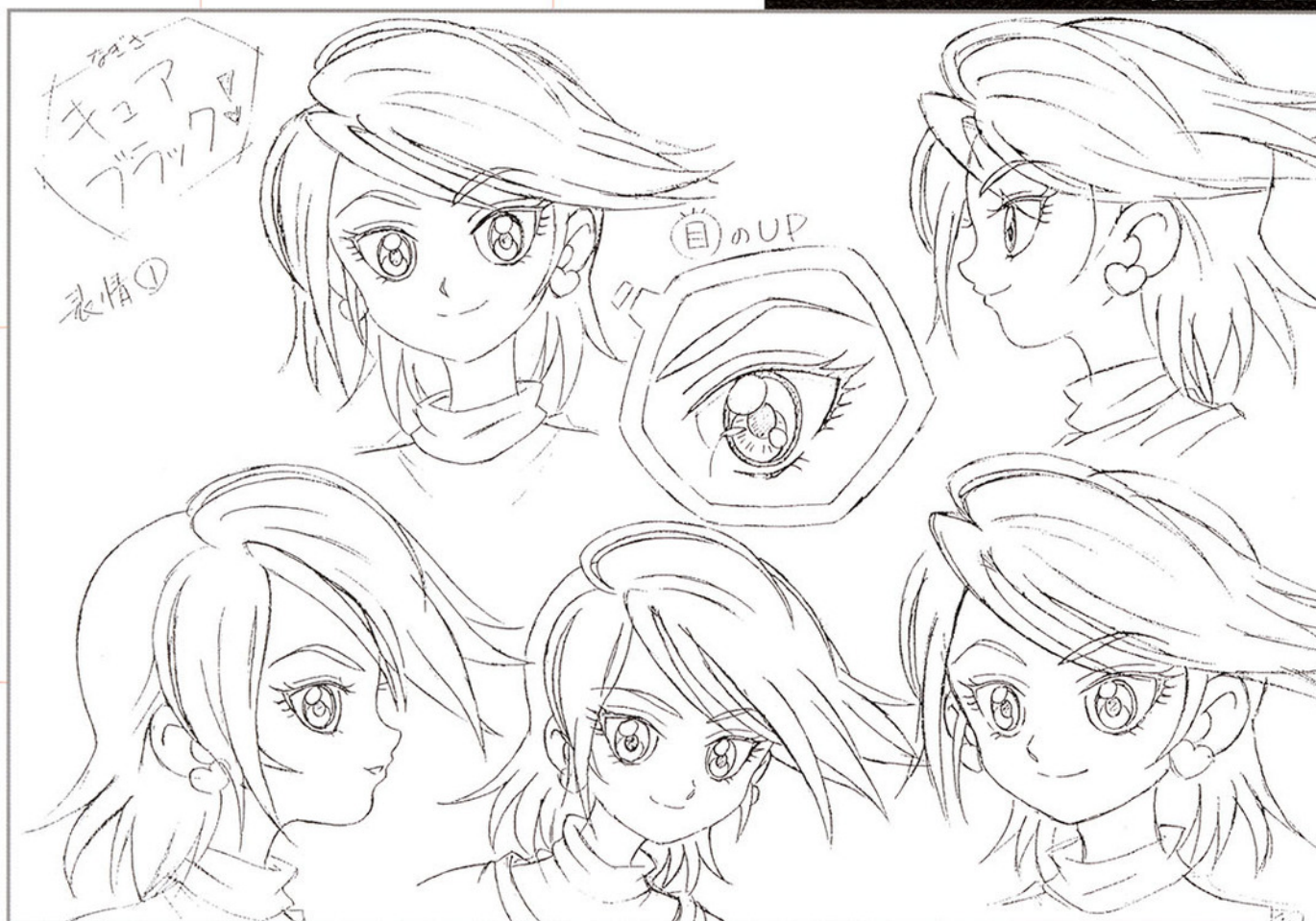
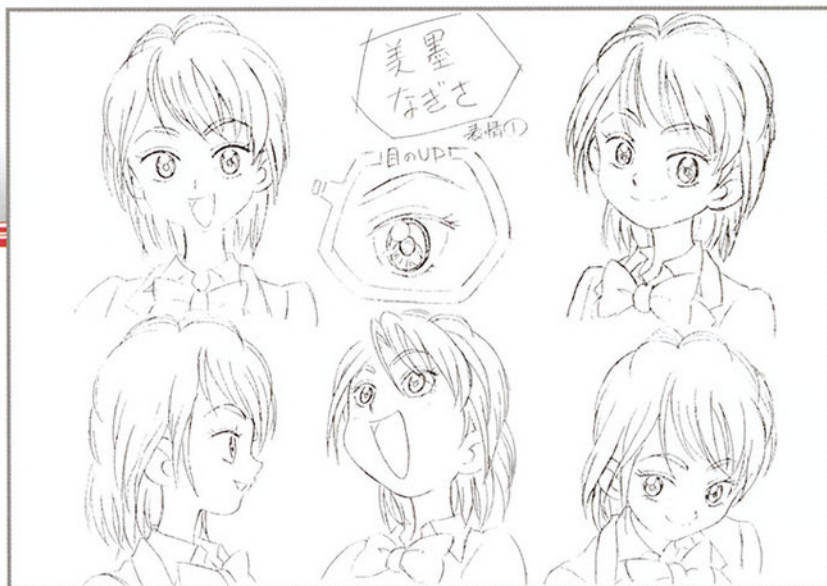
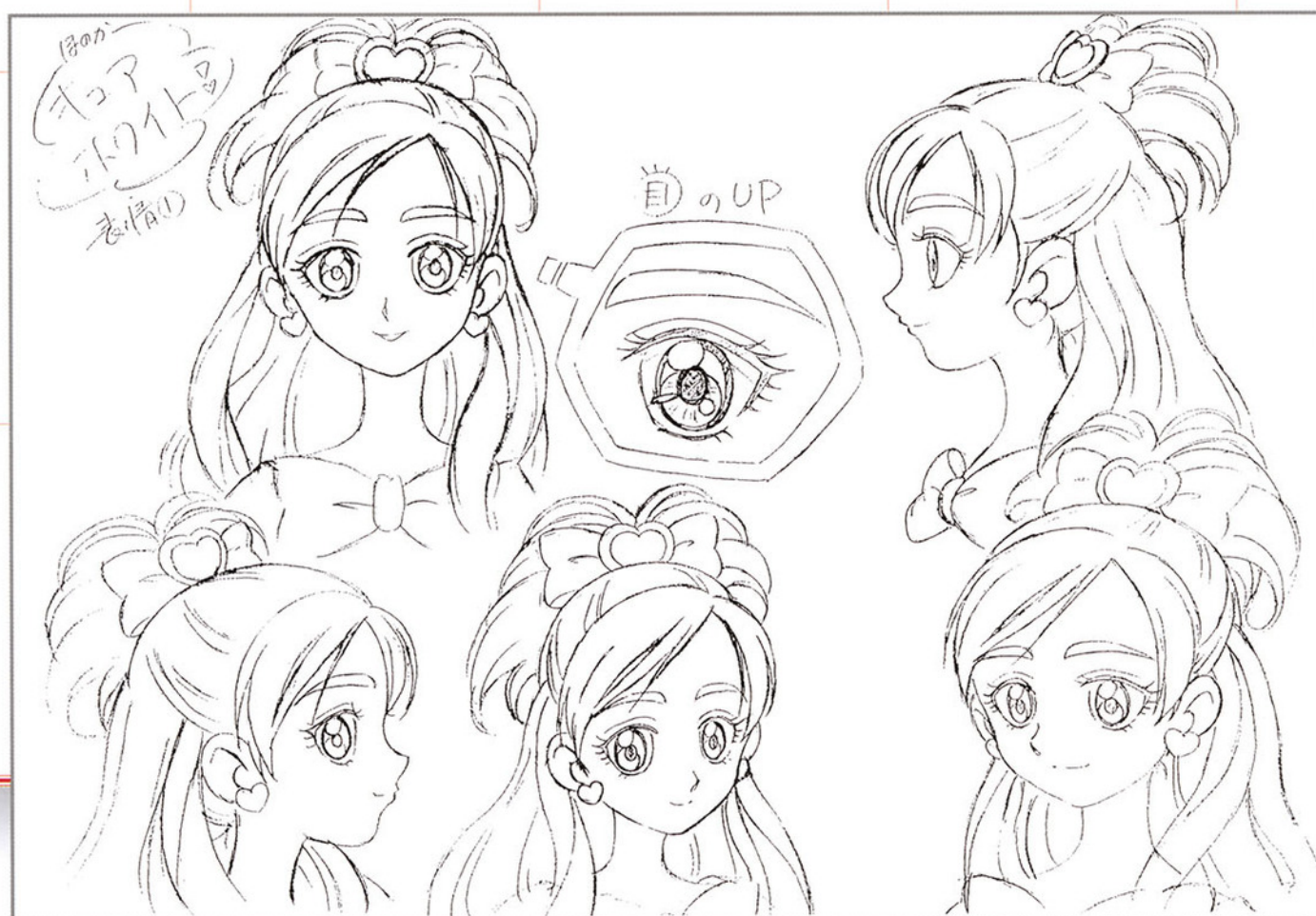
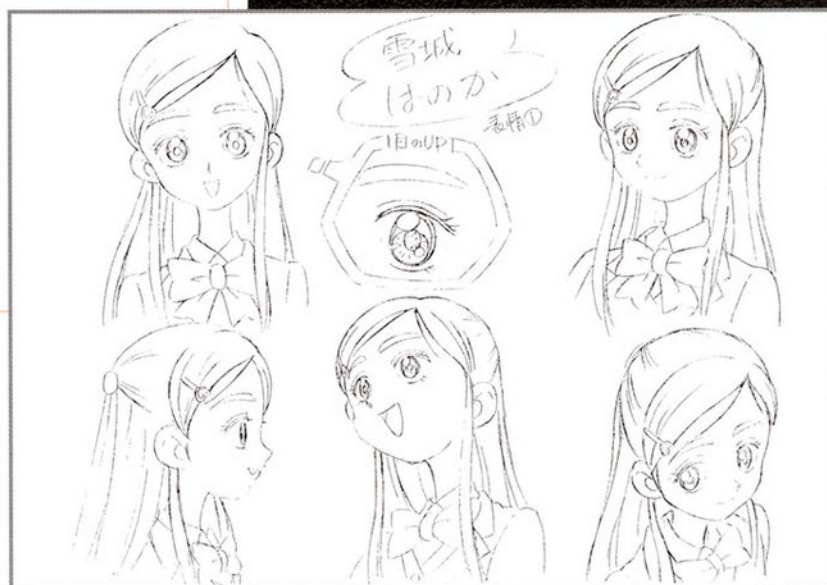
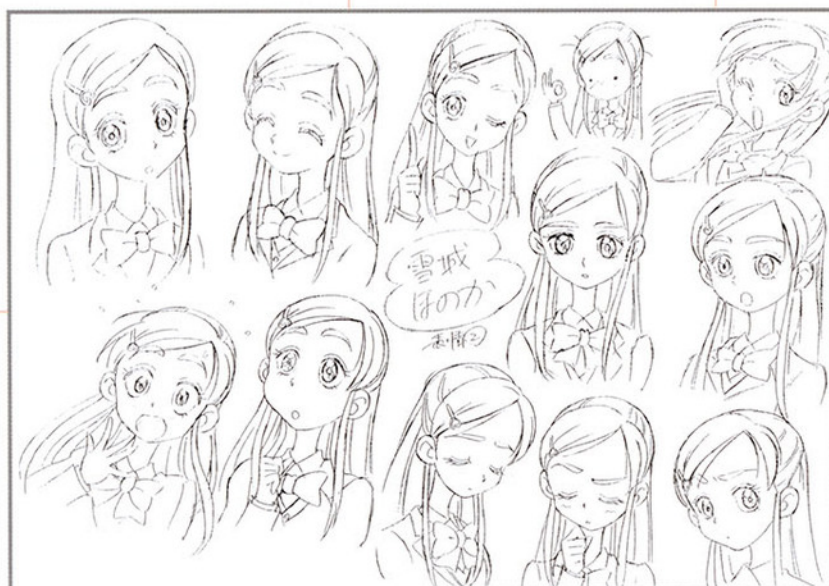
シーン16★カット8～カット9

なぎさ、莉奈と志穂にかけよる。

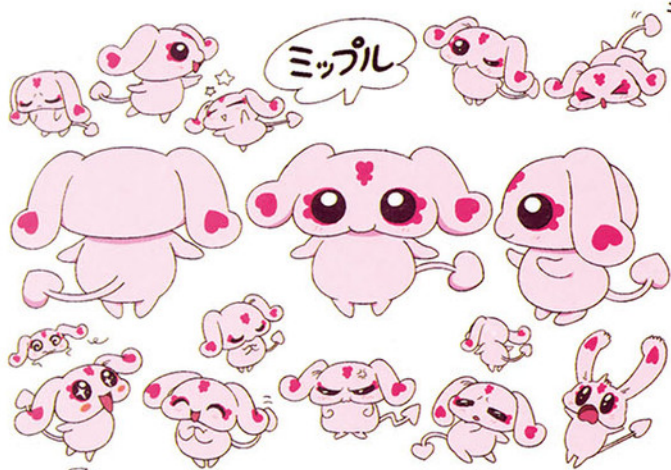
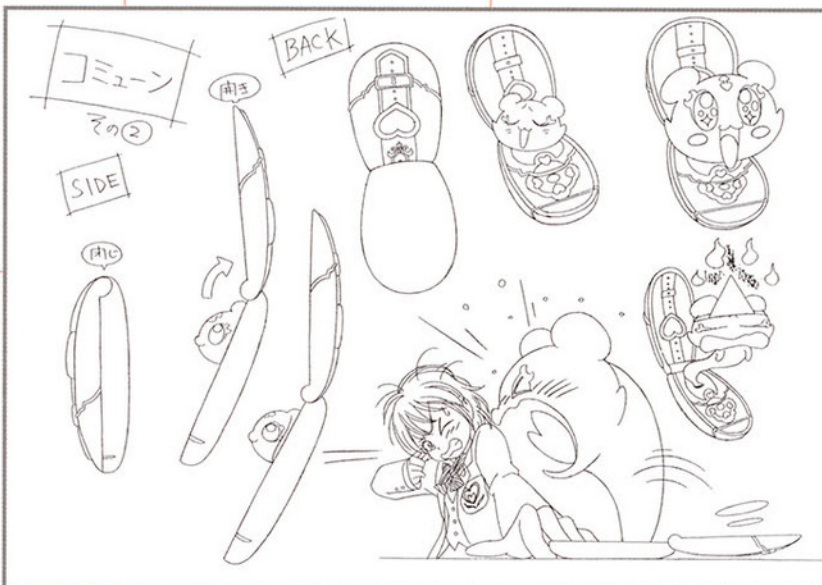
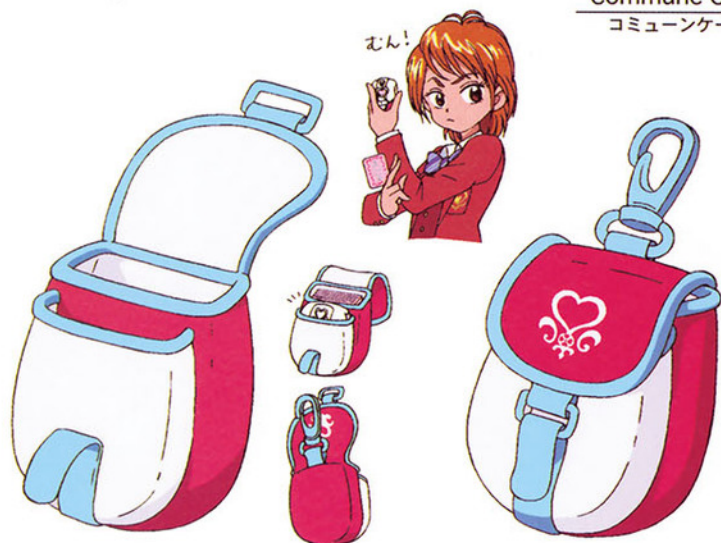
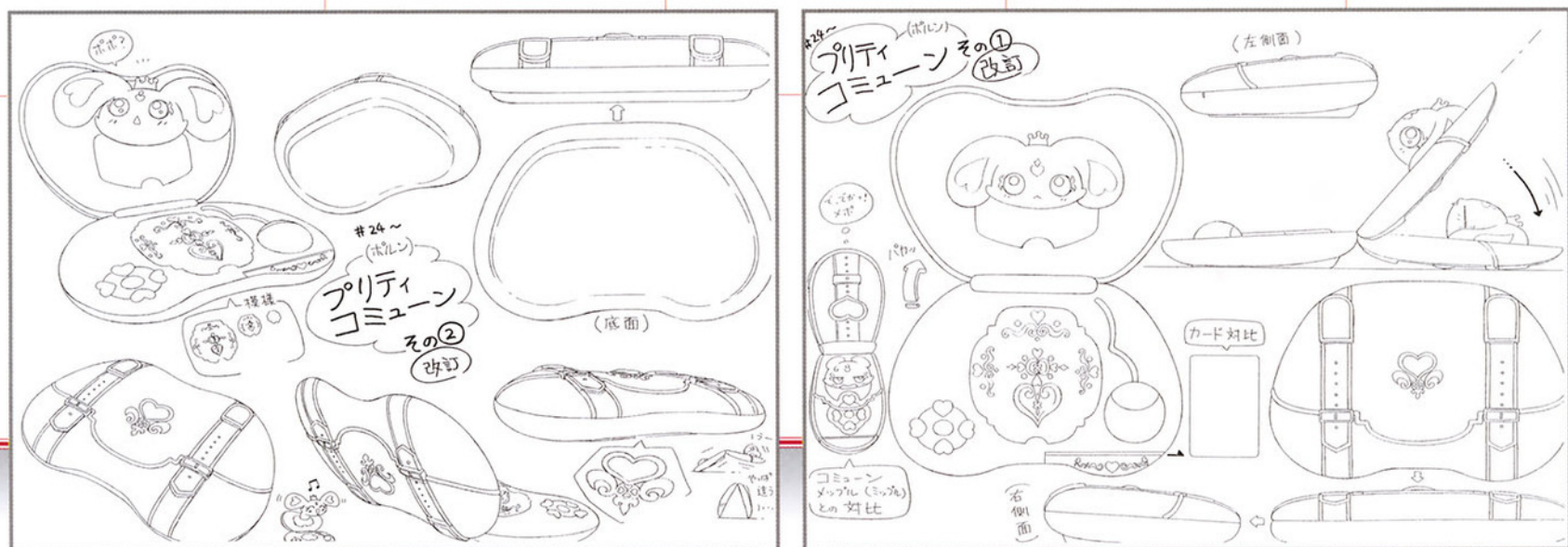
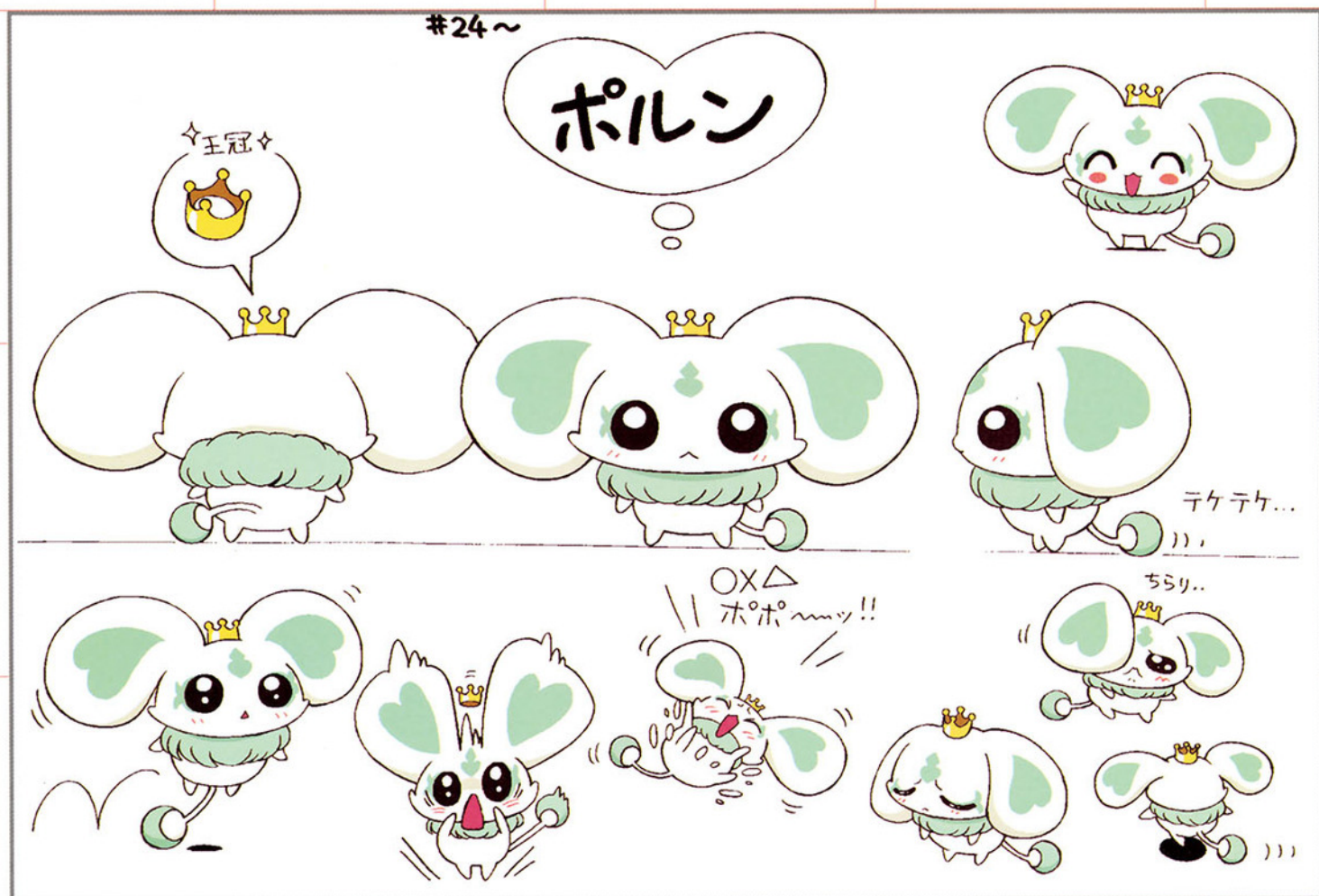
シーン16★カット11

三人で声をあげる。

シーン16★カット12～カット13

笑顔のなぎさ。

『ふたりはプリキュア』設定資料

このページからは作画用に描き起こされた設定資料の紹介です。メイン・キャラクター関連は総作画監督の稲上晃氏が、各話のゲスト・キャラクター関連は各話担当の作画監督によってそれぞれ描かれています。なお、メイン・キャラクター関連の設定書の多くは、キャラクター紹介ページに使用しているのでそちらも併せてご覧ください。

<<<キュアブラック・美墨なぎさ

<<<キュアホワイト・雪城ほのか

<<<ミップル・メップル

<<<カードコミューン

#24～
光の王子…
ポルン
(対比)
メップル
ミップル

#24～
ポルン
✧王冠✧
テケテケ…
○×△
ポポ〜〜ッ!!
ちらり‥

#24～
(ポルン)
プリティ
コミューン
その②
改訂
(底面)

#24～
(ポルン)
プリティ
コミューン その①
改訂
(左側面)
カード対比
コミューン
メップル(ミップル)
との対比
右側面

ダークファイブ

ゲキドラーゴ

※対比参

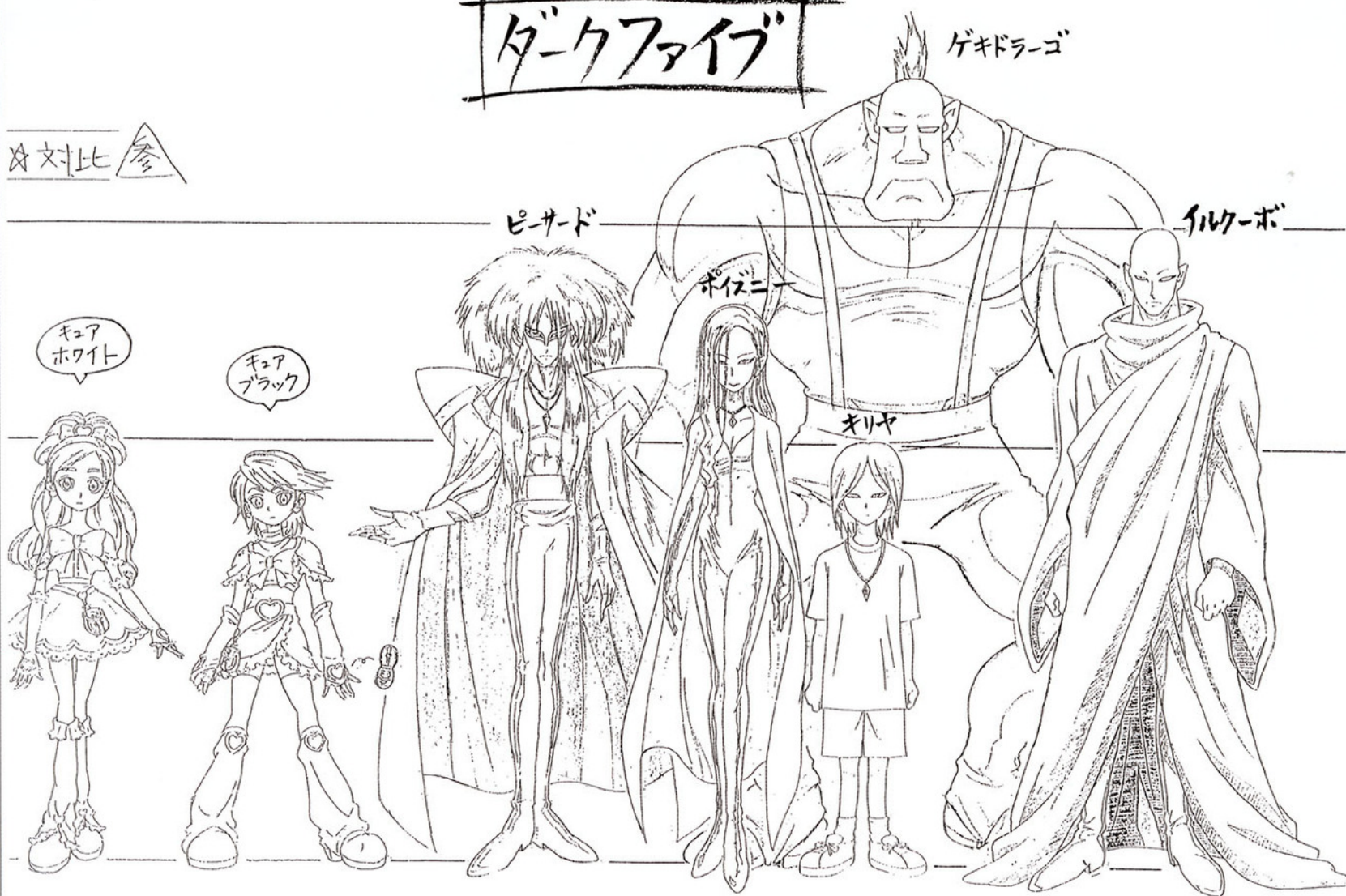
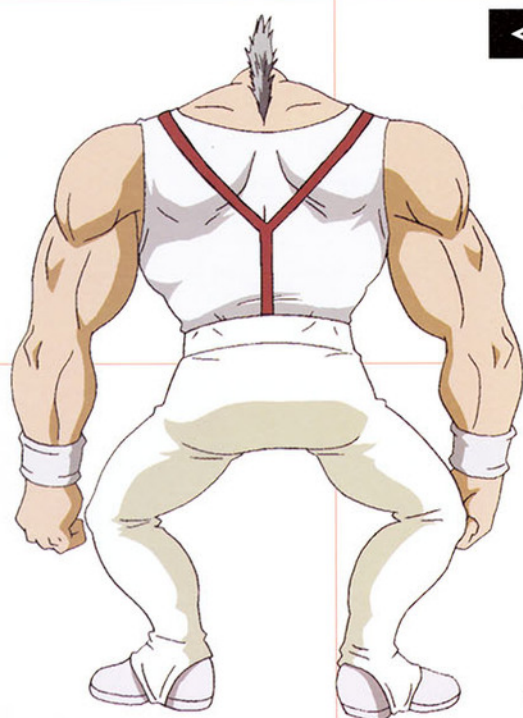
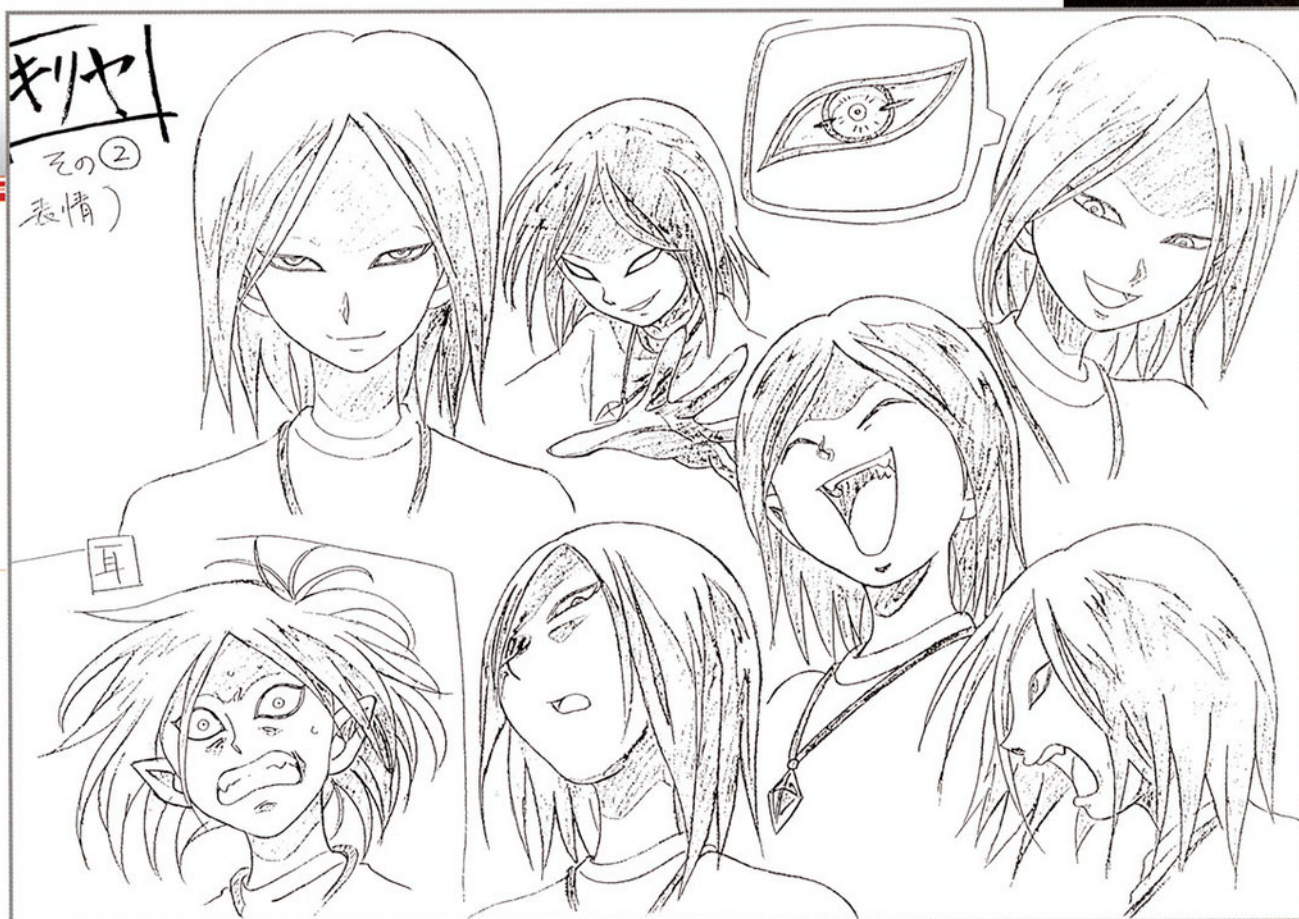
ピーサード

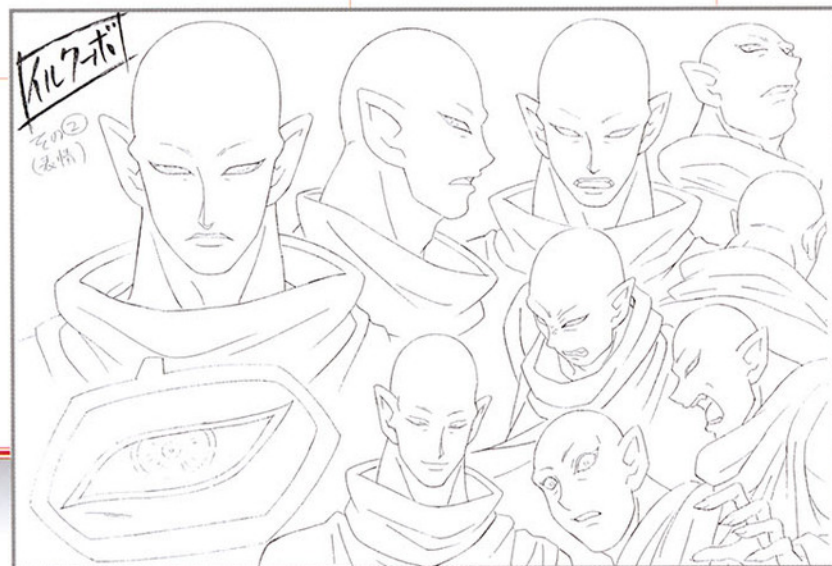
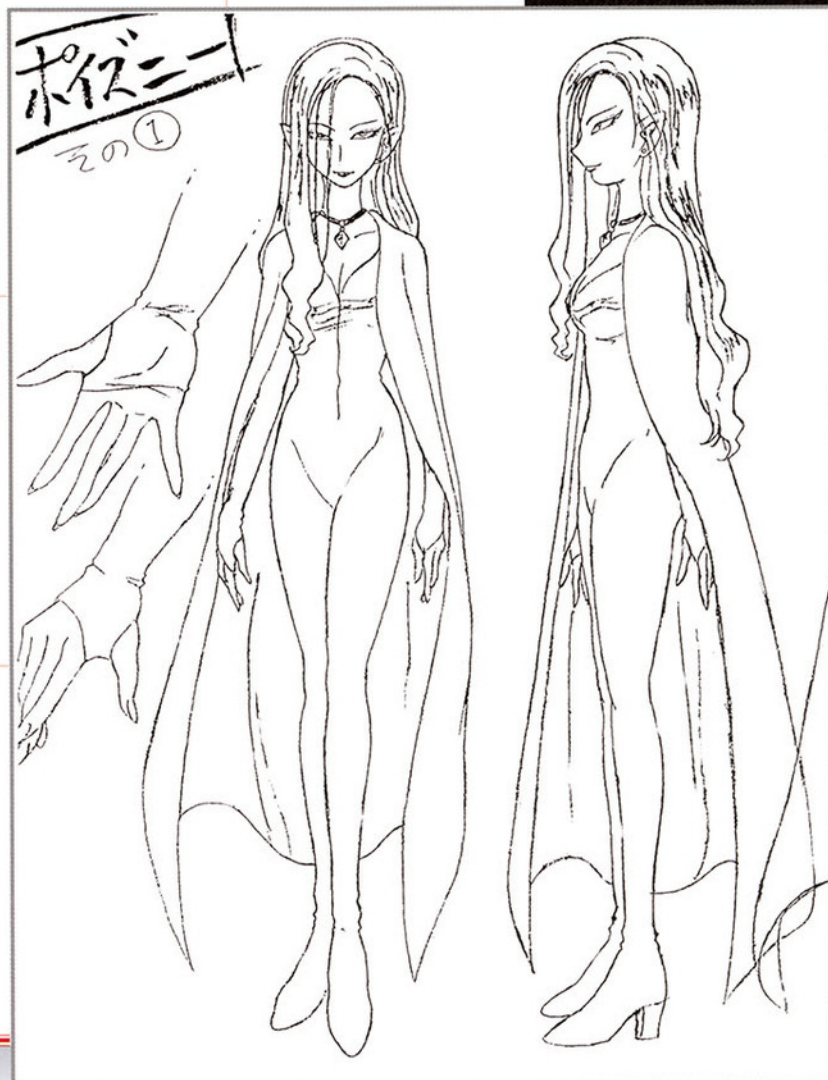
イルクーボ

ポイズニー

キュア ホワイト

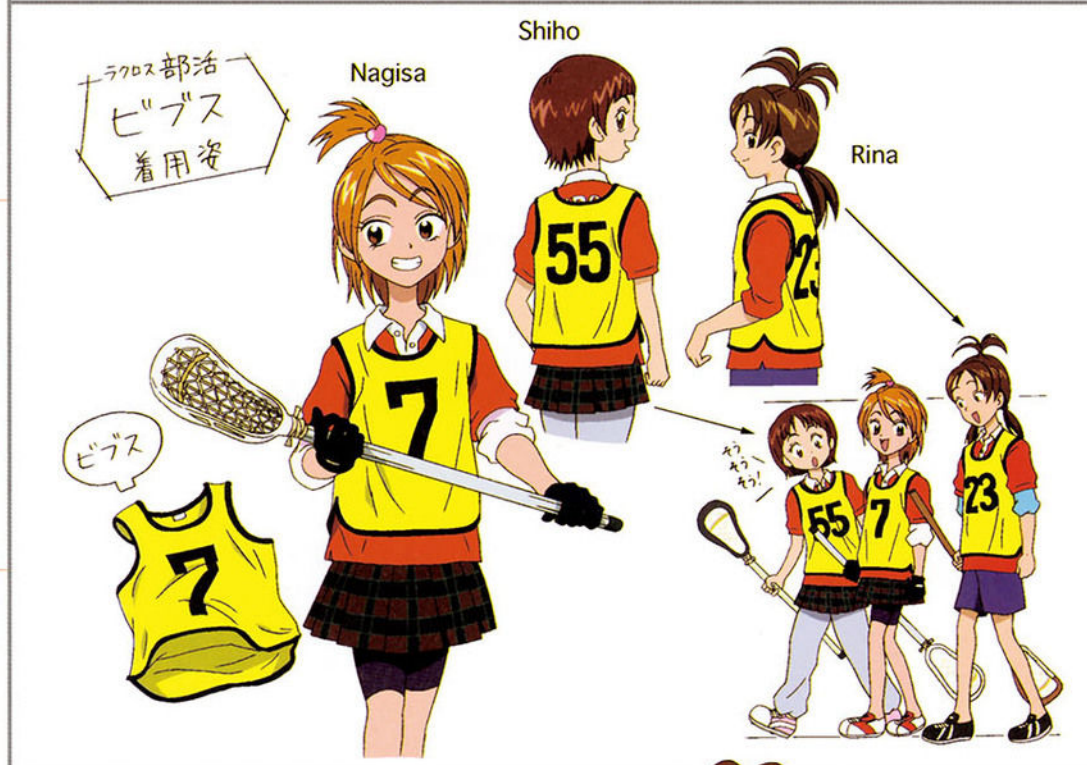
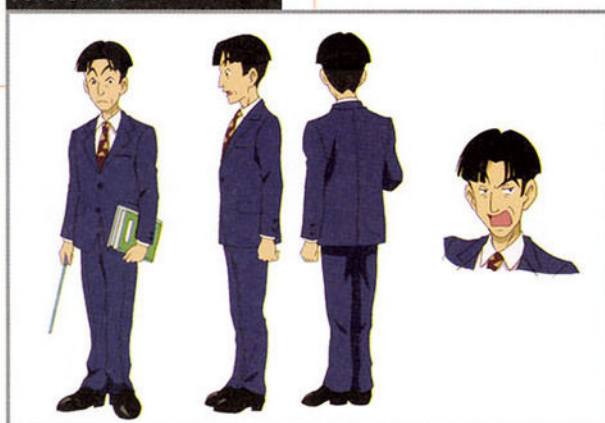
キュア ブラック

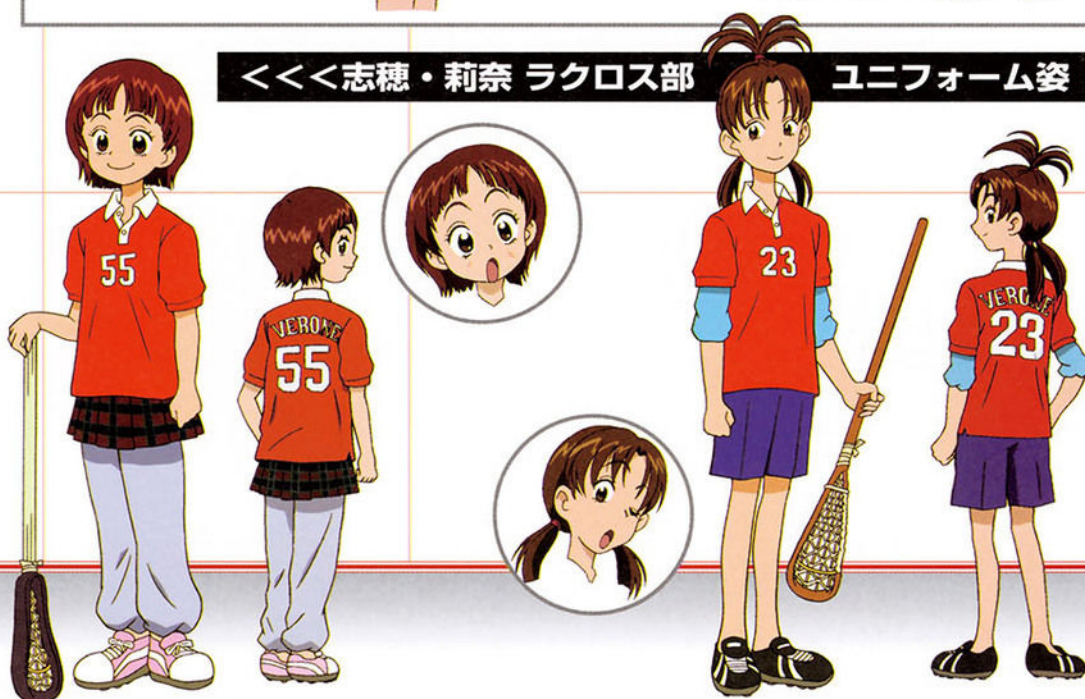
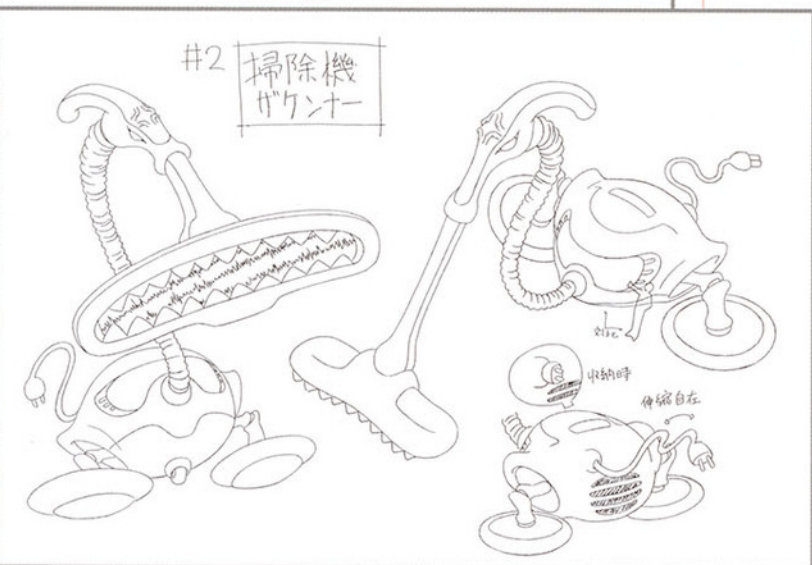
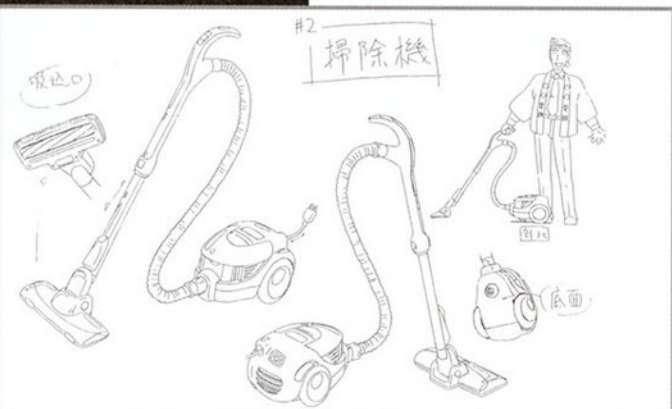
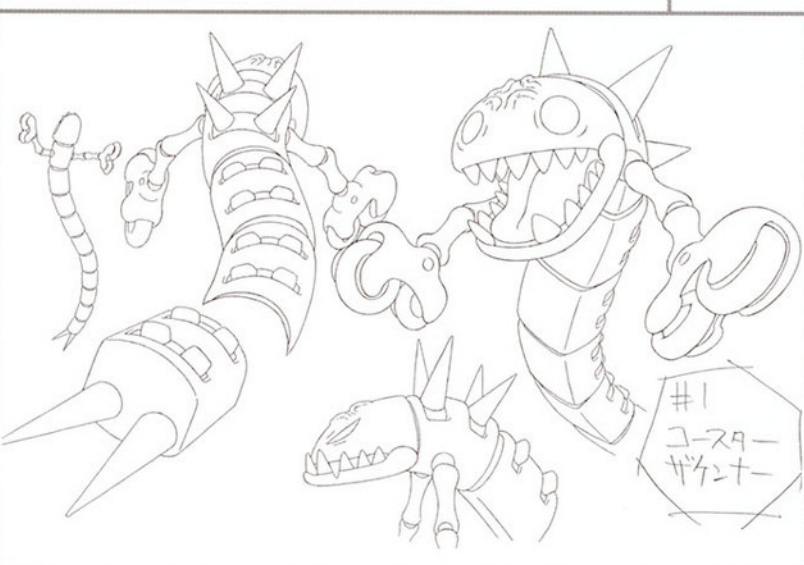
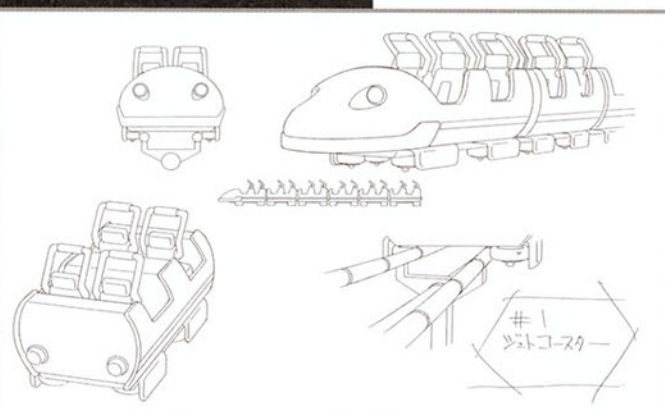
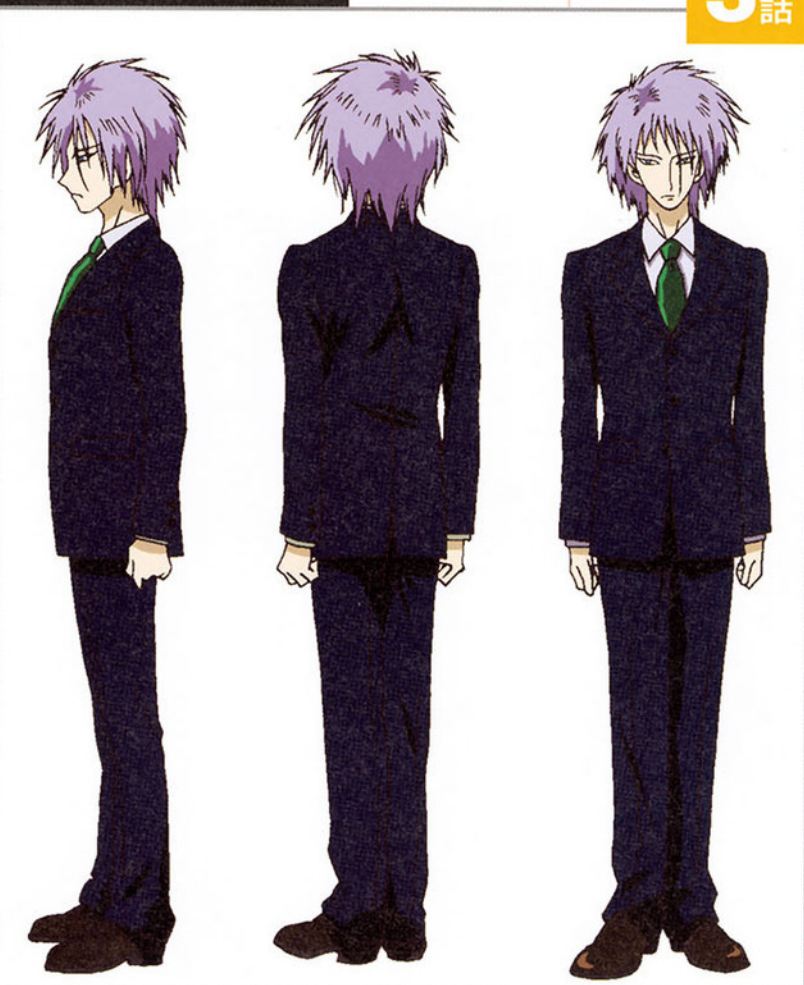
キリヤ

<<<キリヤ

<<<イルクーボ

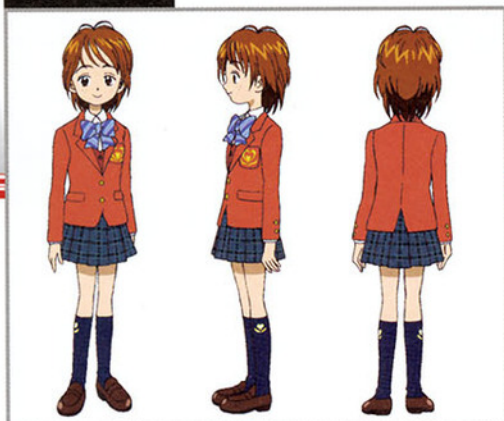
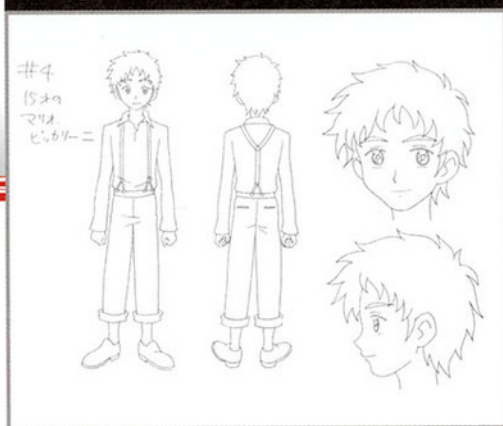
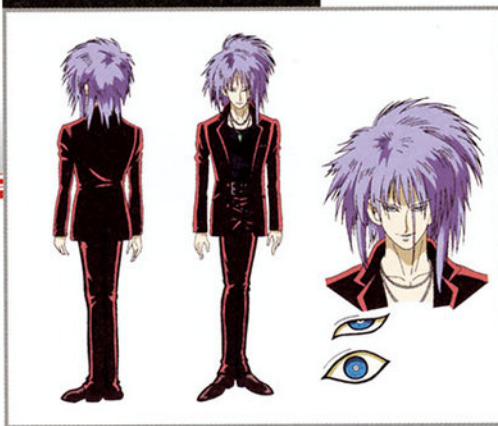
<<<ポイズニー

なぎさ ラクロス部ユニフォーム姿＞＞＞

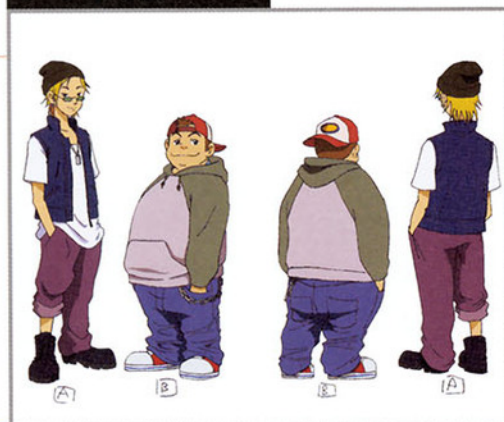
藤P サッカー部
ユニフォーム姿＞＞＞

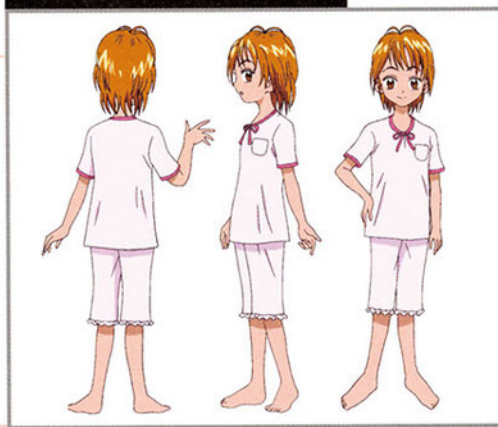
雪城さなえ＞＞＞

宮下先生＞＞＞

＜＜＜志穂・莉奈 ラクロス部 ユニフォーム姿

掃除機ザケンナー
2話
#2 掃除機
#2 掃除機 ザケンナー
コースターザケンナー
1話
#1 ジェットコースター
#1 コースターザケンナー
ブレキストン博士写真
ピーサード スーツ姿
3話
体育用具ザケンナー

4話

柏田真由

15才のマリオ・ピッカリーニ

ピーサード 人間体

5話

ナンパ男A・B

藤P ウォームアップスーツ姿

なぎさのパジャマ姿

6話

なぎさ・ほのかの ハイキング姿

月の輪熊の親子

母熊さんザケンナー

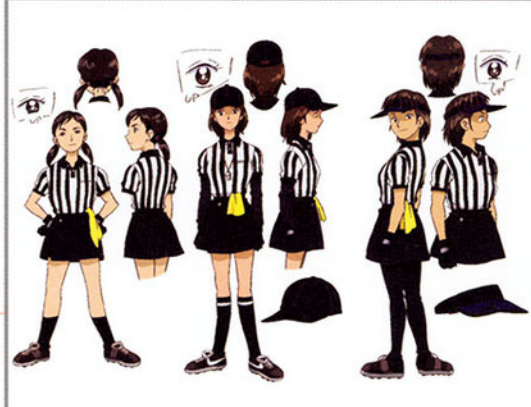
7話

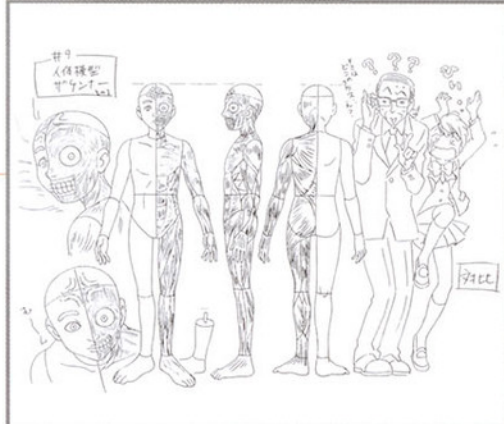
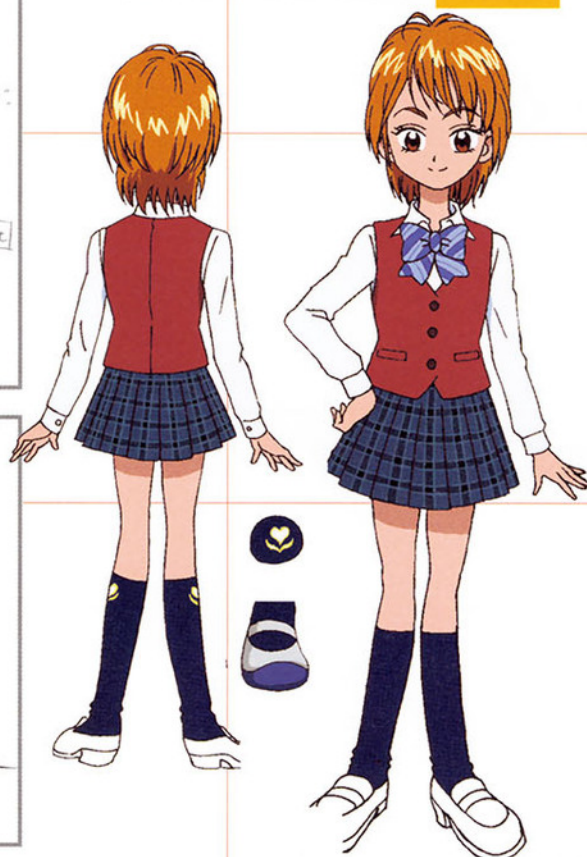
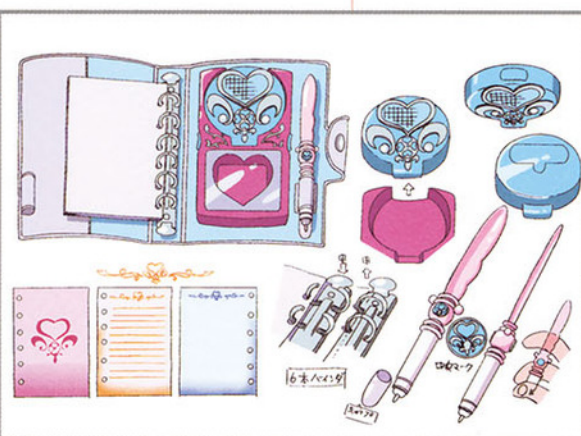
格闘館女子中メンバー

御高倶女子中ラクロスメンバー

ラクロス部キャプテン 弓子

ザケンナーがとりついた教頭先生

ラクロス 審判

ゴーリー

人体模型ザケンナー

なぎさ ベスト姿（ブレザーの下）

プリキュア手帳

8話

10話

宝石店 店員

強盗

ほのかの父・母

11話

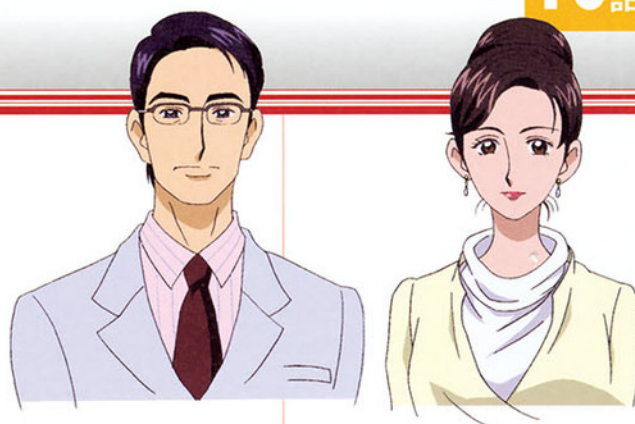
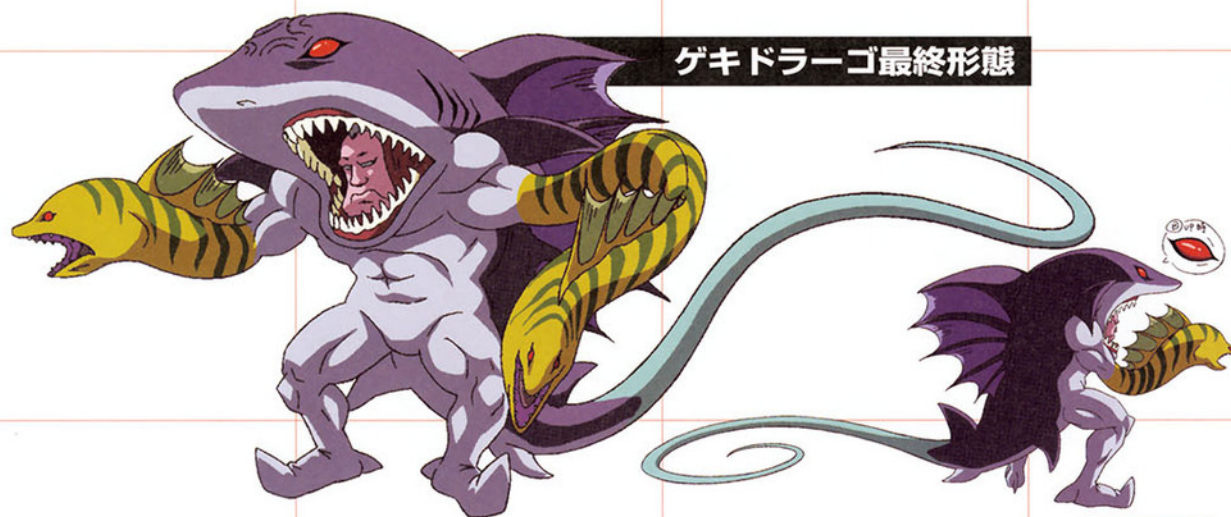
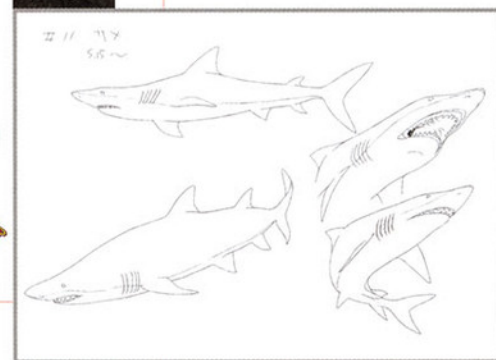
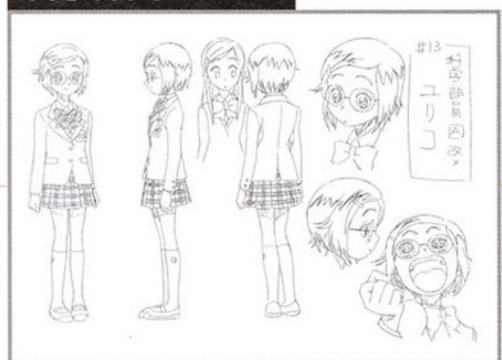
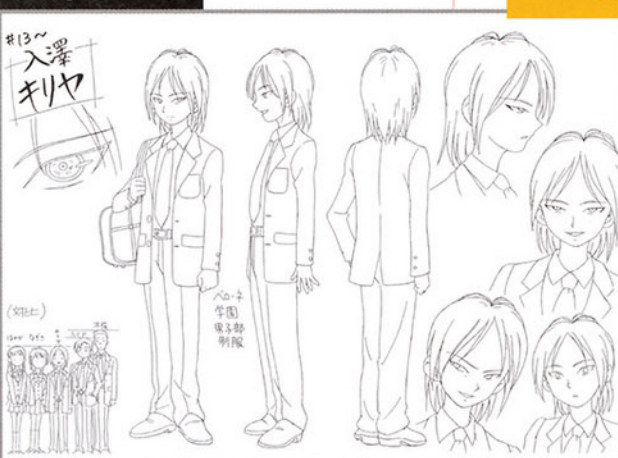
ゲキドラーゴ最終形態

サメ

13話

科学部員 ユリコ

入澤キリヤ

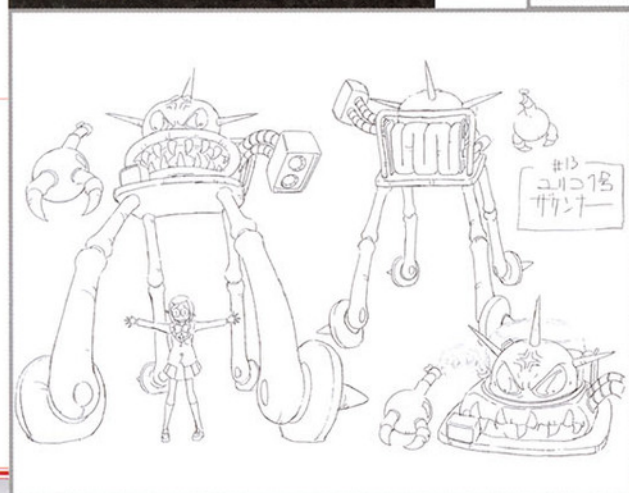
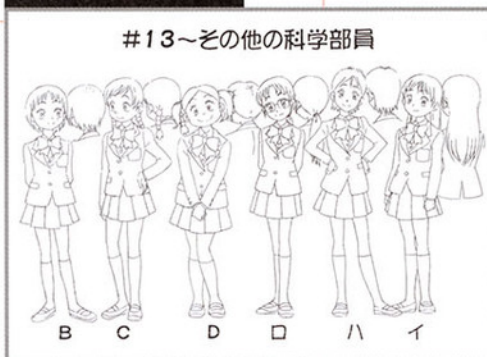
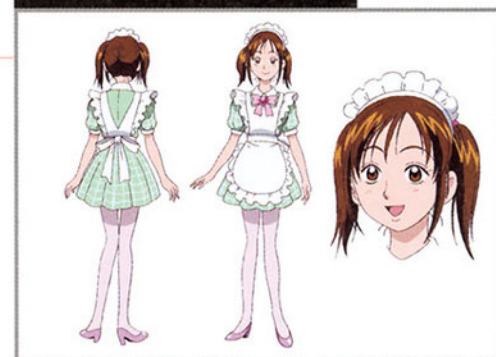
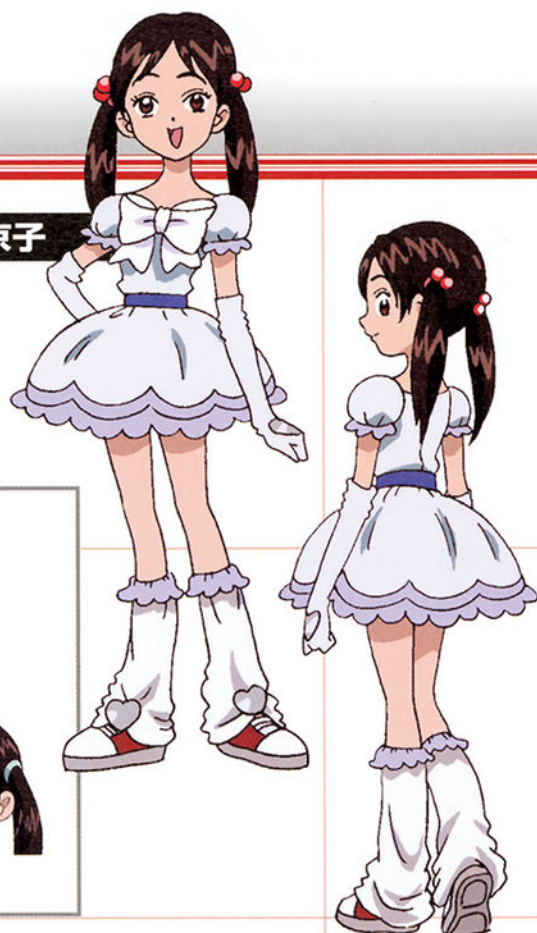
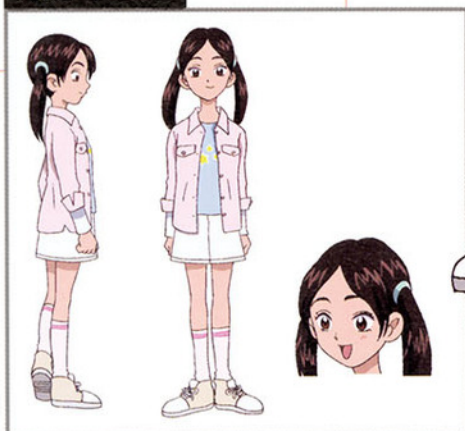
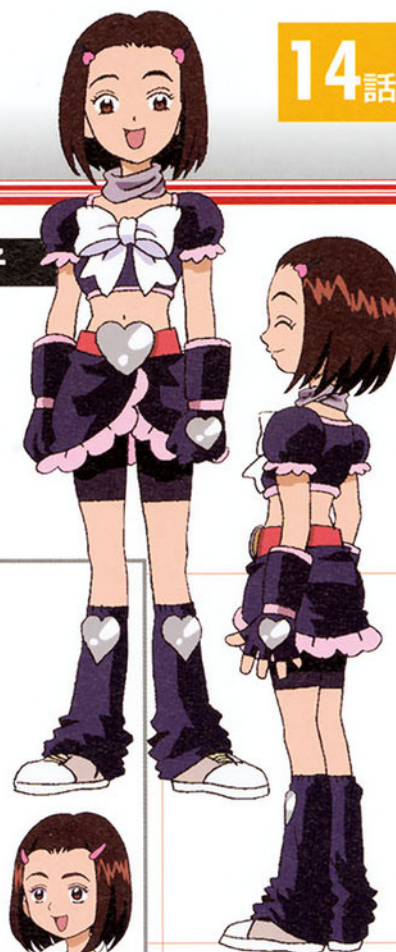
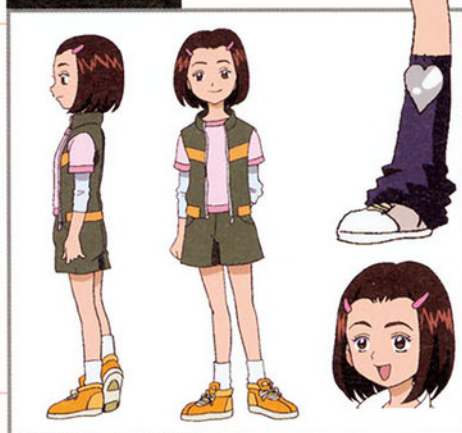
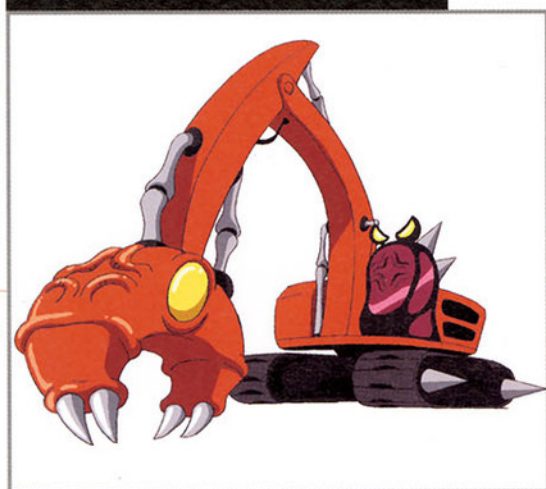
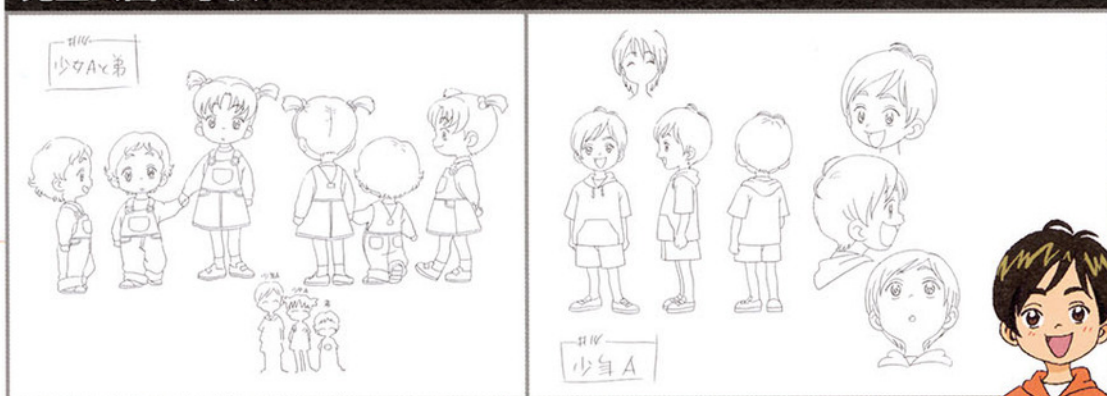
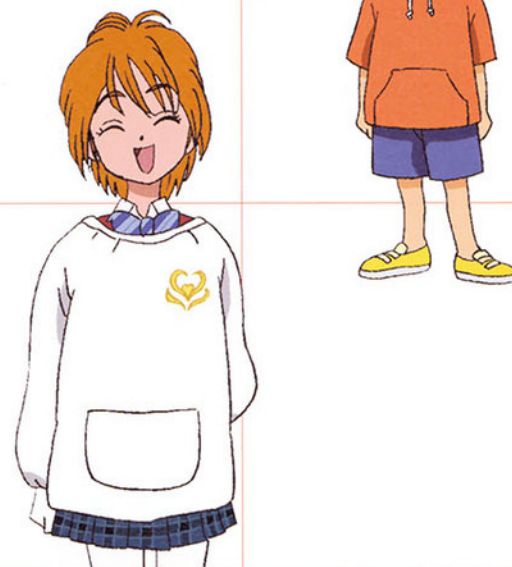
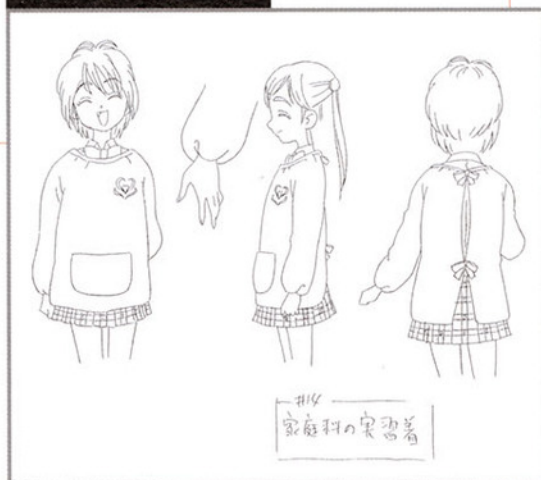
12話

ポイズニーが化けたお婆さん

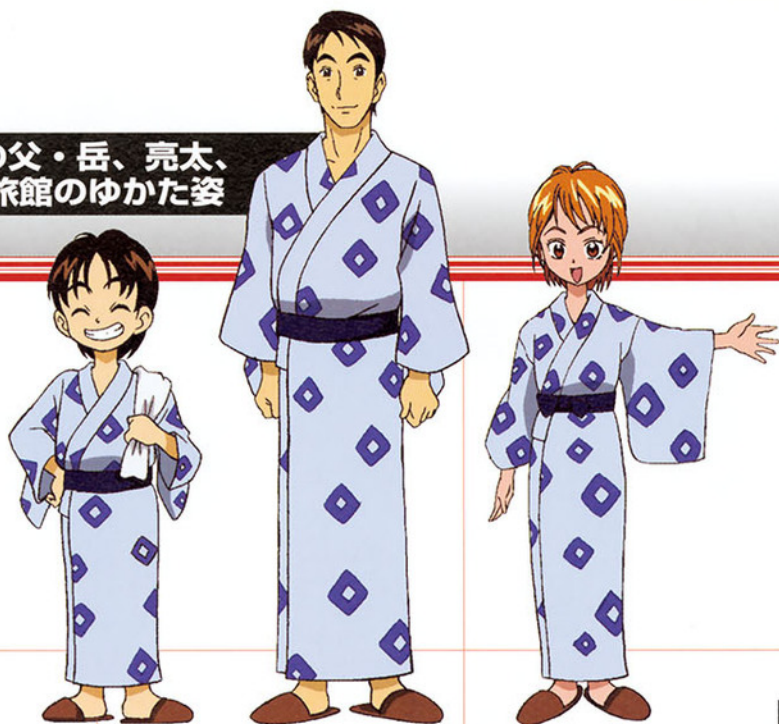
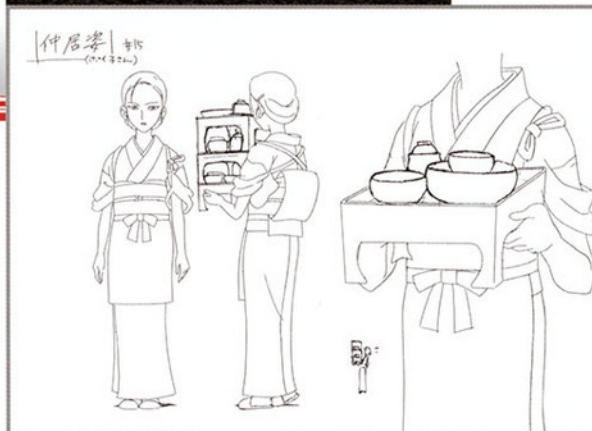
YURIKO 1号ザケンナー

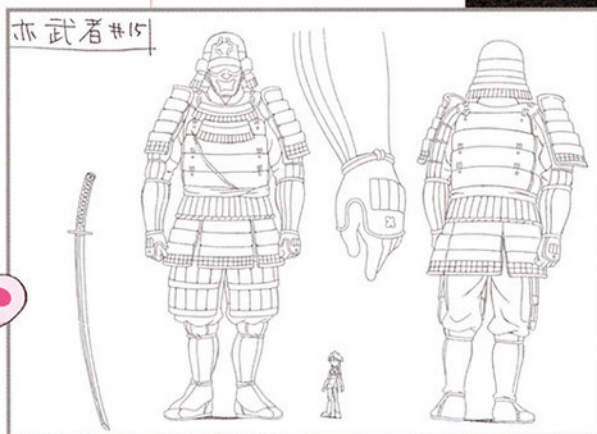
科学部員たち

#13～その他の科学部員

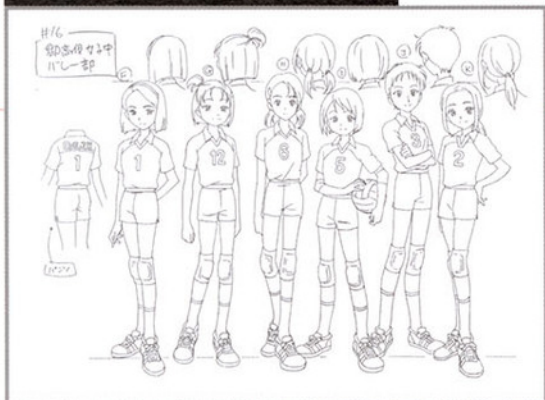
B C D ロ ハ イ

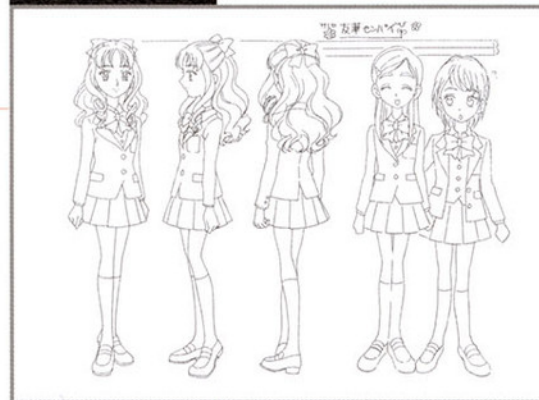
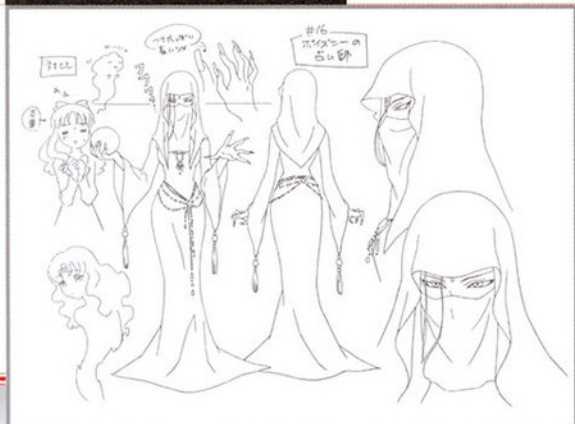
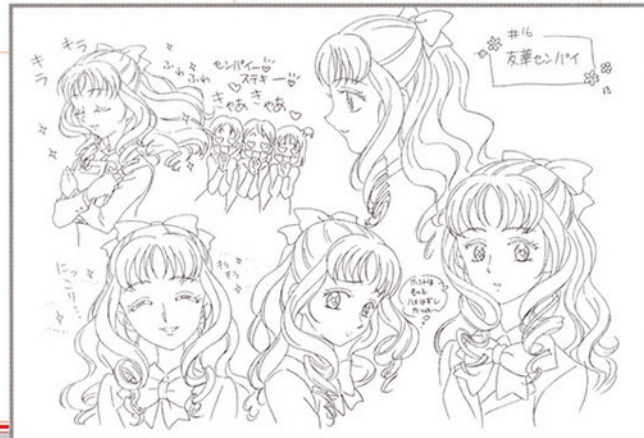
ポイズニーが化けたキャンペーンガール

14話
ホワイトの京子
ブラックの夏子
京子私服
夏子私服
ハサミクレーン ザケンナー
児童公園の子供たち
#14 少女Aと弟
#14 少年A
家庭科の実習着
#14 家庭科の実習着

15話

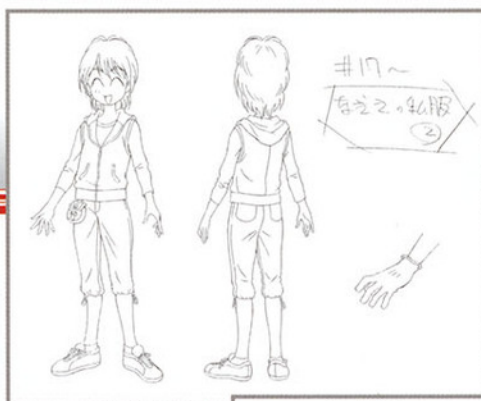
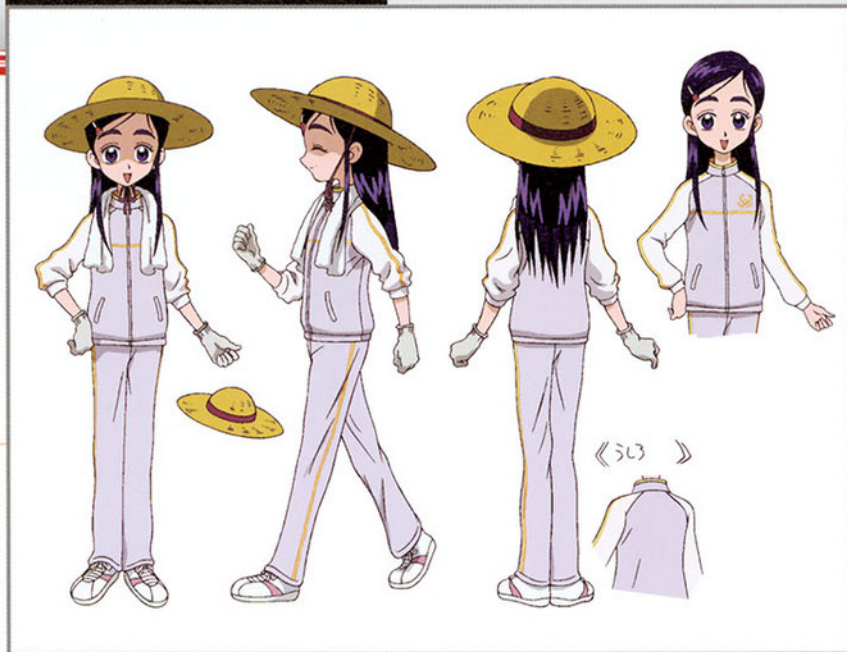
なぎさの父・岳、亮太、なぎさ 旅館のゆかた姿

ポイズニーの仲居さん

老主人

赤武者

ミップル・メップル ゆかた姿

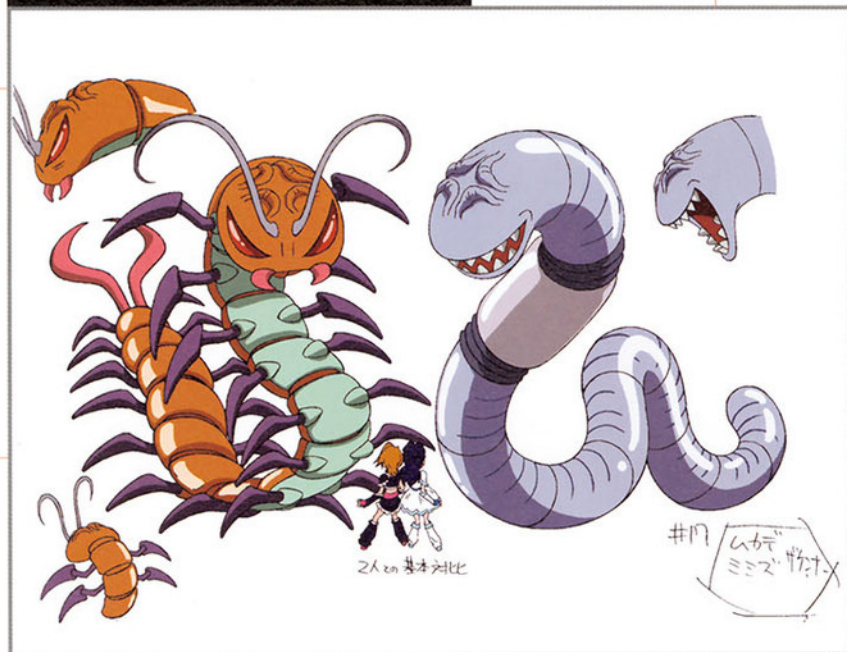
16話

御高倶女子中 バレー部

ベローネ学院 バレー部

小田島友華

ポイズニーの占い師

友華のおかかえ運転手・室町

17話

ほのか農作業スタイル

なぎさの私服

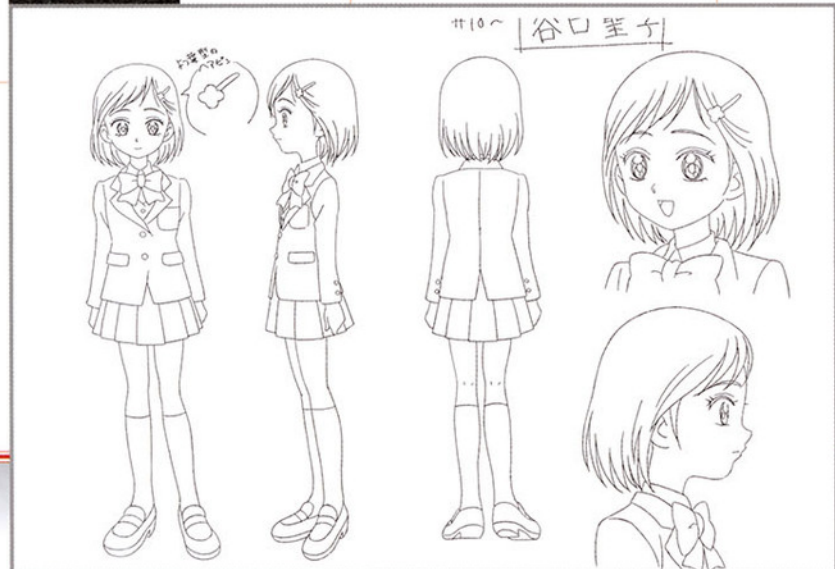
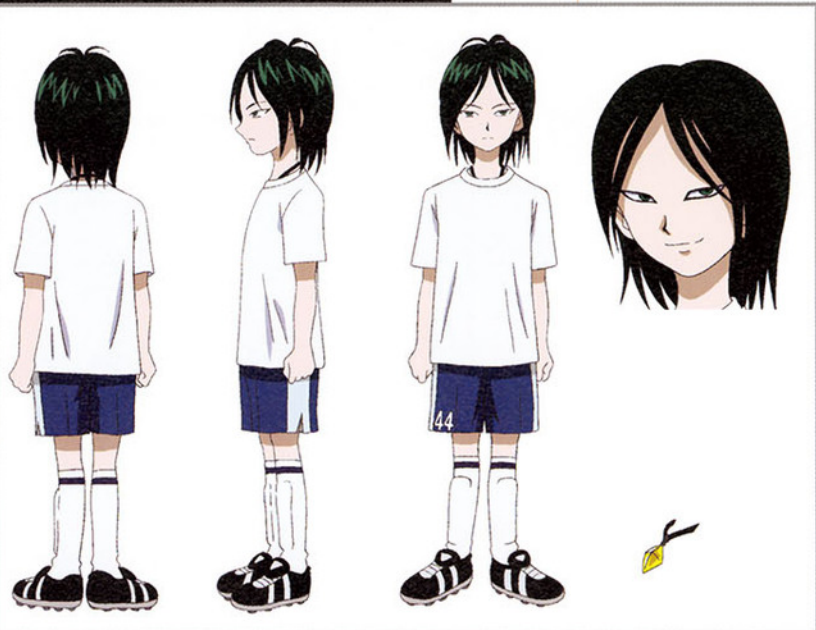
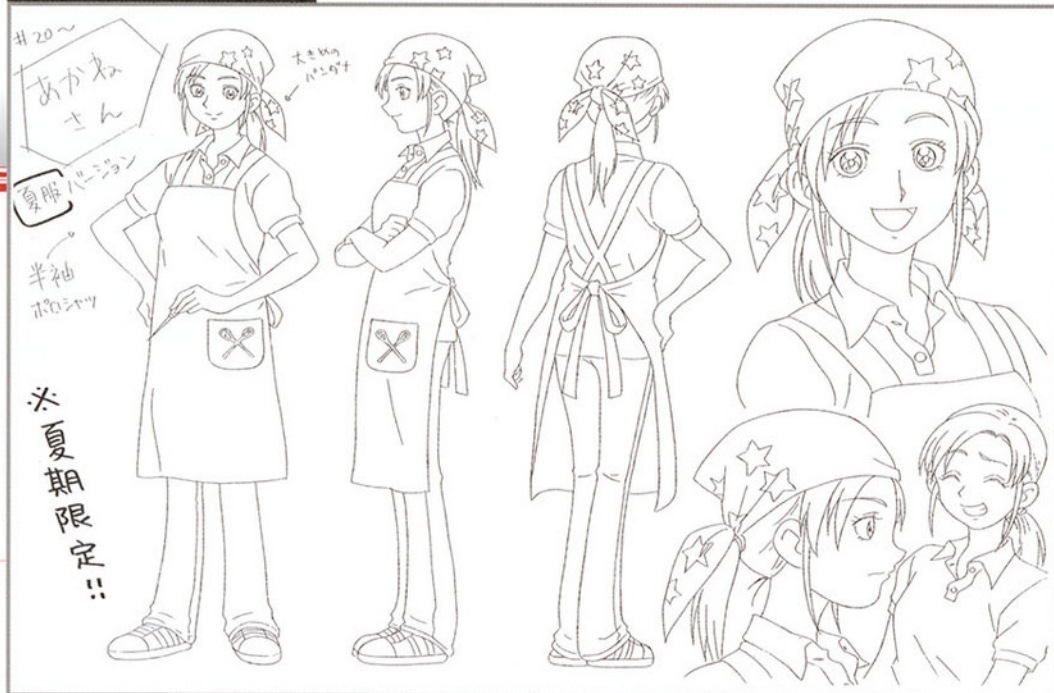
ベローネ学院女子 体育ジャージ

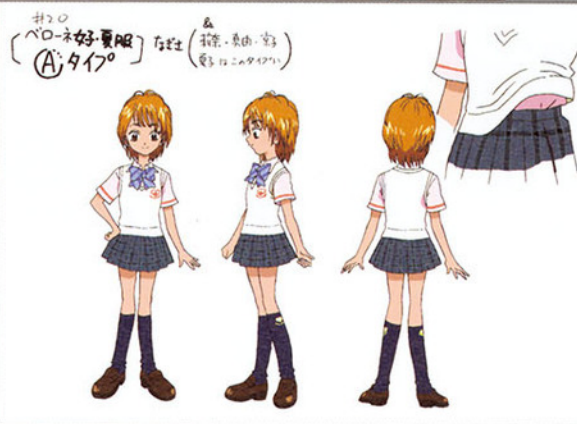
ムカデ・ミミズ ザケンナー

藤Pの私服

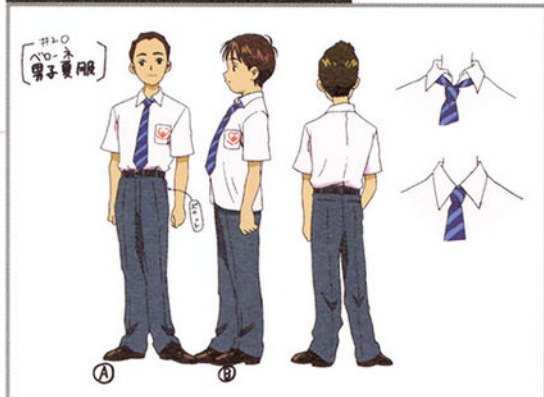
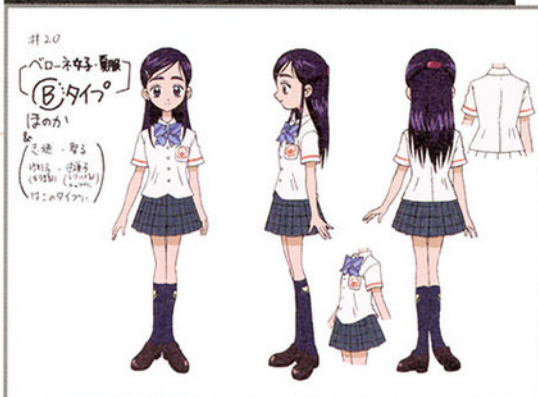
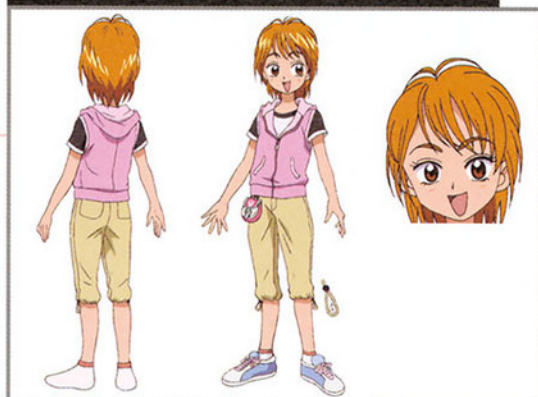
木俣の祖父・祖母

木俣 ウォームアップジャージ姿

18話

谷口聖子

キリヤ サッカー部スタイル

藤田アカネ・夏服

20話

ベローネ女子・夏服（Aタイプ）

21話

ベローネ男子・夏服

ベローネ女子・夏服（Bタイプ）

なぎさの私服 夏服バージョン

サソリザケンナー

アキオちゃん

22話

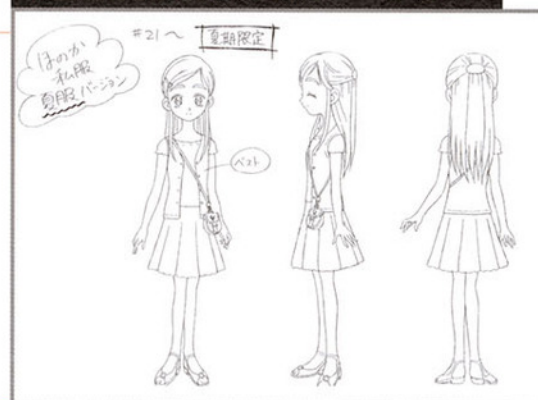
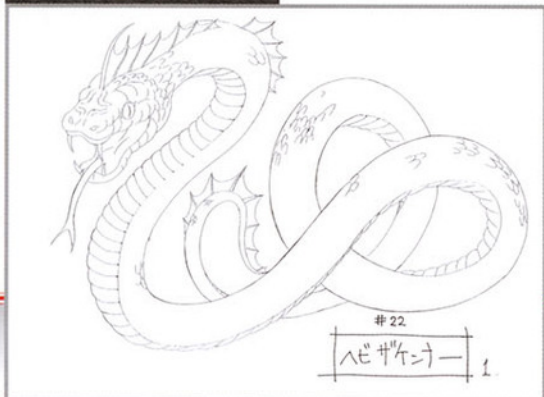
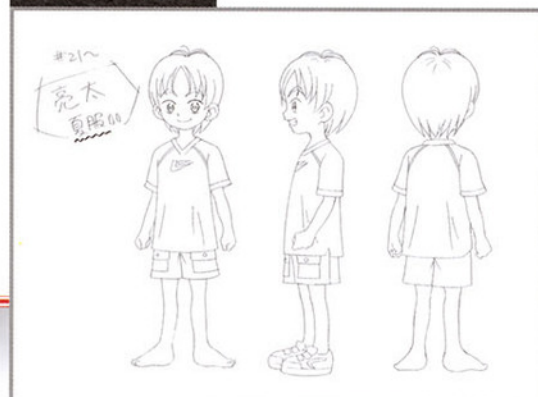
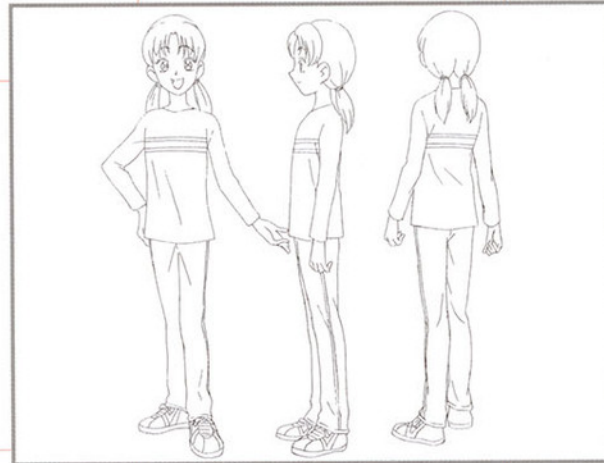
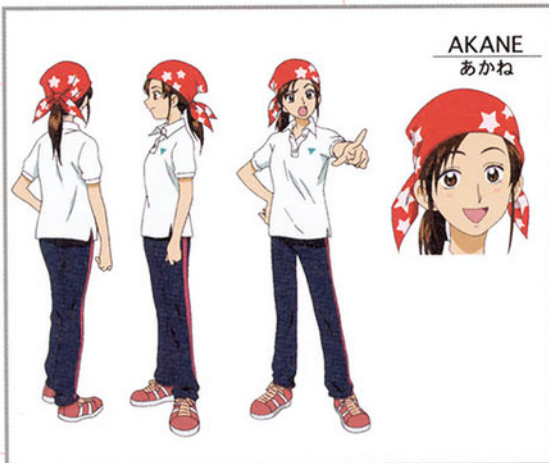
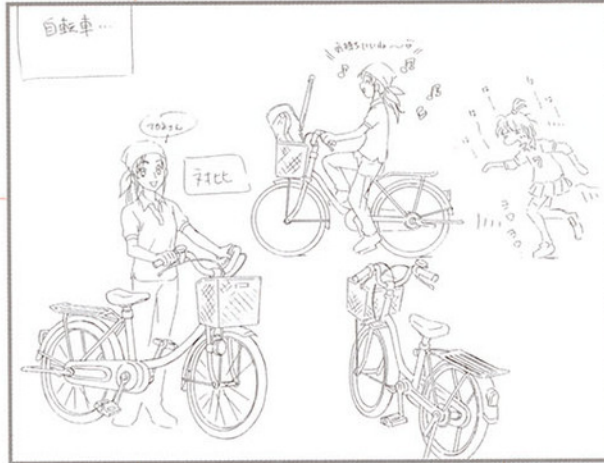
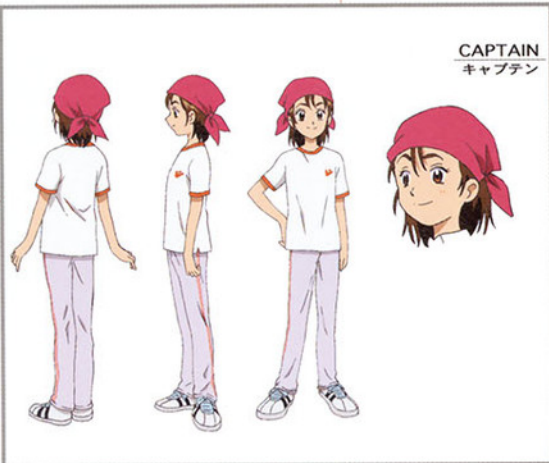
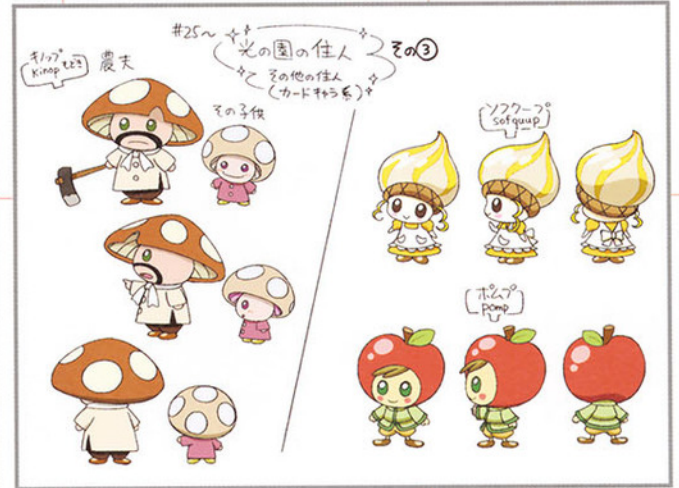
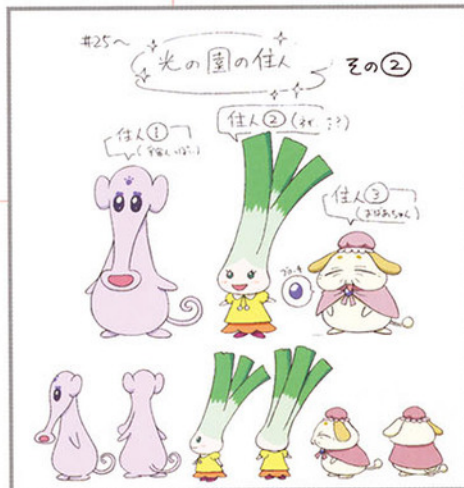
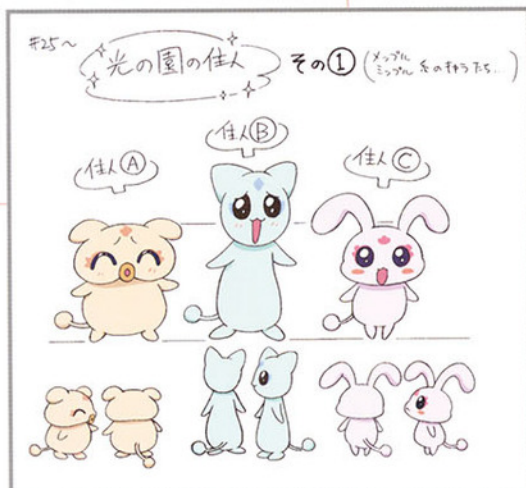
ほのかの私服 夏服バージョン

ヘビザケンナー

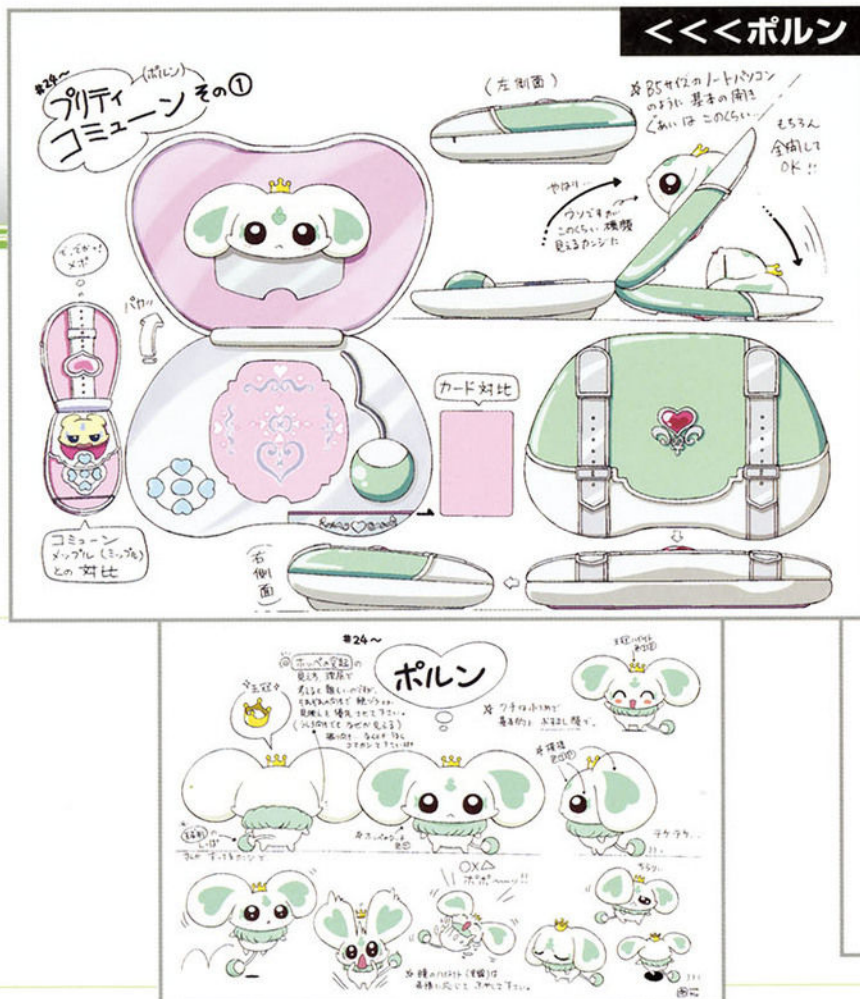
モコ

亮太・夏服

夏合宿でのラクロス部員たち 23話

光の園の住人 25話

『ふたりはプリキュア』設定資料

ここでは、作画用に描き起こされた設定資料を紹介します。3人の闇の戦士関連は総作画監督の稲上晃氏が、各話のゲスト・キャラクター関連は各話担当の作画監督によってそれぞれ描かれています。

<<<ポルン

<<<レインボーブレス

<<<ベルゼイ:ガートルード

<<<執事ザケンナー

<<<レギーネ

レギーネ
その①

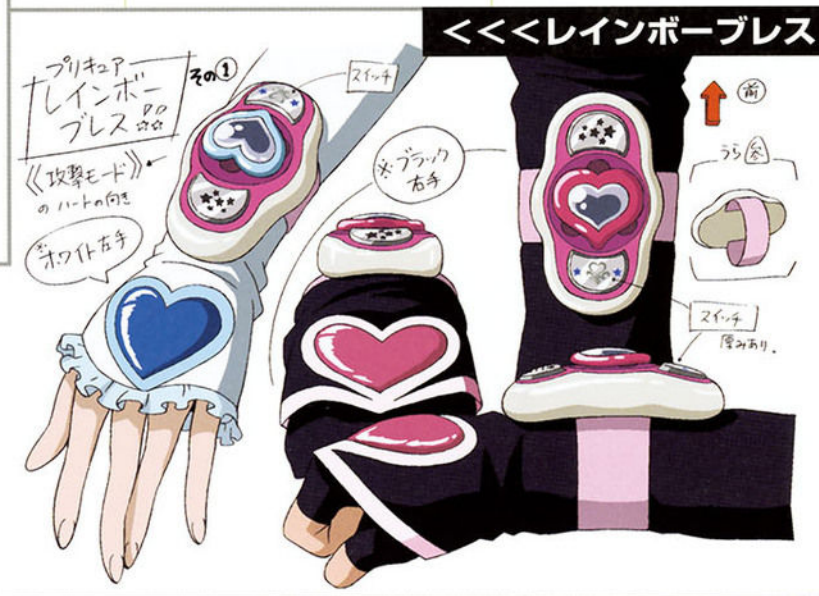
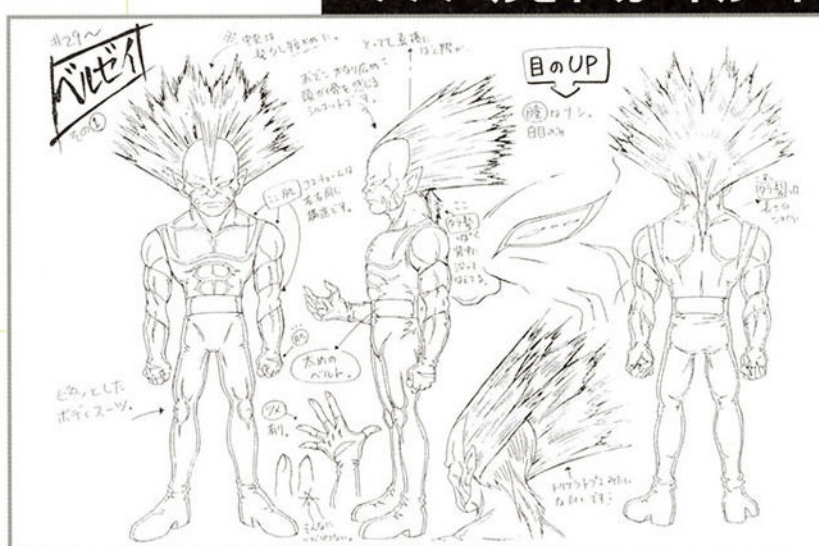
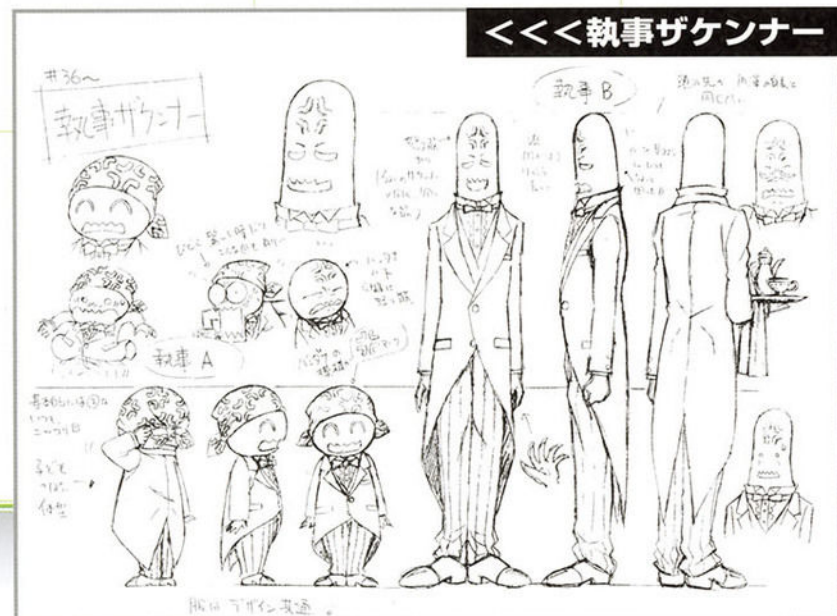
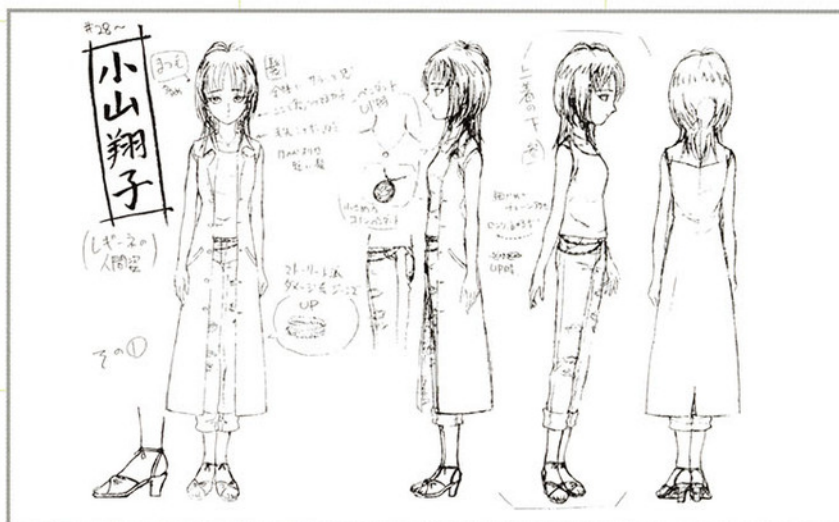
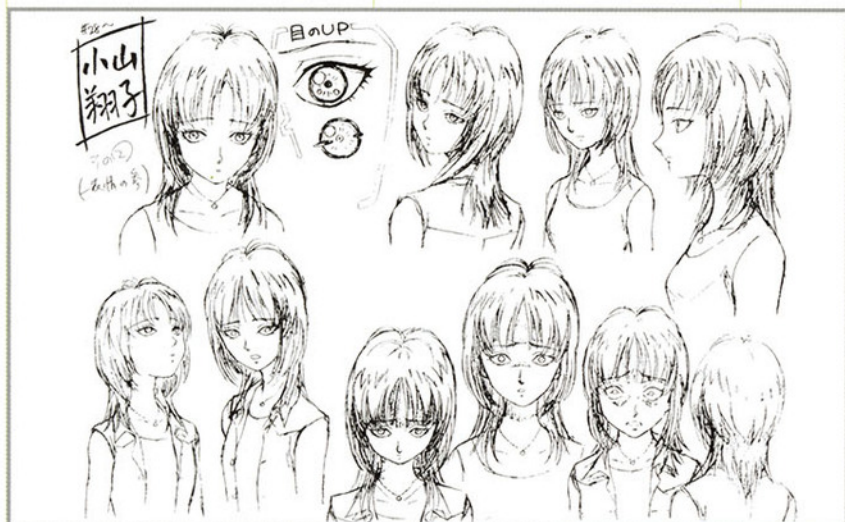
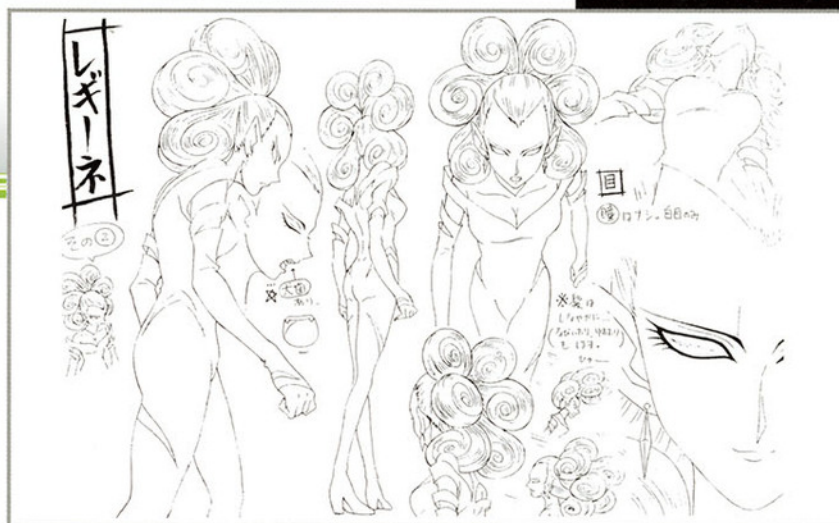
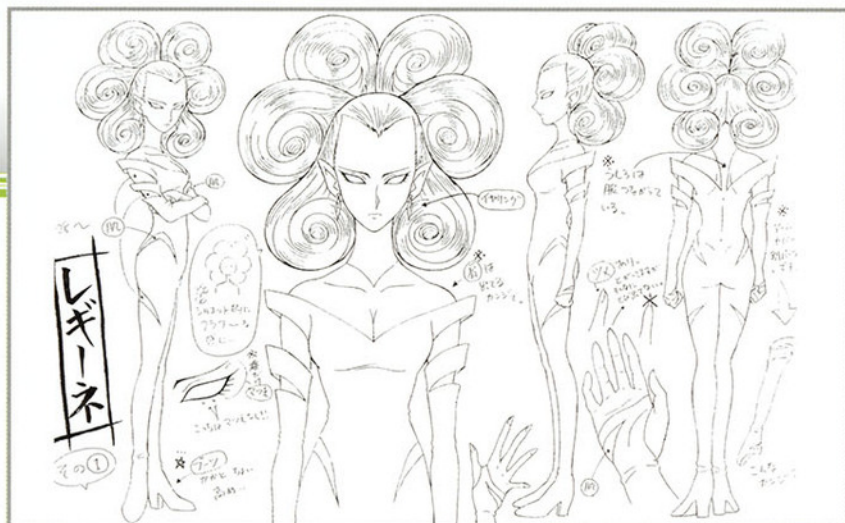
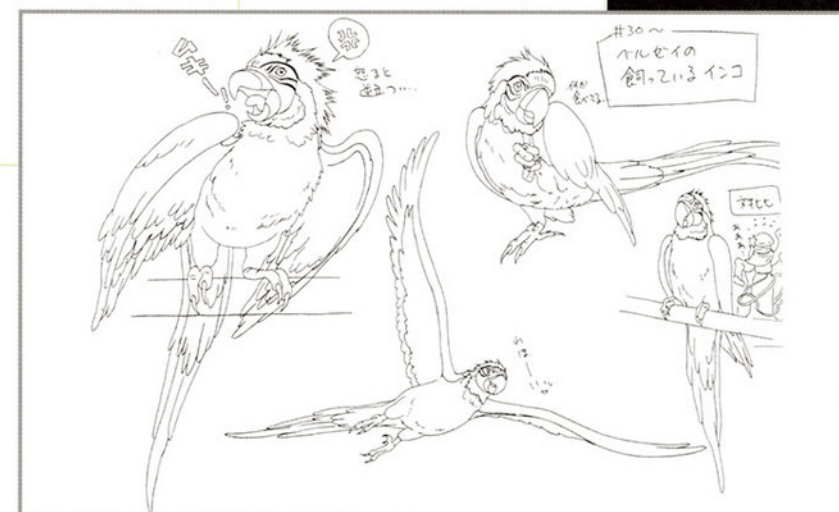
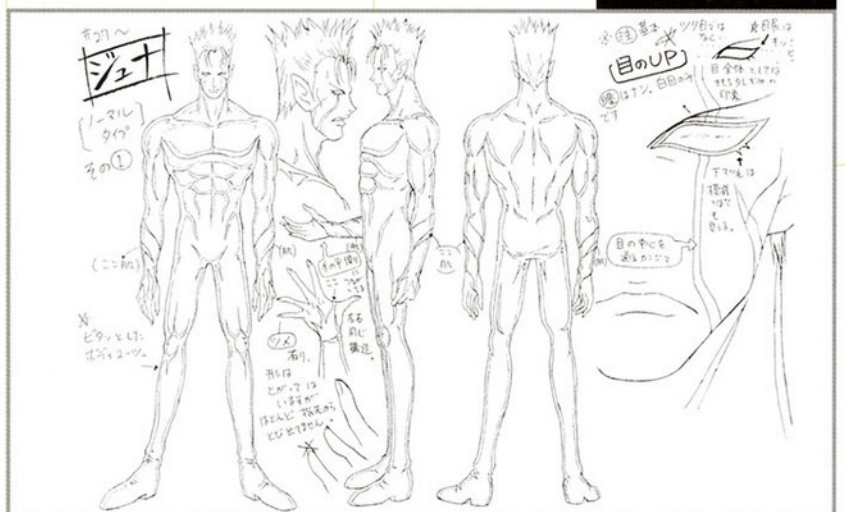
レギーネ
その②

小山翔子
目のUP

小山翔子
(レギーネの人間姿)
その①

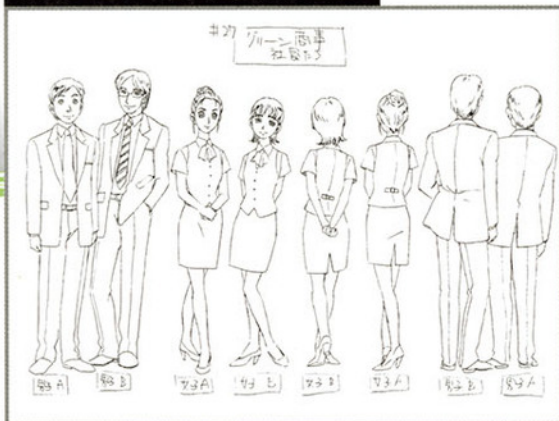
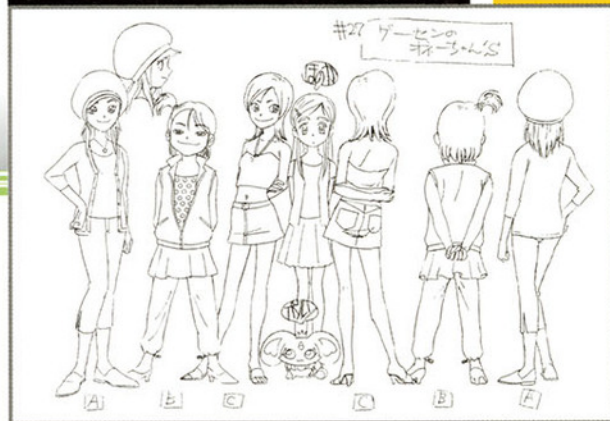
<<<ジュナ

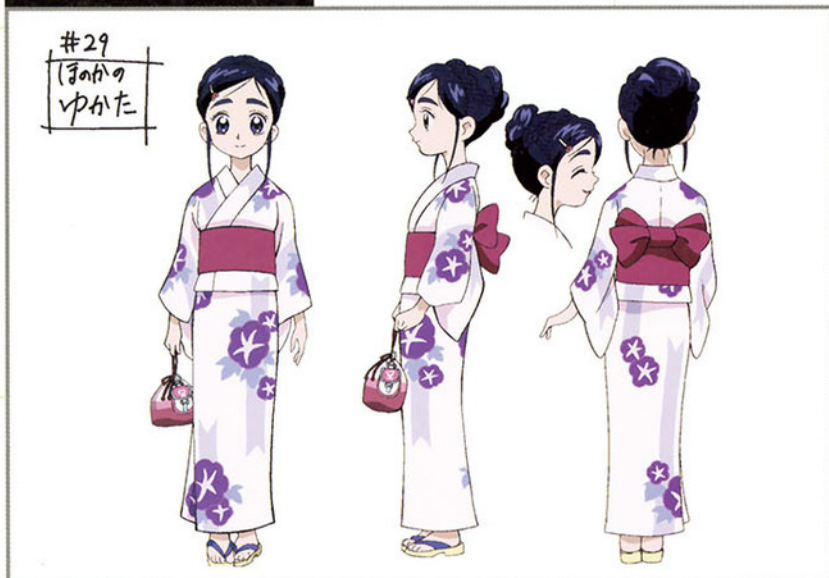
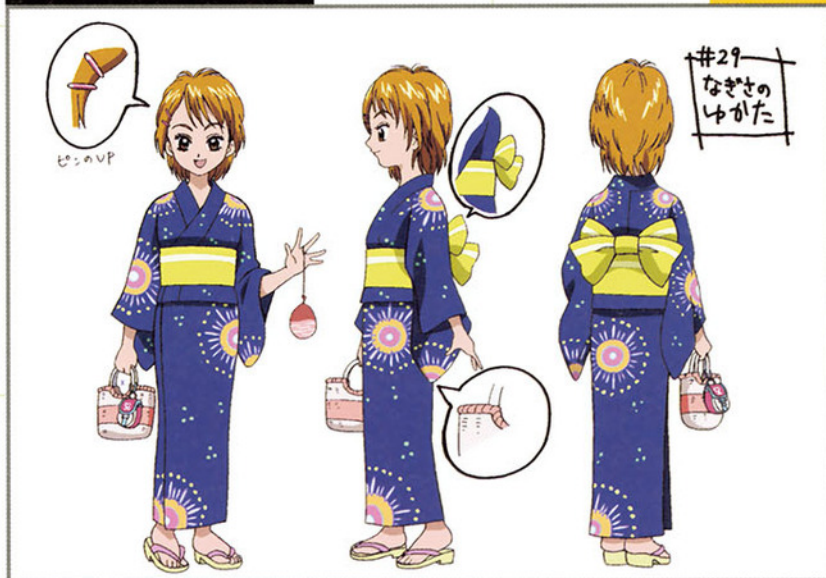
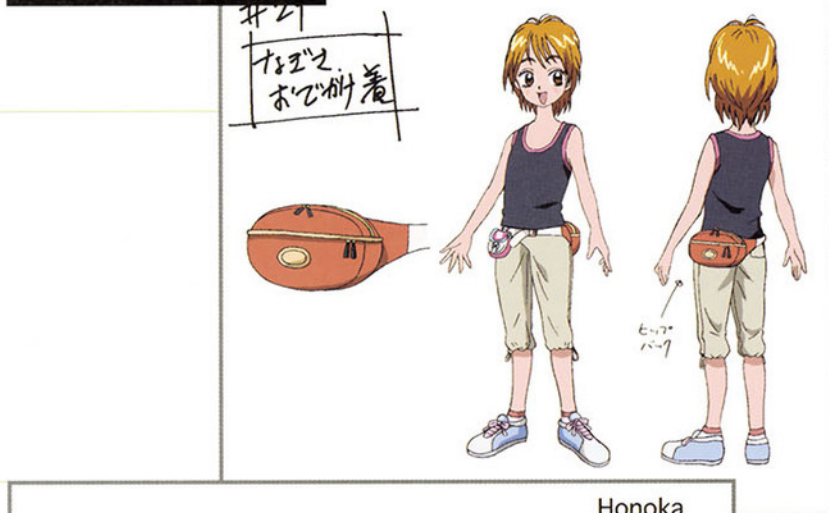
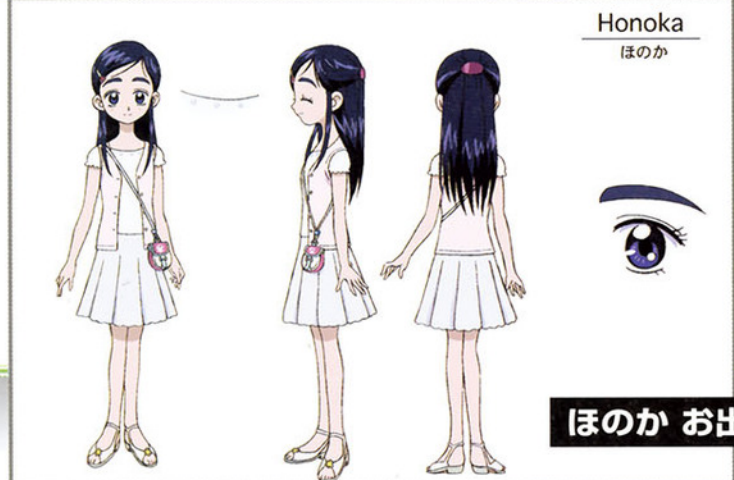
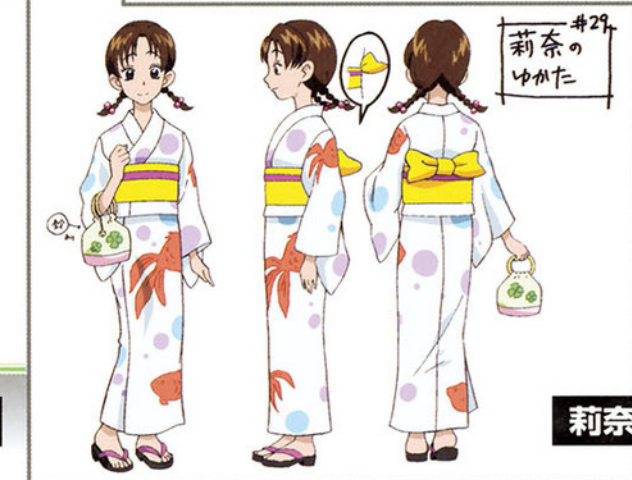
ジュナ
ノーマルタイプ
その①
目のUP
パワーUPタイプ
筋肉んジュナ

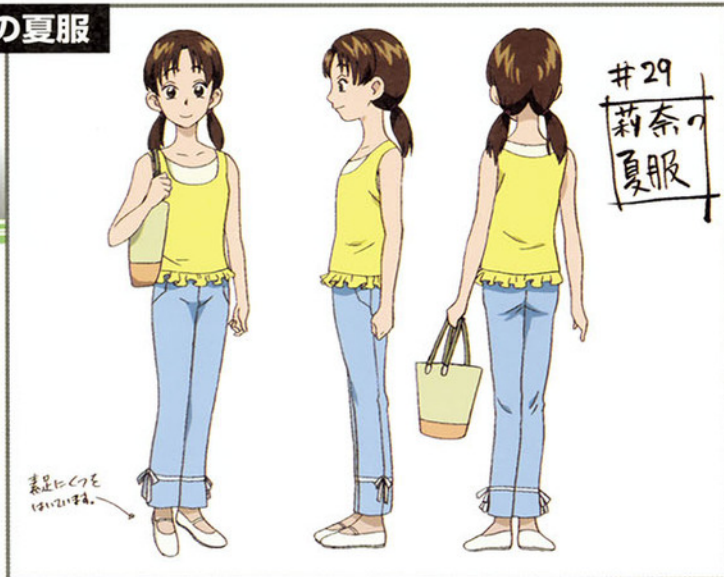
<<<インコ

#30〜
ベルゼイの飼っているインコ
#30〜
ベルゼイの飼っているインコ

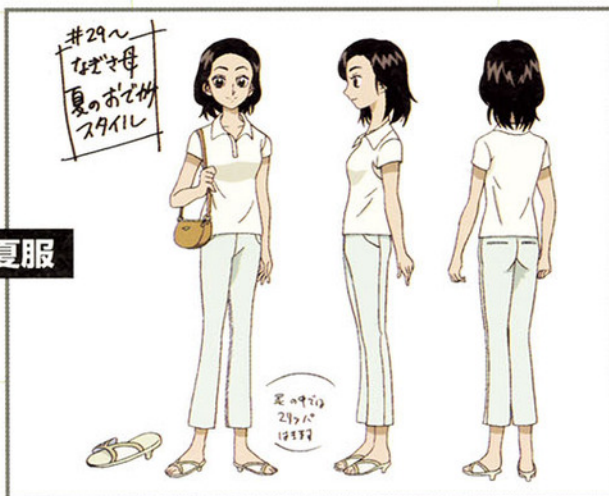
27話

黒ネコ、こいぬ

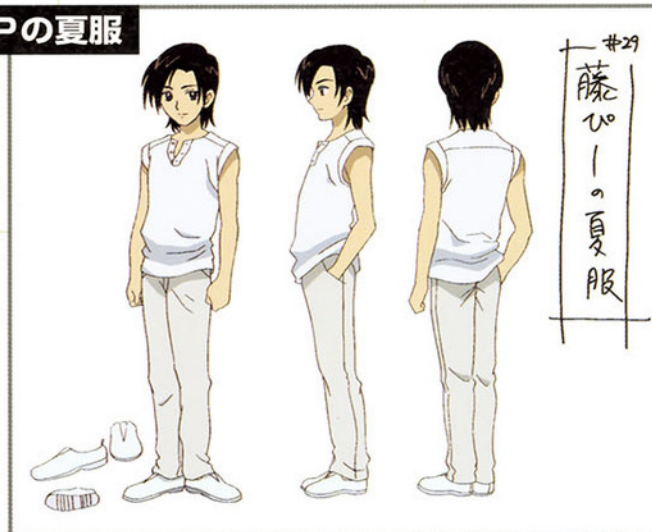
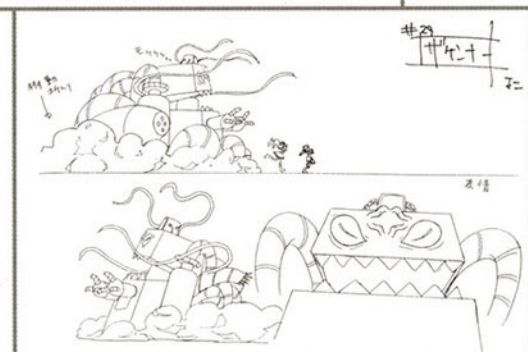
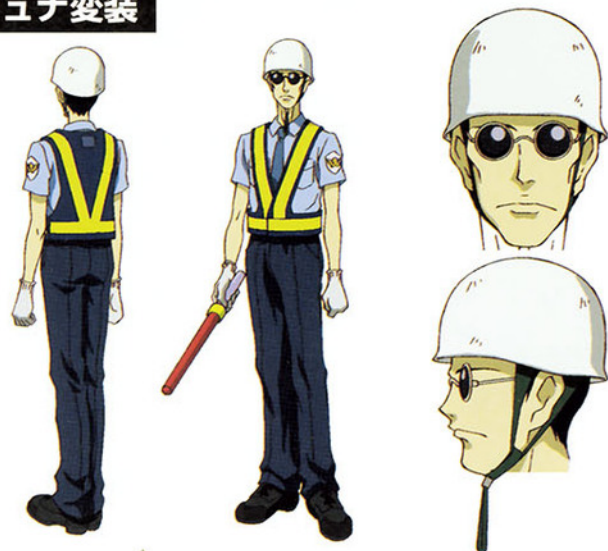
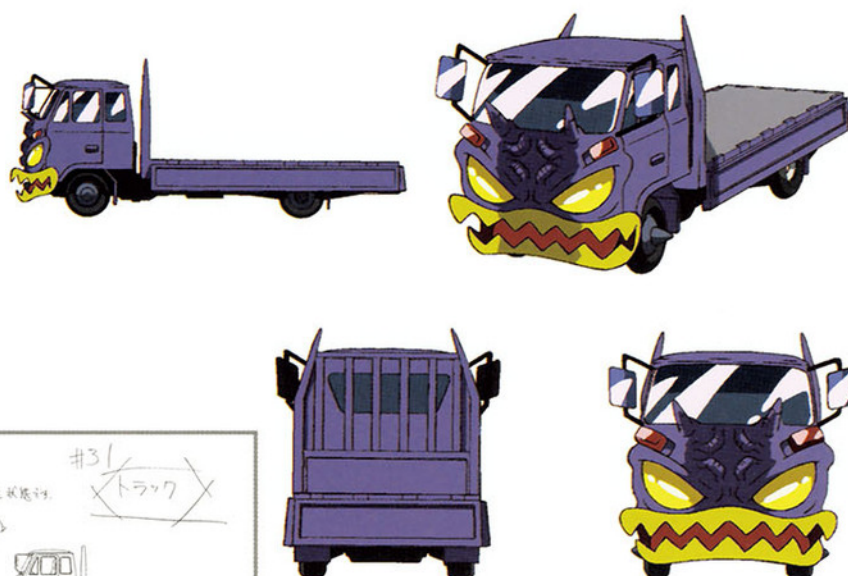
グリーン商事社員たち

ゲーセンのオネーちゃんたち

29話

ほのかのゆかた姿

なぎさのゆかた姿

なぎさ お出かけ着

志穂のゆかた姿

ほのか お出かけ着

莉奈のゆかた姿

莉奈の夏服

志穂の夏服

なぎさの母 夏服

サッカー部の仲間

医療器具ザケンナー

藤Pの夏服

木俣の夏服

ジュナ変装

32話

トラックザケンナー

アカネさんの代車

トラック

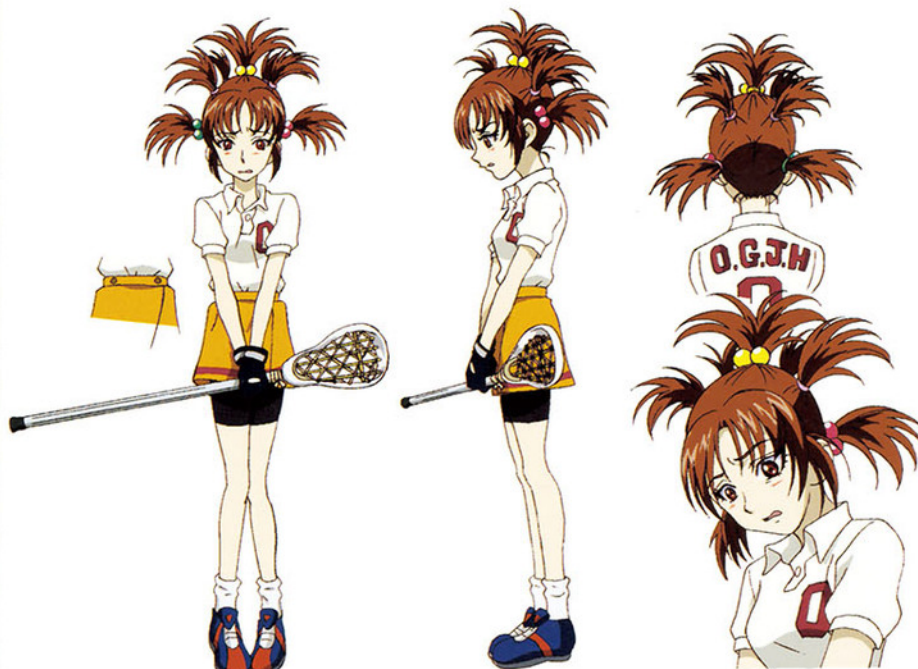
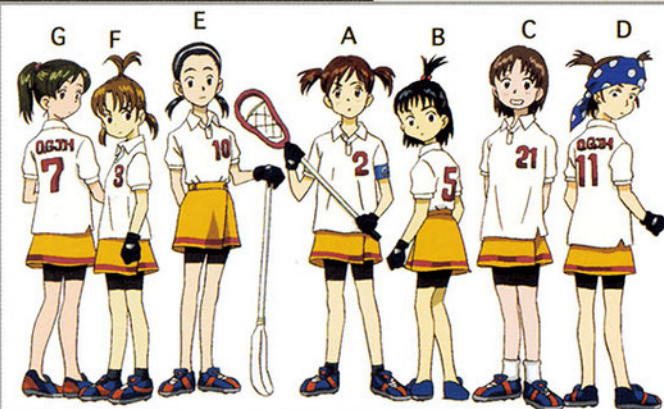
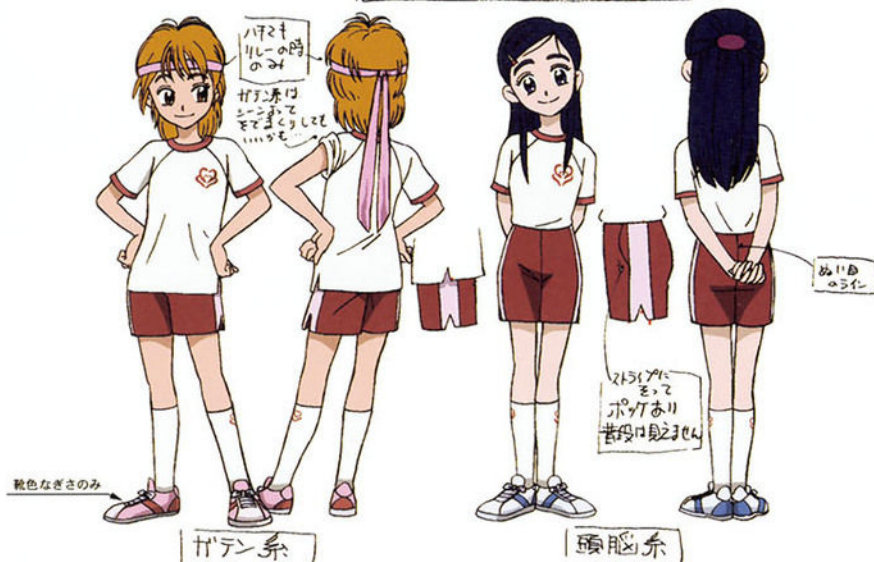
33話

恐竜ザケンナー

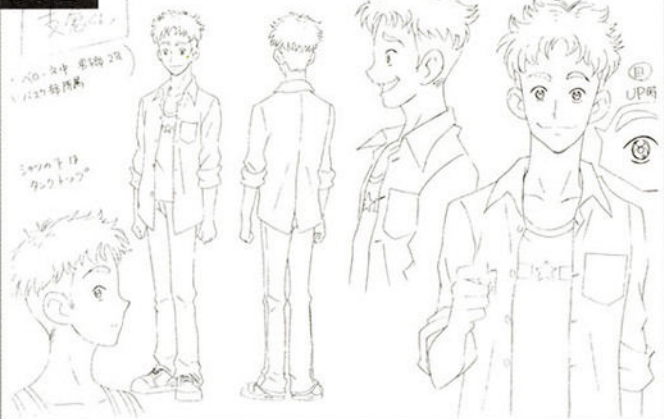
32話

レギーネ変装

御高倶女子ラクロス部

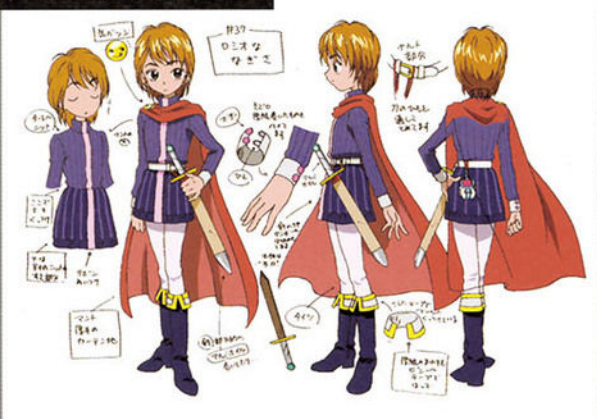
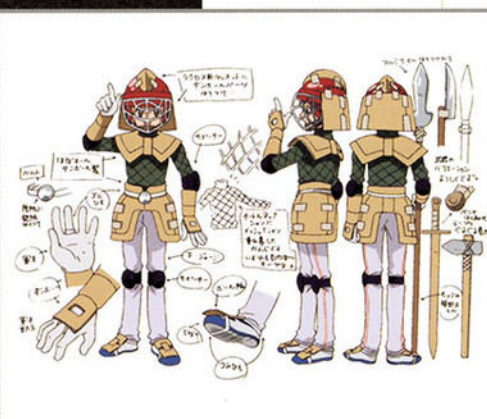
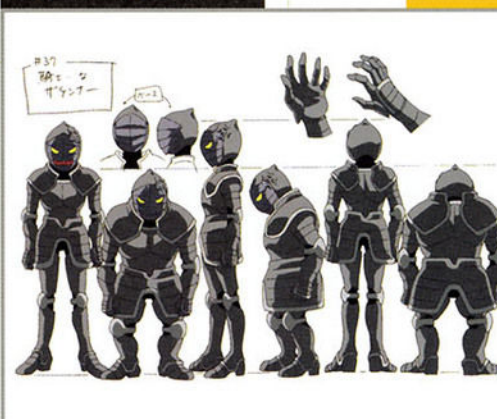
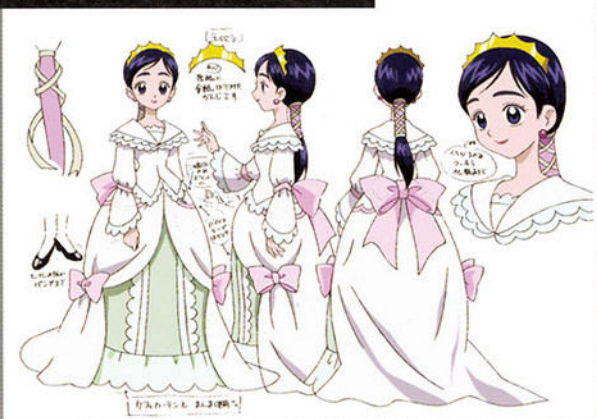
34話

ベローネ学院体操服

ピアノザケンナー

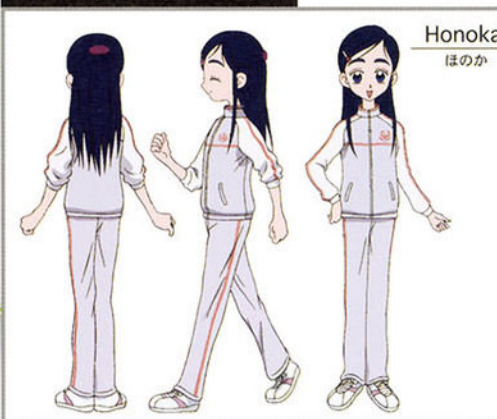
35話

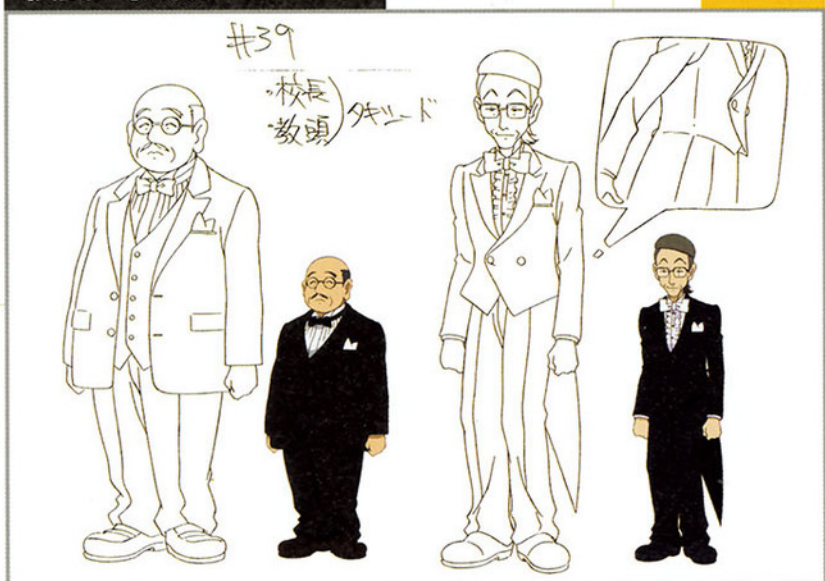
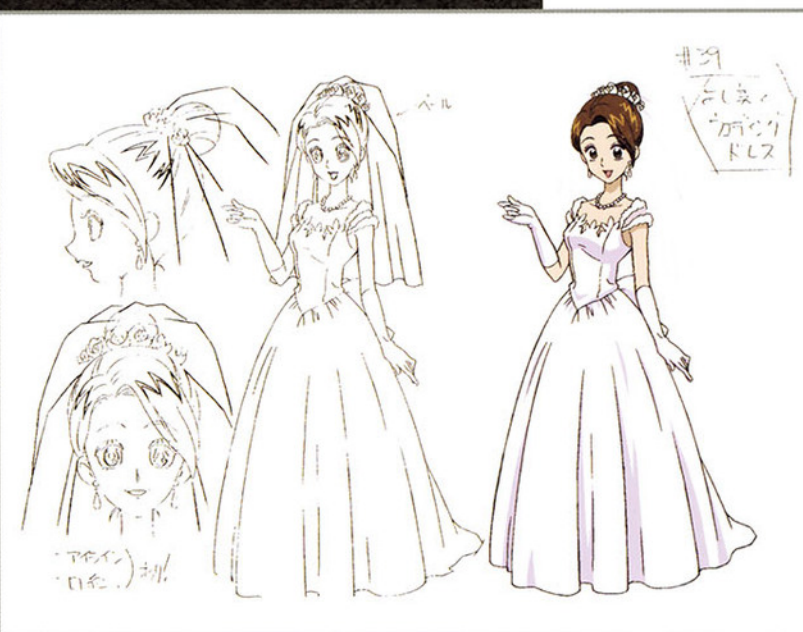
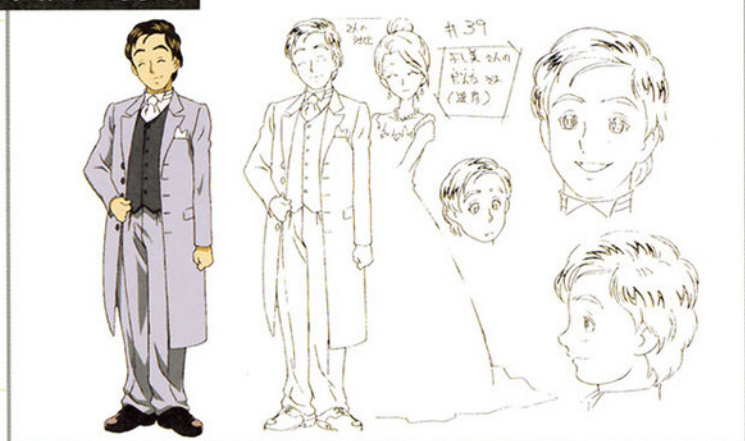
支倉

イガグリザケンナー

ほのか変装

37話

ロミオのなぎさ

騎士の莉奈

騎士ザケンナー

ジュリエットのほのか

なぎさジャージ姿

ほのかジャージ姿

39話

校長、教頭タキシード

よし美先生新郎

よし美先生にあげるキルト

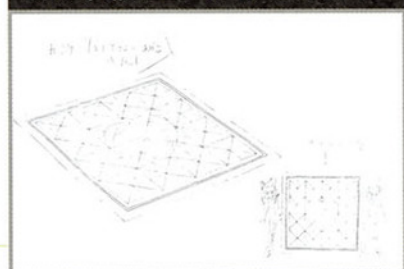
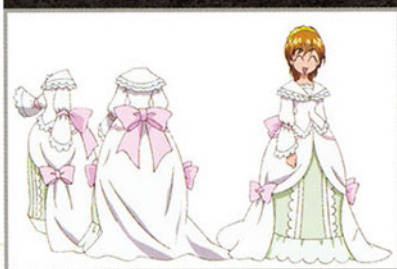
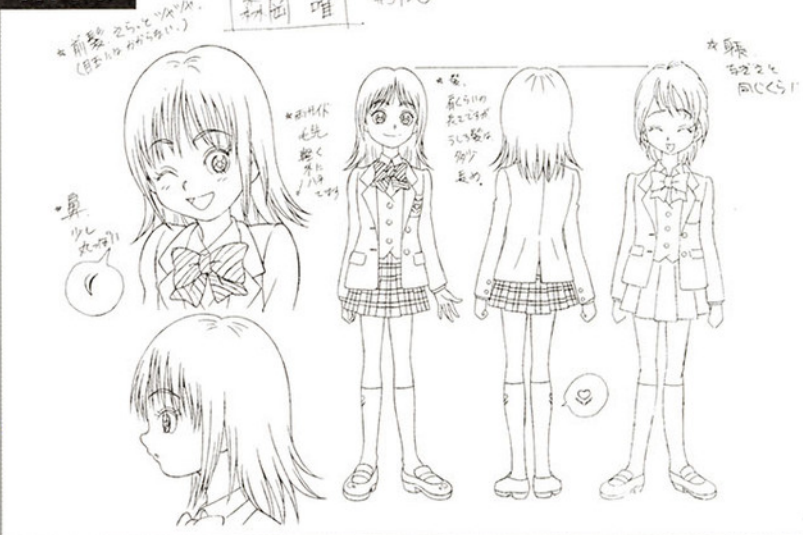
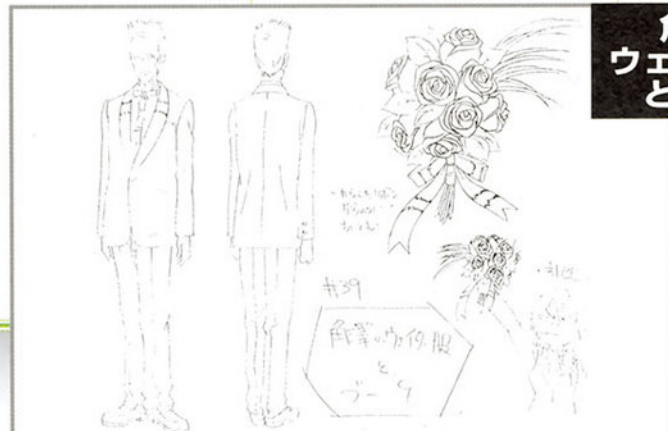
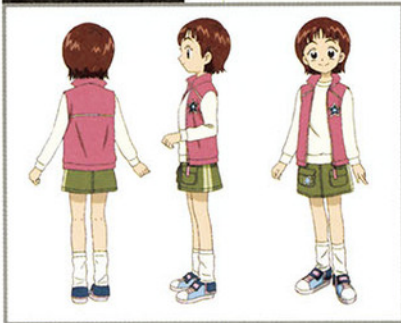
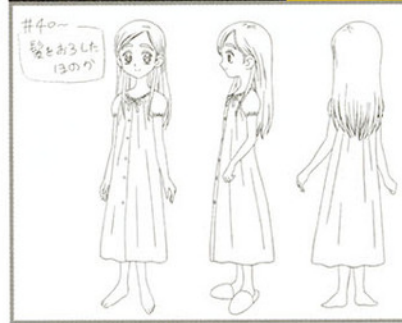
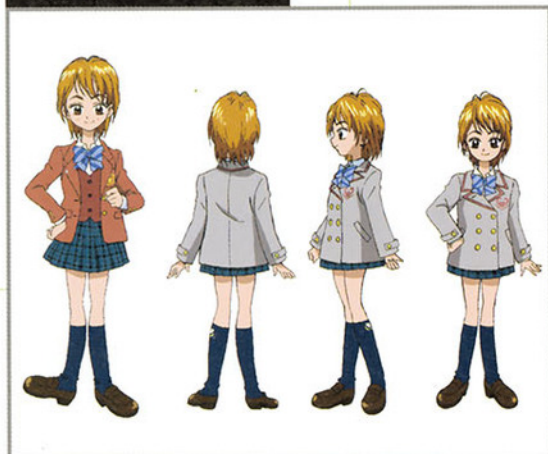
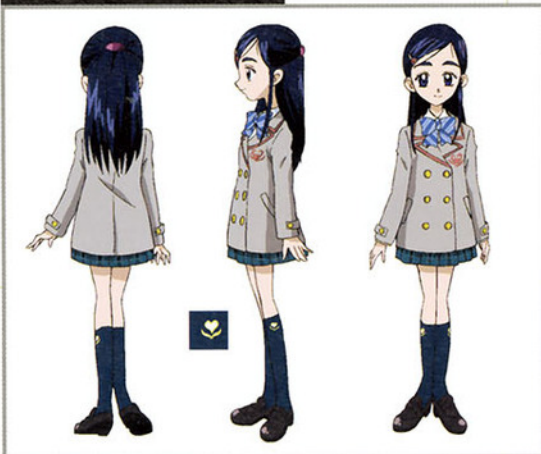
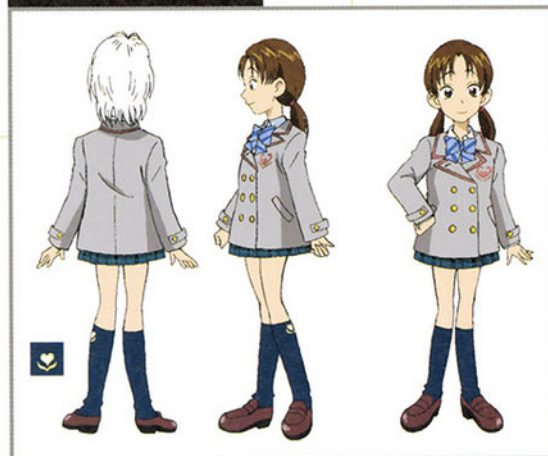
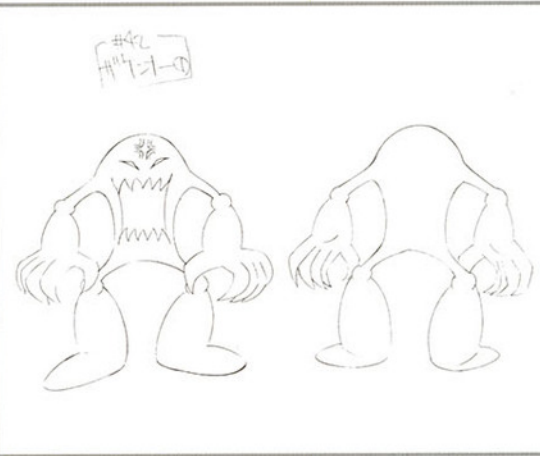
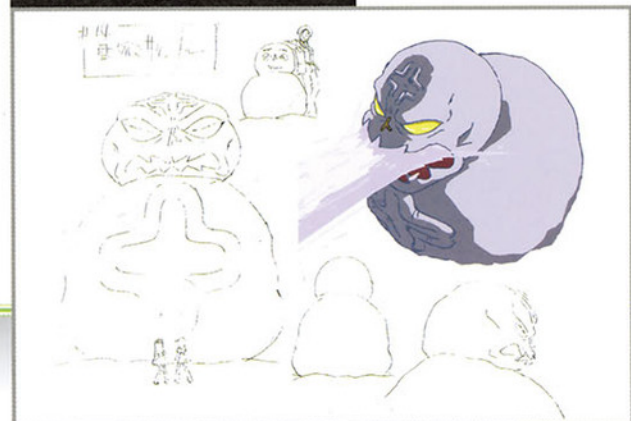
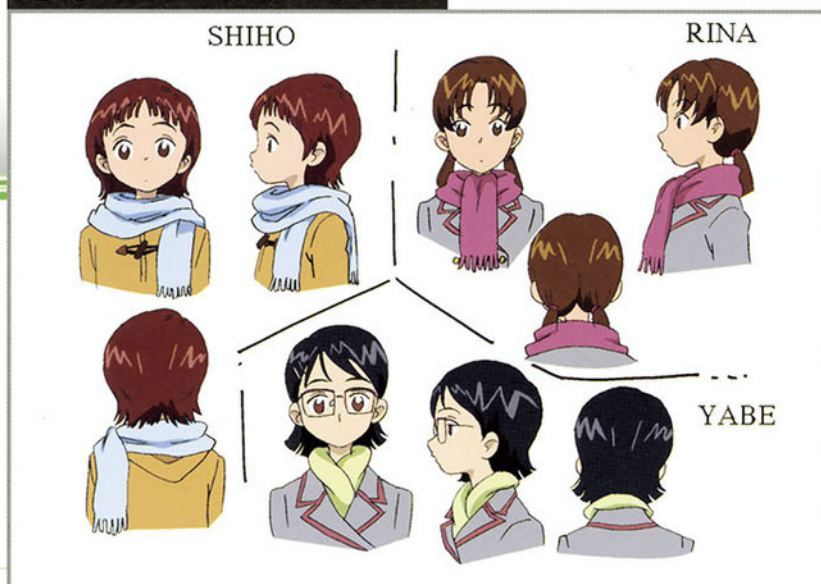
なぎさのウエディングドレス

角澤のウェイター服とブーケ

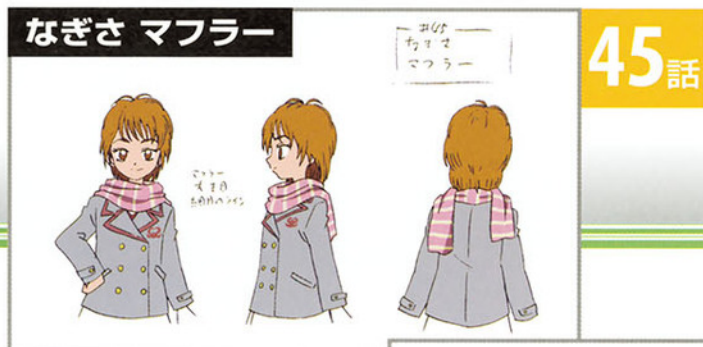
38話

パソコンザケンナー

よし美先生のウエディングドレス

森岡唯

40話
莉奈 私服
ユリコ 私服
志穂 私服
髪をおろしたほのか
42話
なぎさ コート姿
ほのか コート姿
志穂 コート姿
莉奈 コート姿
ザケンナー
44話
雪だるまザケンナー
雪だるま
43話
藤Pのマフラー

45話

志穂、莉奈、千秋 マフラー

なぎさ マフラー

ほのか マフラー

矢部千秋

矢部千秋 私服

47話

巨人

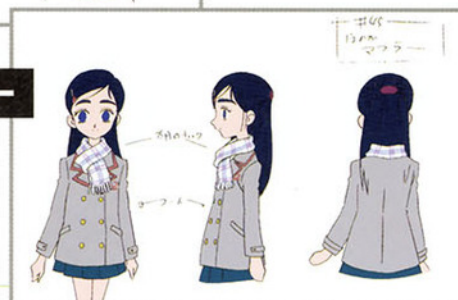
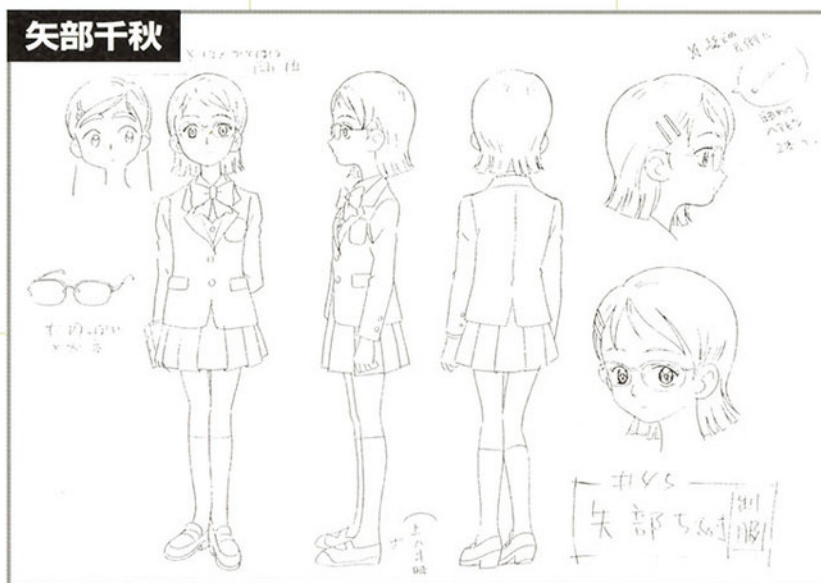
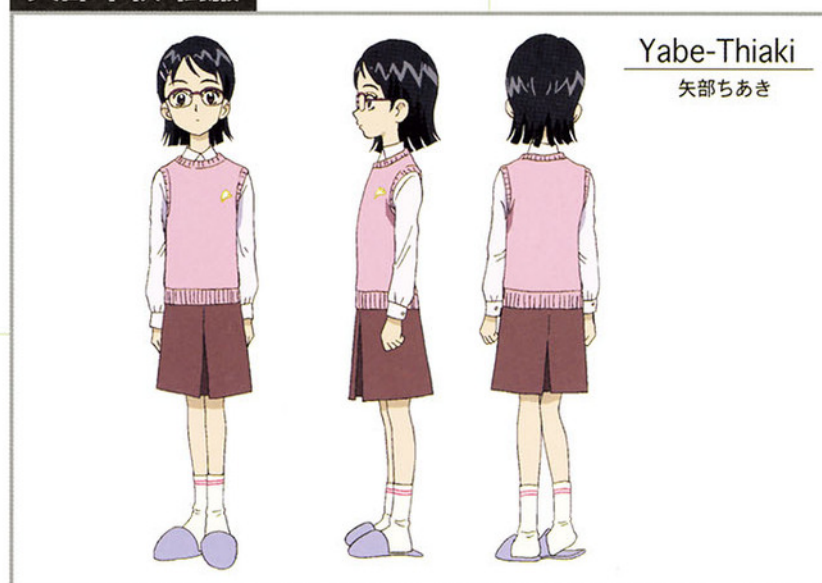
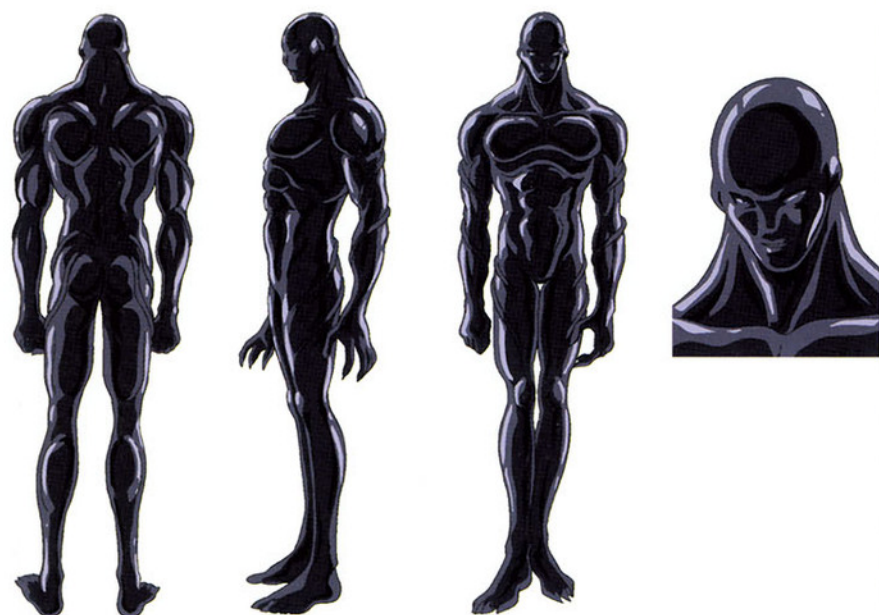
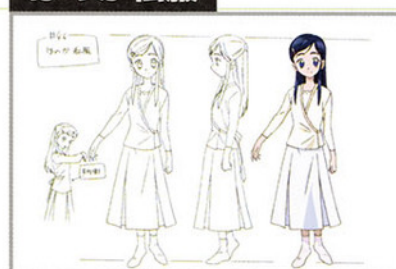
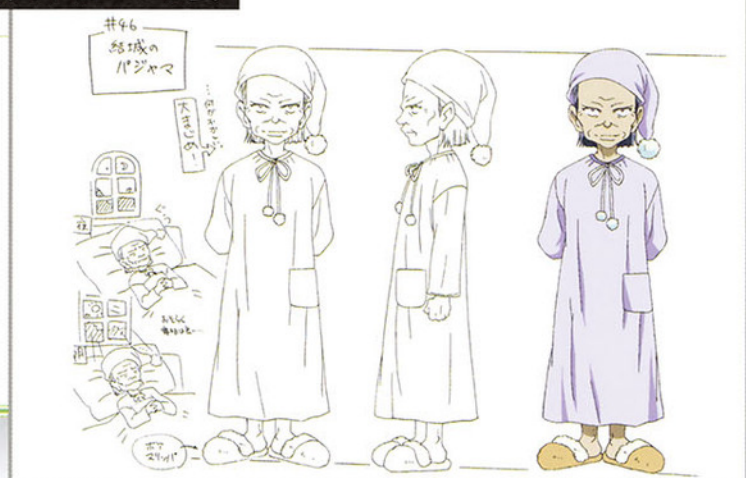
46話

ほのか私服

なぎさ私服

結城のパジャマ姿

ふたりはプリキュア 名言集 3

ほのか

お父さんと
お母さんが
言ってた！

人生は良いことと悪いことが半分ずつなんだって！

今までつらいことばっかりだったなら、
これからは良いことばかりでしょ。

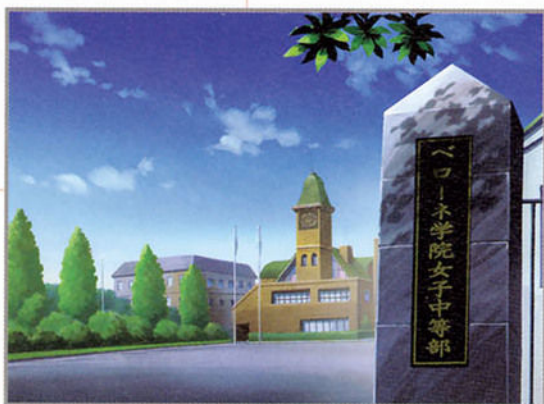
海外で仕事をしている両親と年に一度だけ会える、ほのかの誕生日。そんな大切な日を宝石強盗が邪魔します。会社が倒産し、借金を背負わされ、良いことが全然なかったとなげく３人組の強盗の心に、ほのかの言葉が刺さります。（第10話より）

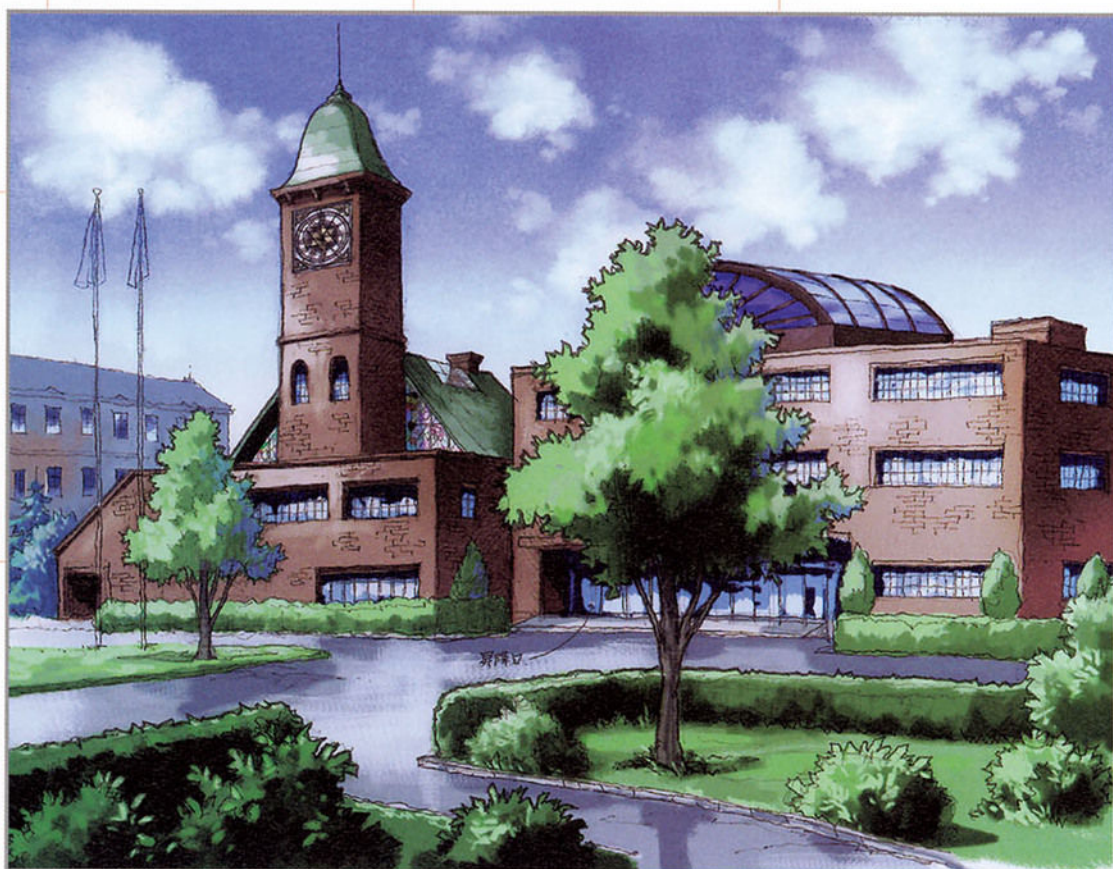
「ふたりはプリキュア名言集　わたしたちはぜったい負けない」（講談社）より抜粋。

『ふたりはプリキュア』美術ボード

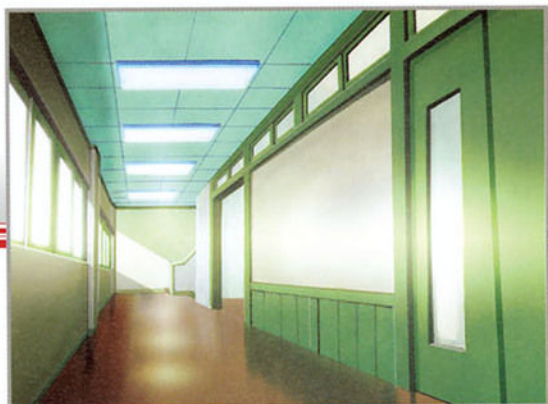
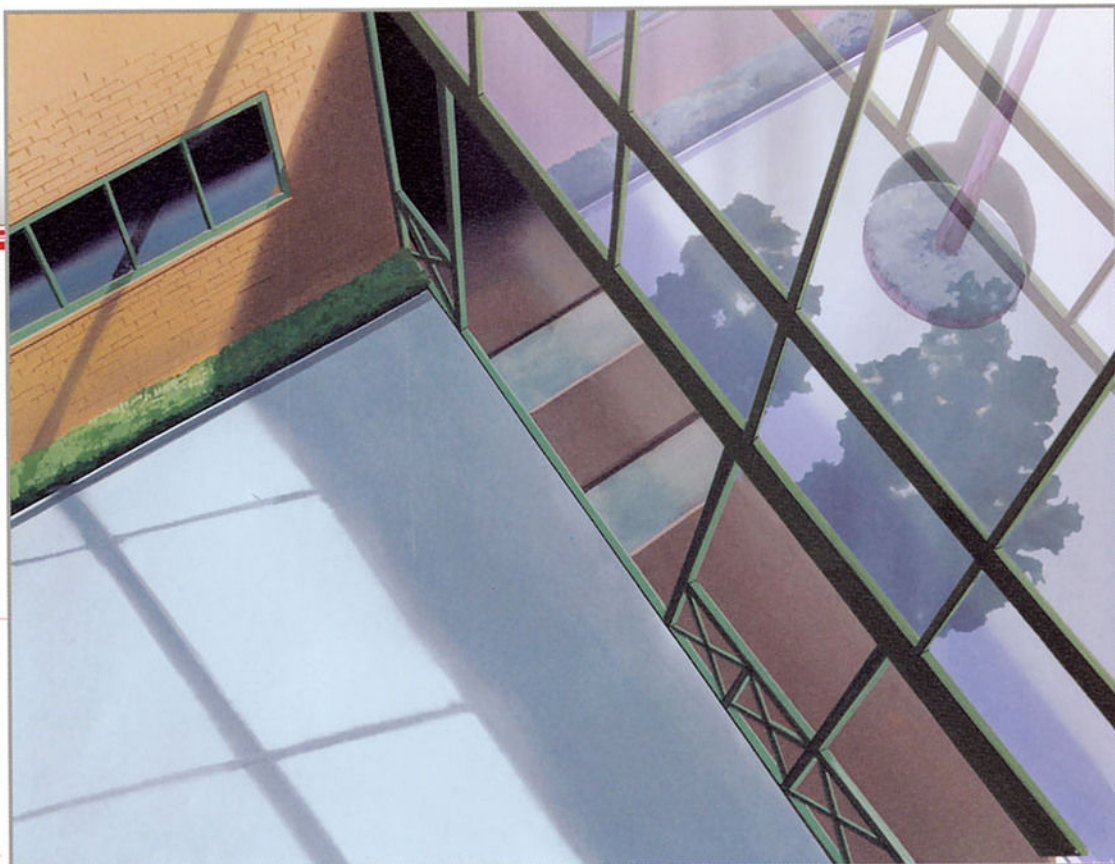
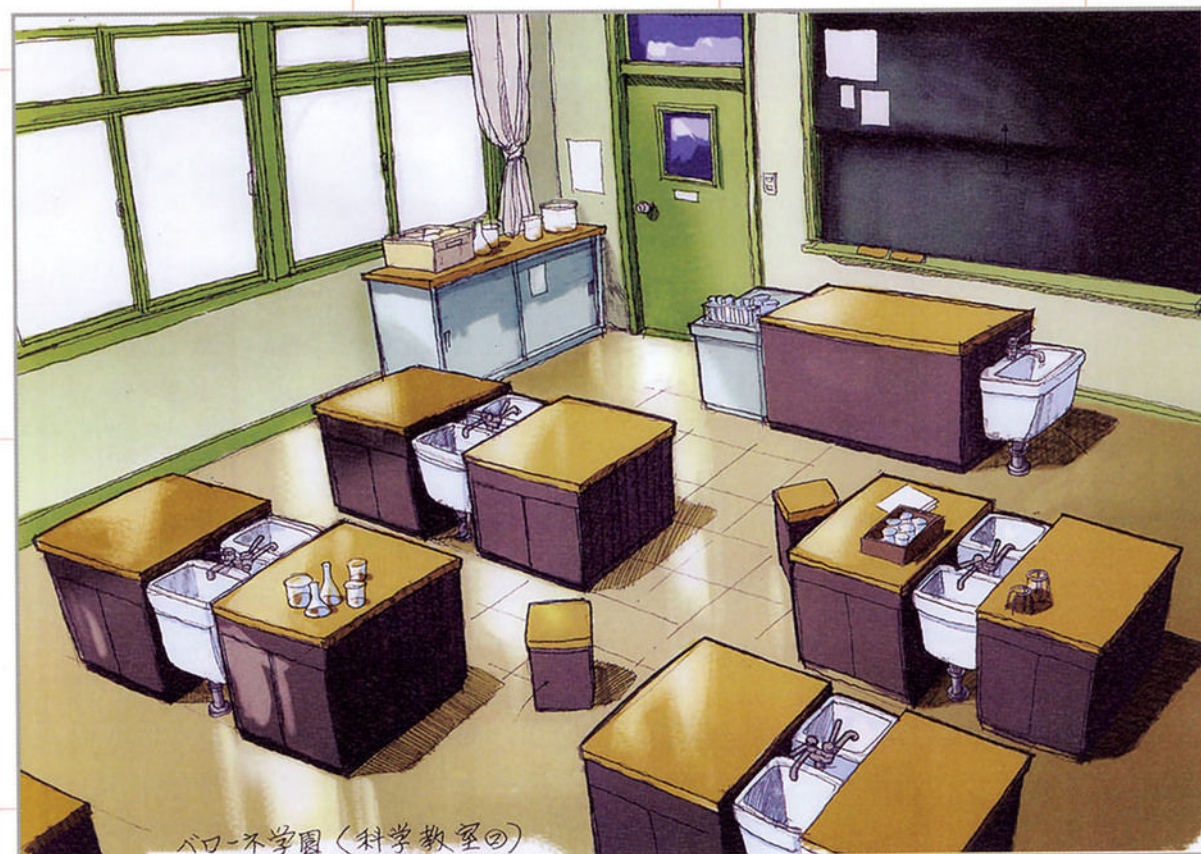
美術ボードとは、美術監督によって描かれた背景設定をもとに、実際に本編で使用する背景画と同じように作画、着色し、監督を含めた美術スタッフによって色彩などを検討するために描かれるものです。ここに紹介する美術ボードは、主に美術を担当する行 信三氏によって描かれたものです。

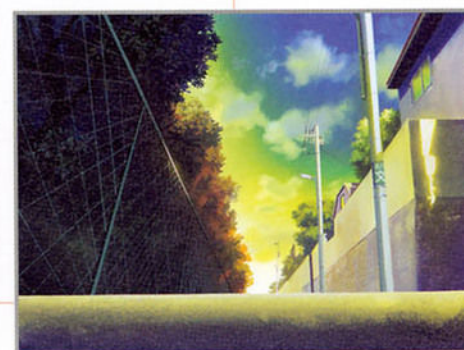
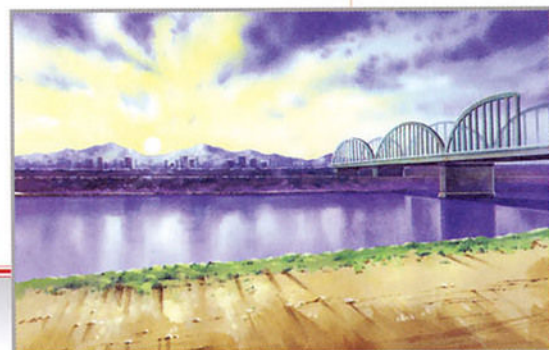
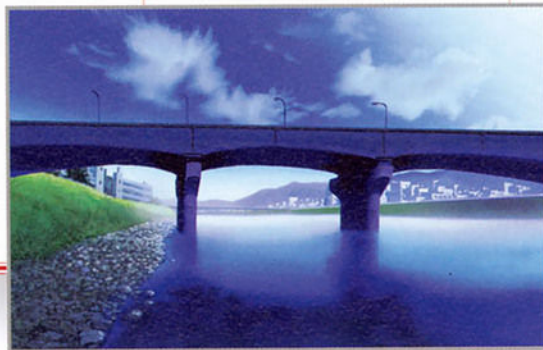
<<<ベローネ学院およびその周辺

●ベローネ学院全景

●ベローネ学院女子中等部校門

●下駄箱

●ベローネ学院校舎

●廊下

●理科室

●渡り廊下

●理科室

●体育館

●通学路

●川の土手

●川と橋

●若葉台駅

<<<美墨家・雪城家

●なぎさの部屋

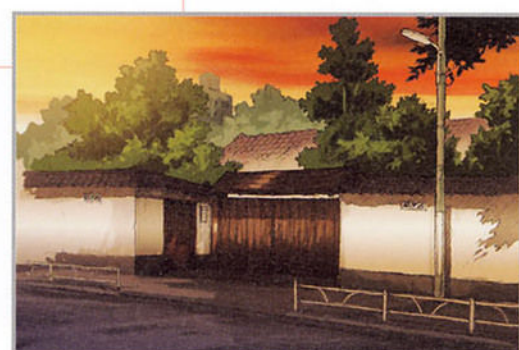
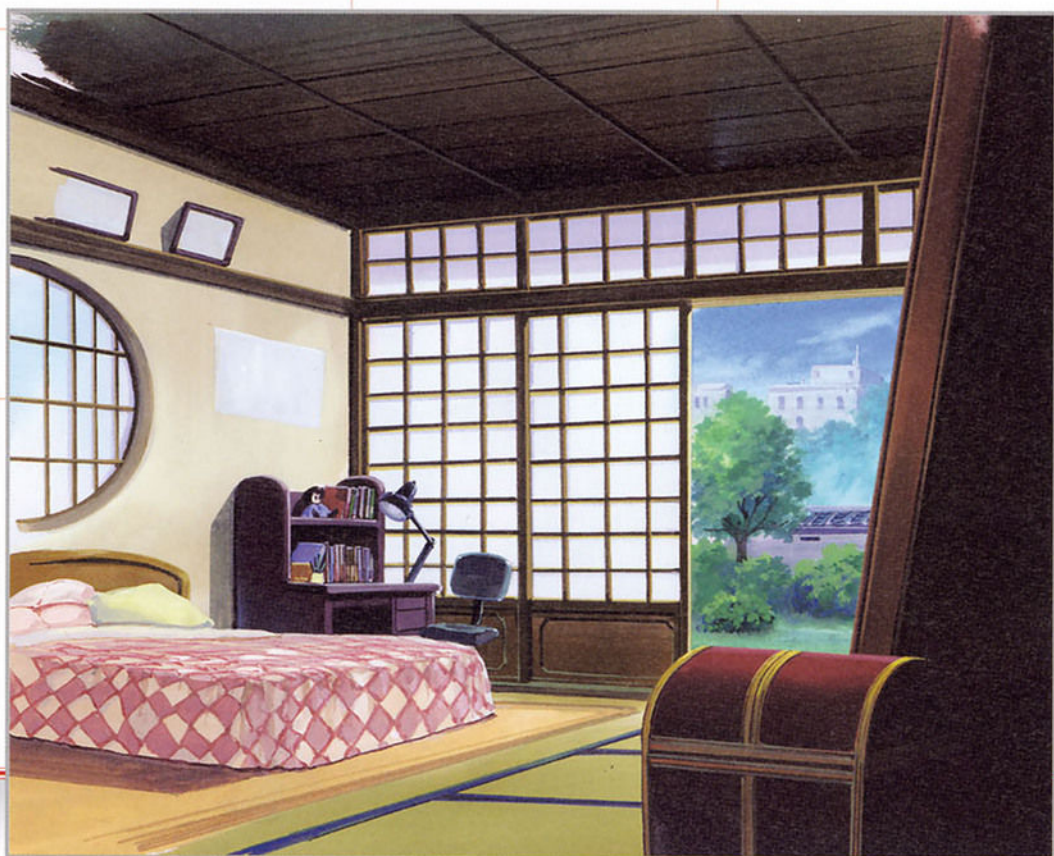
●美墨家があるマンション外観

●廊下

●縁側

●玄関

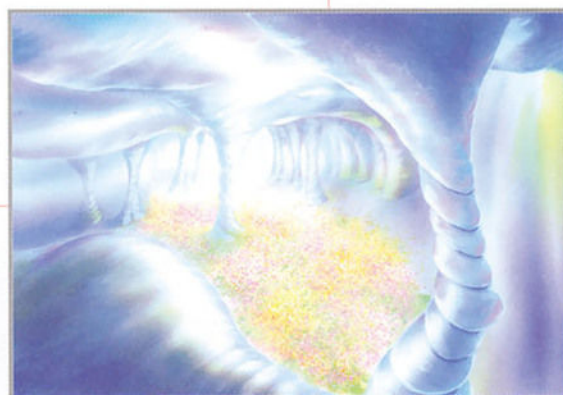
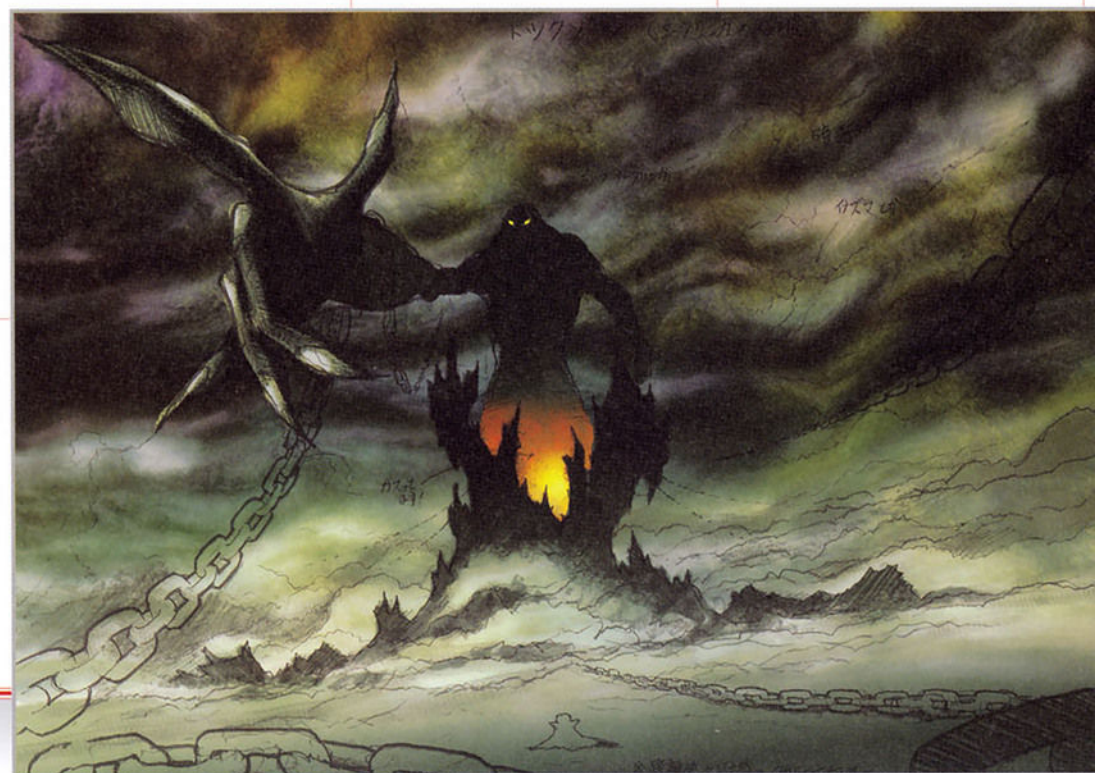
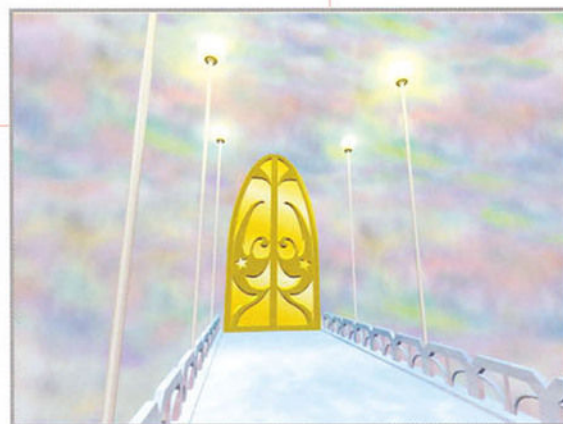
●雪城家

●縁側

●ほのかの部屋

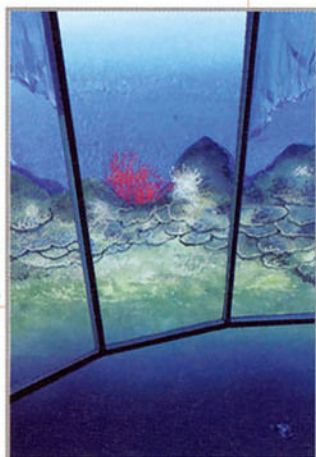
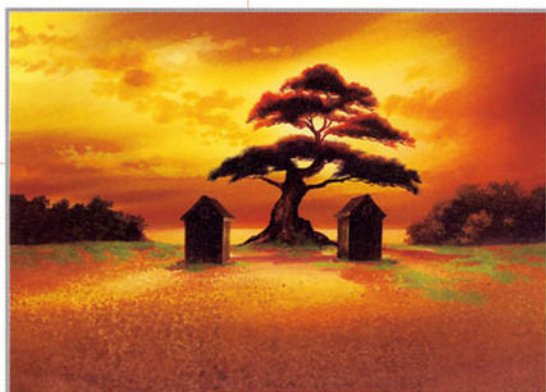
<<<光の園・ドックゾーン

●光の園

●光の園虹付近

●光の宮殿

●光の宮殿入り口付近

●ドックゾーン

●光の宮殿のクイーンの間

<<<各話美術ボード

●川の土手（5話）
●美術館内（4話）
●エンジェルランド（1話）
●水族館内（11話）
●神社（8話）
●瓢箪池（6話）
●ひびき島頂上の松と祠（15話）
●ひびき島（15話）
●解体工事現場（14話）
●渓流（23話）
●合宿所外観（23話）
●キャベツ畑（17話）
●廃車置き場（16話）

<<<ベローネ学院およびその周辺

●雪景色のベローネ学院

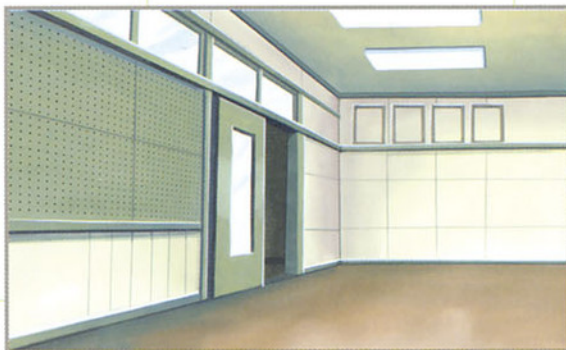
『ふたりはプリキュア』美術ボード

美術ボードとは、美術監督によって描かれた背景設定をもとに、実際に本編で使用する背景画と同じように作画、着色し、監督を含めた美術スタッフによって色彩などを検討するために描かれるものです。今回は、「ビジュアルファンブック Vol.1」で掲載されていないベローネ学院などの美術ボードのほか、27話以降の美術ボードを紹介します。

●男子中等部校門

●職員室

●渡り廊下

●体育館ステージ

●音楽室

●2階渡り廊下

●通学路から見える町並み

●通学路

●階段

<<<美墨家・雪城家

●外廊下

●蔵

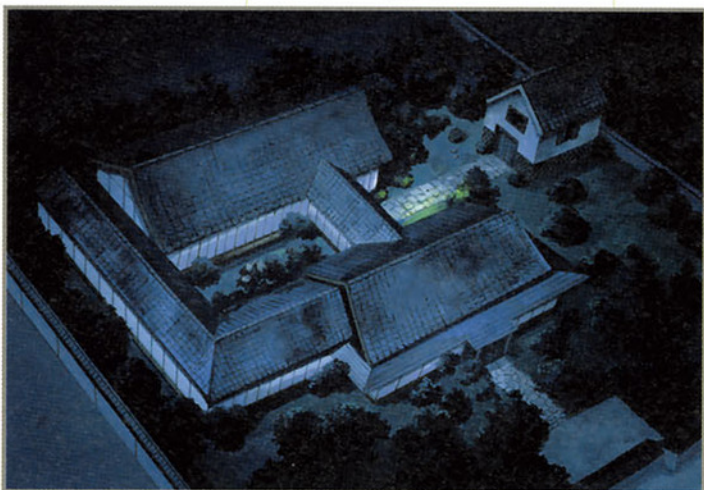
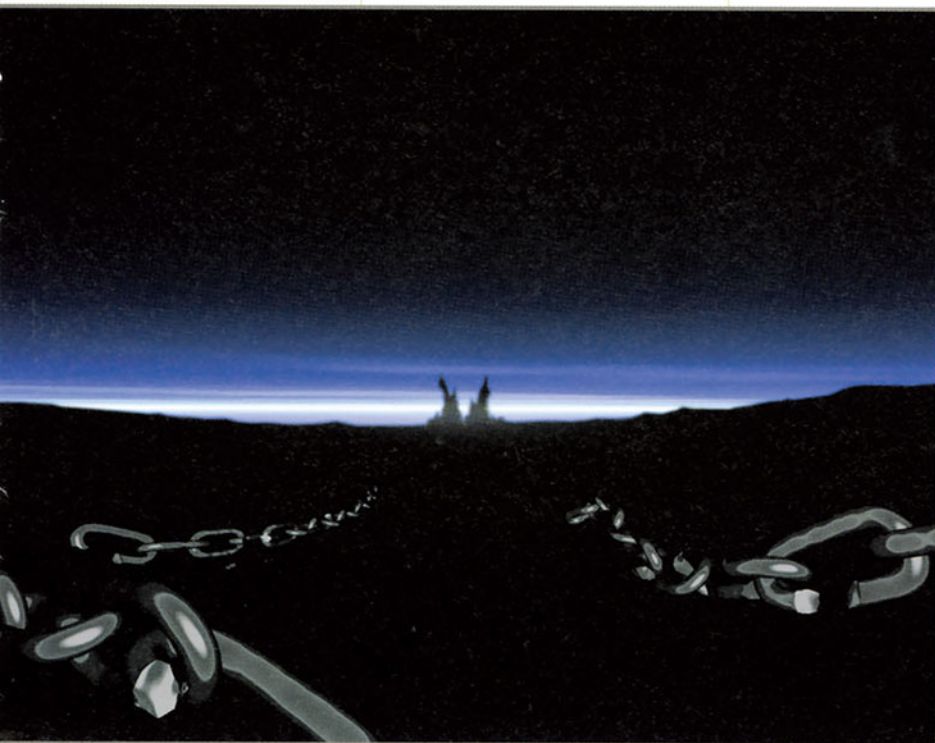
●美墨家のあるマンション外観

●なぎさの部屋から見える風景

●上から見た雪城家

●表札

●門

<<<洋館・ドツクゾーン

●ドツクゾーン

●洋館外観

●洋館外観

●ダイニングルーム

<<<各話美術ボード

●夜の坂道（28話）

●樹（28話）

●グリーン商事オフィス（27話）

●地下駐車場（27話）

●昼のビル街（38話）

●志穂の家（33話）

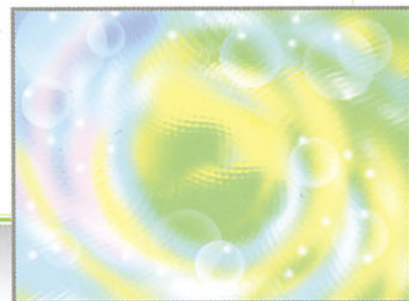
●雨の夜（29話）

●お祭りの出店（29話）

●火山俯瞰（28話）

●小泉学園駅（38話）

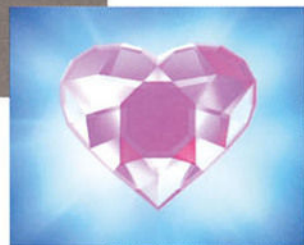
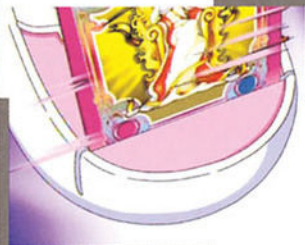
●小泉学園商店街（38話）

●志穂の家の表札（33話）

●アイキャッチBパート背景

●※アイキャッチAパート背景

●ドツクゾーンの砂地（47話）

●矢部千秋の部屋（45話）

※アイキャッチ：コマーシャル前後の絵のこと

OPENING

くるくるまわる！

OPENING

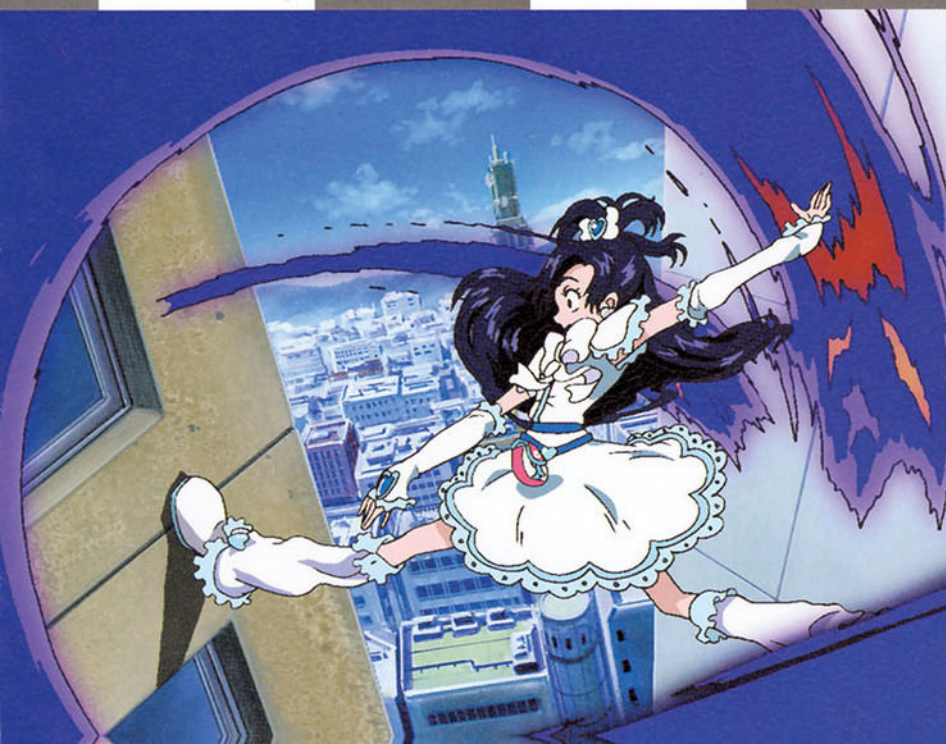
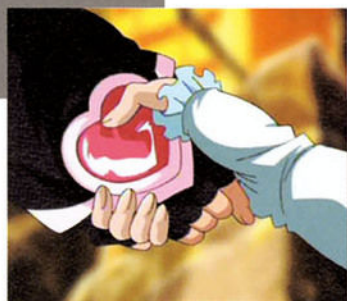
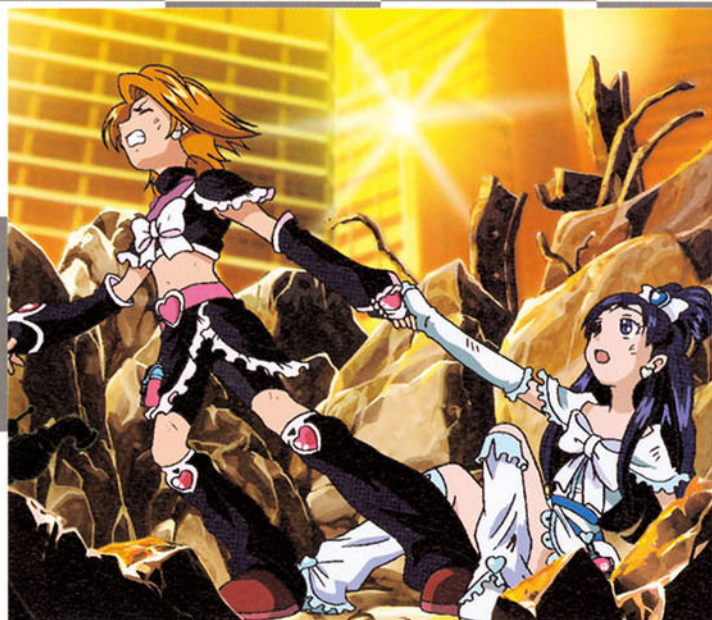
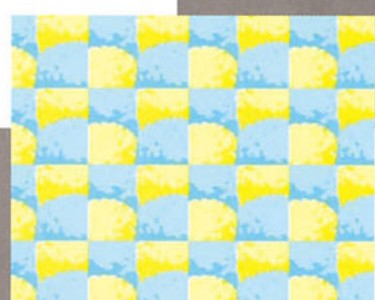
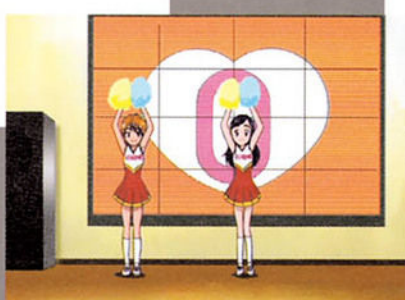
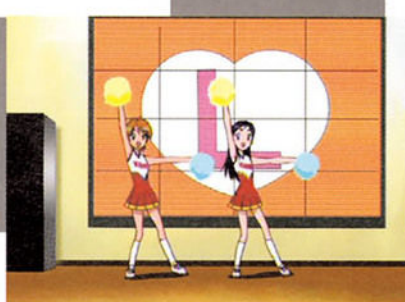
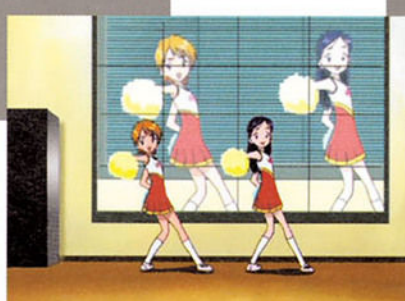
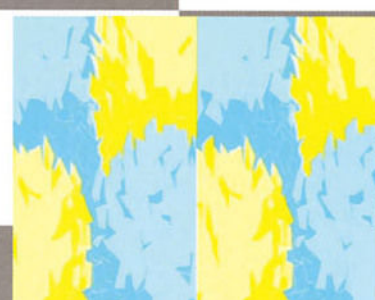
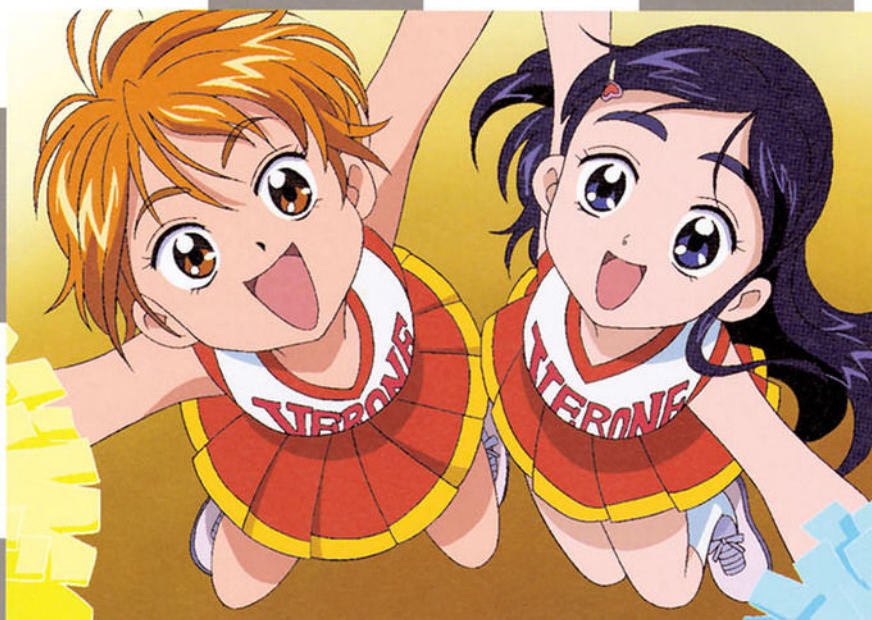
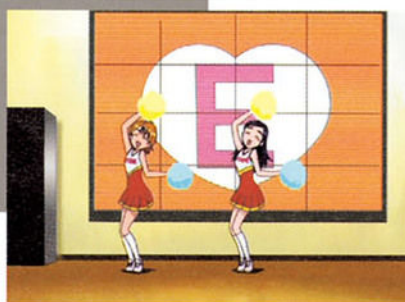
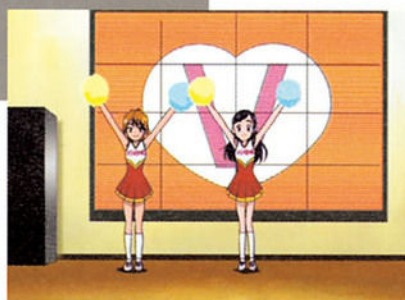
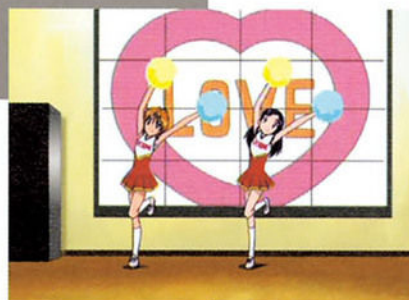
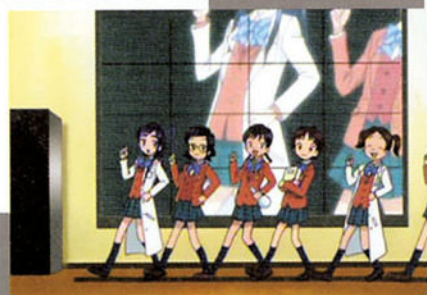
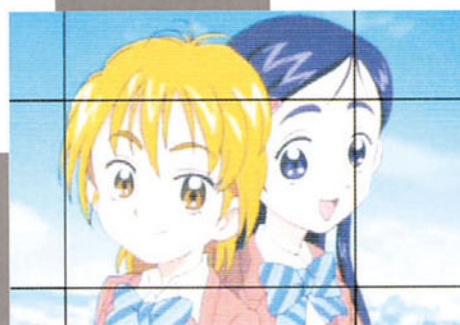
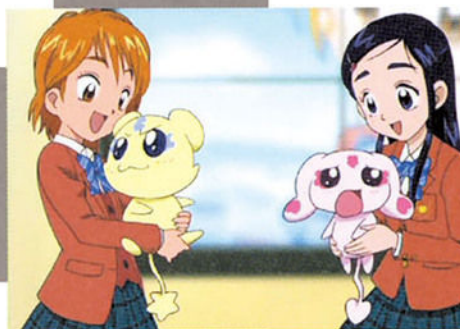
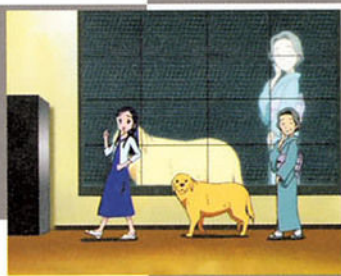
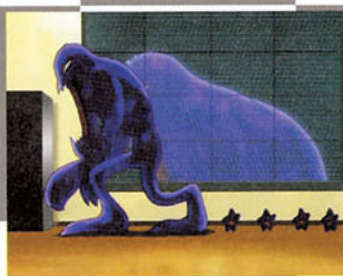
くるくるまわる！

ENDING

てくてくあるく!

ENDING
てくてくてくあるく！

ちょっぴり変わった NEW ENDING

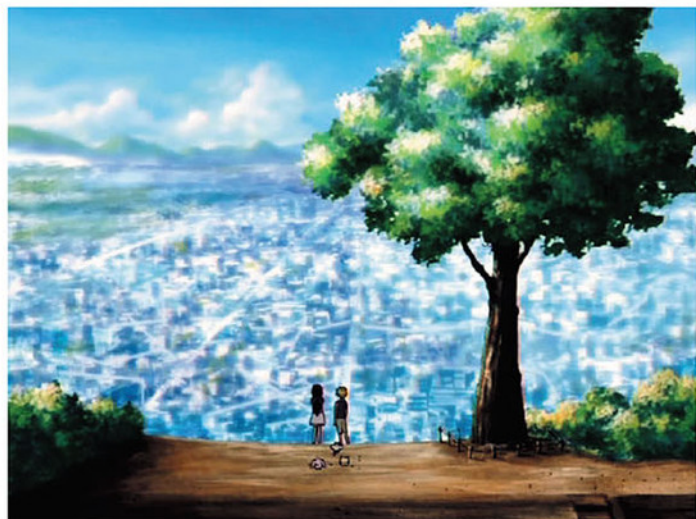
ふたりはプリキュア 名言集 4

新たな闇の襲来に、不安を募らせるなぎさとほのか。そんなふたりに、ほのかの祖母さなえは戦後の話をします。住んでいた街が焼き尽くされた絶望のなか、希望を忘れなかったさなえ。「どんなときも希望を忘れない」という、さなえの言葉を心に刻み、中学生でありながら世界を守るという重圧に耐え、彼女たちは笑顔で前を向くのでした。（第28話より）

なぎさ
希望を失わないでがんばれば……。

ほのか
明日はきっと……。

なぎさ
いい日になるよ。

なぎさ
今がどんなにつらくても……。

ほのか
絶望と希望はいつも背中合わせ。

「ふたりはプリキュア名言集　わたしたちはぜったい負けない」（講談社）より抜粋。

プリキュアカード PrecureCard コレクション

●ふたりはプリキュア プリキュアカード
カードダス自販機：1セット4枚：100円
カードダスEX　：1パック8枚入り：210円
全36種（ノーマルカード24種、キラキラカード6種、プリキュアダイアリーカード6種）

●ふたりはプリキュア プリキュアカードVol.2
カードダス自販機：1セット4枚：100円
カードダスEX　：1パック8枚入り：210円
全36種（ノーマルカード24種「うちパラレル箔押し9種」、キラキラカード6種、プリキュアダイアリーカード6種）

●ふたりはプリキュア プリキュアカードVol.3
カードダス自販機：1セット4枚：100円
カードダスEX　：1パック8枚入り：210円
全36種（ノーマルカード24種「うちパラレル箔押し10種」、キラキラカード6種、プリキュアダイアリーカード6種）

＊すべてのカードがカードコミューン（別売）かプリティコミューン（別売）にスラッシュして遊べるよ！

<<< ふたりはプリキュア　プリキュアカード

004 Omp（オムプ）　003 Shiklp（シカルプ）　002 Palp（パルプ）　001 Queen（クイーン）

012 Cure Black（キュアブラック）　011 Manep（マネプ）　010 Towalp（トワルプ）　009 Chekip（チェキップ）　008 Ramelp（ラメルプ）　007 Himip（ヒミップ）　006 Wisdom（ウィズダム）　005 Nelp（ネルプ）

020 Violeil（バイオレール）　019 Aqal（アクアール）　018 Emeral（エメラール）　017 Lemoliel（レモリール）　016 Orenjeil（オレンジェール）　015 Mipple（ミップル）　014 Mepple（メップル）　013 Cure White（キュアホワイト）

028 Milp（ミルプ）　027 Kinop（キノップ）　026 Tarop（タロップ）　025 Prezeip（プレゼープ）　024 Lonlilp（ロンリルプ）　023 Homeip（ホメープ）　022 Sofquup（ソフクープ）　021 Shurip（シュリップ）

036 雪城ほのか　035 美墨なぎさ　034 美墨亮太　033 藤村省吾　032 ピーサード　031 Pomp（ポムプ）　030 Feshep（フェシェップ）　029 Cherinp（チェリンプ）

<<< ふたりはプリキュア　プリキュアカードVol.2

044 Mepple（メップル）　043 Cure White（キュアホワイト）　042 Cure Black（キュアブラック）　041 Nelp（ネルプ）　040 Omp（オムプ）　039 Shiklp（シカルプ）　038 Palp（パルプ）　037 Queen（クイーン）

052 Telehop（テレホップ）　051 Luckeyp（ラッキープ）　050 Himeip（ヒメープ）　049 Spical（スピカール）　048 Loveleyl（ラブリール）　047 Amicol（アミーコル）　046 Porun（ポルン）　045 Mipple（ミップル）

060 Mandariep (マンダリープ)　059 Irap (イラップ)　058 Uup (ウープ)　057 Stomap (ストマップ)　056 Omusup (オムースプ)　055 Bagup (バーグップ)　054 Cheesup (チーズップ)　053 Curelieze (キュアリーゼ)

068 Shurip(シュリップ)　067 Feshep(フェシェップ)　066 Wisdom (ウィズダム)　065 Cherinp (チェリンプ)　064 Lonlilp (ロンリルプ)　063 Tarop (タロップ)　062 Milp (ミルプ)　061 Ramelp (ラメルプ)

<<< ふたりはプリキュア　プリキュアカードVol.3

076 Omp (オムプ)　075 Shikip (シカルプ)　074 Palp (パルプ)　073 Queen (クイーン)　072 久保田志穂　071 竹ノ内よし美　070 雪城ほのか　069 美墨なぎさ

084 Snowin (スノウィン)　083 Fian (ファイアン)　082 Porun (ポルン)　081 Mipple (ミップル)　080 Mepple (メップル)　079 Cure White(キュアホワイト)　078 Cure Black(キュアブラック)　077 Nelp (ネルプ)

092 Carnepp(カルネップ)　091 Gumip (グミップ)　090 Purilet (プリレット)　089 Lippupu (リップフ)　088 Bolupupu (ボルプフ)　087 Asopupu (アソプフ)　086 Mielail (ミーライル)　085 Hatenap (ハテナップ)

100 Orenjeil(オレンジェール)　099 Himip (ヒミップ)　098 Kinop (キノップ)　097 Sofquup (ソフクープ)　096 Gohop (ゴホップ)　095 Pimap (ピマップ)　094 Sanisaidapp (サニサイダップ)　093 Ticklep (チックルップ)

108 ゆり子　107 藤田アカネ　106 雪城ほのか　105 美墨なぎさ　104 Violeil (バイオレール)　103 Aqal (アクアール)　102 Emeral (エメラール)　101 Lemoliel (レモリール)

※掲載されている商品は、現在販売されていません。

ふたりはプリキュア トレーディングコレクション

……トレーディングコレクション
1パック315円（10枚入り）
全54種類（ノーマルカード45種、スペシャルカード9種）

……トレーディングコレクション2
1パック315円（10枚入り）
全63種類（ノーマルカード45種、スペシャルカード18種）

……おともだちオリジナルスペシャルカード
全5種類

※掲載されている商品は、現在販売されていません。

Pretty Cure 02
Pretty Cure 01
Pretty Cure 04
Pretty Cure 03
Pretty Cure 08
Pretty Cure 07
Pretty Cure 06
Pretty Cure 05
Pretty Cure 12
Pretty Cure 11
Pretty Cure 10
Pretty Cure 09
Pretty Cure 16
Pretty Cure 15
Pretty Cure 14
Pretty Cure 13
Pretty Cure 20
Pretty Cure 19
Pretty Cure 18
Pretty Cure 17
Pretty Cure 24
Pretty Cure 23
Pretty Cure 22
Pretty Cure 21
Pretty Cure 28
Pretty Cure 27
Pretty Cure 26
Pretty Cure 25

リスト こんなにあるとはっ……！

233 長袖ブロードパジャマ ¥1,995
234 キャミソール ¥714
235 ラン型スリーマ ¥714
236 変身インナーA ¥1,554
237 変身インナーB ¥1,554
238 1800TシャツA ¥1,890
239 ハーフパンツ ¥1,365
240 Tシャツスーツ ¥2,415
241 ジップアップ5分袖パーカー ¥2,415
242 ノースリーブ ¥1,365
243 1300Tシャツ ¥1,365
244 パネルプリントTシャツ ¥1,575
245 半袖ビッグプリントパジャマ ¥3,045
246 半袖ブロードパジャマ ¥1,995
247 GWキャミ&ショーツ ¥1,344
248 リップルパジャマ ¥1,995
249 ワンピース水着 ¥3,045
250 帽子付セパレート水着 ¥4,095
251 ノースリーブスーツ ¥2,100
252 ノースリーブワンピース ¥1,995
253 半袖Tスーツパジャマ ¥1,995
254 2TOPパジャマ ¥3,045
255 1000TシャツA ¥1,050
256 1000TシャツB ¥1,050
257 Tシャツスーツ ¥1,575
258 パネルプリント長袖Tシャツ ¥1,890
259 ショーツ2枚組 ¥924
260 カラーショーツ2枚組A ¥1,029
261 ハラマキ ¥609
262 カラー3分袖スリーマA ¥819
263 カラー3分袖スリーマB ¥819
264 カラー長袖スリーマA ¥924
265 カラー長袖スリーマB ¥924
266 1分丈スパッツ 118528 ¥819
267 サテンパジャマ ¥3,045
268 カラーショーツ2枚組B ¥1,029
269 限定おまけ付カラーショーツ2枚組 ¥1,029
270 3分袖スリーマフライス ¥714
271 3分袖スリーマスムース ¥714
272 レイヤードTシャツ2点セット ¥2,415
273 ワンピース長T2点セット ¥3,045
274 ミニスカート ¥2,415
275 長袖Tシャツ ¥1,890
276 長袖スリーマスムース ¥819
277 あったかキルトショーツ2枚組 ¥1,029
278 あったかキルト3分袖スリーマ ¥924
279 あったかキルト長袖スリーマ ¥1,029
280 裏毛トレーナー ¥2,415
281 ジップアップトレーナー ¥2,415
282 デニムロングパンツ ¥2,415
283 ロングスパッツ ¥1,029
284 ダンボールニットパジャマ ¥3,465
285 キルトパジャマ ¥3,045
286 変身ドレスA ¥4,095
287 変身ドレスB ¥4,095
288 ロングパンツ ¥1,995
289 ニットカーディガン ¥3,045
290 キルティングコート ¥5,145
291 キャラドルマフラー ¥1,995
292 ミニキャラドルマフラー ¥1,029
293 キャラドルレシーバー ¥1,554
294 ハンドタオル ¥315
295 フェイスタオル ¥525
296 バスタオル ¥1,575
297 スポーツタオル ¥1,050
298 ループ付ハンドタオル ¥525
299 ミニタオル ¥420
300 HSオックス ¥8,190
301 HSキルト ¥18,953
302 ハーフケット ¥2,100
303 シャーリングハンカチ ¥368
304 ハンカチ ¥263
305 ナフキン ¥400
306 巾着 M ¥420
307 巾着 L ¥683
308 マチなし手提げ袋 ¥893
309 子供エプロン ¥1,050
310 マキマキタオルA ¥1,680
311 マキマキタオルB ¥1,680
312 ワッペン ¥630
313 シールワッペン ¥630
314 ネームラベル ¥315
315 キルトケット ¥3,129
316 お名前シート（オールシート）¥2,079
317 お名前シート（S・M・L）¥1,029
318 ネームホルダー ¥1,029
319 お名前ハンカチ ¥998
320 パイルケット ¥3,129
321 おひるねケット ¥2,079
322 ジュニアタオルケット ¥3,150
323 5キルトHS ¥9,975
324 スリッパ ¥819
325 ハーフタオルケット2 ¥3,129
326 カードダスEX プリキュアカード ¥210
327 カードダス プリキュアカード ¥100
328 パタパタカードダス ¥100
329 カードダス プリキュアカード vol.2 ¥100
330 カードダスEX プリキュアカード vol.2 ¥210
331 カードコミューン ¥3,675
332 カードコミューンホルダー ¥1,344
333 プリキュアダイアリー ¥3,129
334 プチキュアシリーズ ミニキュアブラック ¥1,575
335 プチキュアシリーズ ミニキュアホワイト ¥1,575
336 プリズムホーピッシュ ¥3,675
337 NEWシールパーティ ¥2,079
338 おしえてプリキュア ¥4,179
339 等身大メップル ¥1,890
340 等身大ミップル ¥1,890
341 ペイントジュエリー ¥1,575
342 キャラリートキッズ キュアブラック ¥5,880
343 キャラリートキッズ キュアホワイト ¥5,880
344 ドキラブチェッカー ¥3,360
345 プリキュアペンセット ¥998
346 ピュアメイクセット ¥2,835
347 ピコ専用絵本ソフト ¥5,229
348 プチキュアシリーズ 美墨なぎさ ¥1,575
349 プチキュアシリーズ 雪城ほのか ¥1,575
350 TRU限定カードコミューンセット ¥5,355
351 等身大ポルン ¥1,890
352 レインボーブレス ¥3,360
353 プリティコミューンバッグ ¥2,310
354 おしゃべりプチメップル ¥1,260
355 おしゃべりプチミップル ¥1,260
356 おしゃべりプチポルン ¥1,260
357 ジュエルドロップ プリキュアドレッサー ¥4,200
358 プリティコミューン ¥9,975
359 キュッ！とプリキュアブラアクセサリー ¥1,575
360 ストラップメーカー ¥2,940
361 プリキュアメイト ¥210
362 プリキュアフレンズ ¥263
363 プリキュアドール ¥210
364 プリキュアスタンプ ¥158
365 プリキュアコスメ ¥263
366 プリキュアポーチ ¥525
367 プリキュアメイト NEW ¥210
368 プリキュアマスコット ¥210
369 絵合わせゲーム パネッコ・ミニ ¥1,029
370 ヘアアクセコレクション ¥100
371 なりきりプリキュア ¥200
372 プリキュアスイング ¥200
373 プリキュアDX ¥200
374 キューティモデル・プリキュアシリーズ（2種）各¥3,654
375 レジャーシート ¥525
376 リンスインシャンプー ¥399
377 救急ばんそうこう ¥210
378 こどもはブラシガールズ ¥158
379 はみがき隊 ¥399
380 こどもはブラシ3本セット ¥399
381 巾着弁当袋 ¥893
382 コップ袋 ¥473
383 いろいろばんそうこう ¥315
384 プチバラン ¥231
385 トリオバラン ¥252
386 ピックス ¥263
387 お弁当カップ ¥294
388 ランチパック ¥504
389 薬用リップクリーム ¥399
390 ぬいぐるみ アミューズメント用景品
391 一番くじ 専用景品
392 プチポンコレクション カラフルボールマスコット アミューズメント用景品
393 バスタオル アミューズメント用景品
394 汎用景品デジキャラウォッチ アミューズメント用景品
395 一番くじ 専用景品
396 バニティポーチ アミューズメント用景品
397 52Φ ヘアアクセサリー アミューズメント用景品
398 ボールマンガうちわ ¥189
399 ポリマンガうちわ ¥315
400 トラベルセット ¥1,029
401 おいしゃさんごっこ ¥1,029
402 ハートドレッサーセット ¥1,029
403 楽器セット ¥819
404 ミニステンシル ¥683
405 ネイルおしゃれバッグ ¥609
406 マスコットぬいぐるみ ¥504
407 傘 ¥2,100
408 レインコート ¥1,029
409 メタリック風船 オープン価格
410 ハートビーズバッグ ¥609
411 ビーズコンパクト ¥714
412 お面 キュアブラック オープン価格
413 お面 キュアホワイト オープン価格
414 フラッシュリング ¥399
415 占いカードコミューン ¥714
416 電動おかいものレジスター ¥893
417 おしゃべりデジタルカメラ ¥924
418 ぴっぴ！ ピアニカ ¥819
419 ビーチボール 40cm ¥735
420 浮き輪 55cm ¥1,155
421 ふうせんあそびセット ¥210
422 カラーチェンジペンダント ¥210
423 こどもジグソーパズル 70P ¥630
424 こどもジグソーパズル 96P ¥630
425 くるパシャ！ おしゃべりフォン ¥819
426 立ち人形 キュアブラック オープン価格
427 立ち人形 キュアホワイト オープン価格
428 人形すくい キュアブラック オープン価格
429 人形すくい キュアホワイト オープン価格
430 水ヨーヨー オープン価格
431 プラヨーヨー キュアブラック オープン価格
432 プラヨーヨー キュアホワイト オープン価格
433 サウンドえがわりフォン ¥714
434 ジグソーパズル 50P 1 ¥630
435 ジグソーパズル 50P 2 ¥630
436 プリズムホーピッシュ ¥714
437 カードコミューンセット ¥1,029
438 お金あそび ¥525
439 フラッシュコンパクト ¥504
440 プリズムホーピッシュセット ¥1,029
441 パイプ キュアブラック オープン価格
442 パイプ キュアホワイト オープン価格
443 スティックバルーン オープン価格
444 ふうせんセット ¥105
445 ビューティセット ¥609
446 シャボン玉セット ¥210
447 アームダッコアソート オープン価格
448 首かけマスコット オープン価格
449 おんぶ人形 アソート オープン価格
450 キャラクターバンク ¥105
451 ピタポンダーツ ¥609
452 ちびコレバッグ ¥504
453 キャラクタースティック キュアブラック オープン価格
454 キャラクタースティック キュアホワイト オープン価格
455 粒入りヨーヨー オープン価格
456 プチチェーン ¥504
457 人形セット ¥683
458 レインボーブレス ¥819
459 空ビ パペット（キュアブラック・キュアホワイト）オープン価格
460 ジクソーパズル96P ¥630
461 ブルブルマスコット ¥819
462 主題歌CD DANZEN！ ふたりはプリキュア ¥1,260
463 サウンドコレクションCD ¥3,150
464 ふたりはプリキュアDVD Vol.1（第1話～第4話）¥4,935
465 ふたりはプリキュアDVD Vol.2（第5話～第8話）¥4,935
466 シールセット ¥210
467 スーパーブロマイド ¥210
468 モシモシけいたいでんわ ¥609
469 ミニピアノ ¥714
470 ネイルシール ¥210
471 バルーンポンプ ¥609
472 プリティディスク ¥609
473 ヘアーアクセサリー ¥315
474 コットン 巾着S ¥493
475 コットン 巾着M ¥745
476 コットン ランチ袋 ¥798
477 キルト シューズケース ¥1,050
478 キルト 巾着ナップ ¥1,365
479 キルト レッスンバッグ ¥1,575
480 学童 シューズケース ¥2,310
481 学童 ショルダーバッグ ¥2,730
482 学童 レッスンバッグ ¥2,992
483 学童 ミニDパック ¥2,992
484 学童 リュックサック ¥3,990
485 丸型ポシェット ¥1,344
486 プチDパック ¥1,344
487 ランチバッグ ¥1,470
488 プチボストン ¥1,995
489 2WAYポシェット ¥1,995
490 ミニショルダー ¥1,029
491 コットン巾着ナップ ¥1,050
492 ピンズ（2種）各¥473
493 ラミカード（4種）各¥105
494 ワッペン ¥525
495 リストバンド（2種）各¥788
496 年賀状申込セット ¥368
497 ストラップ ¥945
498 携帯窓拭き ¥683
499 ピロケース ¥780
500 枕 ¥1,280
501 コインパースA（ポケット付）赤・ピンク 各¥399
502 コインパースA（スケルトン）赤・オレンジ 各¥399
503 コインパースB（口金付）赤・ピンク 各¥504
504 コインパースC（ひも付）赤・ピンク 各¥525
505 ナイロン巾着A（S）赤・ピンク 各¥609
506 ナイロン巾着B（M）赤・ピンク 各¥924
507 ナイロン巾着C（SS）赤・ピンク 各¥525
508 ウエストポーチ ピンク ¥1,029

※掲載されている商品は、初版刊行時（2004年）のものです。価格も当時のものを掲載しています。現在は販売されておりませんので、ご了承ください。

ふたりはプリキュア 商品アイテム

1 シューズ ICS2090 ¥1,659 ピンクのみ
2 シューズ CSL3558 ¥1,554 ピンクのみ
3 シューズ CCA1940 ¥2,415 ネービー・ピンク
4 シューズ CCA5572 ¥2,047 ネービー・ピンク
5 シューズ OYB1670 ¥2,100 ピンクのみ
6 シューズ TVI1950 ¥2,625 ピンク・サックス
7 シューズ TVI1953 ¥2,625 サックスのみ
8 シューズ TVI1960 ¥2,625 ネービー・ピンク
9 シューズ TVI1963 ¥2,625 ネービーのみ
10 シューズ TVI7667 ¥2,625 ピンクのみ
11 シューズ CSJ1970 ¥3,045 ピンクのみ
12 シューズ OYZ1900 ¥2,100 ピンクのみ
13 トレーディングコレクション ¥315
14 トレーディングコレクション当て ¥945
15 シールコレクション（シール烈伝）¥105
16 シールコレクション当て（シール烈伝当て） ¥630
17 プリティスタンプ ¥105
18 カードゲーム ¥609
19 カンバッジコレクション ¥105
20 シール入りカンケース ¥315
21 ミニコロゲーム ¥399
22 トレーディングコレクション第２弾 ¥315
23 トレーディングコレクション第２弾当て ¥945
24 リンクルベル ¥1,029
25 ちゃりんくるスクーター ¥4,179
26 幼児用自転車 ピンク 14型ブザー付き ¥20,790
27 幼児用自転車 ピンク 16型ブザー付き ¥20,790
28 クルーソックス ¥515
29 ハイソックス ¥515
30 茶碗 ¥473
31 マグ ¥609
32 フルーツ皿 ¥525
33 カレー皿 ¥819
34 ラーメン丼 ¥819
35 レンゲ ¥315
36 タンブラー ¥315（単品）¥630（２Ｐセット）
37 講談社のテレビ絵本 ふたりはプリキュア① ゆうじょうパワーでたたかうわ！ ¥420
38 講談社のテレビ絵本 ふたりはプリキュア② プリズムストーンをとりもどせ！ ¥420
39 講談社のテレビ絵本 ふたりはプリキュア③ あ・ぶ・な・い！ おんせんりょこう ¥420
40 講談社のテレビ絵本 ふたりはプリキュア④ おうじポルンがやってきた！ ¥420
41 講談社のテレビ絵本 ふたりはプリキュア⑤ よみがえれ！ ひかりのその ¥420
42 たのTVデラックス ふたりはプリキュア シールあそびえほん ¥525
43 たのTVデラックス ふたりはプリキュア ことばおけいこブック ¥525
44 たのTVデラックス ふたりはプリキュア シール大図鑑 ¥620
45 たのTVデラックス ふたりはプリキュア あいうえおかけたよ！ブック ¥620
46 6局ピース ふたりはプリキュア どこでもシールブック ¥689
47 おともだちニューシールブック ふたりはプリキュア① へんしんシールえほん ¥714
48 おともだちニューシールブック ふたりはプリキュア② きせかえシールえほん ¥714
49 おはなしシールえほん ふたりはプリキュア① ミップルとメップルをまもって！ ¥525
50 おでかけシールえほん プリキュアだいすき シールブック ¥525
51 おともだちスーパーワイド百科 ふたりはプリキュア① ¥840
52 甚平 ¥3,045
53 半纏 ¥3,045
54 アルミべんとう ¥1,785
55 キッズべんとう ¥1,260
56 プッシュトリオ ¥945
57 プッシュコンビ ¥735
58 おしぼりセット ¥546
59 ストローコップ ¥378
60 サポートペアー（塗り箸入り）¥578
61 サポート箸箱 ¥315
62 ジュニアペアー ¥473
63 竹安全箸 ¥263
64 ジュニアスプーン ¥263
65 ジュニアフォーク ¥263
66 耐熱コップ ¥368
67 塗り汁椀 ¥525
68 塗り小丼 ¥735
69 メラミン ランチ皿 ¥1,050
70 メラミン 小鉢 ¥483
71 メラミン 茶碗 ¥525
72 メラミン コップ ¥525
73 ランチョンマット ¥630
74 A6シール付ぬりえ ¥105
75 B5ぬりえ ¥210
76 デッカぬりえ ¥399
77 ミニきせかえ ¥105
78 B5きせかえ ¥263
79 キルキルファッション ¥105
80 B5らくがきちょう ¥105
81 A4スケッチブック ¥263
82 B4スケッチブック ¥315
83 A5うつしえ ¥105
84 B5学習帳（じゆうちょう）オープン価格
85 B5学習帳（連絡帳）オープン価格
86 B7シール付メモ ¥105
87 B7ペットメモ ¥105
88 A6Wリングメモ ¥263
89 ダイカットメモ ¥263
90 チェンジングメモ ¥294
91 メモセット ¥399
92 メモボックス ¥315
93 ミニバインダーメモ ¥399
94 B5MGノート ¥210
95 B6Wリングノート ¥368
96 こうかんノート ¥210
97 B4パズル ¥420
98 B4ポーズパズル ¥420
99 ミニジグソー ¥210
100 ジグソー32P ¥504
101 ジグソー54P ¥504
102 ジグソーパズル108P ¥1,575
103 ジグソーパズル300P ¥2,100
104 いろいろシール ¥315
105 ぐるぐるまきシール ¥189
106 スポンジタイルシール ¥189
107 ジュエリーシール ¥189
108 シールセット ¥480
109 はーとな手帳 ¥399
110 ふわふわ手帳 ¥714
111 システム手帳 ¥683
112 ウレタン手帳 ¥399
113 カギ付日記帳 ¥609
114 レターセット ¥368
115 3本入りパック鉛筆 HB／B／2B ¥189
116 鉛筆セット ¥504
117 ロケット鉛筆 ¥294
118 色鉛筆セット 12色 ¥840
119 色鉛筆セット 24色 ¥1,680
120 色鉛筆セット（消しゴム・ミニ鉛筆削り付き）12色 ¥840
121 色鉛筆セット（消しゴム・ミニ鉛筆削り付き）24色 ¥1,680
122 紙箱入りダース鉛筆 HB ¥630
123 紙箱入りかきかたダース鉛筆 B／2B 各¥630
124 プラケース入りダース鉛筆 HB ¥756
125 プラケース入りかきかたダース鉛筆 B／2B 各¥756
126 赤鉛筆2本セット ¥126
127 消しゴム ¥105
128 箱型筆入れ（両面開き・ミニ鉛筆削り付き）¥1,575
129 ペンケース ¥1,029
130 ミニペンケース ¥714
131 下敷き ¥210
132 定規 ¥210
133 水のり ¥158
134 ハンディシャープナー ¥263
135 サインペン 6色 ¥714
136 ポーチペンケース ¥1,029
137 セロハンテープ ¥368
138 はさみ ¥630
139 手動鉛筆削り ¥2,940
140 お道具箱 ¥735
141 おべんきょうセット ¥714
142 らくがきんちょ ¥1,764
143 らくがきんちょミニ ¥504
144 つくえでらくがきんちょ ¥4,410
145 おしゃべらーと ¥2,604
146 お絵かきライトダイアリー ¥819
147 折り紙セット ¥630
148 かるた ¥893
149 きせかえクローゼット ¥609
150 きせかえハウス ¥609
151 シールきせかえ（ケース付）¥504
152 ぱたぱたメモ ¥504
153 キラキラステーショナリーセット ¥1,554
154 クリアケースぬりえセット ¥609
155 くるキャラシャボン玉 ¥504
156 くるキャラぬりえ ¥504
157 くるくるプリンター ¥714
158 くるくるプリンターセット ¥1,029
159 シャボン玉ペンダント ¥210
160 スタンプセット ¥525
161 スタンプメモセット ¥609
162 ステーショナリーセット ¥525
163 ティッシュ オープン価格
164 できるんです ¥1,019
165 できるんですミニ ¥315
166 トランプ ¥420
167 ぬりえシート作り ¥630
168 ぬりえパレット ¥609
169 パタパタキューブ ¥819
170 ファイルBOX ¥399
171 ファスナーバックケース ¥819
172 ペイントメイト ¥504
173 ポストカードセレクション ¥780
174 ポチ袋 ¥105
175 マグネットシート ¥210
176 水絵 ¥420
177 くるキャラメロディシャボンペン ¥504
178 くるキャラメロディスタンプ ¥399
179 プチごっこシリーズ（宅急便）¥609
180 プチごっこシリーズ（スチュワーデス）¥609
181 プチごっこシリーズ（ナース）¥609
182 ジュエリーライナー ¥525
183 サイコロパズル ¥700
184 キャップ ¥1,995
185 キャスケット ¥2,415
186 バケットハット ¥2,415
187 麦わら帽 ¥2,415
188 ニット帽 ¥1,995
189 シコロ付キャップ ¥2,730
190 ゴーグル付シコロ付キャップ ¥3,045
191 ホットレシーバー ¥1,344
192 ぬいぐるみ付キャップ ¥1,575
193 ふたりはプリキュアカレンダーA2（7枚もの）¥1,575
194 テレビアニメカレンダーA2変形（13枚もの、うち1枚のみプリキュア）¥1,575
195 スノースパッツ ¥1,890
196 レッグウォーマー ¥1,029
197 リストバンド ¥525
198 手袋 フリースミトン ¥1,365
199 手袋 ¥1,029
200 スノースパッツ HP21707 ¥1,890
201 5指のびのび手袋 HP41700 ¥1,365
202 5指のびのび手袋（ボア付）HP41702 ¥1,680
203 5指スキー手袋 HP21705 ¥2,100
204 ミトンスキー手袋 HP21702 ¥1,890
205 パソコンやろうよ！ マウスであそぼ ふたりはプリキュア ¥3,990
206 ピアノ・ピース ふたりはプリキュア主題歌「DANZEN！ふたりはプリキュア」「ゲッチュウ！らぶらぶぅ?!」¥525
207 楽しいバイエル併用 ふたりはプリキュア／ピアノ・ソロ・アルバム 菊倍判 80頁 ¥1,470
208 ストローボッパー SP-450 ¥1,155
209 保冷ストローボッパー SP-410 ¥1,575
210 ステンレスボトル ST-53B ¥2,625
211 ボトルケース SPB-500B ¥840
212 ボトルキャップ PB-CAP ¥525
213 クリスマスブーツS ¥630
214 クリスマスブーツL ¥1,050
215 クリスマス帽子 ¥735
216 おでかけ缶 ¥1,050
217 シャンメリー ¥231
218 2TOPパジャマ ¥3,045
219 ショーツ2枚組 ¥924
220 カラーショーツ2枚組A ¥1,029
221 カラーショーツ2枚組B ¥1,029
222 1分丈スパッツ 118296 ¥819
223 3分袖スリーマ ¥714
224 ハラマキ ¥609
225 カラー3分袖スリーマ ¥819
226 カラーキャミソール ¥819
227 裏毛トレーナー ¥2,415
228 長袖Tシャツ ¥1,890
229 レイヤードTシャツ ¥2,415
230 スカート付パンツ ¥2,415
231 半袖ワンピース ¥2,415
232 長袖スムースパジャマ ¥3,045

SPECIAL ILLUSTRATION

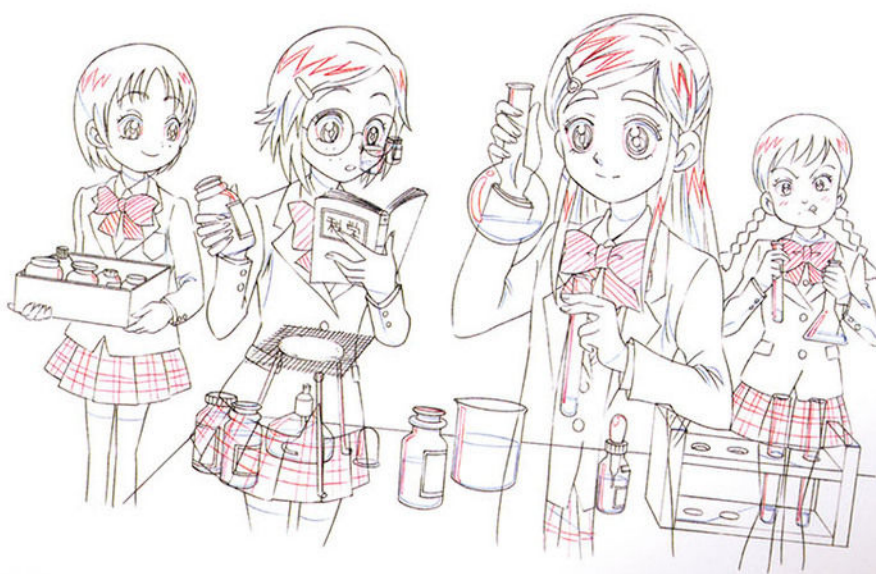
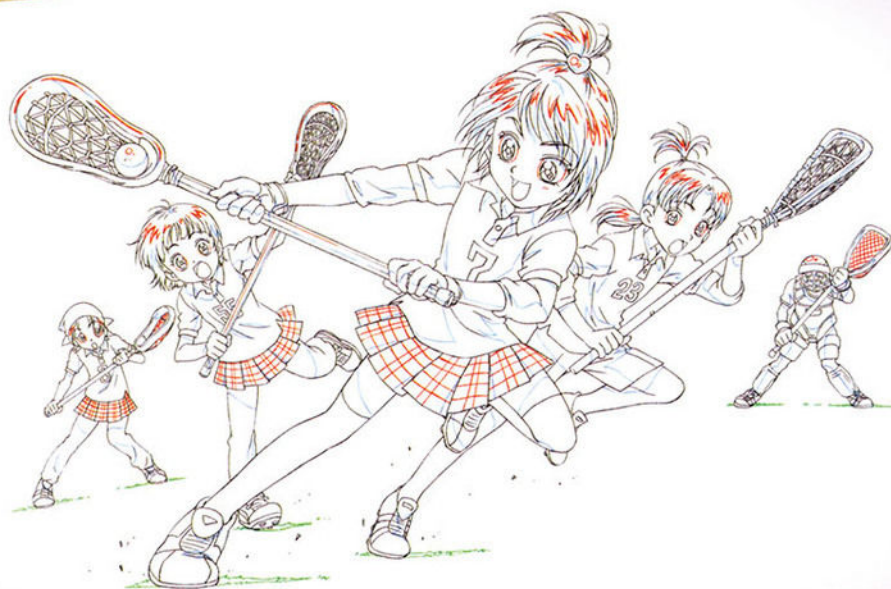
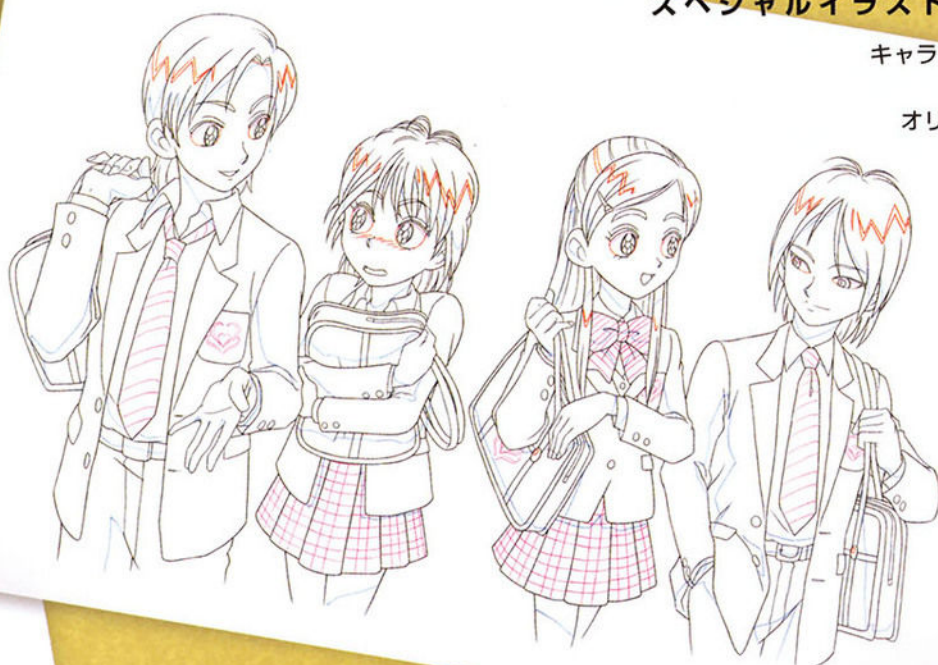
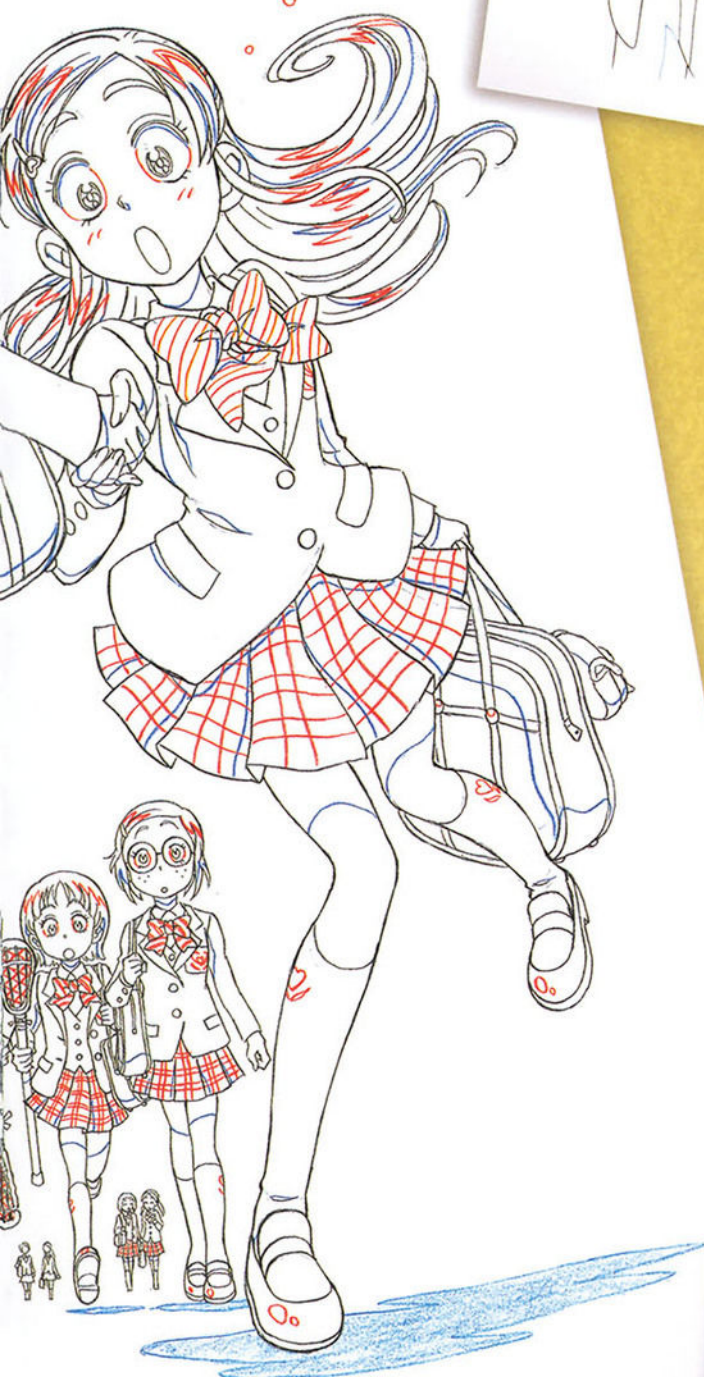
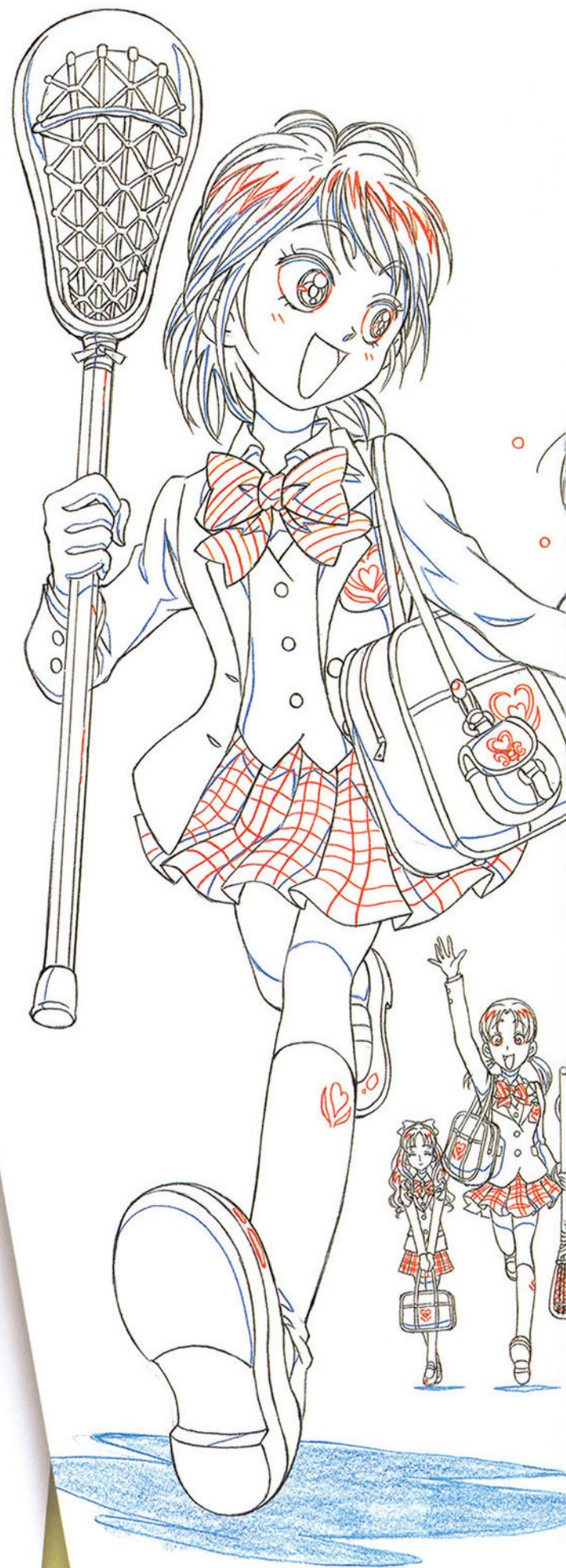
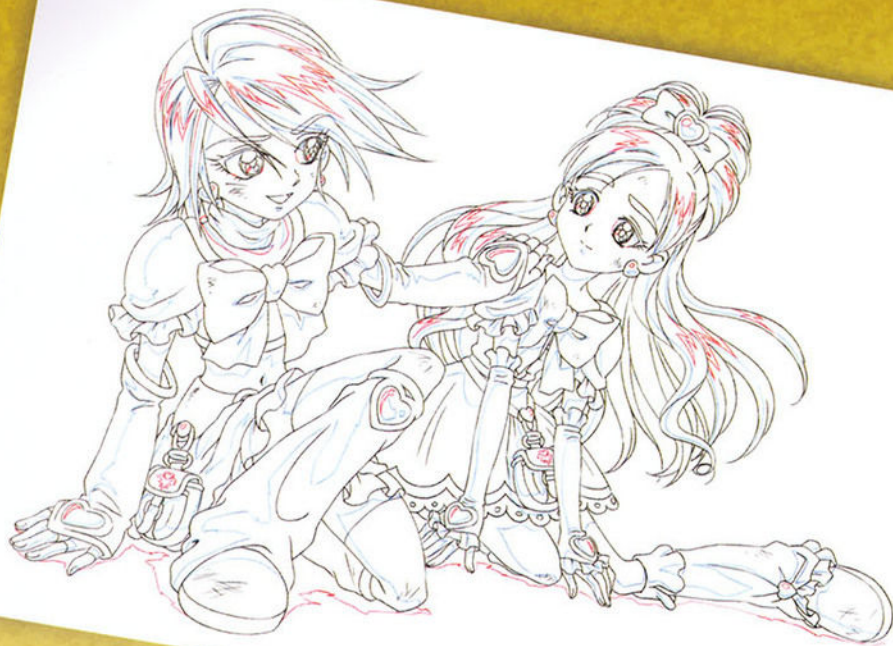
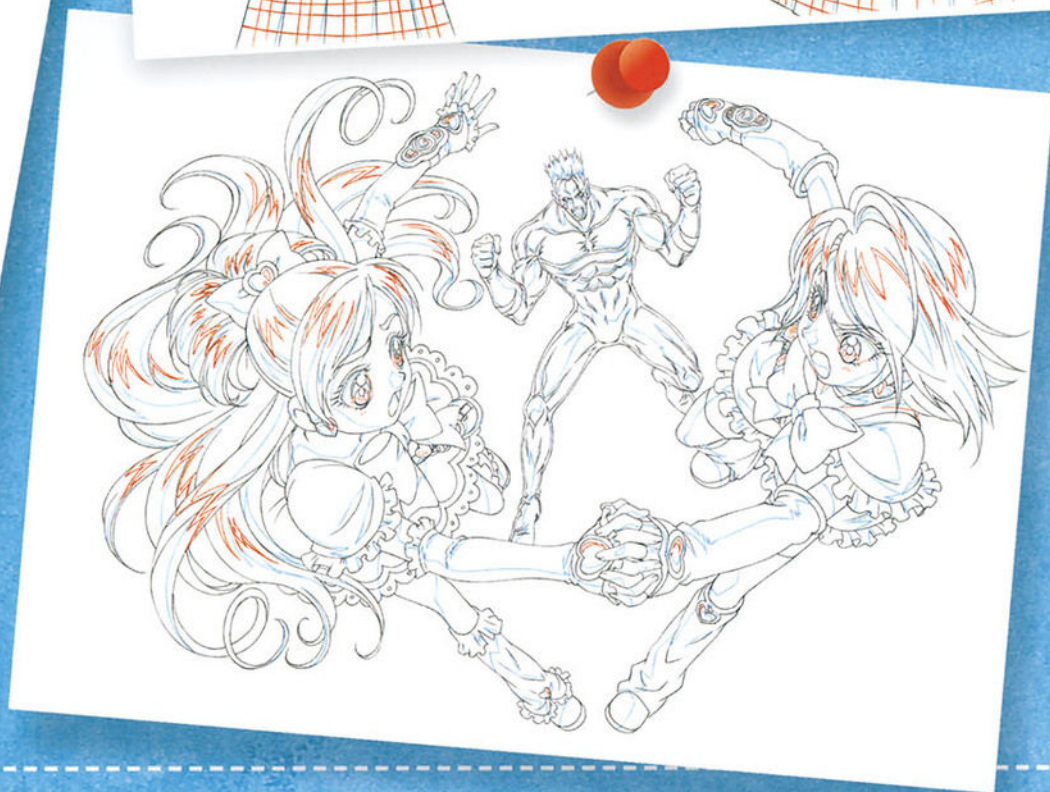
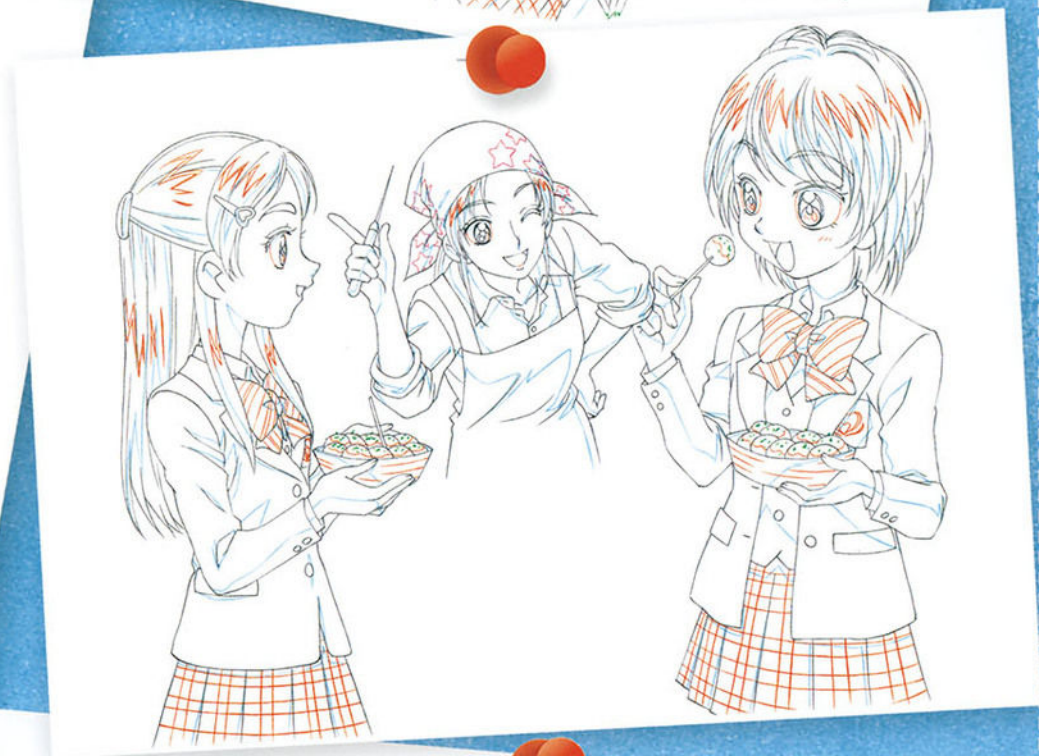
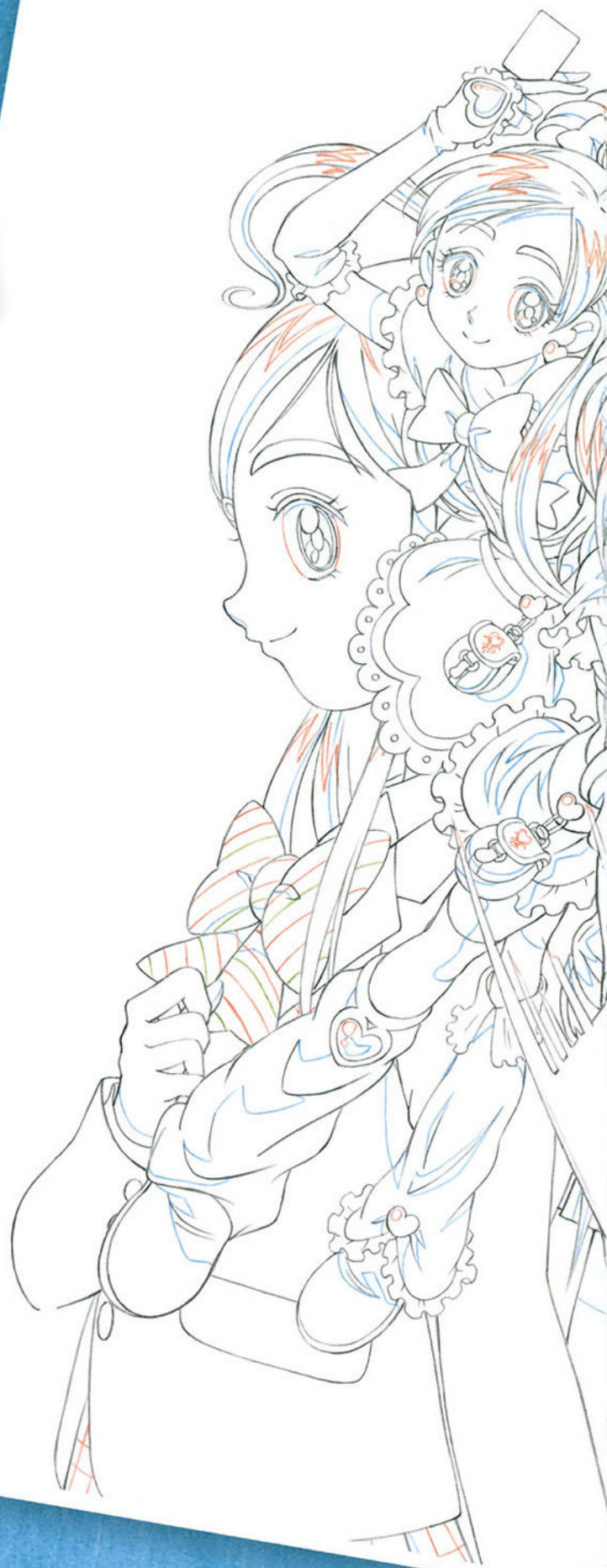
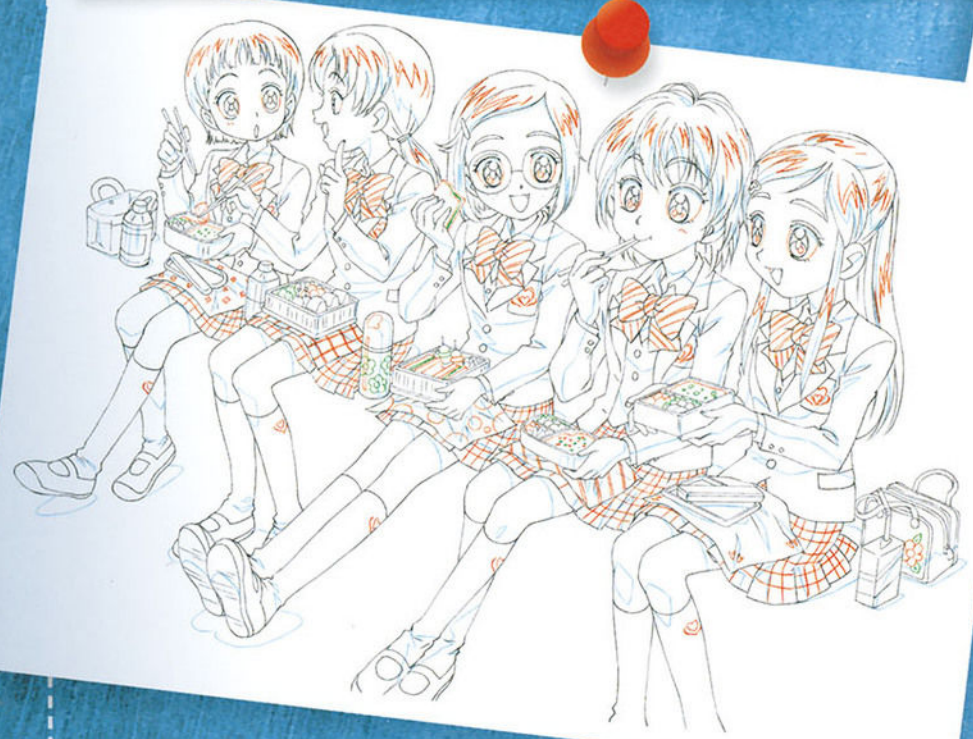
スペシャルイラストレーション〈原画〉

キャラクターデザイン稲上 晃氏と、
本編の作画監督6名による、
オリジナルイラストの原画です。

SPECIAL ILLUSTRATION

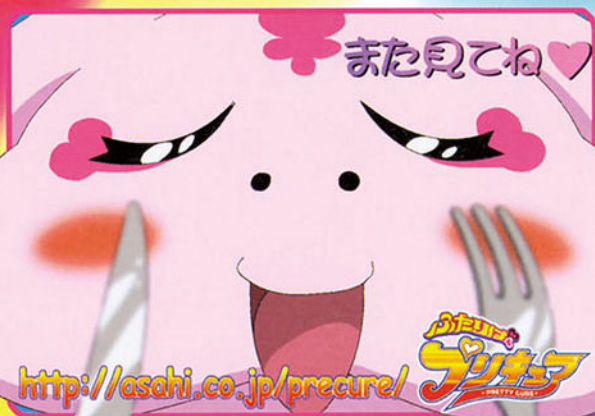
スペシャルイラストレーション〈原画〉

デザイン／宮元　宏彰
がんばって描いてみました（掃除機はこんな使いかたしちゃダメです）。

デザイン／鈴木　裕介
初めて作った「またみてね」です。なにも工夫していないのが丸見えです。タイトルは「戦闘開始!!」……とか？（ほのか風に）

デザイン／木村　延景
101匹メップル大行進？　ありえない。

デザイン／宮元　宏彰
たこ焼きは好きです。まるいから。

デザイン／木村　延景
シルエットのゲキドラーゴには金ダライが激突！　次いってみよう。

デザイン／鈴木　裕介　藤Pと楽しくしゃべるほのかを見て、なぎさがショックを受けるという話が面白かったので、こんな感じになりました。ポイントは四隅を走っているなぎさです。タイトルは「げっちゅーラブラブ!?ありえなーい!!」……あたりで。

デザイン／木村　延景
おいしいものを食べたら、ほっぺたが落ちそうになる。

デザイン／宮元　宏彰
いちばん好きなザケンナーです。

デザイン／鈴木　裕介
年に一度しか会えないお父さん、お母さんと会える、ほのかの話ということで、ほのかをいっぱい見せたいなと思ってこうなりました。タイトルはもちろん「ほのかすぺしゃる!!」。

デザイン／木村　延景
ぶっちょうづらのなぎさ、機嫌が悪そう……？

デザイン／宮元　宏彰
ポイズニーこわっ……。

デザイン／木村　延景
夕日を背に立ち上がるヒーロー（ヒロインだってば）。

デザイン／鈴木　裕介　かつてこんなにたこ焼きを食べまくる主人公がいたでしょうか？　そんななぎさに敬意を表して、指でたこ焼きを食べさせてみました。本当にやったらやけどするので、真似しちゃダメです。タイトルは「食食しょっく」……とか。「またみてね」のハートまでもが、たこ焼きに！

デザイン／宮元　宏彰
武者、恐すぎ……。

デザイン／木村　延景
ロケ地、東京都・月島にはまだなつかしい景色がいっぱい残っています。夕飯のカレーが、匂ってきそう……。

デザイン／鈴木　裕介
なぎさは藤Pの前では、通常人間比でここまで小さくなってしまいます……度胸が、ってことですけど。タイトルは「ミニなぎ」。がんばれ！　なぎさ！

デザイン／宮元　宏彰
実際のテストは、どうだったんでしょうね。

18 ENDING

●第18話エンド　第19話の「また見てね」

デザイン／木村　延景
登校中のなぎさとほのか。通学路は、高台のロケーション。

19 ENDING

●第19話エンド　第20話の「またみてね」

デザイン／鈴木　裕介　とある方との約束で……もとい、たまには主人公以外の「またみてね」もいいかな、誰にしようかな……よっしゃ口癖でキャラの立っている志穂だ！　ということでこうなりました。タイトルは、「ほのかすぺしゃる!!」にちなんで「志穂すぺしゃる!!」。

20 ENDING

●第20話エンド　第21話の「またみてね」

デザイン／木村　延景
作画・稲上　晃　ロケ地、東京都・駒沢公園。学校帰りの寄り道かな？　なぎさは、ほのかのソフトクリームもつまみぐい。

21 ENDING

●第21話エンド　第22話の「またみてね」

デザイン／鈴木　裕介
キリヤが闇に帰る話の後につく「またみてね」。ということで、無表情のようなキリヤも結構いろいろな表情してたんですよ。忘れないでね。サヨウナラ。ということで、タイトルは「キリヤすぺしゃる！」。

22 ENDING

●第22話エンド　第23話の「またみてね」

デザイン／苫米地　弥恵子
ラクロス特訓中。へたれているなぎさにホイッスル。

23 ENDING

●第23話エンド　第24話の「またみてね」

デザイン／鈴木　裕介　怒濤の第一部完！（嘘）に向けての「またみてね」ということで、エンディングで使用している絵だけで作った「またみてね」です。ポイントは、テレビではほとんど確認できない、チアリーダー姿でジャンプする直前のふたりの顔でしょうか。タイトルは「エンディングすぺしゃる!!」。

デザイン／座古　明史
右のほうにジュナが混ざっているのが、非常に気になって夜も眠れません。

デザイン／宮元　宏彰
暑苦しい夏、日本の夏。

デザイン／鈴木　裕介　え？　もう最終回？　みたいな予告につく「またみてね」ということで、オープニングで使用している絵だけで作った「またみてね」です。すべてが終わる！　そしてすべてがはじまる!! ということで、タイトルは「オープニングすぺしゃる!!」。

→アイキャッチ①

↓アイキャッチ②

→提供②

↓提供①

→提供③

デザイン／鈴木　裕介
夏休み終了直前！ 計画的だった人とそうでない人。僕はいつも後者でした（笑）。

30
ENDING
●第30話エンド 第31話の「またみてね」
またみてね
http://asahi.co.jp/precure/

デザイン／宮元　宏彰
すべてを生み出す力を内に秘め、ポルンパワーアップ！　いつもより、4倍元気で動きまわってます（当社比）。

デザイン／鈴木　裕介
大好きなメップルたちと同じ姿になれたあまりのうれしさで、泣いてしまったなぎっぷる（嘘）。

デザイン／宮元　宏彰　作画／富田　与四一
じつは某所でちょっと問題になった「またみてね」です（汗）。大人の事情は難しいのです。

デザイン／木村　延景　作画／東　美帆
トレーニング中のなぎさ、描いた人に頼んでなぎさの筋肉質を誇張したら、監督に怒られました。イメージをちょい崩しすぎ……と、僕は好きなんですけど。ほのかの白いワンピースがまぶしい!!　ロケ地は聖蹟桜ケ丘のとある場所です。

デザイン／大塚　隆史
　タイトルは「気持ちいいポポ～」。お人形さんの中でぐっすり眠っているポルン。おやすみなさい☆

デザイン／大塚　隆史　作画／稲上　晃
　タイトルは「笑顔の志穂☆」。部活の事で親友の莉奈とケンカしちゃったけど、最後には仲直りして部活も続ける事にした志穂。そんなお話の最後を飾るのは、やっぱり満面の笑顔の志穂ちゃんがいいと思って、作りました。

デザイン／木村　延景
　土手と鉄塔……。今日も朝早く、彼女たちは学校へ向かいます。白い息を吐きながら、一生懸命走って……。遅刻しないようにガンバレ!!

デザイン／大塚　隆史　作画／東　美帆
　タイトルは「なぎさのハッピーバースデー」。物語の中にはなかったけど、きっとなぎさの家でもこんな感じで、家族みんなでお誕生日会をしているんだろうなぁ～と思ったので、こういうのを作りました。

デザイン／鈴木　裕介
　激辛たこ焼きを食べたのか、ポルンにたこ焼きを食べられて激怒したのか、たこ焼き落として自分にムキャーなのか。ご想像にお任せします。

デザイン／大塚　隆史　作画／青山　充
　タイトルは「僕たちも頑張るメポ～」。『ロミオとジュリエット』の劇をしたなぎさとほのか。それを真似しているメップルとミップルとポルン。第37話の最後をかわいく締めくくりました。

デザイン／鈴木　裕介
　娘が嫁にいく……、うれしいけど悲しい。思わず想像してしまって涙ぐむ理恵ママ。よし美先生の「結婚するのは私なんですけどぉ……」の言葉どおり本当の主役はよし美先生……のはずでした。

デザイン／大塚　隆史
　タイトルは「わがままポルン」。プリキュアの放送が終わったあとの、ポルンです。「もっとみたいポポ～」そんなポルンみたいな子どもが多いとうれしいなぁ～と思って作りました。

デザイン／鈴木　裕介
　普段は※PANしてしまうセルなので、パースがすごいことになってます。一枚絵で見られるのはここだけ！のはず。タイトルは「パースのすごいふたり」(笑)。

デザイン／座古　明史
　ホワイトは待ちくたびれてしまったんです。たぶん。

デザイン／大塚　隆史
　タイトルは「あの人に届いて、一途(いちず)な想い」。憧れの藤P先輩に恋い焦がれるなぎさ。ファイト！　頑張って！想いは伝えないと伝わらないよ！　あきらめちゃダメ！（あー……自分に言ってるようで耳が痛い……。）

デザイン／鈴木　裕介
　莉奈ファンに捧ぐ。莉奈ファンの莉奈ファンによる莉奈ファンのための「またみてね」。盗撮風なのはご愛嬌(あいきょう)。隠れファンが撮ったのですよ、きっと。

※PAN：カメラの位置を固定したままレンズを動かすこと。

ENDING 44

●第44話エンド　第45話の「またみてね」

デザイン／大塚　隆史
タイトルは「踊るメップル、ミップル、ポルン」（動く「またみてね」）。踊るメポミポポルン！ 初の動く「またみてね」です。この本では表現できなくて残念です！ かわいらしい彼らの動きは、放送を見た人にしかわからないよ～！

ENDING 45

●第45話エンド　第46話の「またみてね」

デザイン／鈴木　裕介
この話からあとは戦い一直線。ということで、最後になるかもしれない「なぎほの」の笑顔をどうぞ！ というこことだったんですが、ほのかの笑顔が少なかったですね、反省。

ENDING 46

●第46話エンド　第47話の「またみてね」

デザイン／大塚　隆史　作画／川村　敏江
タイトルは「あけましておいしそ～」。第46話の中より抜粋。なぎさの年賀状。あけましておいしそ～！ 新年のあいさつ「またみてね」でした。

ENDING 47

●第47話エンド　第48話の「またみてね」

デザイン／座古　明史
強大な敵に立ち向かうプリキュア！　負けないで！

ENDING 48

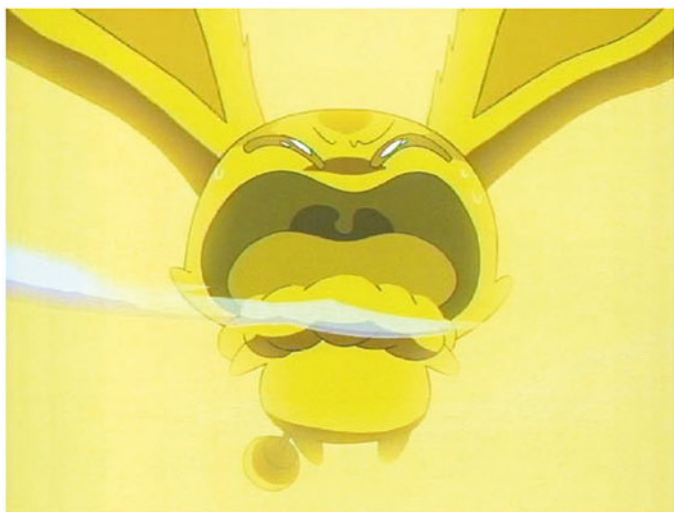
●第48話エンド　第49話の「またみてね」

デザイン／鈴木　裕介
ついに最終決戦！どんな事があってもずっといっしょだよ！　プリキュアの象徴「つながれた手」。ふたりのそしてみんなとの絆は永遠です！

ENDING 49

●第49話エンド

デザイン／大塚　隆史
タイトルは「とびきり笑顔でにじゅうまる！」。泣いてないでほら、プリキュアが始まっちゃうよ！ さぁ笑って！ みんなで楽しく見よう！ プリキュア最終回を飾る「またみてね」はやっぱり笑顔で！ と前々から決めていました。

ふたりはプリキュア 名言集 5

ジャアクキングの圧倒的な力の前になすすべがないふたり。そのとき、ポルンが最後のがんばりを見せてくれます。それに応えるべく、ふたりはジャアクキングに立ち向かいます。自分たちを支えてくれ、背中を押してくれる仲間たちのことを想えば、負けるわけにはいかないのです、絶対に。（第49話より）

ホワイト
私たちには大事なものがある。
大事な人たちがいる。
ミップルやメップル、そしてポルン。
そして私たちを支えてくれるのは、
すべての生命（いのち）。
私につながるすべての生命（いのち）よ！

ブラック
だから！
ホワイト
私たちは!!
ふたり
絶対負けない!!

「ふたりはプリキュア名言集　わたしたちはぜったい負けない」（講談社）より抜粋。

特別インタビュー

『ふたりはプリキュア』放送開始20周年を祝し、『ビジュアルファンブック復刻改訂版』特別企画として、本名陽子さん、ゆかなさんのおふたりに、当時の思い出と『ふたりはプリキュア』に込めたお気持ちをあらためて伺いました。

PROFILE
本名陽子（ほんなようこ）

1月7日生まれ。1991年のスタジオジブリ『おもひでぽろぽろ』の岡島タエ子役で声優デビュー、1995年には『耳をすませば』で主人公の月島雫役を演じ、主題歌も担当。その後、アニメ『機動戦士ガンダム00』のスメラギ・李・ノリエガ、『とある魔術の禁書目録』ワシリーサ、ゲーム『サクラ大戦V ～さらば愛しき人よ～』の吉野杏里、米ドラマ『ハンドメイズ・テイル／侍女の物語』のジューン、『イエロージャケッツ』のショーナなどの日本語吹き替え、自律型会話ロボット「Ｒｏｍｉ」のデータ音声、東京富士美術館公式ナビゲーターほか、歌手として国内のみならず海外のコンサートにも出演するなど、活躍の場は多岐にわたっている。

PROFILE
ゆかな

1月6日生まれ。1993年に『モルダイバー』の主人公、大宇宙未来役でデビュー、主題歌も担当した。以降、テレビアニメ『フルメタル・パニック!』のテレサ・テスタロッサ、『コードギアス 反逆のルルーシュ』の C.C.、『ワンピース』のしらほし、『アマガミSS』の七咲逢、『BLEACH』の虎徹勇音、『IS〈インフィニット・ストラトス〉』のセシリア・オルコット、『ゲゲゲの鬼太郎』(第6期)のアデル、ゲーム『テイルズ オブ ジアビス』のティア・グランツ、『Fate/Grand Order』の葛飾北斎などの声を担当。また、シンガー・ソングライターとしても活躍している。

撮影／金 栄珠（講談社写真部） ヘアメイク（本名さん分）／大河内ともみ ヘアメイク（ゆかなさん分）／佐々木 篤（GLUECHU）
取材・文／松野本和弘

●初対面で受けたオーディション

――最初にオーディションを受けられたということですが。

本名 2003年の秋に、オーディションがあるからと呼ばれたんです。

ゆかな あのときはなぎさことキュアブラックと、ほのかことキュアホワイト両方の役のオーディションでした。

名前を呼ばれて、呼び出された人同士で暫定的に組んで、なぎさとほのか、それぞれのセリフをかけ合うという形式だったんです。他の現場でご一緒したことのある方もいましたし、まったく知らない方もいました。私たちが会ったのはそのときが初めてで、知らない者同士でした。

本名 そうだったよね。4歳のころから芸能関係の仕事をやっていたんですが、当時はブランクがあって、この先どうしようかというところまで切羽詰まってまして、このオーディションに落ちたら、この業界から離れたほうがいいのではと思っていた時期だったんです。

「オーディションに来られた方でお急ぎの方はいらっしゃいますか？」と声をかけられたとき、真っ先に「はいっ！」って手をあげちゃったんです。と言いますのも、私はアルバイトの休みがとれず、途中で抜けてきていたので、時間的に差し迫っていたんです。不思議にもそれが功を奏したと言いますか、もうやるしかないという気持ちになれたので、オーディションは普段以上の力が出せたのかもしれません。

今思えば、なぎさから自然とパワーをもらっていたような気もしますね。そんな意味でも私にとってターニングポイントになった、なるべくしてなった作品に出会えた瞬間だったのかなと思います。

ゆかな 私の場合はなぎなぎ（本名さんの呼び名）の他にも何人かの方と組ませていただきました。そのなかにはのちにアカネさん役を演じられた藤田（美歌子）さんもいらっしゃいました。その組では藤田さんがなぎさで私がほのかのセリフを担当したんですが、なぎなぎのブラックとはまったく違ったアプローチで、終始、藤田さんの強烈な個性に圧倒されていたのを覚えています。そのあまりのインパクトに、いつか機会があればお仕事してみたいと思っていました。アカネさん役で入られたと聞いたときには嬉しかったです。現場でも持ち味が輝いていて、ものすごい存在感でしたね。

●なぎさ、ほのかとの共通点

――オーディションの結果、本名さんがなぎさ役、ゆかなさんがほのか役となりました。

ゆかな 1話の収録のとき、お久しぶりの先輩から、「あれ？ ゆかなちゃんが黒いほうだと思ってた～」って言われたエピソードもあります。

――本名さんご自身も、ほのか役だと思っていたと伺いましたが……。

本名 どちらかと言えば、ほのかのようなおとなしめの役を演じてきたことが多かったこともありまして。でも、私自身の性格としては、なぎさのほうが近いと思います。

ゆかな なぎなぎは、なぎさのエネルギーとかわいさに、すごくリンクしていると思います。私は状況や環境的にもほのかに近いところがありました。近しい人たちには「まんまじゃん」とか言われましたね。

子供のころ身体が弱かったので、授業などを見学することも多かったんです。だからなのか、アクティブなキャラクターとかアクションシーンへの憧れはすごく強くて。「アニメーション」という素敵な力を借りれば、アクティブな人生を味わえるのではないかという希望を捨てられずにいたんです。

――本名さんはなぎさ、ゆかなさんはほのか役を演じることになり、番組は始まりました。

本名 今あらためて思うと、ふたりが喧嘩するエピソードの8話まで、ふたりはお互いに「美墨さん」「雪城さん」と苗字で呼び合っていて、少し距離感があるじゃないですか。この距離感がとてもリアルだったと思います。

私とほのほの（ゆかなさんの呼び名）との当初の関係性と絶妙にリンクしていた感じなんです。私はどちらかと言えば実写や吹き替え作品

キュアブラック／美墨なぎさ役

キュアホワイト／雪城ほのか役

本名陽子さん×ゆかなさん

「幼いころの思いをすくいとっていただけた気がします」

「なぎさからパワーをもらって、今の私があると思います」

の出演が多くて、アニメのテレビシリーズは『プリキュア』が初めてでしたが、ほのほのはアニメ作品で活躍されていて。そんな〝ふたり〟がプリキュアになっていく過程が、ちょうど「美墨さん」「雪城さん」って呼び合ってたときの距離感とシンクロしてたんです。

ゆかな　今回、当時の『ビジュアルファンブック』を読み返したんですが、Vol．1に掲載されたインタビューで私、なぎなぎのことを「陽子ちゃん」って呼んでるんですよね。なんて呼んだらいいのだろうかと悩んでようやく「陽子ちゃん」と呼び始めたころなんですよ。

本名　そうだよね。『ビジュアルファンブック』の付録CDがきっかけで「なぎなぎ」と「ほのほの」って呼び合うようになったんですけど、それまでは「本名さん」「ゆかなさん」でした。

ゆかな　まさに『ビジュアルファンブック』のおかげですね！

●本格コーヒーを振る舞った収録現場

――収録現場での思い出をお聞かせください。

ゆかな　私たち含めて、みんなが現場の雰囲気をよくしようとすごく頑張ってました。

本名　収録が始まる前に必ず、声優陣がいる収録ブースの中に西尾さんや鷲尾さんが扉を開けて入ってこられるんですよ。通常、ディレクターさんは調整室から出ることなくトークバックでマイクを通して語りかけることが多いんですが、西尾さんや鷲尾さんの場合はブースの中に入ってこられて、私たちに今回の内容はこういう趣旨で、こんなふうに演じてくださいと、話してくださるんです。

そういったところをひとつとっても、すごく丁寧だなと感じましたね。ユーモアをまじえて語りかけてくださって、まずひと笑いしてから収録スタートといった感じで、私たちをリラックスさせてくださるんです。

ゆかな　ここ数年は感染症対策で演出などはすべてマイク越しになっているのですが、当時は可能だったという事情もあります。でも当時としても収録ブースに積極的に立ち入ってこられるディレクター、プロデューサーさんはそれほど多くはいらっしゃいませんでしたね。収録が始まる前に毎回ブースに入っていらして挨拶……からストーリーの詳細や展開を説明してくださるんです。場の雰囲気作りや緊張をほぐすなどの意図もおありだったと思います。

挨拶……というか現場では〝マエセツ〟と言っていたのですが、西尾さんの持ちネタで、入場時に話しながら途中で転ぶというのがあったんですよ。初見だと当然本気で心配するんですが、私たちも先輩に「笑ってあげて～」と言われて学びました……。ゲストの方が驚いて固まってしまったときには、ついに西尾さんご本人が「これ、ギャグで笑うところだから」と説明して、笑いを誘っておられました（笑）。

本名　いろんな人たちが集まって、いい雰囲気を作ろうという意識がみんなにありました。いつからだったか忘れましたが、私たちもコーヒー豆を買ってきて、スタジオでコーヒーを振る舞ったり。

ゆかな　そうそう。当時スタジオさんが緑茶セットを用意してくださっていたので、はじめはお茶を淹れてお配りしていたんです。そのうちにコーヒーが飲みたいという意見も頂戴したので、ある日、コーヒーメーカーを持って行ったんですよ。それならコーヒー豆も、という流れになって。

本名　私も当時、コーヒーにはまっていたので、じゃあ私が「おすすめの焙煎豆を買ってきます」と、次回に持ってきたり。

ゆかな　それでミル付きのコーヒーメーカーが大活躍することになり、テスト中にドリップされているという……。ぶっちゃけありえない、ですね（笑）。

本名　主役のふたりがコーヒーを振る舞いながら収録するのが恒例になって。「このスタジオはいい香りがするね」って、みんな喜んでましたよね。

ゆかな　ゲストとして初めて来られた方に「コーヒーどうぞ」とお渡しして、それが「この番組ではテストがこう、本番はこんな感じで」とお話しするタイミングにもなって、それもよかったと思います。

本名　今はなかなかできないですけど、収録後

に食事会もありました。仲のいい人たちだけが行くわけではなくて、西尾さんが率先して声をかけてくださって、みなさんと話せる大切な場でした。

ゆかな　西尾さん、いきなり外国の方々と現れたりもしましたね！

本名　キャストや収録に携わるスタッフだけでなく、アニメーターの方だったり、出版関係の方だったり、『プリキュア』に関わっていたさまざまな方が同席されていたことも多かったです。しかも、そこから生み出されていくものがあったりするんですよ。とにかく一回一回がすごい熱量だったなって思います。

ゆかな　食事会はもちろん強制ではなくて、行きたい人だけです。でも必ず声だけはかけようというスタイルでした。遠慮がちな方でも参加できるように。そんななかから生まれたお話とか、小ネタみたいなものもいっぱいあります。

――そうした場で出された意見が作品に反映されていった。

ゆかな　次第に「なんかネタない？」というのも慣例に（笑）。エピソードももちろんですし、髪型、服装やマフラーの結び方とか。髪型は、髪の長い役者陣で「あーだ、こーだ」と実際にやってみたりしたこともありましたね。

本名　冬服のコートの色が、そのときの言葉どおりに再現されていたこともありました。今でも忘れられない思い出になっています。

●時代を先行した『プリキュア』の概念

――日曜朝の女児向けアニメとして始まった『ふたりはプリキュア』ですが、そのあたりは意識されましたか？

本名　『プリキュア』に限らず、女児向けとか、アニメであるとか、そういったことなどを意識して仕事を受けたことはありません。毎回、目の前の仕事に全力で取り組もうというスタンスでやってきました。

ただ、始まってからは、殊更心を研ぎ澄まして臨んでいました。一声出すごとに、その言葉がぶれることなく、観てくれる子供たちに届くように誠実に演じていきたいという思いでいっぱいでした。

ゆかな　作品を取り巻く状況の厳しさには、配役が決まり参加し始めてほどなく気がつきました。西尾さんや鷲尾さんから聞いたわけではありませんでしたが、あらゆる状況が物語っているように感じて、とにかくこのチームで踏ん張ろうと決意しました。

私、以前の番組（『エアマスター』）で西尾さんと初めてご一緒したときに、偶然にも児童向け作品や女児向け作品への思いをお話しする機会があったんです。

商業の世界である以上、作り手や送り手側それぞれにたくさんの制約があり、また事情があるものだということは理解しているし、理解せざるを得ない。ただ、作品中の表現について、私個人が特に幼少期に違和感を拭えなかったことがあるという事実や、その気持ちを満たしてくれる作品に出会うことができなかったという現実も含めて、具体的な事例や概念もまじえてお話しでき、濃い時間を過ごさせていただきました。正直なところ、私のこの感覚に理解や共感を得られる日が来るとは思っていなかったので、とても驚いたことを記憶しています。

――かつてのアニメにおけるジェンダー表現について疑問を抱かれていたと。

ゆかな　私は職業俳優ですので、『エアマスター』もそうですが深夜帯の作品にも出演していますし、前述のようにそれぞれの事情があることも理解しているつもりですが、実は『ふたりはプリキュア』が始まった当初は他の作品の現場で肯定的な意見をいただくことは少なかったんです。そのほとんどは予想していた内容で、職業人としてではない素の自分が違和感を拭えずにいたことへのご指摘でした。その方々なりの私の経歴への親切心からであったことには感謝しながら、子供のころの違和感を解消しつつ、送り出す側にいることを誇らしく思い、心を奮い立たせていました。

それからもうすぐ20年。少しずつ確実に社会全体の流れが変わってきたのを感じます。偉大な先人たちが少しずつ築いてくださった素晴らしいセオリーがあり、それが素晴らしいものであるほどに、その道を踏襲しないという決断はとても勇気のいるものです。けれど、それも含めて多様な世界があるならば、そこに向かう価値もあるのではないでしょうか。

……とか言いましたが正直なところ、それほど策士揃いだったというより、もっと愚直で、どうしようもなく真っすぐな人たちがもがいた結果という表現のほうがしっくりくる気がします。まず、届けたかったテレビの前の小さな味方たちが作品にこめた思いをまっすぐ受け取ってくれて、その力がすべてを変えてくれた。それこそが奇跡だと思います。

本名　もがき続けることをやめずに、ひとつひとつ丁寧に作られた、『ふたりはプリキュア』という作品を世に送り出してくれたのが西尾さんや鷲尾さんたちスタッフの方々なんだと思うと、尊敬と感謝の念が湧き上がってきます。

それこそスタート当初は、「黒と白」というモチーフについても放送がスタートするまでは、その意図などが違ったニュアンスで捉えられることも少なくありませんでした。そんななかでいち早く反応してくれたのが、テレビで観てくれている小さな味方たちでした。スタッフも、演じる私たちも、ただただがむしゃらに突き進みながら、そのうちに「思いが届いている」と知ることができて。そんな作品に関われたことが奇跡だなって思います。

――スタッフ、キャストの目指す方向が同じだったんですね。

ゆかな　そうですね。折れそうになりながらも折れずにあがき続けたスタッフの方々が頼もしくも誇らしいですし、なにより、受け取ってもらえた『ふたりはプリキュア』という作品は、私にとって大きな存在になりました。

シリーズとしてつないでくださる制作者のなかには、当時は受け取る側だったとおっしゃる方も増えました。私たちがそうであったように、

それぞれのスタッフやキャストが見つけた道が、誰かの心に届いていくといいですね。つないでくれる皆がいるから、私たちもシリーズも、また何度でも届けていけるのです。

●20周年に向けて

本名　取材の前に「おふたりがお会いするのはいつ以来ですか?」って質問されましたけど、当時もすごく仲良しでしょっちゅう会ってるということはなくて、今もいつだったか前回の周年のイベントの現場で会ったきりで久しぶりに顔を合わせたんですよ。でも番組終了から18年が経って、あのときの2年間で培ってきたものが根をはるように深いつながりになっているんです。当時は浅かったというわけではなくて、今は何にも代えがたい固い絆で結ばれているような不思議な間柄。こういう関係ってなかなかないかもしれません。

ゆかな　よく言われるような仲のいい友達というイメージとは違うかもしれません。

本名　クラスメイトともちょっと違うし。波長の合う人と一緒にいるとかっていうのでもない。このなぎさとほのかのような、ともすれば真逆なふたりが一緒になれたっていう関係性が、ふたりが近づいていく間も含めて似ているのかもしれません。

ゆかな　「一緒に過ごす時間が長い＝仲がいい」というのではなく、どんなに久しぶりでも以前の続きから過ごせるような感じ、と言えばいいでしょうか? お互いに自立している者同士が、今もずっと信頼し合っている、という感じですね。

――家族とは違いますが、それだけ密度が濃い時間を過ごした者同士ということでしょうか。

ゆかな　竹林みたいに地下で根がつながっているというか（笑）。普段はそれぞれ別の場所で生きていてそれほど意識はしないけど、深いところでつながっていて、それを疑うことさえ思いつかない。そんな関係です。

――『ふたりはプリキュア』に関わったことで、ご自身が変わったことはありますか?

ゆかな　なぎなぎはよく言ってるよね?

本名　真面目に語ると、なにより人生の転機となった作品です。『ふたりはプリキュア』にキャスティングされなかったら間違いなくこの業界から離れていたと思うので、なぎさに出会えたことで激変しました。この業界で生きていくぞと決心した作品となりました。

形式的なところでは、サインを変えましたね（笑）。私はもともと書道をやっていたので、最初は書道風のサインだったんですよ。でも、キュアブラックを演ってからは小さい子供たちにも喜んでほしいなと思って、かわいらしいサインに変えたんです。

いつだったか、ふたりで話したことがあって、自分たちは年齢を積み重ねていきますけど、なぎさやほのかはずっと中学3年生ですよね。この先も、私がなぎさとして変わらずにいられるように自分を磨き続けていこう! と常に心がけています。なんて、そんな話ができること自体が信じられないです（笑）。

ゆかな　アニメーションならではですね。実写においては数年後に演じるときには作中でも時間経過があることが多いですよね。アニメーションはそこも含めて自由度が高い世界だと思っています。未来にも進めるし過去にも戻れるし、そこに留まることも続きから生きていくこともできる。この自由度は本当に素晴らしい特性だと思います。だからこそ、その自由度を最大限に活かせる自分でいたいなって思っています。作品自体の自由度を手助けしたい、そしてなにより、この作品では「私の大好きなほのか」が自由でいられるようにしてあげたいんです。ほのかがいつでもなぎさに会いに行けるように、いつでもそれを支えられる私でいたいです。

――最後にメッセージをお願いします。

本名　こんなに『プリキュア』シリーズが続くとは本当に思いませんでしたし、自分にこういう景色を見られる将来があるなんて、当時は予想もしていませんでした。

今、私の子供が通っている幼稚園の先生から「『プリキュア』を観て育ちました」って言われるんです。これってすごいことですよね。そんなに長くシリーズが続いたんだとあらためて思いましたし、最初の『プリキュア』を観て育った子供が大人になって、その子供たちが今も『プリキュア』を観て育っている……こんなふうにバトンが手渡されていくことに驚いていますし、応援してくださっている方々に感謝でいっぱいです!

子供から大人まで世代を越えて愛される作品となり、ふと気づけば「プリキュアの日（2月1日）」ができたり、アニメ映画でギネス世界記録に認定されたり、まさにミラクルの連続でした。それもお一人お一人の応援のおかげです。

なぎさとして「今もがんばってるよー」と、ずーっと現在進行形でいられたらなと思っています。これからも、いつまでも、ずっとずっとありがとう♡　プリキュア20周年……ぶっちゃけありえな～い!! ですね（笑）。そんな思いで溢れています。

ゆかな　もうすぐ20周年を迎えられるというのも、そして、この『ビジュアルファンブック』が復刻されるというのも、シリーズを最初から観て、ずっと好きでいてくださった方、それからシリーズの途中から好きになってくださった方、配信などで知ってくださった方、すべての皆様のおかげです。本当にありがとうございます。10周年のときも15周年のときも言っていたかと思うのですが、これからも、テレビシリーズを作っていたときのように、いつも、今現在をMAXなHEARTで生きていきたいと思います。「いま」存在しているほのかと、「いま」を生きているスタッフと、「いま」を生きているみんなで、全力で、「いま」に存在したいと思うから。小さな雪玉がどんどん大きくなるように、たくさんの愛情で育ってくることができたこの『プリキュア』が、これからも、もっともっと大きくなれるとしたら、こんなに嬉しいことはありません。

20周年を迎える『プリキュア』を愛してくださって、本当に「ありがとう&あいしてる」。

◆プロデューサー 鷲尾 天 × ◆シリーズディレクター 西尾大介 × ◆シリーズ構成 川崎 良 × ◆キャラクターデザイン 稲上 晃

プリキュアを作った男たち・スタッフ座談会

『ふたりはプリキュア』はいかにして誕生したのか――。誕生から20年、鷲尾 天プロデューサー、西尾大介シリーズディレクター、シリーズ構成の川崎 良、そしてキャラクターデザイン・総作画監督の稲上 晃、『プリキュア』を作った４人の男たちがここに再集結！　あらためて製作の経緯と当時の思い出を伺った。

PROFILE
鷲尾 天
（わしお・たかし）
1965年9月16日生まれ、秋田県出身。地元・秋田の秋田朝日放送の記者を1992年より６年間務めたのち、1998年に東映アニメーションに入社。2002年『キン肉マンⅡ世』でプロデューサーとして独り立ちし、2004年の『ふたりはプリキュア』から『Yes！プリキュア５ GoGo！』までプロデューサー、『Go！プリンセスプリキュア』からは企画としてシリーズに携わっている。他に『トリコ』『怪談レストラン』『おしりたんてい』など。東映アニメーション執行役員、エグゼクティブプロデューサー。

PROFILE
西尾大介
（にしお・だいすけ）
1959年4月1日生まれ、広島県出身。1981年、東映動画（現・東映アニメーション）の第１期研修生として入社。『ハロー！サンディベル』などで製作進行を務めたのち、『Dr.スランプ アラレちゃん』で演出デビュー。1986年の『劇場版 DRAGON BALL 神龍の伝説』で初監督。以降、『DRAGON BALL Z』『ゲゲゲの鬼太郎』（第４期）、『金田一少年の事件簿』『エアマスター』でシリーズディレクターを担当した。また、2010年には、日米合作のOVA『Halo Legends』に、STUDIO4℃、ボンズ、Production I.G、カシオエンターテイメントとともに東映アニメーション代表として参加。エピソード8「Odd One Out」の監督を務めている。

PROFILE
川崎 良
（かわさき・りょう）
1953年５月１日生まれ、神奈川県出身。大学在学時から講談社「Checkmate」でライターとして活躍。並行して放送作家の仕事を始め、1979年の『欽ちゃんドラマ OH！階段家族!!』で脚本家としてデビュー。以降、ザ・ドリフターズ、萩本欽一、怪物ランドなどのコント作家を経て、数多くのバラエティ番組、情報番組を手がける。2009年、入江規允とタッグを組んでテレビ番組リサーチ会社ワンバイワンプラスを設立。現在も放送作家としても活躍中。代表作に『たけしの平成教育委員会』『DAISUKI!』『ジャングルTV ～タモリの法則～』『シューイチ』『誰かが、見ている』などがある。また、アニメ作品では『釣りバカ日誌』でシリーズ構成・脚本を手がけている。

PROFILE
稲上 晃
（いながみ・あきら）
1963年12月23日生まれ、大阪府出身。大阪芸術大学卒業後の1986年、東映動画（現・東映アニメーション）に第２期研修生として入社。アメリカとの合作作品に参加したのち、1987年の劇場作品『聖闘士星矢』で原画デビュー。1990年のＯＶＡ『はないちもんめ』シリーズの１本、「峠についた赤い郵便受け」で初めてキャラクターデザイン、作画監督を担当。その後、『DRAGON BALL Z』をはじめとする諸作に、主力アニメーターとして参加。代表作は『プリキュア』シリーズのほか『夢のクレヨン王国』、『ねぎぼうずのあさたろう』（キャラクターデザイン）などがある。

撮影／嶋田礼奈（講談社写真部）
取材・文／松野本和弘

●『プリキュア』誕生の経緯

――『ふたりはプリキュア』の企画当初のことをお聞かせください。

鷲尾　『明日のナージャ』の後番組の企画を提案したのが発端です。いくつか企画が出ていたのですが、さまざまな要因から私が後番組のプロデューサーを担当することになりまして、結果的に私が発案した企画でやることになりました。

そのときはまだ、「コンビを主人公とした変身アクションもの」と漠然と思っていた程度でした。ただ、危機に陥ったときに王子様が助けに来るような形ではなく、あくまで自力で解決していく主人公をやりたいと考えていました。それならひとりよりふたりのほうがいいと思って、バディものを発想したんです。

――簡単な設定、プロットを考えられていた？

鷲尾　そこまでは全然。最初に企画提案して、比較的早い段階で大泉スタジオの製作部とお話しして、西尾さんにお願いしたいということは伝えましたね。

私はこの会社で最初にシリーズものに入ったのが『金田一少年の事件簿』だったんです。まだアニメーションの作り方を全く知らなかったので、打ち合わせといっても何をしていいかわからない。そんなときチーフディレクターである西尾さんが、「鷲尾くんってテレビ局の記者やってたんだよね」と声をかけてくれて、「警察って非常線をはるときはどうするの？」というような質問をしてきたんです。記者として知る範囲でお答えしたんですが、そのとき、自分が今までやってきた仕事がアニメーションでも少しは役に立つかもしれないと思ったんです。それを教えてくれたのが西尾さんで、「新しい仕事を一緒に始めるならこの人だ！」と思い、お願いした次第です。

――西尾さんはスケジュール的に、当初受けるかどうか迷われたそうですね。

西尾　たしかにスケジュールはタイトだったので、身体的に抵抗感はありましたが、鷲尾くんが話しに来てくれた段階で、やりがいがありそうだなと思って受けたんです。ただ、女児ものといわれるジャンルは初めてでしたから、どうしていいか迷った部分はありましたね。

別に新しいところを狙おうとしたわけではないんですが、当時、そういうジャンルがまだあまりやってないものにはしたい、一般的にカテゴライズされてるようなものは避けたいとは思いました。それと女の子だからこうしなさいとか、男の子だから泣くんじゃないとか、そういう描写に抵抗感があって。今でこそダイバーシティとかジェンダーという言葉を誰もが口にしますが、当時はまだ一般的ではなかったので、そんな社会通念に対しての抵抗感は、作品や作品作りにも生かせるんじゃないかという気持ちは僕にも鷲尾くんにもあったんだと思います。

――川崎さんはいつごろの参加だったんでしょうか？

鷲尾　川崎さんとはアニメ『釣りバカ日誌』でご一緒させていただいて、次作も是非お願いしたいと思っていたんです。

川崎　最初、鷲尾さんから神楽坂に呼ばれまして、実は今、女児ものの企画を考えているんだという話をされたんです。そのとき言われたのが、普通女児もののキャラクターだとピンクやイエローといったカラフルな色を使うけれども、今回は黒と白のコンビでいきたいと。当時、携帯電話がだいぶ普及し始めたころで、携帯形のアイテムがそれぞれの相棒となって敵と戦っていくという内容を提示されたわけです。

『釣りバカ日誌』とは違い、今回は原作ものではないので、戸惑いはありましたが、原作に縛られることなくゼロからやれるというところに大変魅力を感じまして、是非やらせてくださいと即答しました。その後に西尾さんとお会いしたんじゃないかな。

鷲尾　私と西尾さん、川崎さんと３人で最初に会ったのも神楽坂でした。川崎さんがそれまでご自身で担当

されたバラエティ番組の構成の話に、西尾さんがものすごく食いついたんですよ。その後、ご飯を食べて川崎さんと別れて、西尾さんとふたりになったとき、西尾さんが「やろうよ」とスッと言ってくれたのを覚えています。

西尾　この方とやりたいなって思うと、僕はそういう返事をよくしますね。僕らもまだプロットとか形を作っていないので不安じゃないですか。とにかく初めてお話ししたときに相手の雰囲気、見識に触れて、僕は食いついていっちゃうんですよね。このときも典型的なパターンでしたね。

鷲尾　ですから、最初に集まったときは仕事の話をした覚えがないです。プロットが煮詰まってきたのはホントに追い詰められてからでした。

――第1話の脚本は6～7稿くらい書かれたとか。

川崎　6～7稿なんてもんじゃないですよ（笑）。

鷲尾　私と西尾さんが悩みながら進めていたので、川崎さんはどうしたらいいかわからなかったと思うんですよ。

川崎　第1話に関して言うと、そんなに複雑なことは起きていない、わかりやすい話だったと思うんです。でも、全体の世界観やその背景にあるものがなかなか着地点に至らなかったんです。光と闇の世界の話で、それぞれの国はどういう状況で、どんな形でなぎさとほのかが巻き込まれていくのかというアウトラインが定まるまでに時間がかかりました。西尾さんがとにかく忙しくて、落ち着いてじっくり考える時間がなかなかとれなかったということもあります。

西尾　じっくり考えてもあれくらい時間がかかったと思いますよ（笑）。それでもスタートさせなくちゃいけないから、あやふやなところで、とにかく川崎さんには書き始めてもらって、あげてくださった脚本を読みながら自分たちが思っていたところと違うなという点をフィードバックしつつ、みたいなことを繰り返しやってました。

アウトラインの話ですが、僕がオープニングの絵コンテを仕上げたころ、脚本の6～7話が進行していたあたりだったと思うんですが、ようやく光と闇の物語であるという世界観をノートに書いたメモをコピーしてメインスタッフに配ったんです。たしか2003年の12月くらいだったと思います。

鷲尾　ファンタジー的な世界観がわーっと書いてあって、結末はどうなるのかなと読み進めていくと、最後に「ドッカーン」っていきなり終わってるんですよ（笑）。

西尾　早くやらなくちゃと思いつつも時間がなくて。時間があってもできないけど（笑）。とはいえ便宜的に出すような設定ではマズイですし、余裕のないなかで書いたのが当初のメモで、その時点で浮かんでいた世界観を思うがままに書いていったんです。そしたら結末のほうで収拾がつかなくなって、気持ちは先走っているのでつい「ドッカーン」と（笑）。

自分のなかではオーソドックスなものにしたいなぁ、という思いはあったんです。当時、エッジが効いてる、とがったもの、先鋭的な作品が求められる傾向にあったと思います。ただ、そんな風潮には抵抗感があったのも事実で、別に女の子がアクションをするということだけで目を引こうとしてるわけではなかったので。大人でも苦労するような困難に中学生の女の子が全力で食い下がっていく、立ち向かっていく。これをストレートに描くとなると、やっぱり学園ものがいいだろうと考えました。

――日常のなかで遭遇する困難に立ち向かっていく構図ですね。

西尾　でも自分が思い描いている〝日常感プラスファンタジー〟がなかなかノートに書けないんですよ。設定的なことを言うと、相対する光と闇を並列に描くと善悪の二項対立の図式になってしまいがちですが、善悪ではなく、光の裏には仕方がないけど闇が存在するんだというところをどう表現したらいいのかという点が悩みどころでした。

何かを守るために戦うというのも絶対違うと思いましたし、〝敵〟とか〝戦う〟という単語を使うことに迷ったりもしました。たとえば目の前で展開することが大変な事件になって、大惨事を防ぐためにたまたま変身して戦うハメになってしまうとか、もともと戦うために存在しているふたりではなく、妙な伝説があったために巻き込まれてやむなく戦うことになるんだとか、そういうフワッとした雰囲気を伝えるのに苦労しましたね。

鷲尾　やっぱり1話の映像ができるまでみんな理解できずにいたんだと思います。映像を見て、「あっ！」て思うんですよ。そこに説明以上の強いインパクトがありましたから。

川崎さんのシナリオも、西尾さんのイメージを文章上でどう表現して採り入れるかご苦労されたと思いますし、みんな手探りの状態でわからなかったんです。次第に固まっていくんですが、やっぱり時間はかかりましたね。画を手がける稲上さんはもっと大変だったんじゃないですか。

●「プリキュア」を画にする

――稲上さんの参加はいつごろからですか？

稲上　2003年のお盆休みに入る前日に、キャラクターのコンペがあると声をかけられたのが最初でした。メインとなる各キャラクターの大まかな設定は文章でいただいていたのでそれをもとに、また、妖精自体のデザインは携帯電話のデザインとともにバンダイさんの原案がありましたから、そこからまずコンペ用のキャラクターを起こしていった形です。

まだちょっと落書きっぽいラフなものでしたが、お盆明けにそのキャラクター案を提出して、じゃあお願いしますと言われたのが8月25日でした。その段階で『明日のナージャ』の担当を持っていましたから、実作業に入ったのは9月の中旬ごろです。西尾さんも『エアマスター』の最終話で忙しくされていたころでしたし。

西尾　『エアマスター』の最終話の放映が10月の第1週で、それまで目一杯やってましたから。『エアマスター』の作業をやりつつ、鷲尾くんとは7～8月ぐらいから少しずつ打ち合わせしていたわけです。

稲上　とにかく3人そろっての打ち合わせができたのは、9月に入ってからだと思います。

――キャラクターが完成してからシナリオに入ったのでしょうか。

西尾　全部並行していた感じだよね。

鷲尾　私は稲上さんが描いたキャラクターの表情がすごく好きだったんですよ。こういう顔をする子だったらきっと楽しいお話になるだろうなと思って。そこが稲上さんにお願いすることになった一番大きな要因ですね。

西尾　最初のキャラのコンペのときは設定も大まかなものでしたから、とりあえずそれぞれ好きに描いてもらってるんですよ。だから個々に考えた衣装や頭身で描いてくるんですけど、稲上くんが描いたキャラクターはどの人よりもニュートラルな感じがしたんですよね。だから表情も作りやすいし、後でコスチュームが変更になっても対応できるし、話し合いながら作り上げていけそうだなと直感したんです。

稲上　自分の画集が出版されたときに、西尾さんからコメントを寄せていただいてるんですけど、そのようなことを書いていただきましたよね。

西尾　黒と白のイメージというのは当初からあったんですけど、今回は主人公のふたりが魔法を使ったりはしないで自分の身体で立ち向かっていくという発想がありましたから、ただかわいいというコスチュームではなくて。それこそ最初、稲上くんに描いてもらったキュアブラックなんて、ほとんどボディスーツを着ているイメージだったんですよ。それに対してホワイトのほうは多少フェミニンな要素を採り入れてスカートにしていますが、その程度の違いがあったくらいで。

でも、さまざまな市場調査で女の子はフリルがついた衣装が好きだという数字が出ていたので、じゃあボディスーツにフリルをつけようということになったんですよ。あとはバランスでこういうコスチュームになったわけです。

稲上　肩などに身体をガードするプロテクターをつけて、それにフリルを足していったんです。

西尾　シンプルなコスチュームのほうが防御が似合うんですよね。敵を倒すというニュアンスとはちょっと違って、たまたま伝説の戦士だと言われてやむなく戦うことになると、防御に徹したボディアーマーとかボディスーツみたいな衣装が適していますよね。

――密に打ち合わせを重ねた上でキャラクターが完成に至ったんですね。

西尾　僕と稲上くんがガチで組んだのは、この『ふたりはプリキュア』が初めてだよね。

稲上　そうですね。演出と原画という立場での仕事はそれまでもありましたが、シリーズディレクターとキャラクターデザイン・総作画監督として取り組んだのは初めてです。

西尾さんは僕が入社したとき東映動画研修生の5年先輩の方で、自分が新人のころはなかなか作品で一緒になることはなくて、最初はOVA『3×3 EYES サザンアイズ』の2作目の原画でお世話になって。そのとき、ちょっと怒られた記憶があるんですけど……。

西尾　ウソ?

稲上　提出したカットのレイアウトがチェックからなかなか戻ってこないのでスタッフルームに聞きに行くと、「よく考えて描いてない」って言われてリテイクをもらったことがあるんです。そのとき強く感じたのが、西尾さんってキャラクターの細やかな表情ひとつひとつにきちんと気を配り、神経を遣ってチェックされる人なんだなと。

その後『DRAGON BALL Z』で原画をやることになって、最初に参加したのが西尾さんの担当回だったんです。打ち合わせのときにパフォーマンスしながら解説してくださるので、描き手としてイメージがしやすく助かってました。

そんなこともあったので、『プリキュア』をやるときに西尾さんがシリーズディレクターだと伺い、何度かご一緒しているので、その時点ではスムーズに進むかなと思っていたらそうでもなかった（笑）。

――どのようなやりとりをされたのですか?

稲上　たとえば女の子のキャラクターの横顔を描くときに、「いわさきちひろ（が描く）の横顔っぽい感じ」とか、「ノーマン・ロックウェルの絵のようなちょっと少女っぽい感じ」とか、そういう僕が今までモチーフにしたことがない視点からキャラクターのイメージやニュアンスを伝えてこられたので、当初は戸惑いましたし悩んだときもありました。

あるとき、なぎさとほのかの表情を大量に描いていって、どうですかって出したら、「うーん、こういう顔するよね」と言ってくれて。そのあたりで方向性が見えてきたというか。いいものはいいし、違うものは違うときちんと言っていただけたので、そこはありがたかったですね。

西尾　とにかく自分は曖昧なことを伝えてるんだけど、稲上くんはそれに対してちゃんと悩んでくれて、わからないことがあれば聞いてくるし、何が疑問なのかを共有できる関係ではあったよね。

稲上　まさにキャッチボールをする感じで。

西尾　オリジナル作品だったということもあるんですけど、享受しながら、イメージ出し合いながら作っていけたので。そこがすごくありがたかったし、うれしかったですね。僕の曖昧な言葉を具現化しなければいけないので、ある意味追い詰められていて、画を描くのは大変だなと思いながら。

稲上　描いたラフを見せたら、そこに落書きはするし（笑）。

――西尾さんが伝えたことを稲上さんが考えて、悩んだり、違う点をすりあわせて進めて。

西尾　稲上くんとの関係で一番よかった点は、ちゃんと協議できていたということかな。稲上くんもわからないことがあるし、僕もすごく曖昧なところがあるので、何か1個作るたびにたくさん話し合ったんです。それがたぶん『プリキュア』の作業の特徴なんだね。

――特に苦労したキャラクターは?

稲上　ピーサードは一番悩みました。当初、企画書のイメージではイケメンの5人衆だったんですよ。それこそ『セーラームーン』に出てくる敵側の幹部みたいな。でも、ピーサードが歌舞伎風のキャラになったので、後のキャラクターがモヒカンの体操選手みたいなゲキドラーゴになったり。

西尾　スポンサーかどこかから言われたのか忘れましたが、全体の雰囲気として、「相手方のグループってイケメン5人組」みたいな漠然としたイメージと要請のようなものがなんとなくあったんです。でもなんかしっくりいかなくて。稲上くんとキャラクター作るときには、ゲキドラーゴみたいなものができちゃうし。ポイズニーも、かっこいいキャラクターというより変な人だし、みんなエキセントリックな人たちだけど、どっかにいそうというか……。

稲上　ポイズニーとキリヤが姉弟らしいので。そんな設定、最初からありましたっけ……?

西尾　あったよ。要するに他であんまりやってないことでもいいんじゃないか、みたいな。自分がホントに感情移入できるグループで、マッチョなおっさんもいれば知的なやつもいるし、思慮深いイルクーボみたいなのもいるし。なんか自然なんですよね。みんな10代後半から20代前半のかっこいい男の子ばかり集まってるほうが異常でしょ。そうなってくるとやっぱり何を言っても通じない筋肉馬鹿がいたっていいじゃないですか。敵側も苦労しながら日常を送っている。みんな物わかりのいいキャラクターばかりで結果だけ夢想していたら現実のちょっとした面倒くさいことを避けるようになってしまいますよね。

とにかく、バラバラのほうが自然な気がするんですよね。本来みんなバラバラ。なぎさとほのかだって、あなたと私は違うっていうのがスタートになってるので。最後まで違うところは違うじゃないですか。

稲上　作るときに苦労したキャラクターもあれば、（莉奈・志穂のように）これすごくいいからと即決まったキャラクターもありますね。

西尾　（『Max Heart』のときの）サーキュラスも早かったよね。サーキュラスにはモデルがいて、同僚の演出家。まさにああいう見た目なんです。

稲上　いやいや、結構悩みましたよ（笑）。●●ちゃんだよって急に言い出したから、写真見ながら修整したんですよ。顔はちょっと違いますけど。

西尾　そっくりですよ。金髪でしょ、本人も。

鷲尾　ご本人の許諾はとってるんですか。

西尾　とってない。言わないことにしてる（笑）。サーキュラスも、予告に名前が出るぞっていう段階になってもまだ決まってなくて。そばに川崎さんもいなかったし、アフレコやってる最中で、鷲尾くんと話し合って。かっこよくてもちょっと悪役っぽい、かつあまり聞いたことのない名前を考えたときに、その演出家の下の名前が漢字2つとも輪とか球を連想させるものだったので、鷲尾くんが「サークル……サーキュラスってどうですか?」と。それだ! ということになりました。

鷲尾　綱渡りでしたよ、毎日。

●「プリキュア」のネーミング

稲上　『ふたりはプリキュア』というタイトルが決まったのはかなり後のほうで、最初のコンペのときは「ブラックハート（仮）」と書かれていました。その後「スイートバディ」とか、「ビター&スイート」とか。いろいろ二転三転して……決まったのはいつでしたっけ?

鷲尾　相当後ですよ。

稲上　〝プリキュア〟という名称もありませんでしたよね。

鷲尾　ネーミングの候補は100じゃすまなかったですね。これでいこうと思ったら商標登録できなくて使えなかったものもあります。最初、黒と白だから〝マーブル〟という言葉を入れたいと話していたんですが入れることができなくて、最終的には造語でいこうということになって。それでいくつか候補にあがった単語を組み合わせて、「かわいい」と「癒やす」の〝プリティ〟と〝キュア〟をくっつけてみたんです。当初は誰もピンと来てなかったんですよ。社の会議でタイトルを提示しても「プリキュラ」と言い違いをされたりして。そんなことを西尾さんにこぼした

ら、すぐアニメの中でも使われてしまいましたが（笑）。

西尾　ポルンと長老の口癖（プリキュアのことをプリキュラと言い違える）でね。でも、そうしたネーミングの遊びは川崎さんからの影響が強いですよ。敵のキャラの名前を決めるときなども川崎さんがたくさん候補をあげてくれて、このなかのどれにしようかとみんなで話し合いながら決めていったんですが、とにかくネーミングのセンスが卓越してるんです。

　タイトルですが、決まるまで何週間もかけてみんなで候補を書き出していたなかで、〝プリティ〟も〝キュア〟という言葉を使った案もいくつかあがっていたはずなんですよ。でもそれぞれ単独で使っていて、ふと組み合わせようと意図せずにくっつけてみたら、イケるんじゃないかということになって、「プリティキュア」なら「プリキュア」でしょうという感じで決まっていったんです。

——言葉の組み合わせで決めていったんですね。

西尾　ジャアクキングだって、みんなで何週間も考えてなかなか出てこなくて。いろんなパターンがありましたよね。

川崎　僕があげたネーミングで西尾さんがすごく気に入ったんだけど、他の漫画であるからNGになったものがありませんでした？

鷲尾　ムカツキングじゃなくて……ダークリンガはダメになったんですよ。

西尾　ダークリンガはダメだったね。ダークだったり邪悪だったりいろんなものを掛け合わせたんだけど、結局どれもどこかにひっかかって。リンガってインドで要するに男性のシンボルを表す言葉なんで。語呂はよかったんだけど。

　ある女性のプロデューサーさんは「ゲロマミーレってどう？」なんて言ってました（笑）。

●キャラクターが立つシナリオとは

——タイトルやキャラクター、設定が固まっていくなかで各話の内容も詰めていったわけですね。

西尾　シリーズ構成として川崎さんに1年間通してのプロットを作っていただいたんですが、詳細なストーリーは決まっていなかったので、1クールまでにはコレをやる、2クールまでにコレやるというように、手探りのような作業だったと思います。

　でもファンタジー重視ではなく、学園ものというのが基本でしたから、部活の友達との人間関係だったり、間抜けな教頭先生やのほほんとした校長先生の心地よさだったり、そうした部分を毎回しっかり描いていただいたので、僕も毎回楽しみにしてました。

川崎　毎話、毎話が勉強になりましたね。全体の世界観は、光と闇の関係は正義と悪という単純な構図ではないですよね。その関係を構築していくストーリーは僕なんかにはとても考えられないと思うんです。西尾さんが提示してくれた確固たる地盤がありましたから、僕のほうは自由に遊べるというか、多少逸脱したり突拍子のないプロットでもどうにでもなると思ったんです。

鷲尾　川崎さんの発想ってストーリー先行ではなくてキャラクター先行なんですよ。キャラクターの行動、シチュエーションからストーリーを作っていくんです。そうした考え方が実は西尾さんの発想法との相性がよかったんだと思ってます。

　打ち合わせのとき、西尾さんがストーリーの着想として映画の話をすることがあったんですが、川崎さんはその話にも耳を傾け、西尾さんの意図をくみ取ってくださって、それが作品に結実しているんです。

西尾　川崎さんのプロットに触発されたのは、日常生活のなかにいるキャラクターのセリフや振る舞い方が自然に描かれていたところです。楽しさが満ちあふれているんですよ。

鷲尾　川崎さんはバラエティ番組の雰囲気を意識されていたのではないですか？

川崎　女児アニメみたいなものはそれまでやったことがなかったですし、女の子がどういう話で喜ぶのか、想像はできますけど実際どうかはわかりませんでした。僕はどちらかというとドリフとか欽ちゃんのコント出身なので、多くの人が楽しく笑って、おもしろいなと思ってもらうものしか書けないんですよ。特に女の子だからこう、ということは考えずに、自分がおもしろいと思う話を書こうとしたまでです。

鷲尾　校長先生と教頭先生の掛け合いのシーンを随所に入れてましたよね。

川崎　ああいうやりとりが好きなんですよ。

鷲尾　すべての事情を知りながらとぼける校長先生と、それにおもねる教頭という、コントになってるんですよね。

川崎　大筋にはあまり関係ないですよね。ただそういうことがお話のスパイスとしてはすごく大事で、そういうことの積み重ねでキャラも立っていくとは思っていましたけど。

鷲尾　こういうときこれ絶対言うよねっていう。それはキャラクター造形という部分で重要なところだと思います。

西尾　そういうスパイスは、ストーリーの大筋にはあまり関係ないとおっしゃいましたけど、浮くことなくストーリーになじませて作品全体のテイストときちんと融合してるんです。たとえば物忘れがはげしい長老のボケに突っ込むところでも、真に受けるんではなく、まわりのキャラクターが自然に突っ込むことでそれぞれのキャラクターが立ってくる。

稲上　シナリオで日常がしっかり描けているから、アクションや見せ場が生きてくるんだと思います。日常会話のテンポとか空気感が伝わってくるので、それをうまく画にできたときの喜びもありますし、自分がデザインしたキャラクターを物語のなかでどう動かしていくのか、成長させていくのかというところは演出やスタッフの努力も大きいですが、シナリオの影響は多大ですね。

川崎　僕も最初に稲上さんの画を見たとき、イメージ通りですごいなと思いましたよ。ベローネ学院の仲間や、敵側のキャラクターデザインもあがってくるたびに、稲上さんの世界に触発されてイメージがわいてきて筆が進みました。

　ゴメンナーの画もかわいくて驚きましたが、もともとの発想は鷲尾さんじゃなかったですか？

鷲尾　どうだったかな。覚えてないですね。

川崎　僕が衝撃的だったのは、戦って敵をやっつけるじゃないですか。まぁ死ぬわけですよね。でも血を吐いて死ぬわけにもいかないから、よくあるのはバーンッと爆発して消えてなくなるという描写。でも、ザケンナーの場合は、消えてなくならないで、改心して今やったことを反省して小さくなって去っていきますよね。殺すことなく、最後はキョトンとして解決するという発想は西尾さんからだったと思うんですが、散らばって去っていくときに「ゴメンナ、ゴメンナ」って言いながら散っていくというのは鷲尾さんのアイデアですよ。ザケンナーは僕のネーミングですが、ゴメンナーは鷲尾さん。あれはすごい発想だなと思いました。戦いの終わり方がさわやかですし、コミカルでいやな気持ちがしない。素晴らしいですよね。

鷲尾　私が言ったかもしれませんが、大もとのネタは西尾さんですよ。一番最初に大泉スタジオで、この企画をお願いできませんかとお話ししたときに西尾さんが、「でも女児ものはやったことないし」と言われたので、私もやったことないですが、いいからやりましょうと説き伏せて。そうしたら西尾さんが「じゃあ、うまくいかなかったらごめんなさいって謝ればいいよね」って言ったんですよ。

川崎　それがゴメンナーに（笑）。

鷲尾　この人は謝ってから逃げるんだと思って、すごく感心した記憶があるんです（笑）。

西尾　そう。何も言わずに逃げるんじゃなくて謝って逃げる。なんなら逃げながら謝る（笑）。

稲上　ゴメンナーのキャラクターのイメージとしては金平糖みたいなものを考えてました。小さくてかわいいのがいっぱい逃げていくみたいな。そこからああいうデザインになりましたが、とてもうまくフィットしたと思います。

川崎　ああいう描写は今までなかったものですよ。

●それぞれにとっての『プリキュア』とは

——『ふたりはプリキュア』という作品は振り返られてご自身でどのような位置づけをされていますか。

川崎　鷲尾さんが数多いる作家さんのなかで、アニメの経験が少ない僕に声をかけてくれたのが不思議でいまだによくわからないですけど、おかげで経験のできないことをたっぷりさせていただけたので、もう感謝しかありません。

稲上　『ふたりはプリキュア』以降、プリキュアシリーズに20年近く関わらせてもらってるのでホームグラウンドみたいなところがあって、なんというか、運命的で自分にとってとても大切な場所です。そこからずっと一緒にがんばっているスタッフもいるから、もうある意味「同志」みたいな感じなんでしょうね。

西尾　鷲尾くんが当時、この企画を持ってきたときに僕も悩みましたけど、鷲尾くんも追い詰められていた感じがしてて、似たような悩みを抱えてると感じて連帯感が生まれたんですかね。

とにかく、(『Ｍａｘ Ｈｅａｒｔ』も含めて) 2年間、僕だけじゃなくて、みんな満身創痍で自分たちが作った初めてのシリーズに取り組んでいました。やれることはすべて出し切ったし、直したいところやり残したことも山ほどある。後悔を言ったらキリがないですが、精神的、体力的にはやりきった感があります。終わった後は燃えかすになりました (笑)。

鷲尾　自分が担当した作品が世間的にうまく受け入れられていなかったので、『プリキュア』の企画もダメ元で出したものだったんです。その企画が通って、西尾さんにご参加いただけて、西尾さんには救ってもらったという感謝の気持ちしかないですね。

『プリキュア』も開始してからさまざまな難題が山積みで、スタッフルームで愚痴を言ったりしてたんですけど、西尾さんが「いろんな問題に真っ向からぶつかると傷ついたり折れたりするから、無理しすぎないほうがいい。でも、そういう意識を常に持って、考え続けることはやめないほうがいいよ」と言ってくれたのを今でも覚えています。

西尾さんは、「神の手」で作品を作る人じゃないんですよ。作品世界の箱庭を作って俯瞰で眺めながらキャラクターを配置して芝居させる人ではない。「キャラクターたちの隣に住んでるおじさん」なんですよ。キャラクターたちと一緒に行動していて、「みんな大変だね」って言ってる人。だからキャラクターたちが活き活きしてるんです。でもそれは年がら年中キャラクターたちの隣に住んでいないとできない。神様だったら途中でちょっと手を止めて休むこともできますけど、そうじゃない。しんどい作業だと思いますが、それができる人じゃないとたぶん、生まれなかった作品です。それをやった人が目の前にいるってあらためて実感しています。

『プリキュア』のなかで好きなセリフに「なるべくがんばる」という言葉があります。42話でのなぎさのセリフなんですが、ものすごく好きなんです。折れるほどがんばる必要はない、だけど自分のなかできちんと考えることはやめないんだという意味で、そういうことをずっと西尾さんに教わりながら一緒にお仕事できて光栄でした。

――新たな『プリキュア』を手がけるとしたら？

西尾　あまり考えたことなかったですね。もしやるとしたら、今やれることをこれから探さないといけないんじゃないですかね。漠然と言うと、このシリーズをやる最初のときに悩んだのと一緒です。風潮に抗って僕らがオーソドックスと思えるものはいったい何だろう、みたいなことを考えるんじゃないでしょうか。ただ、あの2年間で出し切っちゃったからね。ホント僕、完全に抜け殻のようになっちゃって。その後、たいして仕事してないんですよね (笑)。とにかく体力も精神も含めて全部出し切っちゃったかなという気がしたので。限界は限界でした。

でも、もしそういう (続編の) 課題があれば、またみんなで知恵を出し合いながらやることになるでしょう。これぱっかりは要請があったからといってすぐできるというわけでもないし。そのときそのときの情勢といろんなことが加味されながら変わっていくんだと思います。でも僕にとっては誰がなんと言おうと「僕たちのプリキュア」なんで、僕が燃えかすになったからといってこの作品は忘れられないです (笑)。

●それぞれの方へ向けて、各人からのメッセージ

川崎→稲上

稲上さんの画を見たとき、イメージ通りでとにかくすごいなと思いました。ふたりのキャラクターの描き分けも的確でわかりやすいですし、まさに、これだよねっていうものがあがってきたので。稲上さんの世界に僕も触発されました。

川崎→西尾

とにかく西尾さんには勉強させていただきました。全体の世界観の作り方もそうですが、西尾さんの作品に対するいろんな思いが内容に込められていて、酒を飲みながらの打ち合わせから、よくぞあそこまで考えられたなと思います。

川崎→鷲尾

数いる作家のなかでアニメ畑ではない僕に話を持ってきてくれたことです。僕も鷲尾さんもそれまでのアニメと違ったものを目指そうという思いがあったんでしょう。鷲尾さんのおかげで、経験できないことをたっぷりさせていただけたので、もう感謝の言葉しかありません。

稲上→川崎

川崎さんからいただいたプロットを読ませていただいて、そこからインスピレーションを感じて画にしていくことが度々ありました。どう芝居をさせるか考えながら作画して、その積み重ねからキャラクター自体が成長していくものです。そのことを強く感じられたので僕も描いていて楽しかったし、とてもありがたかったです。

稲上→西尾

西尾さんからは、いいものはいい、違うものは違うとはっきり言っていただけたのでそこはありがたかったですね。西尾さんとの仕事で習慣になったのが、細かい小道具にしてもきちんと調べて描くということです。それは後に携わったキャラクターデザインの仕事に生かせています。いろいろな監督さんとお仕事させていただいていますが、西尾さんほどの方はなかなかめぐり会えない稀有な存在だと思います。

稲上→鷲尾

鷲尾さんとは、『プリキュア』のコンペのときに声をかけてもらったのが正式な初対面だったと思います。当初はそれまで手がけてきた仕事とは少し異なるタイプのチャレンジングな作品だったので結構不安もあったんですが、今思えば自分の知らないところでもいろいろな調整やサポートしてもらったと思います。結果的に人生を変えるような作品に出会う機会を与えてもらったのと、今でも続くこのご縁に感謝しています。

西尾→川崎

川崎さんのワードセンスはホントに勉強になりました。日常芝居の部分では特に助かりましたね。効いたセリフやネーミングに実在感、存在感があって、ユーモアもある。そういうセンスは川崎さんから学びました。尊敬できる、魅力溢れる方です。

西尾→稲上

画を描く上でいろんな資料を調べたり、写真を持ち寄ったりしていろいろと協議したのが一番の思い出です。それにちゃんと向き合ってくれたから、『プリキュア』が成立したんだと思います。

西尾→鷲尾

鷲尾くんも当時、追い詰められていた感じがしていて、自分と似たような悩みを抱えているように思いましたし、どちらからともなく連帯感が生まれた感じがします。作品に対する問題意識にも共感しましたから、知らず知らずの間に一緒にやってみようかなという関係でした。

鷲尾→川崎

川崎さんにお声がけした理由としては、それまでと違うことをやりたかったというのが一番大きかったですね。キャラクターから発想していく川崎さんの作劇法は見事でしたし、西尾さん、稲上さんとすごくいい形で結びついて作品に結実したことに感謝しています。

鷲尾→稲上

当時、私はアニメーターさんを全然知らなくて、オーディションでもどうしようかと悩んでいたときに稲上さんの画を見て、「あ、この顔だ」って思ったんですよ。その後、度重なる困難に稲上さんを巻き込むとは思ってもみなかったので、陰ではごめんなさいと謝りつつ、結果的にいろいろ押し付けてしまって恐縮する思いでいっぱいです。

鷲尾→西尾

西尾さんには『金田一少年の事件簿』でお世話になって、『プリキュア』では私が是非にとお願いしたわけですが、私としてはさまざまな意味で救っていただいた気持ちがとても強いですね。番組が始まってからも大変なことがいろいろありましたが、節目節目に助言をいただいて完走することができました。一緒にお仕事ができて光栄でしたし、感謝しています。

メインスタッフ

プロデューサー／西澤　萌黄（ABC）（1～12話）
土肥繁葉樹（ABC）（13話～）
高橋　知子（ADK）
鷲尾　天
原　作／東堂いづみ
シリーズ構成／川崎　良
音　楽／佐藤　直紀
製作担当／坂井　和男
美術デザイン／行　信三
色彩設計／沢田　豊二
キャラクターデザイン／稲上　晃
シリーズディレクター／西尾　大介
制作協力／東映
制　作／ABC
ADK
東映アニメーション

第1話　私たちが変身!?　ありえない！

脚　本／川崎　良
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
美墨理恵／荘　真由美
美墨亮太／高橋　直純
宮下先生／金光　宣明
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
ユリコ／鎌田　梢
ピーサード／高橋　広樹
ザケンナー／上別府仁資
雪城さなえ／野沢　雅子
協力　東映アカデミー
原　画／松田　千織
星川 信芳
畑　良子
青山　充
東　美帆
山内　大輔
野田　春彦
宮本　絵美子
上田　明美
小川　珠美
松本　昌子
冨田与四一
安田　京子
近藤　史門
篁　馨
八島　善孝
伊藤　尚往
加野　晃
宮川智恵子
山田　起生
飯島　秀一
馬越　嘉彦
生田目康裕
小島　彰
佐藤　雅将
藤井　孝博
野澤　隆
動　画／TAP
かぐら
ハヤシ株式会社
M.S.J.武蔵野制作所
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
明石　貞一
神山　裕美
デジタル彩色／TAP
かぐら
ハヤシ株式会社
M.S.J.武蔵野制作所
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
麓　雅一
森田　崇裕
勝田　泰光
根岸　雅人
篠原　隆浩
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／木村　延景
製作進行／柳　義明
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
塩崎　広光
作画監督／爲我井克美
演　出／伊藤　尚往

第2話　カンベンして！　闇に狙われた街

脚　本／川崎　良
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
美墨亮太／高橋　直純
よし美先生／永野　愛
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
藤村省吾／岸尾　大輔
木俣／加藤木賢志
女生徒／西野　陽子
ジャアクキング／小野　健一
ピーサード／高橋　広樹
ザケンナー／上別府仁資
オムプ／桜井　敏治
雪城さなえ／野沢　雅子
協力　東映アカデミー
原　画／高橋　任治
野田　春彦
佐藤　元
宮下　雄次
及川あずさ
矢ヶ崎美恵
川口準之祐
芝崎　素子
北田美弥子
東　美帆
永澤　謙一
ポール・アンニョヌエボ
フランシス・カネダ
アルビン・エスパレス
レジー・マナバット
レム・バレンシア
動　画／TAP
ハヤシ株式会社
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
デジタル彩色／TAP
ハヤシ株式会社
色指定／衣笠　一雄
デジタル撮影／東映ラボ・テック
森田　崇裕
麓　雅一
重野　幸紀
花岡　聖
馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／宮元　宏彰
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
下川　忠海
作画監督／高橋　任治
演　出／山吉　康夫

第3話　イケてる実習生に気をつけろ！

脚　本／川崎　良
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
校長先生／塩屋　浩三
教頭先生／西村　朋紘
よし美先生／永野　愛
宮下先生／金光　宣明
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
藤村省吾／岸尾　大輔
木俣／加藤木賢志
ジャアクキング／小野　健一
ピーサード／高橋　広樹
ザケンナー／上別府仁資
雪城さなえ／野沢　雅子
協力　東映アカデミー
原　画／川村　敏江
星川　信芳
青山　充
野田　春彦
松田　千織
山内　大輔
北田美弥子
永澤　謙一
ポール・アンニョヌエボ
アルビン・エスパレス
フランシス・カネダ
レジー・マナバット
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
山本　修司
麓　雅一
森田　崇裕
山岸　理絵
清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／柳　義明
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
いでともこ
作画監督／川村　敏江
演　出／岩井　隆央

第4話 ミラクル!? 生きている美術館

脚　本／清水　東
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
校長先生／塩屋　浩三
教頭先生／西村　朋紘
よし美先生／永野　愛
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
柏田真由／渡辺　明乃
女生徒／木川絵理子
西野　陽子
イルクーボ／二又　一成
ピーサード／高橋　広樹
ポイズニー／雨蘭咲木子
キリヤ／木内レイコ
ザケンナー／上別府仁資
ジャアクキング／小野　健一
協力　東映アカデミー
原　画／生田目康裕
小島　彰
佐野　陽子
群司　智一
平林佐和子
浜野　裕一
伊本　龍守
畑　良子
及川あずさ
芝崎　素子
矢ヶ崎美恵
宮本絵美子
動　画／TAP
ハヤシ株式会社
かぐら
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
デジタル彩色／TAP
ハヤシ株式会社
かぐら
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
麓　雅一
森田　崇裕
勝田　泰光
根岸　雅人
篠原　隆浩
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／木村　延景
製作進行／岡本　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
塩崎　広光
作画監督／生田目康裕
演　出／矢部　秋則

第5話 マジヤバ！ 捨て身のピーサード

脚　本／羽原　大介
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
藤村省吾／岸尾　大輔
藤田アカネ／藤田美歌子
少年／飯田　利信
天田　真人
オムプ／桜井　敏治
ジャアクキング／小野　健一
ピーサード／高橋　広樹
ゲキドラーゴ／石井　康嗣
ポイズニー／雨蘭咲木子
キリヤ／木内レイコ
イルクーボ／二又　一成
雪城さなえ／野沢　雅子
協力　東映アカデミー
原　画／河野　宏之
藤井　孝博
永島　英樹
フランシス・カネダ
アルビン・エスパレス
ポール・アンニョヌエボ
レジー・マナバット
レム・バレンシア
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
鈴木　慶太
佐々木友子
山田美奈子
デジタル彩色／TAP
色指定／衣笠　一雄
デジタル撮影／東映ラボ・テック
森田　崇裕
麓　雅一
重野　幸紀
花岡　聖
馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／宮元　宏彰
製作進行／柳　義明
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
下川　忠海
作画監督／河野　宏之
演　出／川田　武範

第6話 新たな闇！ 危険な森のクマさん

脚　本／川崎　良
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
美墨理恵／荘　真由美
美墨亮太／高橋　直純
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
石の番人／松野　太紀
子熊／坂本　千夏
イルクーボ／二又　一成
ゲキドラーゴ／石井　康嗣
ポイズニー／雨蘭咲木子
キリヤ／木内レイコ
ザケンナー／上別府仁資
ジャアクキング／小野　健一
協力　東映アカデミー
原　画／桑原　幹根
星川　信芳
黒柳　賢治
上田　明美
山田　リエ
飯飼　一幸
小川　珠美
浜田　勝
桑原　有紀
清水　佳子
藤田　和行
一居　一平
平田　卓也
磯部　智子
動　画／TAP
かぐら
ハヤシ株式会社
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
デジタル彩色／TAP
かぐら
ハヤシ株式会社
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
山本　修司
麓　雅一
森田　崇裕
山岸　理絵
清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／木村　延景
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
いでともこ
作画監督／桑原　幹根
演　出／小村　敏明

第7話 熱闘ラクロス！ 乙女心は超ビミョー！

脚　本／川崎　良
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
美墨亮太／高橋　直純
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
藤村省吾／岸尾　大輔
中川弓子／生天目仁美
ベローネの選手／中山りえ子
御高倶中の選手／吉本理江子
女生徒／桂　由利香
校長先生／塩屋　浩三
教頭先生／西村　朋紘
ゲキドラーゴ／石井　康嗣
ザケンナー／上別府仁資
ジャアクキング／小野　健一
協力　東映アカデミー
原　画／青山　充
野田　春彦
松田　千織
東　美帆
山内　大輔
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／アテネアートスタジオ
山口　昌恭
斉藤　信二
和田　道江
大谷　正信
デジタル彩色／TAP
色指定／沢田　豊二
デジタル撮影／東映ラボ・テック
麓　雅一
森田　崇裕
勝田　泰光
根岸　雅人
篠原　隆浩
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／柳　義明
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
杉浦正一郎
作画監督／青山　充
演　出／岡　佳広

第8話 プリキュア解散！ ぶっちゃけ早すぎ!?

脚　本／清水　東
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
美墨理恵／荘　真由美
美墨亮太／高橋　直純
よし美先生／永野　愛
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
藤村省吾／岸尾　大輔
木俣／加藤木賢志
ゲキドラーゴ／石井　康嗣
雪城さなえ／野沢　雅子
協力　東映アカデミー
原　画／爲我井克美
志田　直俊
美馬　健二
田中　伸昭
相馬　快安
奈良岡　光
松本　昌子
服部　益美
森　知鶴
動　画／TAP
かぐら
ハヤシ株式会社
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
デジタル彩色／TAP
かぐら
ハヤシ株式会社
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
森田　崇裕
麓　雅一
重野　幸紀
花岡　聖
馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／木村　延景
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
塩崎　広光
作画監督／爲我井克美
演　出／五十嵐卓哉

第9話 取り返せ！ メポメポ大作戦

脚　本／羽原　大介
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
美墨理恵／荘　真由美
美墨亮太／高橋　直純
教頭先生／西村　朋紘
宮下先生／金光　宣明
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
藤田アカネ／藤田美歌子
パルプ／浅野　るり
イルクーボ／二又　一成
ゲキドラーゴ／石井　康嗣
ザケンナー／上別府仁資
ジャアクキング／小野　健一
協力　東映アカデミー
原　画／川村　敏江
畑　良子
宮本絵美子
小川　珠美
レム・バレンシア
ポール・アンニョヌエボ
アルビン・エスパレス
フランシス・カネダ
レジー・マナバット
ビクター・バラノン
アルフレッド・レイエス
ジョセフ・オレスコ
デビッド・カスティリオ
ノエル・アンニョヌエボ
マニックス・フランシスコ
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／衣笠　一雄
デジタル撮影／東映ラボ・テック
山本　修司
麓　雅一
森田　崇裕
山岸　理絵
清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／宮元　宏彰
製作進行／柳　義明
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
下川　忠海
作画監督／川村　敏江
演　出／山吉　康夫

第10話 ほのか炸裂！ 素敵な誕生日

脚　本／成田　良美
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
美墨理恵／荘　真由美
美墨亮太／高橋　直純
雪城太郎／宮下タケル
雪城文／伊藤　美紀
ゲキドラーゴ／石井　康嗣
強盗／園部　啓一
永野　善一
石川　和之
女性レポーター／西野　陽子
警部／渡辺　英雄
雪城さなえ／野沢　雅子
協力　東映アカデミー
原　画／高橋　任治
星川　信芳
佐藤　元
南町　友幸
松本　昌子
北田美弥子
及川あずさ
矢ヶ崎美恵
芝崎　素子
増田　信博
永澤　謙一
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／マジックハウス
清水まこと
寺尾　剛
河野百合香
常盤　庄司
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
麓　雅一
森田　崇裕
勝田　泰光
根岸　雅人
篠原　隆浩
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／吉田　智子
作画監督／高橋　任治
演　出／岩井　隆央

第11話 亮太を救え！ ゲキドラーゴ・パニック

脚　本／清水　東
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
美墨岳／子安　武人
美墨理恵／荘　真由美
美墨亮太／高橋　直純
石の番人／松野　太紀
イルクーボ／二又　一成
ゲキドラーゴ／石井　康嗣
ポイズニー／雨蘭咲木子
キリヤ／木内レイコ
ザケンナー／上別府仁資
ジャアクキング／小野　健一
協力　東映アカデミー
原　画／佐々門信芳
松田　千織
野田　春彦
冨田与四一
山内　大輔
上田　明美
袴田　裕二
清水　智子
長谷川一生
山崎　浩平
動　画／TAP
ピーコック
かぐら
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
ピーコック
かぐら
色指定／沢田　豊二
デジタル撮影／東映ラボ・テック
森田　崇裕
麓　雅一
重野　幸紀
花岡　聖
馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／木村　延景
製作進行／柳　義明
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
いでともこ
作画監督／飯島　秀一
演　出／川田　武範

第14話　ウソホント!?　にせプリキュア大暴れ

脚　本／羽原　大介
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
夏子／小清水亜美
京子／名塚　佳織
藤田アカネ／藤田美歌子
男の子／菊池　心
オムプ／桜井　敏治
イルクーボ／二又　一成
ポイズニー／雨蘭咲木子
キリヤ／木内レイコ
ザケンナー／上別府仁資
ジャアクキング／小野　健一
協力　東映アカデミー
原　画／青山　充
動　画／TAP
ピーコック
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
山口　昌恭
斉藤　信二
和田　道江
大谷　正信
デジタル彩色／TAP
ピーコック
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
森田　崇裕
麓　雅一
花岡　聖
馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
塩崎　広光
作画監督／青山　充
演　出／吉沢　孝男

第12話　悪の華・ポイズニー参上！って誰？

脚　本／川崎　良
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
イルクーボ／二又　一成
ポイズニー／雨蘭咲木子
キリヤ／木内レイコ
ザケンナー／上別府仁資
ジャアクキング／小野　健一
雪城さなえ／野沢　雅子
協力　東映アカデミー
原　画／生田目康裕
小島　彰
佐野　陽子
郡司　智一
浜野　裕一
安徳　紘生
平林佐和子
佐藤　道雄
佐藤　憲亮
根岸　良充
廣中　美佳
松田紀代美
桑原　幹根
松本　昌子
宮本絵美子
稲上　晃
動　画／TAP
ピーコック
M. S. J.武蔵野制作所
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
ピーコック
M. S. J.
武蔵野制作所
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
山本　修司
麓　雅一
森田　崇裕
山岸　理絵
清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／宮元　宏彰
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
下川　忠海
作画監督／生田目康裕
演　出／矢部　秋則

第15話　メッチャ危ない家族旅行

脚　本／清水　東
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
美墨岳／子安　武人
美墨理恵／荘　真由美
美墨亮太／高橋　直純
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
オムプ／桜井　敏治
ポイズニー／雨蘭咲木子
ザケンナー／上別府仁資
滝　知史
おばさん／中澤やよい
老主人／西川　幾雄
雪城さなえ／野沢　雅子
協力　東映アカデミー
原　画／東　美帆
美馬　健二
田中　伸昭
奈良岡　光
相馬　快安
佐藤　元
桑原　幹根
志田　直俊
永澤　謙一
上田　明美
宮本絵美子
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
山本　修司
麓　雅一
森田　崇裕
山岸　理絵
清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／宮元　宏彰
製作進行／柳　義明
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
いでともこ
作画監督／東　美帆
演　出／上田　芳裕

第13話　ご用心！　年下の転校生

脚　本／成田　良美
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
藤村省吾／岸尾　大輔
木俣／加藤木賢志
ユリコ／鎌田　梢
夏子／小清水亜美
京子／名塚　佳織
ポイズニー／雨蘭咲木子
キリヤ／木内レイコ
ザケンナー／上別府仁資
科学部員／埴岡由紀子
菊池　心
サッカー部員／飯田　利信
安澄　純
女生徒／西野　陽子
協力　東映アカデミー
原　画／河野　宏之
永島　英樹
藤井　孝博
小川　珠美
北田美弥子
動　画／TAP
ピーコック
M. S. J.武蔵野制作所
美術補佐／小菅　三佳
背　景／アテネアートスタジオ
山口　昌恭
斉藤　信二
和田　道江
大谷　正信
デジタル彩色／TAP
ピーコック
M. S. J.武蔵野制作所
色指定／衣笠　一雄
デジタル撮影／東映ラボ・テック
麓　雅一
森田　崇裕
勝田　泰光
山岸　理絵
清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／木村　延景
製作進行／柳　義明
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／杉浦正一郎
作画監督／河野　宏之
演　出／小村　敏明

第16話　ストレス全開！　マドンナはつらいよ

脚　本／影山　由美
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
よし美先生／永野　愛
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
女生徒／木川絵理子
西野　陽子
小田島友華／飯塚　雅弓
イルクーボ／二又　一成
ポイズニー／雨蘭咲木子
キリヤ／木内レイコ
ザケンナー／上別府仁資
ジャアクキング／小野　健一
協力　東映アカデミー
原　画／川村　敏江
松田　千織
野田　春彦
松本　昌子
山内　大輔
フランシス・カネダ
ボール・アンニョヌエボ
アルビン・エスパレス
レム・バレンシア
レジー・マナバット
アルフレッド・レイエス
ジョセフ・オレスコ
デビッド・カスティリオ
ノエル・アンニョヌエボ
ビクター・バラノン
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
麓　雅一
森田　崇裕
勝田　泰光
根岸　雅人
篠原　隆浩
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／木村　延景
製作進行／坂井　和男
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
下川　忠海
作画監督／川村　敏江
演　出／山吉　康夫

第17話　ハートをゲット！　トキメキ農作業

脚　本／成田　良美
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
美墨亮太／高橋　直純
藤村省吾／岸尾　大輔
木俣／加藤木賢志
木俣の祖父／徳丸　完
木俣の祖母／巴　菁子
ポイズニー／雨蘭咲木子
キリヤ／木内レイコ
ザケンナー／上別府仁資
協力　東映アカデミー
原　画／爲我井克美
星川　信芳
畑　良子
小川　珠美
北田美弥子
山岡　直子
及川あずさ
芝崎　素子
矢ヶ崎美恵
長谷川一生
清水　佳子
山崎　浩平
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／衣笠　一雄
デジタル撮影／東映ラボ・テック
森田　崇裕
麓　雅一
花岡　聖
馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
塩崎　広光
作画監督／爲我井克美
演　出／岩井　隆央

第18話　ドキドキ！　中間テストは恋の迷宮

脚　本／川崎　良
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
よし美先生／永野　愛
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
藤村省吾／岸尾　大輔
木俣／加藤木賢志
サッカー部員／飯田　利信
安澄　純
谷口聖子／吉田小南美
イルクーボ／二又　一成
ポイズニー／雨蘭咲木子
キリヤ／木内レイコ
ジャアクキング／小野　健一
協力　東映アカデミー
原　画／高橋　任治
星川　信芳
野田　春彦
冨田与四一
山田　起生
松田　千織
黒柳　賢治
郡司　智一
松田紀代美
佐藤　憲亮
根岸　良充
廣中　美佳
宮本絵美子
動　画／TAP
かぐら
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
かぐら
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
山本　修司
麓　雅一
森田　崇裕
山岸　理絵
清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／宮元　宏彰
製作進行／柳　義明
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
いでともこ
作画監督／高橋　任治
演　出／川田　武範
座古　明史

第19話　こわすぎ！　ドツクゾーン最後の切り札

脚　本／清水　東
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
オムプ／桜井　敏治
イルクーボ／二又　一成
ポイズニー／雨蘭咲木子
キリヤ／木内レイコ
ジャアクキング／小野　健一
協力　東映アカデミー
原　画／上田　明美
永澤　謙一
山内　大輔
松本　昌子
服部　益美
ボール・アンニョヌエボ
アルビン・エスパレス
フランシス・カネダ
レム・バレンシア
レジー・マナバット
ノエル・アンニョヌエボ
アルフレッド・レイエス
ビクター・バラノン
デビッド・カスティリオ
ジョセフ・オレスコ
動　画／TAP
ピーコック
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
ピーコック
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
麓　雅一
森田　崇裕
勝田　泰光
根岸　雅人
篠原　隆浩
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／巴　菁子
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／木村　延景
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
下川　忠海
作画監督／飯島　秀一
演　出／矢部　秋則

第20話 どっちが本物？ ふたりのほのか

脚本／羽原 大介
声の出演
美墨なぎさ／本名 陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関 智一
ミップル／矢島 晶子
藤田アカネ／藤田美歌子
ユリコ／鎌田 梢
科学部員／菊池 心
埴岡由紀子
仙台 エリ
イルクーボ／二又 一成
ポイズニー／雨蘭咲木子
キリヤ／木内レイコ
ジャアクキング／小野 健一
協力 東映アカデミー
原画／青山 充
宮本絵美子
小川 珠美
山岡 直子
佐藤 憲亮
袴田 裕二
東 美帆
廣中 美佳
松田紀代美
根岸 良充
動画／TAP
美術補佐／小菅 三佳
背景／TAP
井芹 達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷 和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
森田 崇裕
麓 雅一
花岡 聖
馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編集／麻生 芳弘
録音／渡辺絵里奈
音響効果／石野 貴久
選曲／水野さやか
記録／沢井 尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／鈴木 裕介
製作進行／武田 雄樹
美術進行／北山 礼子
仕上進行／黒田 進
演技事務／小浜 匠
美術／行 信三
いでともこ
作画監督／青山 充
演出／小村 敏明

第21話 衝撃デート！ キリヤの真実

脚本／川崎 良
声の出演
美墨なぎさ／本名 陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関 智一
ミップル／矢島 晶子
美墨亮太／高橋 直純
ユリコ／鎌田 梢
石の番人／松野 太紀
イルクーボ／二又 一成
キリヤ／木内レイコ
ジャアクキング／小野 健一
雪城さなえ／野沢 雅子
協力 東映アカデミー
原画／河野 宏之
永島 英樹
藤井 孝博
動画／TAP
美術補佐／小菅 三佳
背景／TAP
井芹 達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／衣笠 一雄
デジタル撮影／東映ラボ・テック
山本 修司
麓 雅一
森田 崇裕
山岸 理絵
清水 達雄
CG製作／川崎健太郎
編集／麻生 芳弘
録音／川崎 公敬
音響効果／石野 貴久
選曲／水野さやか
記録／沢井 尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／宮元 宏彰
製作進行／岡村 利和
美術進行／北山 礼子
仕上進行／黒田 進
演技事務／小浜 匠
美術／行 信三
下川 忠海
作画監督／河野 宏之
演出／上田 芳裕

第22話 ウッソー！ 忠太郎がママになる!?

脚本／影山 由美
声の出演
美墨なぎさ／本名 陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関 智一
ミップル／矢島 晶子
忠太郎／置鮎龍太郎
モコ／くまいもとこ
アキオ／菊池 心
男の子／生駒 治美
石の番人／松野 太紀
イルクーボ／二又 一成
ザケンナー／上別府仁資
雪城さなえ／野沢 雅子
協力 東映アカデミー
原画／東 美帆
青山 充
山内 大輔
松田 千織
及川あずさ
芝崎 素子
ポール・アンニョヌエボ
フランシス・カネダ
アルビン・エスパレス
レジー・マナバット
レム・バレンシア
アルフレッド・レイエス
ビクター・バラノン
ジョセフ・オレスコ
デビッド・カスティリオ
ノエル・アンニョヌエボ
動画／TAP
美術補佐／小菅 三佳
背景／TAP
井芹 達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷 和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
麓 雅一
森田 崇裕
勝田 泰光
根岸 雅人
篠原 隆浩
CG製作／川崎健太郎
編集／麻生 芳弘
録音／渡辺絵里奈
音響効果／石野 貴久
選曲／水野さやか
記録／沢井 尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／鈴木 裕介
製作進行／増田雄一郎
美術進行／北山 礼子
仕上進行／黒田 進
演技事務／小浜 匠
美術／行 信三
いでともこ
作画監督／東 美帆
演出／山吉 康夫

第23話 危うし！ 夏合宿の悪夢

脚本／羽原 大介
声の出演
美墨なぎさ／本名 陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関 智一
ミップル／矢島 晶子
校長先生／塩屋 浩三
教頭先生／西村 朋紘
莉奈／徳光 由禾
志穂／仙台 エリ
中川弓子／生天目仁美
ユリコ／鎌田 梢
藤田アカネ／藤田美歌子
石の番人／松野 太紀
イルクーボ／二又 一成
ジャアクキング／小野 健一
協力 東映アカデミー
原画／川村 敏江
小川 珠美
野田 春彦
冨田与四一
山岡 直子
上田 明美
美馬 健二
奈良岡 光
山本 航
大谷 猛
上原 博之
相馬 快安
田中 伸昭
動画／TAP
美術補佐／小菅 三佳
背景／TAP
井芹 達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷 和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
森田 崇裕
麓 雅一
花岡 聖
馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編集／麻生 芳弘
録音／川崎 公敬
音響効果／石野 貴久
選曲／水野さやか
記録／沢井 尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／宮元 宏彰
製作進行／岡村 利和
美術進行／北山 礼子
仕上進行／黒田 進
演技事務／小浜 匠
美術／行 信三
井芹 達朗
作画監督／川村 敏江
演出／岩井 隆央

第26話　さよならメップルミップル!?　やだー！

脚　本／成田　良美
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
美墨理恵／荘　真由美
美墨亮太／高橋　直純
子供／松本　美和
石の番人／松野　太紀
クイーン／松谷　彼哉
長老／中　博史
イルクーボ／二又　一成
ジャアクキング／小野　健一
雪城さなえ／野沢　雅子
協力　東映アカデミー
原　画／飯島　秀一
佐々門信芳
星川　信芳
野田　春彦
小川　珠美
佐藤　憲亮
清水　隆正
松田紀代美
根岸　良充
芝崎　素子
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
森田　崇裕
麓　雅一
花岡　聖
馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／額賀　康彦
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
下川　忠海
作画監督／飯島　秀一
演　出／立仙　裕俊

第24話　決戦！　プリキュアVSイルクーボ

脚　本／川崎　良
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
校長先生／塩屋　浩三
教頭先生／西村　朋紘
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
藤田アカネ／藤田美歌子
石の番人／松野　太紀
ポルン／池澤　春菜
イルクーボ／二又　一成
協力　東映アカデミー
原　画／爲我井克美
星川　信芳
北田美弥子
永澤　謙一
はっとり　ますみ
宮本絵美子
松田紀代美
兼高　里圭
近藤　史門
清水　隆正
廣中　美佳
根岸　良充
松本　昌子
志田　直俊
郡司　智一
佐藤　憲亮
浜野　裕一
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
山本　修司
麓　雅一
森田　崇裕
山岸　理絵
清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／武田　雄樹
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
下川　忠海
作画監督／爲我井克美
演　出／川田　武範

第25話　いざ光の園へポポ！　私たちも!?

脚　本／清水　東
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
オムプ／桜井　敏治
ネルプ／壱智村小真
パルプ／浅野　るり
光の園の住人／間島　淳司
埴岡由紀子
文月くん
河本　邦弘
鶴　博幸
石の番人／松野　太紀
クイーン／松谷　彼哉
長老／中　博史
イルクーボ／二又　一成
ジャアクキング／小野　健一
協力　東映アカデミー
原　画／高橋　任治
宮本絵美子
松田　千織
長谷川一生
清水　智子
山崎　浩平
アルビン・エスパレス
ポール・アンニョヌエボ
フランシス・カネダ
レジー・マナバット
レム・バレンシア
ノエル・アンニョヌエボ
アルフレッド・レイエス
デビッド・カスティリオ
ビクター・バラノン
ジョセフ・オレスコ
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／衣笠　一雄
デジタル撮影／東映ラボ・テック
麓　雅一
森田　崇裕
勝田　泰光
根岸　雅人
篠原　隆浩
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
音楽協力／東映アニメーション音楽出版
演出助手／宮元　宏彰
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
いでともこ
作画監督／高橋　任治
演　出／山田　徹

スタッフリスト

メインスタッフ

プロデューサー／土肥繁葉樹（ABC）（13話～）
高橋　知子（ADK）（1話～40話）
鶴崎　りか（ADK）（41話～49話）
鷲尾　天
原　作／東堂いづみ
シリーズ構成／川崎　良
音　楽／佐藤　直紀
製作担当／坂井　和男
美術デザイン／行　信三
色彩設計／沢田　豊二
キャラクターデザイン／稲上　晃
シリーズディレクター／西尾　大介
制作協力／東映
制　作／ABC
ADK
東映アニメーション

第27話　新たな闇が迫る！ 迷子のポルンを救え

脚　本／川崎　良
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
美墨理恵／荘　真由美
美墨亮太／高橋　直純
少女／西野　陽子
菊池こころ
社員／飯田　利信
クイーン／松谷　彼哉
長老／中　博史
角澤竜一郎／松本　保典
協力　東映アカデミー
原　画／河野　宏之
永島　英樹
藤井　孝博
青山　充
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
山本　修司
麓　雅一
森田　崇裕
山岸　理絵
清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
いでともこ
作画監督／河野　宏之
演　出／小村　敏明
座古　明史

第28話　レギーネ登場！ ってもう来ないで！

脚　本／羽原　大介
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
藤田アカネ／藤田美歌子
少女時代のさなえ／松岡　由貴
さなえの父／入江　崇史
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
ザケンナー／滝　知史
雪城さなえ／野沢　雅子
協力　東映アカデミー
原　画／はっとりますみ
永澤　謙一
田中　伸昭
山内　大輔
冨田与四一
北田美弥子
山田　起生
山岡　直子
黒柳　賢治
志田　直俊
アルビン・エスパレス
フランシス・カネダ
ポール・アンニョヌエボ
レジー・マナバット
レム・バレンシア
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／沢田　豊二
デジタル撮影／東映ラボ・テック
麓　雅一
森田　崇裕
勝田　泰光
根岸　雅人
篠原　隆浩
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／宮元　宏彰
製作進行／武田　雄樹
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
下川　忠海
作画監督／はっとりますみ
演　出／西尾　大介

第29話　嵐の夏祭り！ カミナリ様は超コワイ!?

脚　本／影山　由美
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
美墨理恵／荘　真由美
美墨亮太／高橋　直純
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
藤村省吾／岸尾　大輔
木俣／加藤木賢志
藤田アカネ／藤田美歌子
婦長／重松　朋
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
ザケンナー／滝　知史
インコ／飯田　利信
ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
雪城さなえ／野沢　雅子
協力　東映アカデミー
原　画／木村圭一郎
宮本絵美子
松田　千織
上田　明美
野田　春彦
美馬　健二
山本　航
上原　博幸
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／衣笠　一雄
デジタル撮影／東映ラボ・テック
森田　崇裕
麓　雅一
花岡　聖
馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／木村　延景
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
いでともこ
作画監督／東　美帆
演　出／矢部　秋則

第32話　ポルンを励ませ！ とっておきのカーニバル

脚　本／羽原　大介
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
美墨理恵／荘　真由美
美墨亮太／高橋　直純
藤田アカネ／藤田美歌子
オムプ／桜井　敏治
パルプ／浅野　るり
シカルプ／小野　健一
石の番人／松野　太紀
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
ザケンナー／滝　知史
インコ／飯田　利信
ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
協力　東映アカデミー
原　画／高橋　任治
佐々門信芳
永澤　謙一
松田　千織
宮本絵美子
北田美弥子
及川あずさ
芝崎　素子
松本　昌子
近藤　史門
柳田　幸平
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
森田　崇裕
麓　雅一
花岡　聖
馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／武田　雄樹
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
下川　忠海
作画監督／高橋　任治
演　出／川田　武範

第30話　炸裂！ プリキュアレインボーストーム

脚　本／成田　良美
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
教頭先生／西村　朋紘
よし美先生／永野　愛
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
石の番人／松野　太紀
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
インコ／飯田　利信
ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
協力　東映アカデミー
原　画／川村　敏江
星川　信芳
松田　千織
山岡　直子
フランシス・カネダ
ポール・アンニョヌエボ
レジー・マナバット
アルビン・エスパレス
レム・バレンシア
ノエル・アンニョヌエボ
ビクター・バラノン
アルフレッド・レイエス
デビッド・カスティリオ
伊藤　尚往
山田　起夫
袴田　裕二
永島　英樹
冨田与四一
藤井　孝博
宮本絵美子
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
山本　修司
麓　雅一
森田　崇裕
山岸　理絵
清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／武田　雄樹
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
下川　忠海
作画監督／川村　敏江
演　出／伊藤　尚往

第33話　Vゲット！ 心でつなげ光のパスライン!!

脚　本／川崎　良
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
校長先生／塩屋　浩三
教頭先生／西村　朋紘
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
中川弓子／生天目仁美
メグミ／西野　陽子
ラクロス部員／菊池こころ
藤田アカネ／藤田美歌子
長老／中　博史
ジャアクキング／小野　健一
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
協力　東映アカデミー
原　画／山田　起生
畑　良子
山岡　直子
平田　卓也
外間　亮
可児　里未
磯部　智子
吉松　靖祐
岡野　幸男
アルビン・エスパレス
フランシス・カネダ
アルフレッド・レイエス
レジー・マナバット
ノエル・アンニョヌエボ
ビクター・バラノン
レム・バレンシア
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／衣笠　一雄
デジタル撮影／東映ラボ・テック
山本　修司
麓　雅一
森田　崇裕
山岸　理絵
清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／宮元　宏彰
大塚　隆史
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
いでともこ
作画監督／飯島　秀一
演　出／岩井　隆央

第31話　マジ家出？ ポルンはいったいどこー!?

脚　本／清水　東
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
美墨岳／子安　武人
美墨理恵／荘　真由美
美墨亮太／高橋　直純
藤田アカネ／藤田美歌子
石の番人／松野　太紀
クイーン／松谷　彼哉
長老／中　博史
ジャアクキング／小野　健一
ザケンナー／滝　知史
インコ／飯田　利信
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
協力　東映アカデミー
原　画／爲我井克美
野田　春彦
山田　起生
ポール・アンニョヌエボ
アルビン・エスパレス
フランシス・カネダ
レジー・マナバット
レム・バレンシア
アルフレッド・レイエス
ビクター・バラノン
ノエル・アンニョヌエボ
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
麓　雅一
森田　崇裕
勝田　泰光
根岸　雅人
篠原　隆浩
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／宮元　宏彰
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
いでともこ
作画監督／爲我井克美
演　出／山吉　康夫

第36話　自由を掴め！ 番人決死の大脱走

脚　本／清水　東
声の出演
　美墨なぎさ／本名　陽子
　雪城ほのか／ゆかな
　メップル／関　智一
　ミップル／矢島　晶子
　ポルン／池澤　春菜
　石の番人／松野　太紀
　ジャアクキング／小野　健一
　執事ザケンナーA／小松　里賀
　執事ザケンナーB／滝　知史
　インコ／飯田　利信
　ジュナ／松本　保典
　レギーネ／深見　梨加
　ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
　協力　東映アカデミー
原　画／東　美帆
　　　　宮本絵美子
　　　　及川あずさ
　　　　芝崎　素子
　　　　佐野　陽子
　　　　松田紀代美
　　　　廣中　美佳
　　　　ポール・アンニョヌエボ
　　　　フランシス・カネダ
　　　　アルビン・エスパレス
　　　　レジー・マナバット
　　　　レム・バレンシア
　　　　ノエル・アンニョヌエボ
　　　　アルフレッド・レイエス
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
　　　　山本　修司
　　　　麓　雅一
　　　　森田　崇裕
　　　　山岸　理絵
　　　　清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／大塚　隆史
製作進行／武田　雄樹
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
　　　　下川　忠海
作画監督／東　美帆
演　出／矢部　秋則

第37話　いざ初舞台!! 負けるなロミオとジュリエット

脚　本／羽原　大介
声の出演
　美墨なぎさ／本名　陽子
　雪城ほのか／ゆかな
　メップル／関　智一
　ミップル／矢島　晶子
　ポルン／池澤　春菜
　石の番人／松野　太紀
　校長先生／塩屋　浩三
　教頭先生／西村　朋紘
　よし美先生／永野　愛
　莉奈／徳光　由禾
　志穂／仙台　エリ
　夏子／小清水亜美
　京子／名塚　佳織
　藤田アカネ／藤田美歌子
　美墨理恵／荘　真由美
　藤村省吾／岸尾　大輔
　木俣／加藤木賢志
　執事ザケンナーA／小松　里賀
　執事ザケンナーB／滝　知史
　インコ／飯田　利信
　ジュナ／松本　保典
　レギーネ／深見　梨加
　ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
　協力　東映アカデミー
原　画／川村　敏江
　　　　山田　起生
　　　　美馬　健二
　　　　山本　航
　　　　上原　博幸
　　　　木村圭一郎
　　　　永澤　謙一
　　　　山内　大輔
　　　　野田　春彦
　　　　佐藤　元
　　　　松本　昌子
　　　　近藤　史門
　　　　兼高　里圭
動　画／TAP
　　　　かぐら
　　　　馬渡　久史
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
　　　　増田竜太郎
デジタル彩色／TAP
　　　　かぐら
色指定／衣笠　一雄
デジタル撮影／東映ラボ・テック
　　　　麓　雅一
　　　　森田　崇裕
　　　　勝田　泰光
　　　　篠原　隆浩
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
　　　　いでともこ
作画監督／川村　敏江
演　出／岡　佳広

第34話　なぎさぶっちぎり！ 炎のガチンコリレー

脚　本／影山　由美
声の出演
　美墨なぎさ／本名　陽子
　雪城ほのか／ゆかな
　メップル／関　智一
　ミップル／矢島　晶子
　ポルン／池澤　春菜
　よし美先生／永野　愛
　莉奈／徳光　由禾
　志穂／仙台　エリ
　中川弓子／生天目仁美
　藤村省吾／岸尾　大輔
　木俣／加藤木賢志
　支倉／飯田　利信
　小田島友華／飯塚　雅弓
　石の番人／松野　太紀
　美墨岳／子安　武人
　美墨理恵／荘　真由美
　ジュナ／松本　保典
　レギーネ／深見　梨加
　ザケンナー／滝　知史
　ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
　協力　東映アカデミー
原　画／河野　宏之
　　　　永島　英樹
　　　　藤井　孝博
　　　　青山　充
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
　　　　井芹　達朗
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
　　　　麓　雅一
　　　　森田　崇裕
　　　　勝田　泰光
　　　　根岸　雅人
　　　　篠原　隆浩
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／武田　雄樹
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
　　　　下川　忠海
作画監督／河野　宏之
演　出／山田　徹

第35話　これってデート？ 怒濤のハッピーバースデー

脚　本／成田　良美
声の出演
　美墨なぎさ／本名　陽子
　雪城ほのか／ゆかな
　メップル／関　智一
　ミップル／矢島　晶子
　ポルン／池澤　春菜
　莉奈／徳光　由禾
　志穂／仙台　エリ
　女子生徒／埴岡由紀子
　藤村省吾／岸尾　大輔
　支倉／飯田　利信
　石の番人／松野　太紀
　ジュナ／松本　保典
　レギーネ／深見　梨加
　ザケンナー／滝　知史
　ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
　協力　東映アカデミー
原　画／星川　信芳
　　　　野田　春彦
　　　　松田　千織
　　　　北田美弥子
　　　　山岡　直子
　　　　上田　明美
　　　　レジー・マナバット
　　　　アルビン・エスパレス
　　　　フランシス・カネダ
　　　　ポール・アンニョヌエボ
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／獏プロダクション
　　　　井芹　達朗
　　　　増田竜太郎
　　　　長　恵美子
　　　　伊藤　信治
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
　　　　森田　崇裕
　　　　麓　雅一
　　　　花岡　聖
　　　　馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／木村　延景
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
　　　　いでともこ
作画監督／はっとりますみ
演　出／立仙　裕俊

第38話　ガッツでGO！　亮太のお使い大作戦

脚　本／川崎　良
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
美墨岳／子安　武人
美墨理恵／荘　真由美
美墨亮太／高橋　直純
石の番人／松野　太紀
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
執事ザケンナーA／小松　里賀
執事ザケンナーB／滝　知史
インコ／飯田　利信
ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
協力　東映アカデミー
原　画／青山　充
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／アテネアートスタジオ
山口　昌恭
斉藤　信二
和田　道江
大谷　正信
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
森田　崇裕
麓　雅一
花岡　聖
馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／大塚　隆史
製作進行／武田　雄樹
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／杉浦正一郎
作画監督／青山　充
演　出／山吉　康夫

第39話　涙キラ！　汗がタラ！　結婚式は大騒動!!

脚　本／影山　由美
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
美墨理恵／荘　真由美
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
夏子／小清水亜美
京子／名塚　佳織
柏田真由／渡辺　朋乃
森岡唯／城　雅子
谷口聖子／吉田小南美
石の番人／松野　太紀
校長先生／塩屋　浩三
教頭先生／西村　朋紘
よし美先生／永野　愛
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
インコ／飯田　利信
ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
協力　東映アカデミー
原　画／爲我井克美
星川　信芳
藤井　孝博
河野　宏之
永島　英樹
松田　千織
山岡　直子
動　画／TAP
かぐら
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
デジタル彩色／TAP
かぐら
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
山本　修司
麓　雅一
森田　崇裕
山岸　理絵
清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
下川　忠海
作画監督／爲我井克美
演　出／川田　武範

第40話　夢の世界へご招待!?　一泊二日闇の旅

脚　本／成田　良美
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
藤村省吾／岸尾　大輔
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
ユリコ／鎌田　梢
石の番人／松野　太紀
キリヤ／木内レイコ
執事ザケンナーA／小松　里賀
執事ザケンナーB／滝　知史
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
雪城さなえ／野沢　雅子
協力　東映アカデミー
原　画／高橋　任治
柳田　幸平
松本　昌子
兼高　里圭
近藤　史門
宮本絵美子
畑　良子
北田美弥子
レジー・マナバット
ノエル・アンニョヌエボ
ポール・アンニョヌエボ
アルビン・エスパレス
フランシス・カネダ
レム・バレンシア
アルフレッド・レイエス
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
長　恵美子
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
麓　雅一
森田　崇裕
勝田　泰光
篠原　隆浩
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／大塚　隆史
製作進行／武田　雄樹
岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
いでともこ
作画監督／高橋　任治
演　出／岩井　隆央

第41話　負けないってばー!!　闇の力をぶっとばせ!

脚　本／清水　東
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
校長先生／塩屋　浩三
教頭先生／西村　朋紘
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
中川弓子／生天目仁美
美墨岳／子安　武人
美墨理恵／荘　真由美
美墨亮太／高橋　直純
石の番人／松野　太紀
ジャアクキング／小野　健一
インコ／飯田　利信
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
協力　東映アカデミー
原　画／飯島　秀一
上田　明美
及川あずさ
川口準之祐
矢ヶ崎美恵
兼高　里圭
近藤　史門
松本　昌子
太田　優喜
野田　春彦
永澤　謙一
山岡　直子
アルビン・エスパレス
ノエル・アンニョヌエボ
レジー・マナバット
ポール・アンニョヌエボ
レム・バレンシア
フランシス・カネダ
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
長　恵美子
デジタル彩色／TAP
色指定／衣笠　一雄
デジタル撮影／東映ラボ・テック
森田　崇裕
麓　雅一
花岡　聖
馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
下川　忠海
作画監督／飯島　秀一
演　出／立仙　裕俊

第42話　二人はひとつ！　なぎさとほのか最強の絆

脚　本／羽原　大介
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
藤田アカネ／藤田美歌子
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
石の番人／松野　太紀
長老／中　博史
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
執事ザケンナーA／小松　里賀
執事ザケンナーB／滝　知史
インコ／飯田　利信
ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
協力　東映アカデミー
原　画／はっとりますみ
山田　起生
冨田与四一
志田　直俊
美馬　健二
山本　航
上原　博幸
八島　善孝
ノエル・アンニョヌエボ
レジー・マナバット
フランシス・カネダ
レム・バレンシア
アルビン・エスパレス
ポール・アンニョヌエボ
ビクター・バラノン
アルフレッド・レイエス
デビッド・カスティリオ
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／アテネアートスタジオ
山口　昌恭
斉藤　信二
和田　道江
大谷　正信
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
山本　修司
麓　雅一
森田　崇裕
山岸　理絵
清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
製作進行／武田　雄樹
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／杉浦正一郎
作画監督／はっとりますみ
演　出／西尾　大介
座古　明史

第43話　激揺れまくり！　藤P先輩に届けこの想い

脚　本／成田　良美
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
教頭先生／西村　朋紘
藤村省吾／岸尾　大輔
木俣／加藤木賢志
森岡唯／城　雅子
石の番人／松野　太紀
ジャアクキング／小野　健一
執事ザケンナーA／小松　里賀
執事ザケンナーB／滝　知史
インコ／飯田　利信
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
協力　東映アカデミー
原　画／東　美帆
星川　信芳
松田　千織
宮本絵美子
北田美弥子
あべみゆき
ノエル・アンニョヌエボ
フランシス・カネダ
ポール・アンニョヌエボ
レム・バレンシア
アルビン・エスパレス
レジー・マナバット
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
長　恵美子
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
麓　雅一
森田　崇裕
勝田　泰光
篠原　隆浩
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／大塚　隆史
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
いでともこ
作画監督／東　美帆
演　出／矢部　秋則

第44話　最高ハッピー!?　なぎさのホワイトクリスマス

脚　本／川崎　良
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ポルン／池澤　春菜
美墨理恵／荘　真由美
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
藤村省吾／岸尾　大輔
木俣／加藤木賢志
夏子／小清水亜美
京子／名塚　佳織
森岡唯／城　雅子
矢部千秋／中川亜紀子
校長先生／塩屋　浩三
教頭先生／西村　朋紘
よし美先生／永野　愛
宮下先生／金光　宣明
クイーン／松谷　彼哉
長老／中　博史
石の番人／松野　太紀
キリヤ／木内レイコ
ジャアクキング／小野　健一
執事ザケンナーA／小松　里賀
執事ザケンナーB／滝　知史
インコ／飯田　利信
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
協力　東映アカデミー
原　画／河野　宏之
永島　英樹
藤井　孝博
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
長　恵美子
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
森田　崇裕
麓　雅一
花岡　聖
馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／坂井　和男
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
下川　忠海
作画監督／河野　宏之
演　出／山吉　康夫

第45話　歌えさくら組！　合唱は勇気を乗せて

脚　本／影山　由美
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
よし美先生／永野　愛
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
夏子／小清水亜美
京子／名塚　佳織
矢部千秋／中川亜紀子
谷口聖子／吉田小南美
石の番人／松野　太紀
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
執事ザケンナーA／小松　里賀
執事ザケンナーB／滝　知史
インコ／飯田　利信
ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
協力　東映アカデミー
原　画／青山　充
動　画／TAP
美術補佐／小菅　三佳
背　景／TAP
長　恵美子
デジタル彩色／TAP
色指定／衣笠　一雄
デジタル撮影／東映ラボ・テック
山本　修司
麓　雅一
森田　崇裕
山岸　理絵
清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／大塚　隆史
製作進行／武田　雄樹
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
いでともこ
作画監督／青山　充
演　出／川田　武範

第46話　サイアク～！　石の力が奪われた～!?

脚　本／清水　東
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
夏子／小清水亜美
京子／名塚　佳織
クイーン／松谷　彼哉
長老／中　博史
石の番人／松野　太紀
ジャアクキング／小野　健一
執事ザケンナーA／小松　里賀
執事ザケンナーB／滝　知史
インコ／飯田　利信
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
協力　東映アカデミー
原　画／川村　敏江
野田　春彦
松田　千織
松本　昌子
太田　優喜
ポール・アンニョヌエボ
レム・バレンシア
レジー・マナバット
アルビン・エスパレス
ノエル・アンニョヌエボ
フランシス・カネダ
動　画／かぐら
TAP
M.S.J.武蔵野制作所
美術補佐／長　恵美子
背　景／アテネアートスタジオ
勝又アイ子
山口　昌恭
斉藤　信二
和田　道江
大谷　正信
デジタル彩色／かぐら
TAP
M.S.J.武蔵野制作所
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
麓　雅一
森田　崇裕
勝田　泰光
篠原　隆浩
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／杉浦正一郎
作画監督／川村　敏江
演　出／山田　徹

第47話　最強戦士登場！　ってもへ～ありえない!!

脚　本／影山　由美
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
美墨理恵／荘　真由美
美墨亮太／高橋　直純
クイーン／松谷　彼哉
長老／中　博史
石の番人／松野　太紀
ベルゼイ・ガートルード／西村 知道
ジュナ／松本　保典
レギーネ／深見　梨加
執事ザケンナーA／小松　里賀
執事ザケンナーB／滝　知史
インコ／飯田　利信
ジャアクキング／小野　健一
雪城さなえ／野沢　雅子
協力　東映アカデミー
原　画／生田目康裕
小島　彰
佐野　陽子
郡司　智一
浜野　裕一
廣中　美佳
松田紀代美
根岸　良充
本吉　悟
安徳　紘生
藤田健太郎
動　画／TAP
美術補佐／長　恵美子
背　景／TAP
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
森田　崇裕
麓　雅一
花岡　聖
馬場きよ子
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／大塚　隆史
製作進行／高木　秀哲
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
下川　忠海
作画監督／生田目康裕
演　出／岩井　隆央

第48話　史上最大の決戦！プリキュア最後の日!!

脚　本／川崎　良
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
クイーン／松谷　彼哉
長老／中　博史
石の番人／松野　太紀
ジャアクキング／小野　健一
キリヤ／木内レイコ
インコ／飯田　利信
巨人／西村　知道
協力　東映アカデミー
原　画／高橋　任治
星川　信芳
山田　起生
東　美帆
山内　大輔
冨田与四一
北田美弥子
松田　千織
ノエル・アンニョヌエボ
レム・バレンシア
ポール・アンニョヌエボ
レジー・マナバット
アルビン・エスパレス
フランシス・カネダ
動　画／TAP
美術補佐／長　恵美子
背　景／TAP
デジタル彩色／TAP
色指定／大谷　和也
デジタル撮影／東映ラボ・テック
山本　修司
麓　雅一
森田　崇裕
山岸　理絵
清水　達雄
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／渡辺絵里奈
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／小川真美子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
製作進行／坂井　和男
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／行　信三
いでともこ
作画監督／高橋　任治
演　出／山内　重保
座古　明史

第49話　未来を信じて！明日を信じて！さよならなんて言わせない!!

脚　本／成田　良美
声の出演
美墨なぎさ／本名　陽子
雪城ほのか／ゆかな
メップル／関　智一
ミップル／矢島　晶子
ポルン／池澤　春菜
よし美先生／永野　愛
莉奈／徳光　由禾
志穂／仙台　エリ
クイーン／松谷　彼哉
長老／中　博史
石の番人／松野　太紀
ジャアクキング／小野　健一
キリヤ／木内レイコ
雪城さなえ／野沢　雅子
協力　東映アカデミー
原　画／飯島　秀一
宮本絵美子
野田　春彦
上田　明美
佐藤　元
永澤　謙一
山岡　直子
芝崎　素子
矢ヶ崎美恵
及川あずさ
ノエル・アンニョヌエボ
レジー・マナバット
フランシス・カネダ
レム・バレンシア
ポール・アンニョヌエボ
アルビン・エスパレス
動　画／TAP
美術補佐／長　恵美子
背　景／マジックハウス
清水まこと
常盤　庄司
安積　裕子
北村　芳子
デジタル彩色／TAP
色指定／沢田　豊二
デジタル撮影／東映ラボ・テック
麓　雅一
森田　崇裕
勝田　泰光
篠原　隆浩
CG製作／川崎健太郎
編　集／麻生　芳弘
録　音／川崎　公敬
音響効果／石野　貴久
選　曲／水野さやか
記　録／沢井　尚子
録音スタジオ／タバック
オンライン編集／TOVIC
演出助手／鈴木　裕介
製作進行／岡村　利和
美術進行／北山　礼子
仕上進行／黒田　進
演技事務／小浜　匠
美　術／吉田　智子
作画監督／飯島　秀一
演　出／矢部　秋則

放送リスト

話数	放送日	サブタイトル	脚本	演出	作画監督
第1話	2004/2/1	私たちが変身!?　ありえない!	川崎　良	伊藤　尚往	爲我井克美
第2話	2004/2/8	カンベンして!　闇に狙われた街	川崎　良	山吉　康夫	高橋　任治
第3話	2004/2/15	イケてる実習生に気をつけろ!	川崎　良	岩井　隆央	川村　敏江
第4話	2004/2/22	ミラクル!?　生きている美術館	清水　東	矢部　秋則	生田目康裕
第5話	2004/2/29	マジヤバ!　捨て身のピーサード	羽原　大介	川田　武範	河野　宏之
第6話	2004/3/7	新たな闇!　危険な森のクマさん	川崎　良	小村　敏明	桑原　幹根
第7話	2004/3/14	熱闘ラクロス!　乙女心は超ビミョー!	川崎　良	岡　佳広	青山　充
第8話	2004/3/21	プリキュア解散!　ぶっちゃけ早すぎ!?	清水　東	五十嵐卓哉	爲我井克美
第9話	2004/3/28	取り返せ!　メポメポ大作戦	羽原　大介	山吉　康夫	川村　敏江
第10話	2004/4/4	ほのか炸裂!　素敵な誕生日	成田　良美	岩井　隆央	高橋　任治
第11話	2004/4/11	亮太を救え!　ゲキドラーゴ・パニック	清水　東	川田　武範	飯島　秀一
第12話	2004/4/18	悪の華・ポイズニー参上!って誰?	川崎　良	矢部　秋則	生田目康裕
第13話	2004/4/25	ご用心!　年下の転校生	成田　良美	小村　敏明	河野　宏之
第14話	2004/5/2	ウソホント!?　にせプリキュア大暴れ	羽原　大介	吉沢　孝男	青山　充
第15話	2004/5/9	メッチャ危ない家族旅行	清水　東	上田　芳裕	東　美帆
第16話	2004/5/16	ストレス全開!　マドンナはつらいよ	影山　由美	山吉　康夫	川村　敏江
第17話	2004/5/23	ハートをゲット!　トキメキ農作業	成田　良美	岩井　隆央	爲我井克美
第18話	2004/5/30	ドキドキ!　中間テストは恋の迷宮	川崎　良	川田　武範・座古　明史	高橋　任治
第19話	2004/6/6	こわすぎ!　ドツクゾーン最後の切り札	清水　東	矢部　秋則	飯島　秀一
第20話	2004/6/13	どっちが本物?　ふたりのほのか	羽原　大介	小村　敏明	青山　充
第21話	2004/6/27	衝撃デート!　キリヤの真実	川崎　良	上田　芳裕	河野　宏之
第22話	2004/7/4	ウッソー!　忠太郎がママになる!?	影山　由美	山吉　康夫	東　美帆
第23話	2004/7/11	危うし!　夏合宿の悪夢	羽原　大介	岩井　隆央	川村　敏江
第24話	2004/7/18	決戦!　プリキュア対イルクーボ	川崎　良	川田　武範	爲我井克美
第25話	2004/7/25	いざ光の園へポポ!　私たちも!?	清水　東	山田　徹	高橋　任治
第26話	2004/8/1	さよならメップルミップル!?　やだー!	成田　良美	立仙　裕俊	飯島　秀一
第27話	2004/8/8	新たな闇が迫る!　迷子のポルンを救え	川崎　良	小村　敏明・座古　明史	河野 宏之
第28話	2004/8/15	レギーネ登場!ってもう来ないで!	羽原　大介	西尾　大介	はっとり　ますみ
第29話	2004/8/22	嵐の夏祭り!　カミナリ様は超コワイ!?	影山　由美	矢部　秋則	東　美帆
第30話	2004/9/5	炸裂!　プリキュアレインボーストーム	成田　良美	伊藤　尚往	川村　敏江
第31話	2004/9/12	マジ家出?　ポルンは一体どこ～!?	清水　東	山吉　康夫	爲我井克美
第32話	2004/9/19	ポルンを励ませ!　とっておきのカーニバル	羽原　大介	川田　武範	高橋　任治
第33話	2004/9/26	Vゲット!　心でつなげ光のパスライン!!	川崎　良	岩井　隆央	飯島　秀一
第34話	2004/10/3	なぎさぶっちぎり!　炎のガチンコリレー	影山　由美	山田　徹	河野　宏之
第35話	2004/10/10	これってデート?　怒涛のハッピーバースデー	成田　良美	立仙　裕俊	はっとり　ますみ
第36話	2004/10/17	自由を掴め!　番人決死の大脱走	清水　東	矢部　秋則	東　美帆
第37話	2004/10/24	いざ初舞台!!　負けるなロミオとジュリエット	羽原　大介	岡　佳広	川村　敏江
第38話	2004/10/31	ガッツでGO!　亮太のおつかい大作戦	川崎　良	山吉　康夫	青山　充
第39話	2004/11/14	涙キラ!　汗がタラ!　結婚式は大騒動!!	影山　由美	川田　武範	爲我井克美
第40話	2004/11/21	夢の世界へご招待!?　一泊二日闇の旅	成田　良美	岩井　隆央	高橋　任治
第41話	2004/11/28	負けないってばー!!　闇の力をぶっとばせ!	清水　東	立仙　裕俊	飯島　秀一
第42話	2004/12/5	二人はひとつ!　なぎさとほのか最強の絆	羽原　大介	西尾　大介・座古　明史	はっとり　ますみ
第43話	2004/12/12	激揺れまくり!　藤P先輩に届けこの想い	成田　良美	矢部　秋則	東　美帆
第44話	2004/12/19	最高ハッピー!?　なぎさのホワイトクリスマス	川崎　良	山吉　康夫	河野　宏之
第45話	2004/12/26	歌えさくら組!　合唱は勇気を乗せて	影山　由美	川田　武範	青山　充
第46話	2005/1/9	サイアク～!　石の力が奪われた～!?	清水　東	山田　徹	川村　敏江
第47話	2005/1/16	最強戦士登場!っても～ありえない!!	影山　由美	岩井　隆央	生田目康裕
第48話	2005/1/23	史上最大の決戦!　プリキュア最後の日!!	川崎　良	山内　重保・座古　明史	高橋　任治
第49話	2005/1/30	未来を信じて!　明日を信じて!　さよならなんて言わせない!!	成田　良美	矢部　秋則	飯島　秀一

第28話

「レギーネ登場!ってもう来ないで!」絵コンテ

シリーズディレクター・西尾大介さんが自ら演出を担当した回は、第28話と第42話(座古明史さんと共同演出)。第42話は108ページからに掲載していますが、今回、第28話を完全採録！西尾さんのこだわりが詰まった絵コンテをノーカットでご覧ください！

演出・西尾大介氏より――

僕はシリーズディレクターをやっていたので、なかなか自分で絵コンテを描く時間がとれずにいたのですが、第３クールで新たなシーズンが始まるのを機に、ローテーションとしても早めに１本、担当しておこうというのがありました。

さなえおばあちゃんを主役にするというのはシリーズ構成の川崎さん、脚本の羽原大介さんをはじめライター陣の皆さんもどこかでやりたいという思いがあって、それが結実した形です。

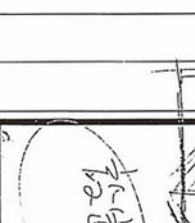
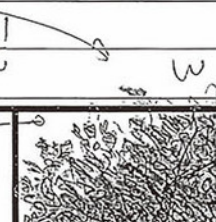
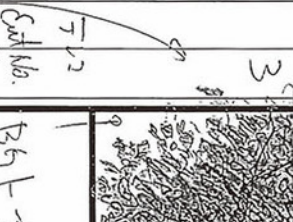
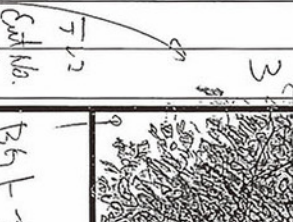
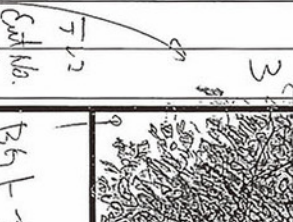
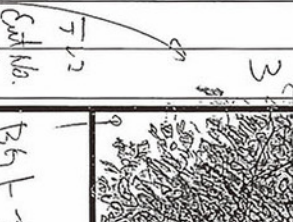
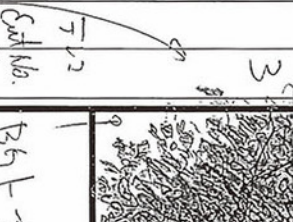
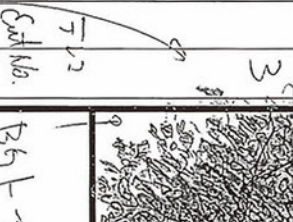
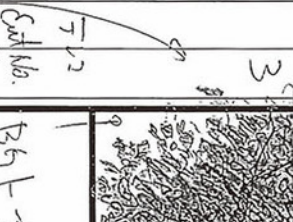
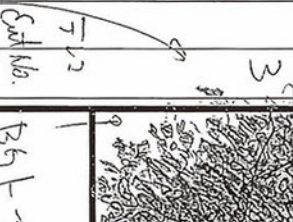
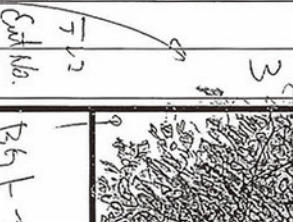
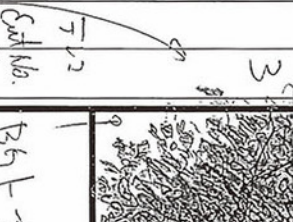
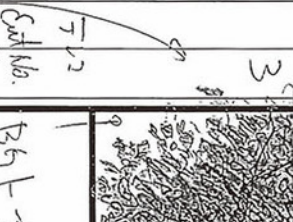
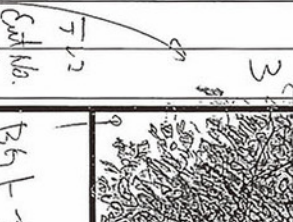
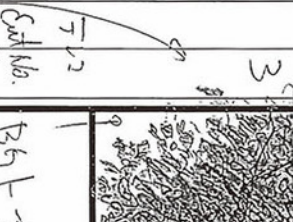
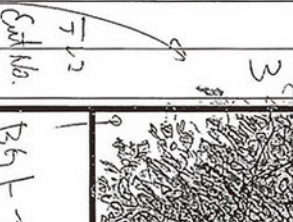
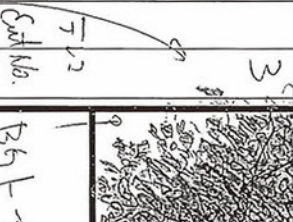
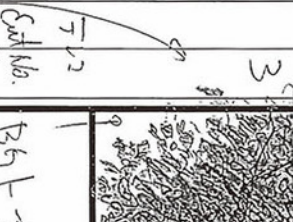
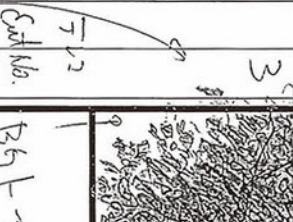
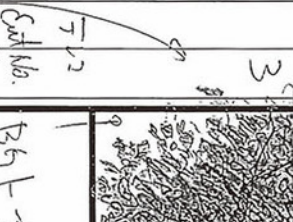
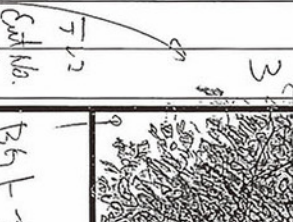
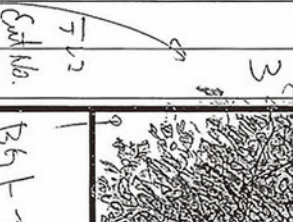
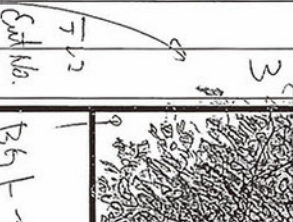
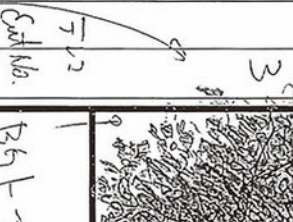
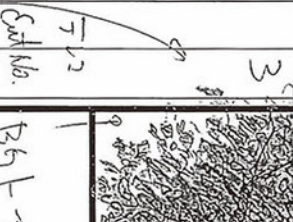
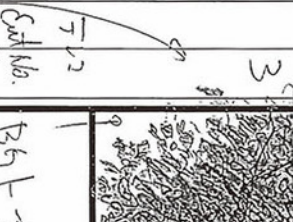
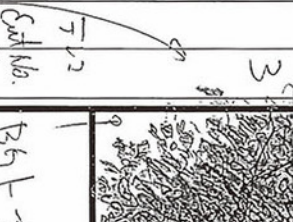
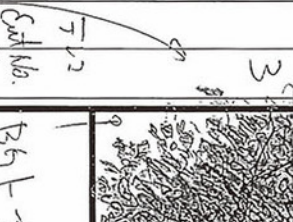
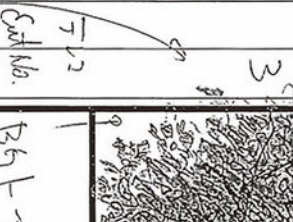
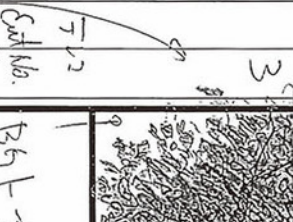
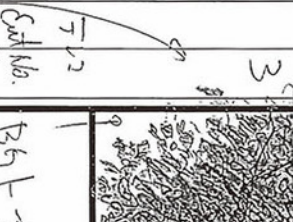
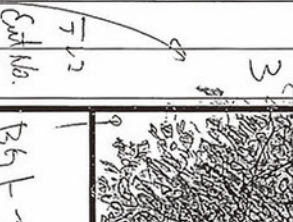
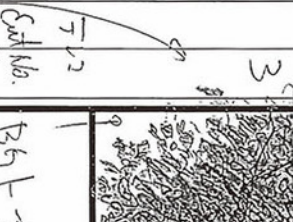
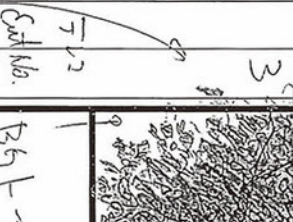
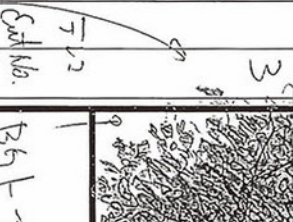
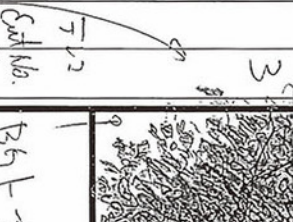
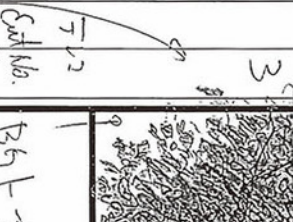
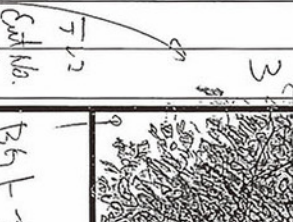
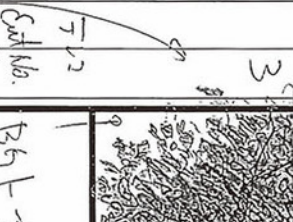
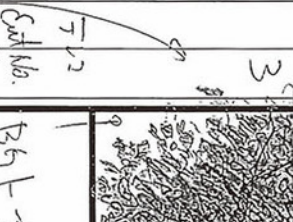
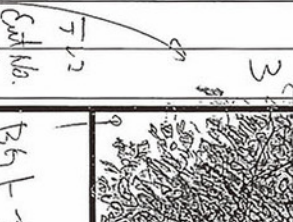
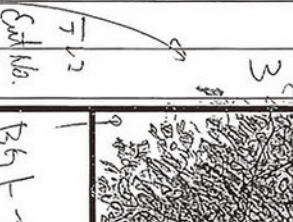
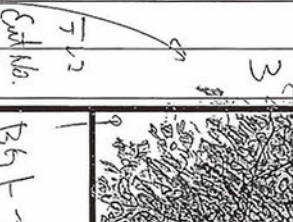
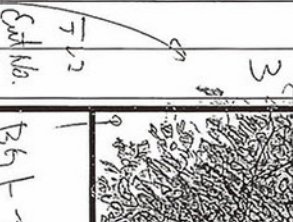
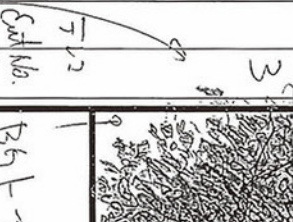
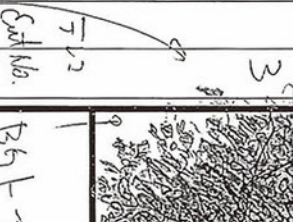
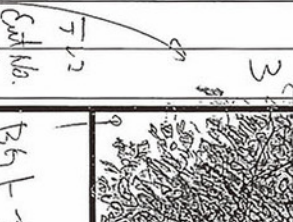
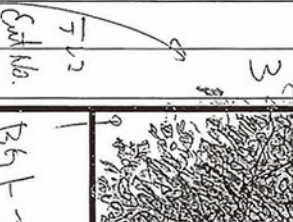
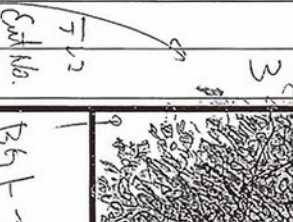
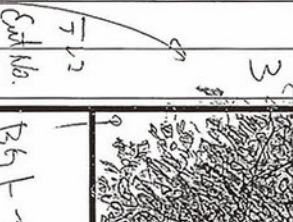
放映日は終戦記念日の８月15日にたまたま合致しましたが、それに関連して鷲尾くんや川崎さんたちと、最近、終戦記念日に向けた特別番組が減ってきたんじゃないかな？　という話をしていて、子供のころにあの戦争を体験している僕らの親の世代の話をモチーフにして１本できないものか？　自分たちなりの、プリキュア版8.15をやってみる価値はあるんじゃないか？という話になっていたんです。でも、それは無理矢理入れ込んでも不自然だし、戦争の被害をストレートに伝えるんだったら学校の授業やドキュメンタリーのほうが相性がいい。あくまでもテレビアニメとしてのフィクション、ファンタジーという括りのなかで描くテーマを見つけるのがなかなかむずかしくて迷ったのも事実です。

ただ、第2シーズンでドツクゾーン側の闇の戦士が入れ替えとなり、以前よりも強力な存在がプリキュアの前に登場するということで、絶望を目の当たりにする。これが戦禍で何もなくなった状況にシンクロしていったわけです。

でも、幼いころのさなえおばあちゃんが、戦災で路上に投げ出された人を助けようとするようなシチュエーションは、学校で観る映画のようで日曜朝のテレビアニメ番組のようなライトテイストにはそぐわないでしょうし、プリキュアのテイストに落とし込むために、さなえおばあちゃんの幼いころのエピソードと新たな絶望として現れたレギーネのエピソードを並列に描くことにしました。

「明日はきっといい日になりますよ」というのは希望の言葉に聞こえますが、実は絶望と希望が共存しているということだと思います。

あのときの絶望感は復興とともに忘れてしまいがちですが、なぎさやほのかが絶望を具現化したキャラクターと対峙させることで、今の時代に生きたテーマとして伝わりますよね。また、一方でそうしたテーマがありつつ、「もう来ないで！」と、日常を生きようとするなぎさたちの姿勢によってシビアになりすぎずに本質を伝えることができるんじゃないか？

そうした点を踏まえてドラマとして自然に描くことができたんじゃないでしょうか。プリキュアのテイストも壊していないと思います。

最近では絵コンテもデジタル処理のものが多いですが、デジタルが不得手な僕は手描きです。フォント文字より手書き文字のほうが演出の意図や熱意（その時の追い詰められた感じとかも）が結果として伝わりやすくなっていると思うのですが、どうでしょうか。そのあたりも楽しみながら読んでいただければと思います。

西尾大介

No. 7

東映アニメーション株式会社

S.	C.	内容		TIME	MUSIC	EFFECT
3	5	cut頭. 何となく下みてるかんじから ↓ 目パチで 前みる.		1+18		
	6	#27. 回想BANKに. 荒川ジュナとの闘い ↓ 消えるジュナ.	なぎさ(N)「何を考えているのか?… 何をしようとしているのか?… やっぱりジャアクキングの再生?… そしてそのあとは…。」	7+0		
	7	d-5兼、顔をあげるなぎさ 体動かさない 表情ボーっとしたかんじ	なぎさ(N)「どっちにしても、私達の周りでまた新しい何かが起ころうとしていることは間違いない…」	(6+12)		

No. 8

東映アニメーション株式会社

S.	C.	内容		TIME	MUSIC	EFFECT
3		つづき そしてポツ…とセリフ. 汗かいてる. (ポーズそのまま)	なぎさ(OFF)一言—「…ってゆーか…」	(T) 9+0		
	8	cut頭 おもむろに天を仰ぎのけぞるなぎさ. ほのかはそのままのポーズで. そのまま後ろへバタ…なぎさ(グデ…と) (首をまわさない) ↓ 今度はバタと大の字に体を開く	なぎさ「アヂ~! 死ぬ~!!」 ほのか「暑いと思うから暑いのよ」 なぎさ「寒い…涼しい…痛い…痒い…… ↓ うー 暑い~…」 ほのか「扇風機だってついてるのに」 なぎさ「そんなんじゃダメ」 ほのか「なるべく肌と肌が密着しないようにして、体の表面積をより大きくしてあげれば、それだけ気化熱が奪われて少しは涼しくなるかもね…」	20+0		
	9	ぐっ…と開く手 力を抜いてるので ノニんなかんじ		2+0		

No. 13

東映アニメーション株式会社

S.	C.	内	容	TIME	MUSIC	EFFECT
				(2+0)		
		泣き顔こらえてる顔で 上半身グッと上げ	ポルン「う…」	9+0		
	16	テクテクテク〜と ミップルにかけよる ポルン	ポルン「メップルがどついたポポ〜!」			
		ミップルの胸に とびこみ ポルン なぎさ 左右。		2+0		
	17	cut頭	メップル「えで タッチしただけメポ。 それにどんな言葉いつ、どこで 憶えたメポ。」			
		更に 向き直って	「そんな事より 今度はポルンが 鬼メポ!」	8+12		

No. 14

東映アニメーション株式会社

S.	C.	内	容	TIME	MUSIC	EFFECT
	18	ガバッ!と あわてる ポルン	ポルン「え〜何で ポポ〜?!」			
		汗ジトのミップル cut頭 なぎさ ひざ おろす	メップルOFF「鬼ごっこの ルールメポ」			
		抗議のポルン	ポルン「鬼、ヤダポポ」	6+6		
	19	え〜のメップル 17同ポジ	メップル「それじゃ鬼ごっこに ならないメポ」 ポルンOFF「ミップル〜(悲しい)」	4+0		
	20	C-16兼 ミップルに 抱かれた ポルン。 メップルを指差してる。 cut一杯止メポーズ	ポルン「メップルが いじめるポポ〜」	2+0		
	21	汗だくのなぎさ 視線だけで メップルの方と ポルンの方を追う	メップルOFF「あ〜何でそーゆー 展開になるかなーメポ」 ミップルOFF「わかったミポ。じゃ違う 遊びにするミポ」 メップルOFF「どうしてミップルはそうやって ポルンに甘いメポ?そんなの 絶対おかしいメポ」 ミップルOFF「しょうがないミポ。ポルンはまだ 子供なんだからミポ」			

No. 15

東映アニメーション株式会社

S.	C.	内	容	TIME	MUSIC	EFFECT
			メップル off 「ルールはルールメポ!」 ポルン off 「鬼ごっこは飽きたポポ。次はだるまさんが転んだポポ」 メップル off 「よくそんなん知ってるな〜メポ。でもポルンの鬼で鬼ごっこ続けるメポ!」	30+0		
	22	C16 兼用 ジタバタの ポルン	ポルン 「だるまさんが転んだポポ! だるまさんが転んだポポ!」	4+0		
	23	メップル	メップル 「鬼ごっこ続けるメポ」	1+18		
	24	ポルン ジタバタ	ポルン 「だるまさん転んだポポ」	1+18		
	25	d-23兼 メップル	メップル 「鬼ごっこメポ」	1+6		

No. 16

東映アニメーション株式会社

S.	C.	内	容	TIME	MUSIC	EFFECT
3-	26	汗ダラダラの なぎさ ヒクヒク…	ポルン off 「だるまさんポポ!」 メップル off 「鬼さんメポ!」 ポルン off 「だるまポポ〜!」 メップル 「鬼メポ〜!」	5+0	なぎさ 「う… ううう… うううう〜」	
	27	d-24兼 ジタバタポルン	ポルン 「ポポポポポ!」	1+18		
	28	汗ジト、ほのか 逆光 あかいシルエット 白くとばす	メップル 「メポメポ!」	1+18		
	29	ううう…。 なぎさ d-26兼 汗ふえてる。	なぎさ 「ううう〜」 ポルン 「ポポポポポ!」	1+18		
	30	d-25兼 メップル	メップル 「メポメポ!」	1+18		

No. 29

東映アニメーション株式会社

S.	C.	内容		TIME	MUSIC	EFFECT
6	1	「バッと振り返る」 メップル ここ位の中腰ポーズから。	こぼれ気味	2+0		バッ
	2	ポルンのみ 2枚ブレ 必死でこらえている	ポルン 「う・う・う～…」	(2+0)		
		目隠しをして 数える。 テケテケテケ～と 手前にくるポルン。	メップル 「だるまさんが 転んで X			

No. 30

東映アニメーション株式会社

S.	C.	内容		TIME	MUSIC	EFFECT
		ポッ!で振り返る メップル （ウララ…）	ポ!」	(7+0)		
		ポルンの動き 1/4位				
		しばらくたってから 止まるポルン しかもグラグラしてる （ピタ…）	ポルン 「う・う・う…」	(1+12)		
		ポルンを指さす メップル	メップル 「ポルン メポ!」 ポルン 「なんでポポ?」			
		抗議のポルン! 体おこす メップル	メップル 「今動いたメポ!」 ポルン 「動かないポポ」			
		すかさず指差し。	メップル 「絶対動いたメポ!」			
		今度はジタバタ （倒れてジタバタ）	ポルン 「絶対動かないポポ～ 動かないポポ 動かないポポ 動かないポポ」			
		メップルカメラ目線	メップル 「ア～… はじまったよ メポ…」	(12+0) 16+12		

つづける

No. 2 1
東映アニメーション株式会社
S. C.
内 容
TIME MUSIC EFFECT
6-3A
ノートの上で
だらけてる
なぎさ
なぎさ
「これやりだすと
長いのよね～」
3+0
No. 32
ジタバタしてる。
ホルン つづけてる
6-3B
ジタバタのホルンと
ミップル
ミップル
「まあまあ ホルンは
まだ子供なんだから
大目に見逃して
あげるミポ」
5+12
4
メップル
メップル
「それじゃ
だるまさんが転んだにしか
ならないメポ～」
3+6
5
6-3兼
だらけてるなぎさ
脇の間から
ズイと
顔出す
メップル
なぎさ
「だいたい『だるまさんが
転んだ』にメポがついたら
十数えたことにならないから
その時点で既に『だるまさんが
転んだ』じゃないでしょーに…」
(10+0)
メップル
「何か言ったかメポ」
なぎさ
「！」
(2+12)
ふいをつかれて
バッ！と後ろへ
なぎさの動きと同時に
メップル、テーブルの上へ
わ～～!!
どこからでてくんのよ?!
動きもみて
(2+0)
17+0
6
ミチシート ほのか
あわわのなぎさなめ
テーブルの上の
自信ありげなメップル
メップル
「い～んだメポ。
光の園は十二進法なんだメポ。
ウソメポ。」
なぎさ同時に
「え～～」
6+0
と、なぎさがつっこむヒマを与えずあっさり否定。

No. 33 東映アニメーション株式会社

S.	C.	内容	容	TIME	MUSIC	EFFECT
6	7	なぎさ あっけ…	なぎさ「はや…」	2+0		
	8	目をパチ…と 開ける ポルン	ポルン「！」	2+0		
	9	態度のでかいメップルに なぎさ	なぎさ「そんなことより、静かにしてよね。集中できないじゃない」 メップル「(きっぱり)ヤダメポ」(威張って)			
		え～？！となる なぎさ (閉じ口)	なぎさ「え～～～!? ここに威張るとこじゃないでしょ？」			
		ポルンのoffセリフに なぎさ一応答えておいて (この顔でセリフ)	ポルンoff「目覚めるポポ」 なぎさ「なにが？！」			
		一同 え？と 振り向く。同時 カメラをみる。	なぎさ、ほのか「え？」 メップルだけ「え？メポ」	3+0		

No. 34 東映アニメーション株式会社

S.	C.	内容	容	TIME	MUSIC	EFFECT
	10	部屋への上がり口 縁側に立ってるポルン。無意識にしゃべってるかんじ。心配そうに見ているメップル	ポルン「…目覚めるポポ…」	2+12		
	11	なぎさ ちょっと汗ジト out一枚T.U	なぎさ「あ・あ・あ…」	2+0		
	12	#27よりBANK ～ポルンのセリフのout. ▽ホワイトout	なぎさoff「あの時と 一緒だ…」	3+0		
	13		ポルン「赤いポポ… 赤い柱、危ないポポ…」 なぎさ(off)「赤い柱？」	5+12		
	14	ほのかとなぎさ 顔を見合わせている 軽く汗ジト。	なぎさ、ほのか「？…」	(1+12)		
		2人アオリっぽくにポルンを見るとき カメラ目線になるように なぎさはセリフ	なぎさ「どういう事？」	3+12		

No. 39
東映アニメーション株式会社
S.
C.
内
容
TIME
MUSIC
EFFECT
No. 40
東映アニメーション株式会社
S.
C.
内
容
TIME
MUSIC
EFFECT

No. 41

東映アニメーション株式会社

S.	C.	内容	台詞	TIME	MUSIC	EFFECT
8-	4	O.L. D.F' ジュナ #27 兼 BANK	なぎさ off「そしてアイツが現われて…」 ほのか off「もしかしてポルンのカって、予知能力のこと？」	(6+0)		
		アオリ。のぞきこんでるかんじの なぎさ、ほのか、ちょっと不安そう マルチボケ 以下 とつとつとセリフ。	なぎさ「じゃあ、赤い玉って何？」 ほのか「何だかよくわからないけど きっとまた何かが…」 なぎさ「起こるって…こと？…」 ほのか「うん…あまり考えたくないけど…」 なぎさ「私達で大丈夫なのかな…」			
		え？と顔を上げるほのか	ほのか「え？…」			
			なぎさ「アイツ…、どこか計り知れない所があって、すごく不気味だった…。何をやろうとしてるかもわかんなかったし、力もまだまだあんなものじゃなさそうだった…。」			
		なぎさ、ほのかに。	(顔を上げ)「ねえ、あんな奴が、これからまた現われるかも知れないんでしょ？」	3(6+0)		

No. 42

東映アニメーション株式会社

S.	C.	内容	台詞	TIME	MUSIC	EFFECT
8-	5	めずらしく 弱気なぎさで	なぎさ「ホントに私達だけの力で大丈夫なの？」	3+6		
	6	え？そんなことを言われるとは…の ほのか。	ほのか「…なぎさ…」	2+0		
	7	めずらしく 弱気なぎさ うつむく C-5兼 ゆっくりTU	なぎさ「いつまで続くんだろ…。あんなわけのわからない連中相手にして、メップルやミップルやポルン守って、プリズムストーン守って、光の園守って、この虹の園守って…。いつになったら終わりがくるの？それまでホントに私達の力で大丈夫なの？」	20+0		
		ちょっと目のあたり 陰しくなって (悲) 自分で喋ってるうちにだんだん悲しくなってくるなぎさ…。	「私達って、ホントにそんな力があるの？」	2+12		
			「私達がどんなに頑張ったって、この世界もいつかはドツクゾーンに食い尽くされて、」	12+2		

No. 49
東映アニメーション株式会社
S. C. 内 容 TIME MUSIC EFFECT
No. 50
東映アニメーション株式会社
S. C. 内 容 TIME MUSIC EFFECT

No. 61

東映アニメーション株式会社

S.	C.	内容		TIME	MUSIC	EFFECT
10-	27	心配で見てる 少女(A)	さなえoff 「…でも…」	2+0		
	28	上を見上げて、さなえのもんぺを引っぱってる男の子(A)	さなえoff 「その時、聞こえてきたんです。」	3+0		
	29		さなえoff 「はっきり聞こえた…」	3+0.		
(現在)	30	見上げてるさなえ (現在) 思い出し にっこりのさなえ	ミップルoff(回想) 「希望を忘れないで…」			
	31	カバンに手をつっこんでるさなえ(少女)				

No. 62

東映アニメーション株式会社

S.	C.	内容		TIME	MUSIC	EFFECT
10-		ミップルを取り出す。				
10-	30	左手にする / 左手をつっこんでる状態からスタート。		2+0		
	31	太陽、ゴースト動かす T.B		2+0		
	32	手に持ってるミップル #12流用 BANK.		3+0		

No.
東映アニメーション株式会社
S.
C.
内
容
TIME
MUSIC
EFFECT
「ほのかのおばあちゃんって、なんかこう…」
「カッコイイ…」
「うん」
「宇治金時に、」
「チョコレートミルクね!」
「アカネさん、いつからかき氷始めたんですか?」
PAN
No.
東映アニメーション株式会社
S.
C.
内
容
TIME
MUSIC
EFFECT

東映アニメーション株式会社
No.
S.
C.
内
容
TIME
MUSIC
EFFECT
アカネ
「明日は、きっといい日になります…か…」
BG
東映アニメーション株式会社
No. 72
S.
C.
内
容
TIME
MUSIC
EFFECT
翔羽、歩きながら、
F.I
ドクン!!

No. 75
東映アニメーション株式会社
S.
C.
内容
TIME
MUSIC
EFFECT
ゴミカゴの
半透明の袋の中に
おちる。
2つの紙コップと
ストローの
シルエット。
BOOK密着
街からPANDOWN
坂道をフカンで
撮ってる絵になる
歩道の部分が
かつての坂道
今は、遊歩道に
なってる。
道にカゲおちてる。
BG ONLY
なぎさ OFF
「(もう掻けてる)
とは、言ったものの、
ここまで結構あったねぇ―。」
下から見あげて
木立ち
葉っぱの間、
木漏れ日をいっぱい
BG1枚
No. 76
東映アニメーション株式会社
S.
C.
内容
TIME
MUSIC
EFFECT
その上に
更に手前の
葉っぱまぎる。
(BOOK)
漏れる光
なぎさ OFF
「この坂もまだまだ
ありそうだしィー、
トホホ・・・。」
2人とも前屈の
姿勢で歩く。
ほのか
「でも今は遊歩道に
なってて、とっても
(木漏れ日のあるカゲ)気持ちいい」
なぎさ
「もっかい、かき氷
食べた～～い」
BOOK
歩いてくる
ほのかとなぎさ。
人物もっと小さく。

No. 84
東映アニメーション株式会社
S. C.
内 容
TIME MUSIC EFFECT
No. 85
東映アニメーション株式会社
S. C.
内 容
TIME MUSIC EFFECT

東映アニメーション株式会社
S. C.
内 容
TIME MUSIC EFFECT
東映アニメーション株式会社
S. C.
内 容
TIME MUSIC EFFECT

No.
東映アニメーション株式会社
S. C.
内 容
TIME MUSIC EFFECT
No. 97
東映アニメーション株式会社
S. C.
17 5
内 容
TIME MUSIC EFFECT

No.106
東映アニメーション株式会社
S.
C.
内
容
TIME
MUSIC
EFFECT
18-18
No.107
東映アニメーション株式会社
S.
C.
内
容
TIME
MUSIC
EFFECT
18-20

No. 18
東映アニメーション株式会社
S. C.
内容
TIME
MUSIC
EFFECT
BANK
No. 119
東映アニメーション株式会社
S. C.
内容
TIME
MUSIC
EFFECT

No. 122
東映アニメーション株式会社
S. C.
20-15
内 容
TIME
MUSIC
EFFECT
No. 123
東映アニメーション株式会社
S. C.
20-16
内 容
TIME
MUSIC
EFFECT
17
18

No. 124
東映アニメーション株式会社
S.
C.
内
容
TIME
MUSIC
EFFECT
No. 125
東映アニメーション株式会社
S.
C.
内
容
TIME
MUSIC
EFFECT

No. 126
東映アニメーション株式会社
S. C.
内容
TIME
MUSIC
EFFECT
No. 127
東映アニメーション株式会社
S. C.
内容
TIME
MUSIC
EFFECT

No.134
東映アニメーション株式会社
S.
C.
内容
TIME
MUSIC
EFFECT
No.135
東映アニメーション株式会社
S.
C.
内容
TIME
MUSIC
EFFECT

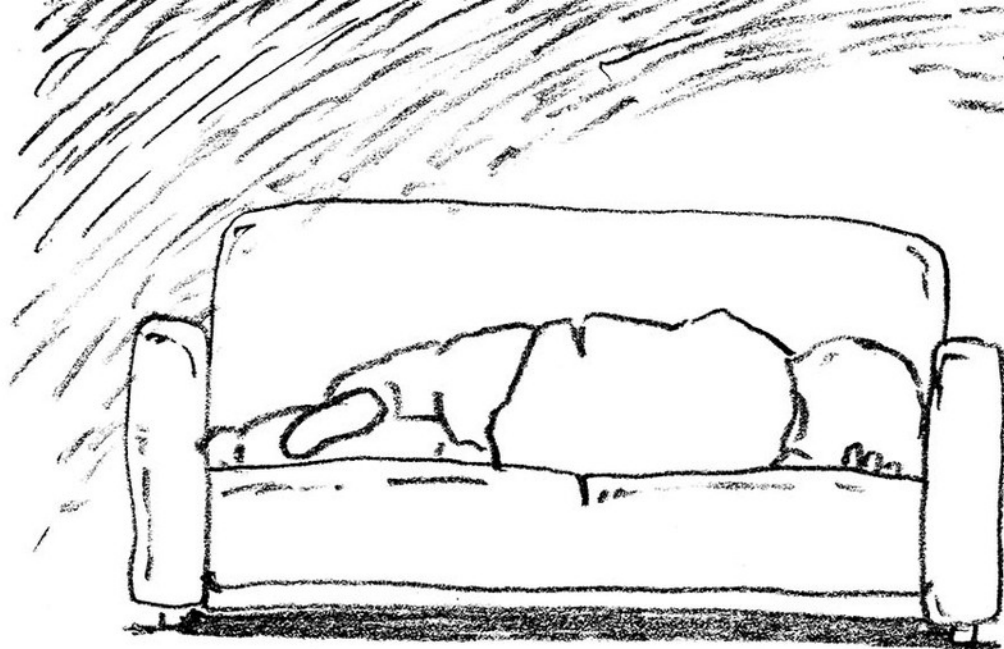
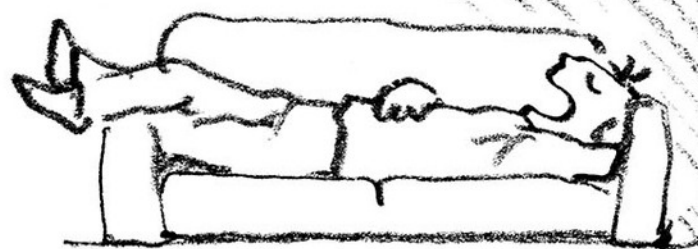
No. 130
東映アニメーション株式会社
S.
C.
内容
TIME
MUSIC
EFFECT
とびっきりの
笑顔で
BGは
BOOK
6+0.
おわり

西尾大介の制作日記

シリーズディレクター・西尾大介さんが、「ふたりはプリキュア」制作当時を振り返り、絵日記を書いてくださいました！　ご本人の直筆で、まるまる3P！　どうぞお楽しみください。

毎日がお泊まりの会！

文・イラスト／西尾大介

20年前の話。今は建物も新しくなって、状況はビミョーに違うのでしょうが……。

体を伸ばしたい
ので そこら辺に
置いてあるソファに
寝る事もあるが、

先を越される時も
あって…

そんな時は

ダンボール!!

当時の床は樹脂のタイル貼りで
硬くて冷たくて、しかも土足。

物理的に終わらないのでついつい会社に泊まりこんでしまうというのはよくある事だが、考えモードに入っていた場合、一旦スイッチが切れると次に思考モードに立て直すのが難しい。それでつい寝る時も仮眠モードを欲してしまう。因果なものだ。

週一本のペースで仕上げて納品しなければならない。遅れながらとは言えよく上がった、よく上げたと思う。

スタッフの皆さんお疲れ様です!

by DAISUKE.

CONTENTS

ポスター ―― 1
スペシャルイラストレーション ―― 9
稲上 晃イラストコレクション ―― 34
メイン・キャラクター紹介 ―― 38
『ふたりはプリキュア』名言集1 ―― 53
ストーリーダイジェスト 第1話〜第26話 ―― 54
『ふたりはプリキュア』名言集2 ―― 82
ストーリーダイジェスト 第27話〜第49話 ―― 83
第42話「二人はひとつ！
なぎさとほのか最強の絆」絵コンテ ―― 108
『ふたりはプリキュア』設定資料 ―― 114
『ふたりはプリキュア』名言集3 ―― 139
『ふたりはプリキュア』美術ボード ―― 140
オープニング・エンディング ―― 148
NEW ENDING ―― 152
『ふたりはプリキュア』名言集4 ―― 153
プリキュアカードコレクション ―― 154
トレーディングコレクション ―― 156
商品アイテムリスト ―― 160
スペシャルイラストレーション〈原画〉 ―― 162
「またみてね」 ―― 166
『ふたりはプリキュア』名言集5 ―― 175
本名陽子さん × ゆかなさん特別インタビュー ―― 176
鷲尾 天 × 西尾大介 × 川崎 良 × 稲上 晃
プリキュアを作った男たち・スタッフ座談会 ―― 180
スタッフリスト ―― 185
放送リスト ―― 198
第28話「レギーネ登場！ってもう来ないで！」
絵コンテ ―― 199
西尾大介の制作日記 ―― 269

ふたりはプリキュア ビジュアルファンブック Vol.1、Vol.2

企画 ―― ケイボスプランニング
構成・執筆 ―― 金子博亘　田中博幸　松野本和弘　宮本 直
編集 ―― 宮本 久　稲葉希巳江
デザイン ―― 竜プロ［出口竜也・黒沢国薫・新保宗近］
SPECIAL THANKS ―― 鷲尾 天／赤松栄美子／小林夏生／堀毛敦子／西尾雅一／田中美穂／松川英男／本山雄一郎／西尾大介／小浜 匠／稲上 晃／川村敏江／藤田昭彦／浅田裕之／安藤礼子／萬代好美／朝日放送／アサツーディ・ケイ／東映アニメーション／東映アニメーション音楽出版／マーベラス音楽出版／東映アカデミー／手塚企画／バンダイ／81プロデュース／シグマ・セブン／アトミックモンキー／ぷろだくしょんバオバブ／オスカープロモーション／天田印刷加工／タバック／アバコクリエイティブスタジオ［順不同］

ふたりはプリキュア　ビジュアルファンブック　復刻改訂版

構成・執筆 ―― 金子博亘　田中博幸　松野本和弘
編集 ―― 篠原紀子　稲葉希巳江
デザイン ―― 竜プロ［出口竜也・新保宗近］
SPECIAL THANKS ―― 鷲尾 天／西尾大介／稲上 晃／吉田 稔／東映アニメーション［順不同］

2023年4月12日　第1刷発行

●発行者　鈴木章一
●発行所　株式会社　講談社

※この本は、『ふたりはプリキュア ビジュアルファンブック Vol.1、Vol.2』（2004年10月30日、2005年4月23日刊行）を底本に、再編集したものです。
そのため重複や、当時のままの表記がございます。ご了承ください。

PRETTY CURE
PRECURE 20th ANNIVERSARY
ふたりはプリキュア
ビジュアルファンブック
復刻改訂版
KODANSHA

PRETTY CURE

ふたりはプリキュア
PRETTY CURE
PRETTY CURE

本作品は、2023年4月、小社より単行本として刊行されたものを電子書籍化したものです。

◎本電子書籍内の外部リンクに関して

ご利用の端末によっては、リンク機能が制限され正しく動作しない場合があります。また、リンク先のwebサイト、メールアドレス、電話番号は、事前のご連絡なく削除あるいは変更されることもございます。ご了承ください。

ふたりはプリキュア　ビジュアルファンブック　復刻改訂版

2023年5月1日発行

編：講談社

発行者　鈴木章一
発行所　株式会社 講 談 社
東京都文京区音羽2-12-21
〒112-8001